

令和7年度
仙台市
市民センター
事業概要

令和8年10月

仙台市教育委員会

目 次

I 市民センターの概要

1	仙台市市民センター（公民館）の歴史	1
2	市民センター概要	5
3	令和8年度 市民センターの体制	10
4	仙台市市民センターの施設理念と運営方針	11
5	市民センター事業体系	19

II 拠点館事業 令和7年度 市直営事業実績

1	地域づくり支援	21
2	広域規模の学習支援	36
3	人材育成	38
4	ジュニアリーダー	46
5	地域社会教育推進	49
6	学習情報提供	51
7	各区中央市民センター事業	52
8	仙台市公民館運営審議会	55

III 地区館事業 令和7年度 指定管理事業実績

青葉区

青葉区中央市民センター	61
柏木市民センター	63
北山市民センター	65
福沢市民センター	67
旭ヶ丘市民センター	69
三本松市民センター	71
片平市民センター	73
水の森市民センター	75
貝ヶ森市民センター	77
中山市民センター	79
折立市民センター	81
木町通市民センター	83
広瀬市民センター	85
宮城西市民センター	87
大沢市民センター	89
落合市民センター	91
吉成市民センター	93

宮城野区

宮城野区中央市民センター	95
生涯学習支援センター	97
高砂市民センター	98
岩切市民センター	100
鶴ヶ谷市民センター	102
榴ヶ岡市民センター	104
東部市民センター	106
幸町市民センター	108
田子市民センター	110
福室市民センター	112

若林区

若林区中央市民センター	1 1 4
七郷市民センター	1 1 6
荒町市民センター	1 1 8
六郷市民センター	1 2 0
若林市民センター	1 2 2
沖野市民センター	1 2 4

太白区

太白区中央市民センター	1 2 6
生出市民センター	1 2 8
中田市民センター	1 3 0
西多賀市民センター	1 3 2
八本松市民センター	1 3 4
八木山市民センター	1 3 6
山田市民センター	1 3 8
茂庭台市民センター	1 4 0
東中田市民センター	1 4 2
柳生市民センター	1 4 4
富沢市民センター	1 4 6
秋保市民センター・馬場市民センター・湯元市民センター	1 4 8

泉区

泉区中央市民センター	1 5 0
根白石市民センター	1 5 2
南光台市民センター	1 5 4
黒松市民センター	1 5 6
将監市民センター	1 5 8
加茂市民センター	1 6 0
高森市民センター	1 6 2
松陵市民センター	1 6 4
寺岡市民センター	1 6 6
長命ヶ丘市民センター	1 6 8
松森市民センター	1 7 0
桂市民センター	1 7 2
南中山市民センター	1 7 4

IV 資料

1 市民センターの予算	1 7 7
2 令和7年度 市民センター職員数	1 7 8
3 令和7年度 主催講座の事業別実施状況	1 8 0
4 主催事業参加者数推移	1 8 4
5 市民センター利用者数推移	1 8 6
6 仙台市市民センター条例・施行規則	1 8 8

令和7年度仙台市市民センター事業概要は
市民センターのホームページでもご覧いただけます

I 市民センターの概要

1 仙台市市民センター（公民館）の歴史

昭和 21 年、在仙文化人有志により、宮城県医師会館内に「仙台公民館」が設立された後、昭和 24 年の社会教育法施行に合わせた「仙台市公民館条例」の制定により、仙台市公会堂（現市民会館）内に仙台市公民館が誕生した。

以後、館数を増やしながら、社会教育施設として、市民の学習意欲に応える種々の事業を実施するとともに、市民が自主的に学習活動を行う場の提供を行っている。

平成元年には、教育委員会所管の公民館と市民局所管の地区市民センターを相互に併設して名称を「市民センター・公民館」とし、政令指定都市移行に伴って各区に拠点館を置いた。さらに、翌平成 2 年度に、「仙台市市民センター条例」を新たに制定し、施設名称を「市民センター」に統一した。

平成 3 年度、財団法人仙台市地域振興公社に施設管理を委託し、平成 13 年度には、市民センターの業務再編により市職員を各区拠点館に集中配置して、地区館の生涯学習事業を財団法人仙台ひと・まち交流財団（平成 13 年度に地域振興公社から名称変更）に委託した。平成 16 年度からは、指定管理者制度導入に伴い、同財団（平成 23 年 4 月に公益財団法人化）を指定管理者とし、以降、指定を更新・継続して現在に至っている。

平成 23 年 5 月 1 日には、地域政策と教育行政の円滑な推進を図るため、教育局の第二種公所であった各区拠点館を区役所組織に移管し、各区の第二種公所として位置付けた。

平成 24 年 8 月 28 日に宮城野区中央市民センターが新設され、市民センターは、概ね中学校区毎に 60 館設置されている。

平成 26 年度から、中央市民センターの人材育成機能等を強化し、本市の生涯学習支援体制を充実するとともに、名称を生涯学習支援センターに変更した。

年 月	摘 要	館 数
昭和 21 年 10 月	在仙文化人有志により、宮城県医師会館内に「仙台公民館」設立	
昭和 24 年 6 月	「社会教育法」制定	
昭和 24 年 8 月	「仙台市公民館条例」の制定により、仙台市公会堂（現市民会館）内に「仙台市公民館」誕生	1 館
昭和 25 年 12 月	仙台市教育委員会発足 仙台市公民館運営審議会設置	
昭和 27 年 6 月	「仙台市社会教育委員の設置に関する条例」制定	
昭和 31 年 4 月	生出村が仙台市に合併したことに伴い、「生出村公民館」を「生出分館」に改称	1 館 1 分館
昭和 42 年 4 月	「生出分館」が移転し、「生出公民館」に名称を変更	2 館
昭和 42 年 10 月	「仙台市公民館条例」を新たに制定（旧条例は廃止）、貸室の有料化 「長町公民館」開館	3 館
昭和 43 年 11 月	「高砂公民館」開館	4 館
昭和 44 年 10 月	「中田公民館」開館	5 館

年 月	摘 要	館 数
昭和 46 年 8 月	公会堂解体・市民会館建設に伴い、「仙台市公民館」が東二番丁の「市民教養センター」に移転	
昭和 48 年 3 月	「仙台市公民館」を「中央公民館」に改称	
昭和 56 年 12 月	「岩切公民館」開館	6 館
昭和 58 年 4 月	「中央公民館」を現在地（仙台駅東口「パルシティ仙台」内）に移転し、宮城野通図書館（現・榴岡図書館）と共に開館	
昭和 58 年 4 月	「七郷公民館」開館	7 館
昭和 61 年 3 月	東二番丁小学校改築に伴う「市民教養センター」の廃止	
昭和 61 年 7 月	「中央公民館柏木分館」開館	7 館 1 分館
昭和 62 年 11 月	宮城町合併に伴い、公民館 9 館、分館 1 館となる (※) 宮城・宮城西	9 館 1 分館
昭和 63 年 1 月	「中央公民館一番町分館」開館	9 館 2 分館
昭和 63 年 3 月	秋保町、泉市の合併に伴い、公民館 18 館、分館 2 館となる (※) 泉・南光台・加茂・将監・根白石・秋保・馬場・湯元・八乙女	18 館 2 分館
平成元年 4 月	教育委員会所管の「公民館（18 館 2 分館）」と市民局所管の「地区市民センター（15 館）」が相互に併設され、新たに開館した 3 館を含めて施設の名称を「〇〇市民センター・公民館」の二枚看板とする 政令指定都市移行に伴い 5 区 38 館制をとり、各区に拠点館を設置 青 葉 区：「一番町公民館」 宮城野区：「中央公民館」 若 林 区：「七郷公民館」 太 白 区：「中田公民館」 泉 区：「泉公民館」 ・名称変更：柏木・一番町（分館から公民館へ名称変更） ・新 設：片平・東中田・高森 ・市民会館の一部として開館していたものに併設：榴ヶ岡 ・市民センターに併設 鶴ヶ谷・東部・北山・福沢・旭ヶ丘・三本松・荒町・ 南小泉・六郷・西多賀・八本松・八木山・山田・茂庭台	38 館
平成 2 年 3 月	「仙台市市民センター条例」を新たに制定。	
平成 2 年 4 月	名称を「市民センター」に統一し、施設を教育委員会が所管する公民館として位置づけ、施設の使用許可を区長に委任、施設管理の総括を市民局、維持管理を区長に補助執行させる 「松陵市民センター」開館	39 館
平成 2 年 5 月	「大沢市民センター」開館	40 館
平成 2 年 9 月	「水の森市民センター」開館	41 館

年 月	摘 要	館数
平成 3 年 4 月	財団法人仙台市地域振興公社に施設管理を委託、「若林市民センター」「沖野市民センター」「寺岡市民センター」開館	44 館
平成 3 年 6 月	「宮城市民センター」の名称を変更し、広瀬文化センター内に「広瀬市民センター」が開館	
平成 5 年 4 月	「幸町市民センター」「貝ヶ森市民センター」「長命ヶ丘市民センター」開館	47 館
平成 5 年 9 月	「南小泉市民センター」の名称を変更し、若林区文化センター内に若林区の拠点館「若林区中央市民センター」として開館	
平成 6 年 4 月	「落合市民センター」開館	48 館
平成 6 年 11 月	「せんだいLLプラン 21 仙台市生涯学習基本構想」策定	
平成 7 年 4 月	「中山市民センター」開館	49 館
平成 7 年 5 月	「折立市民センター」開館	50 館
平成 8 年 4 月	「吉成市民センター」開館	51 館
平成 9 年 4 月	「柳生市民センター」開館	52 館
平成 11 年 6 月	「長町市民センター」の名称を変更し、太白区文化センター内に太白区の拠点館「太白区中央市民センター」として開館	52 館
平成 11 年 8 月	「田子市民センター」開館	53 館
平成 12 年 1 月	「松森市民センター」開館	54 館
平成 13 年 1 月	「仙台まなびの杜（仙台市教育ビジョン）」策定（平成 13 年～22 年）	
平成 13 年 4 月	市民センターの業務再編により、市職員を各区拠点館に集中配置、地区館の生涯学習事業を「仙台ひと・まち交流財団」に委託	
平成 13 年 9 月	「市民センター運営方針」を定める	
平成 13 年 11 月	「富沢市民センター」開館	55 館
平成 13 年 12 月	「桂市民センター」開館	56 館
平成 15 年 3 月	「福室市民センター」開館	57 館
平成 15 年 11 月	仙台市市民利用施設予約システムの導入 「南中山市民センター」開館	58 館
平成 16 年 4 月	指定管理者制度導入に伴い、財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（3 年間） 「木町通市民センター」開館	59 館
平成 19 年 4 月	非公募により引き続き、財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（2 年間）	
平成 19 年 10 月	仙台市公民館運営審議会より「市民センターの施設理念と運営方針の見直しについて」（答申）を受ける。	

年 月	摘 要	館 数
平成 20 年 12 月	「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」策定	
平成 21 年 4 月	非公募により引き続き、財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（2 年間）	
平成 23 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（2 年間） ※平成 23 年 4 月 1 日より「財団法人仙台ひと・まち交流財団」から「公益財団法人仙台ひと・まち交流財団」に変更	
平成 23 年 5 月	各区中央市民センターを教育局から各区役所区民部の公所として組織変更し、業務を各区長の補助執行とする。 宮城野区の拠点館機能を教育局中央市民センターから分離し、宮城野区中央市民センターが新設されるまでの間、宮城野区区民部に「市民センター事業推進室」を設置	
平成 24 年 8 月	「宮城野区中央市民センター」開館 宮城野区拠点館である「宮城野区市民センター事業推進室」の名称を「宮城野区中央市民センター」に変更 「榴ヶ岡市民センター」を廃止 「榴ヶ岡市民センター榴岡公園軽体育館」の名称を「榴ヶ岡市民センター」に変更	60 館
平成 25 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（5 年間）	
平成 26 年 4 月	中央市民センターの人材育成機能等を強化し、生涯学習支援体制の充実を図るとともに、名称を生涯学習支援センターに変更 「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を改定	
平成 30 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（5 年間）	
令和元年 10 月	「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を改定（第二次）	
令和 5 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（5 年間）	
令和 7 年 10 月	「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を改定（第三次）	

2 市民センター概要

(令和8年8月1日現在)

(1) 市民センターの概要

市民センターは概ね中学校区毎に設置されており、その総数は現在 60 館となっている。
市民センターの種類は次のとおりである。

① 生涯学習支援センター

本市の全域を主たる対象区域としてその事業を行うとともに、他の全ての市民センターを統括する市民センターで、1 館設置されている。なお、地区市民センター機能も併設されている。

② 区中央市民センター

その所在する区の区域内を主たる対象区域として事業を行うとともに、当該区域内に所在する地区市民センターを支援する市民センターで、各区に 1 館ずつ、計 5 館設置されている。なお、各区とも地区市民センター機能が併設されている。

③ 地区市民センター

生涯学習支援センター及び区中央市民センター以外の市民センターで、54 館設置されている。

(2) 市民センターの施設概要

① 生涯学習支援センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
生涯学習 支援	宮城野区 榴岡四丁目 1 番 8 号	295-0403 295-0810	昭和 58 年 2 月 28 日	3,367.52 4,064.32	会議室、セミナー室(4)、ミー ティング室、和室、音楽室 (2)、創作室(2)、トレーニング 室、体育館	図書館

② 区中央市民センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
青葉区 中央	青葉区 一番町二丁目 1 番 4 号	223-2516 261-3251	昭和 62 年 12 月 15 日	7,149.65 2,311.55	会議室(5)、和室、調理実習 室、音楽室、小ホール(2)、ホ ール、市民活動室	コミュニティ防 災センター、幼 稚園、小学校
宮城野区 中央	宮城野区 五輪二丁目 12 番 70 号	791-7015 295-2337	平成 24 年 7 月 13 日	12,289.35 3,075.46	会議室(4)、和室(2)、調理実 習室、音楽室、創作室、体 育館、市民活動室、親子 室、資料室、娯楽室	情報センター、 文化センター、 児童館、図書 館
若林区 中央	若林区 南小泉一丁目 1 番 1 号	282-1173 282-1180	平成 5 年 3 月	12,417.00 652.92	会議室(2)、セミナー室(2)、 和室(3)、市民活動室、サー クル連絡室、プレイルーム	防災資機材倉 庫、情報センタ ー、文化センタ ー、図書館
(若林区 中央 別棟)	若林区 保春院前丁 3 番地の 1	282-1173 282-1180	平成 29 年 6 月 30 日	4,149.32 1,507.98	会議室(2)、和室(1)、調理実 習室、創作室、ホール	社会福祉協議 会若林事務 所、子育てふれ あいプラザ、児 童館

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
太白区 中央	太白区 長町五丁目 3番2号	304-2741 304-2526	平成 11 年 3 月 31 日	9,360.87 2,311.68	会議室(5)、和室(2)、調理実 習室、音楽室、創作室、体 育館	情報センター、 文化センター、 児童館、図書 館
泉区 中央	泉区 市名坂字東裏 53 番地の 1	372-8101 372-2447	平成 15 年 11 月 14 日	3,035.78 2,138.54	会議室(3)、研修室、和室 (2)、調理実習室、音楽室、 創作室、ホール、市民活動 室、親子室、娯楽室、泉・ ふるさと生活ギャラリー	コミュニティ防 災センター

③ 地区市民センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
柏木	青葉区 柏木三丁目 3 番 1 号	233-8066 233-8484	平成 10 年 4 月 1 日	2,578.73 1,315.20	会議室、和室(2)、ホール、 市民活動室、資料室	コミュニティ防 災センター、資 源回収庫
北山	青葉区 新坂町 8 番 4 号	272-1020 272-1036	平成 22 年 11 月 16 日	2,075.80 1,406.43	会議室(3)、和室(4)、調理実 習室、トレーニング室、市民 活動室、娯楽室、図書室、 親子室、資料室	
福沢	青葉区 福沢町 9 番 9 号	223-9095 213-1647	昭和 59 年 6 月 9 日	2,928.15 1,998.46	会議室(3)、和室(3)、視聴覚 室、調理実習室、体育館、 図書室、遊戯室、娯楽室	コミュニティ防 災センター、資 源回収庫
旭ヶ丘	青葉区 旭ヶ丘三丁目 25 番 15 号	271-4729 271-7984	昭和 60 年 6 月 15 日	3,128.66 3,536.33	会議室(3)、展示ホール(2)、 小ホール、ホール	旭ヶ丘バス乗 継ターミナル
三本松	青葉区 堤町三丁目 23 番 1 号	274-3955 234-5355	昭和 62 年 3 月 31 日	4,861.02 1,499.07	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、体育館、図書 室、遊戯室	コミュニティ防 災センター
片平	青葉区 米ヶ袋一丁目 1 番 35 号	227-5333 268-0234	平成元年 3 月 15 日	2,500.03 2,027.60	会議室(2)、会議室兼調理実 習室、和室(3)、体育館、娯 楽室、広瀬川自然展示コー ナー	コミュニティ防 災センター
水の森	青葉区 水の森四丁目 1 番 1 号	277-2711 277-8863	平成 2 年 8 月 30 日	11,317.60 1,651.23	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(3)、体育館、親子 室	コミュニティ防 災センター、児 童館、温水プ ール、資源回 収庫
貝ヶ森	青葉区 貝ヶ森一丁目 4 番 6 号	279-6320 279-6704	平成 5 年 4 月 26 日	3,669.11 1,405.84	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、ホール、親子 室、資料室	防災資機材倉 庫、児童館、資 源回収庫
中山	青葉区 中山三丁目 13 番 1 号	279-9216 719-2150	平成 7 年 3 月 31 日	4,046.00 1,387.31	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、ホール、市民 活動室、親子室、資料室	コミュニティ防 災センター、老 人憩の家、児 童館
折立	青葉区 折立三丁目 20 番 1 号	226-1226 226-2660	平成 7 年 5 月 30 日	2,827.20 1,623.89	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、ホール、親子 室、資料室	コミュニティ防 災センター、児 童館、資源回 収庫
木町通	青葉区 木町通一丁目 7 番 36 号	711-2561 212-4330	平成 16 年 2 月 27 日	10,480.00 2,437.95	会議室(2)、和室(2)、調理実 習室、ホール、市民活動室、 親子室、娯楽室	コミュニティ防 災センター、児 童館、小学校

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
広瀬	青葉区 下愛子字 観音堂 5 番地	392-8405 392-8410	平成 3 年 3 月 31 日	6,746.77 786.54	会議室、セミナー室(2)、和室(2)、創作室、サークル連絡室、プレイルーム	文化センター、図書館
宮城西	青葉区 熊ヶ根字石積 47 番地	393-2829 393-2491	平成 24 年 5 月 18 日	3,293.97 1,484.56	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、市民活動室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター
大沢	青葉区 芋沢字要害 65 番地	394-6891 394-6439	平成 2 年 5 月 24 日	6,318.73 1,124.14	会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館	コミュニティ防災センター、児童館、資源回収庫
落合	青葉区 落合二丁目 15 番 15 号	392-7301 392-6737	平成 6 年 3 月 31 日	4,078.96 1,248.45	会議室兼調理実習室、和室(2)、ホール、図書室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター、資源回収庫
吉成	青葉区 国見ヶ丘二丁目 2 番地の 1	279-2033 279-9431	平成 8 年 4 月 26 日	3,281.99 1,412.34	会議室、会議室兼調理実習室、和室、ホール、親子室、資料室	コミュニティ防災センター、児童館
高砂	宮城野区 高砂一丁目 24 番地の 9	258-1010 259-7577	平成 6 年 3 月 30 日	10,000.02 1,736.16	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、親子室、資料室	コミュニティ防災センター、地域包括支援センター、老人福祉センター、保健センター、児童館、資源回収庫
岩切	宮城野区 岩切字三所南 88 番地の 2	255-7728 255-2075	昭和 56 年 12 月 15 日	2,322.13 1,911.14	講義室、研修室(2)、和室(2)、視聴覚室、調理実習室、創作室、体育館、図書室、親子室、資料室、交流室	コミュニティ防災センター、証明発行センター、老人憩の家、保健センター
鶴ヶ谷	宮城野区 鶴ヶ谷二丁目 1 番地の 7	251-1562 251-1564	平成 28 年 2 月 19 日	3,291.14 1,751.47	会議室(3)、和室、調理実習室、ホール、市民活動室、図書室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター
榴ヶ岡	宮城野区 五輪一丁目 3 番 1 号	299-5666 299-5690	平成元年 4 月 26 日	963.00 1,005.33	ミーティングルーム(2)、和室(2)、体育館、休憩室	防災資機材倉庫
東部	宮城野区 平成一丁目 3 番 27 号	237-0092 235-7634	昭和 58 年 4 月 8 日	1,794.17 1,269.64	会議室、和室(3)、調理実習室、体育館、娯楽室	児童館
幸町	宮城野区 幸町三丁目 13 番 13 号	291-8651 291-8561	平成 5 年 3 月 31 日	3,836.22 1,575.40	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、ホール、親子室、資料室	コミュニティ防災センター、児童館、資源回収庫、非常用飲料水地下貯水槽
田子	宮城野区 田子二丁目 4 番 25 号	254-2721 254-2722	平成 11 年 8 月 5 日	2,877.76 1,709.53	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、市民活動室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター、児童館
福室	宮城野区 福室五丁目 9 番 36 号	786-3540 388-6320	平成 15 年 1 月 10 日	4,669.67 1,690.14	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、市民活動室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター、児童館
七郷	若林区 荒井三丁目 7 番地の 2	288-8700 288-2340	昭和 58 年 3 月 7 日	5,649.44 1,902.15	会議室、研修室(2)、和室(3)、視聴覚室、調理実習室、創作室、体育館、市民活動室	証明発行センター、コミュニティ防災センター、保健センター、児童館、資源回収庫

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
荒町	若林区 荒町 86 番地の 2	266-3790 266-5436	平成 21 年 11 月 27 日	2,627.94 1,790.46	会議室(3)、和室(2)、調理実習室、ホール、市民活動室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター、児童館
六郷	若林区 今泉一丁目 3 番 19 号	289-5127 289-6359	昭和 56 年 12 月 15 日	4,320.94 1,744.15	会議室(3)、和室(3)、調理実習室、体育館、市民活動室、娯楽室	防災資機材倉庫、証明発行センター、保健センター、児童館
若林	若林区 若林三丁目 15 番 20 号	282-4541 282-2637	平成 3 年 4 月 29 日	3,048.00 1,435.22	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、資料室、親子室、ホール	コミュニティ防災センター、児童館、資源回収庫
沖野	若林区 沖野七丁目 34 番 43 号	282-4571 285-4681	平成 3 年 3 月 30 日	3,073.00 1,468.25	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、ホール、親子室、資料室	防災資機材倉庫、老人福祉センター、デイサービスセンター、児童館
生出	太白区 茂庭二丁目 8 番地の 1	281-2040 281-4319	昭和 55 年 3 月 31 日	4,253.24 946.65	講義室(2)、和室、調理実習室、体育館、図書室	証明発行センター、診療所、保健センター
中田	太白区 中田四丁目 1 番 5 号	241-1459 242-2535	昭和 56 年 3 月 20 日	1,281.75 1,801.97	講義室、研修室(2)、和室(2)、視聴覚室、調理実習室、体育館、図書室	コミュニティ防災センター、証明発行センター、図書館サービススポット
西多賀	太白区 西多賀三丁目 6 番 8 号	244-6721 244-0524	平成 30 年 10 月 15 日	2,525.25 1,530.61	会議室(3)、会議室兼調理実習室、和室、ホール、市民活動室	コミュニティ防災センター、児童館
八本松	太白区 八本松二丁目 4 番 20 号	246-2426 246-9023	昭和 60 年 5 月 12 日	3,606.73 1,495.44	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館、市民活動室	コミュニティ防災センター、児童館、資源回収庫、図書館分室
八木山	太白区 八木山本町 一丁目 43 番地	228-1190 228-1689	昭和 62 年 2 月 10 日	4,005.53 2,599.94	会議室、会議室兼調理実習室、研修室(3)、和室(2)、体育館、市民活動室、図書室、遊戯室、娯楽室	コミュニティ防災センター、杜のひろば
山田	太白区 山田北前町 13 番 1 号	244-0213 244-1843	昭和 62 年 4 月 17 日	3,677.70 1,496.88	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館、図書室、遊戯室、娯楽室	コミュニティ防災センター、資源回収庫
茂庭台	太白区 茂庭台四丁目 1 番 10 号	281-3293 281-4349	昭和 63 年 3 月 31 日	9,803.90 1,346.59	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館、娯楽室	コミュニティ防災センター、児童館、資源回収庫
東中田	太白区 四郎丸字吹上 51 番地	242-1185 242-7053	平成元年 3 月 5 日	5,516.21 1,429.19	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館、娯楽室	コミュニティ防災センター、保健センター、児童館、資源回収庫
柳生	太白区 柳生七丁目 20 番地の 7	306-6750 306-7081	平成 9 年 3 月 31 日	2,877.53 1,454.61	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、ホール、資料室、親子室	コミュニティ防災センター、児童館
富沢	太白区 富沢南一丁目 18 番地の 10	244-3977 307-5101	平成 13 年 11 月 22 日	4,068.46 1,839.30	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、市民活動室、図書室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
秋保	太白区 秋保町長袋 字大原 44 番地の 1	399-2316 399-2394	平成 25 年 3 月 29 日	5,281.00 1,643.03	会議室(2)、研修室、和室 (2)、調理実習室、ホール、 市民活動室、図書室、親子 室、資料室	
馬場	太白区 秋保町馬場 字竹林 45 番地の 1	399-2745 -	昭和 52 年 3 月 31 日	3,185.42 734.20	会議室、調理実習室、体育 館、図書室兼談話室	防災資機材倉 庫
湯元	太白区秋保 町湯向 2 番地 の 20	398-2720 398-2789	昭和 54 年 3 月 31 日	1,846.47 844.98	会議室、講義室、和室、視 聴覚室、調理実習室、集会 室	防災資機材倉 庫
根白石	泉区 根白石字 杉下前 24 番地	379-2108 376-5769	昭和 63 年 3 月 31 日	5,839.66 1,911.53	会議室(2)、和室、調理実習 室、工作室、ホール	防災資機材倉 庫、証明発行セ ンター、資源回 収庫、図書館分 室
南光台	泉区 南光台七丁目 1 番 30 号	253-1023 253-1024	平成 27 年 2 月 13 日	2,829.02 1,750.15	会議室(4)、和室、調理実習 室、ホール、市民活動室、親 子室	コミュニティ防 災センター、証 明発行センタ ー、図書館分 室
黒松	泉区 黒松一丁目 33 番 40 号	234-5346 219-2038	平成 4 年 10 月 20 日	5,264.63 1,491.48	研修室(2)、和室、多目的 室、調理実習室、ホール	防災資機材倉 庫、図書館分 室
将監	泉区 将監八丁目 1 番 18 号	372-0923 374-8704	令和 4 年 3 月 28 日	4,859.12 1,648.41	研修室(3)、和室、調理実習 室、ホール、市民活動室、市 民交流スペース	防災資機材倉 庫、老人憩の 家、児童センタ ー
加茂	泉区 加茂四丁目 2 番地	378-2970 377-4565	昭和 58 年 4 月 1 日	4,472.00 1,842.19	会議室、研修室(2)、和室、 調理実習室、体育館、市民 活動室、談話室	コミュニティ防 災センター、資 源回収庫、図 書館分室
高森	泉区 高森六丁目 1 番地の 2	378-9950 378-9969	平成元年 3 月 20 日	3,000.12 1,499.93	研修室(3)、和室、調理実習 室、音楽室、工作室、ホー ル、市民活動室	防災資機材倉 庫、資源回収 庫、図書館分 室
松陵	泉区 松陵五丁目 20 番地の 2	375-8101 375-6101	平成 2 年 3 月 10 日	2,806.93 1,498.49	研修室(3)、和室、調理実習 室、工作室、ホール、託児室	防災資機材倉 庫、資源回収 庫、図書館分 室
寺岡	泉区 寺岡二丁目 14 番地の 4	378-4490 378-4534	平成 3 年 3 月 10 日	2,665.42 1,481.22	研修室(3)、和室、調理実習 室、トレーニング室、ホー ル、市民活動室	防災資機材倉 庫、資源回収 庫、図書館分 室
長命ヶ丘	泉区 長命ヶ丘 二丁目 14 番地の 15	377-3504 377-3508	平成 5 年 4 月 27 日	2,885.07 1,496.35	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、ホール、親子 室、市民活動室	図書館分室
松森	泉区 松森字城前 9 番地の 2	776-9510 776-9512	平成 11 年 12 月 10 日	3,999.50 1,870.33	会議室、和室(2)、調理実習 室、工作室、ホール、市民活 動室、図書室、親子室、娛 楽室	コミュニティ防 災センター、資 源回収庫
桂	泉区 桂三丁目 19 番地の 1	375-0550 771-5931	平成 13 年 12 月 4 日	7,759.48 1,862.94	会議室(2)、和室(2)、調理実 習室、創作室、ホール、市民 活動室、親子室、娯楽室	コミュニティ防 災センター、児 童センター
南中山	泉区 南中山二丁目 24 番地の 12	379-4780 348-4340	平成 15 年 11 月 13 日	5,718.56 1,579.66	会議室(2)、研修室、和室 (3)、調理実習室、体育館、 市民活動室、図書室、親子 室、娯楽室	コミュニティ防 災センター、資 源回収庫

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
太白区 中央	太白区 長町五丁目 3番2号	304-2741 304-2526	平成 11 年 3 月 31 日	9,360.87 2,311.68	会議室(5)、和室(2)、調理実 習室、音楽室、創作室、体 育館	情報センター、 文化センター、 児童館、図書 館
泉区 中央	泉区 市名坂字東裏 53 番地の 1	372-8101 372-2447	平成 15 年 11 月 14 日	3,035.78 2,138.54	会議室(3)、研修室、和室 (2)、調理実習室、音楽室、 創作室、ホール、市民活動 室、親子室、娯楽室、泉・ ふるさと生活ギャラリー	コミュニティ防 災センター

③ 地区市民センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
柏木	青葉区 柏木三丁目 3 番 1 号	233-8066 233-8484	平成 10 年 4 月 1 日	2,578.73 1,315.20	会議室、和室(2)、ホール、 市民活動室、資料室	コミュニティ防 災センター、資 源回収庫
北山	青葉区 新坂町 8 番 4 号	272-1020 272-1036	平成 22 年 11 月 16 日	2,075.80 1,406.43	会議室(3)、和室(4)、調理実 習室、トレーニング室、市民 活動室、娯楽室、図書室、 親子室、資料室	
福沢	青葉区 福沢町 9 番 9 号	223-9095 213-1647	昭和 59 年 6 月 9 日	2,928.15 1,998.46	会議室(3)、和室(3)、視聴覚 室、調理実習室、体育館、 図書室、遊戯室、娯楽室	コミュニティ防 災センター、資 源回収庫
旭ヶ丘	青葉区 旭ヶ丘三丁目 25 番 15 号	271-4729 271-7984	昭和 60 年 6 月 15 日	3,128.66 3,536.33	会議室(3)、展示ホール(2)、 小ホール、ホール	旭ヶ丘バス乗 継ターミナル
三本松	青葉区 堤町三丁目 23 番 1 号	274-3955 234-5355	昭和 62 年 3 月 31 日	4,861.02 1,499.07	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、体育館、図書 室、遊戯室	コミュニティ防 災センター
片平	青葉区 米ヶ袋一丁目 1 番 35 号	227-5333 268-0234	平成元年 3 月 15 日	2,500.03 2,027.60	会議室(2)、会議室兼調理実 習室、和室(3)、体育館、娯 楽室、広瀬川自然展示コー ナー	コミュニティ防 災センター
水の森	青葉区 水の森四丁目 1 番 1 号	277-2711 277-8863	平成 2 年 8 月 30 日	11,317.60 1,651.23	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(3)、体育館、親子 室	コミュニティ防 災センター、児 童館、温水プ ール、資源回 収庫
貝ヶ森	青葉区 貝ヶ森一丁目 4 番 6 号	279-6320 279-6704	平成 5 年 4 月 26 日	3,669.11 1,405.84	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、ホール、親子 室、資料室	防災資機材倉 庫、児童館、資 源回収庫
中山	青葉区 中山三丁目 13 番 1 号	279-9216 719-2150	平成 7 年 3 月 31 日	4,046.00 1,387.31	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、ホール、市民 活動室、親子室、資料室	コミュニティ防 災センター、老 人憩の家、児 童館
折立	青葉区 折立三丁目 20 番 1 号	226-1226 226-2660	平成 7 年 5 月 30 日	2,827.20 1,623.89	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、ホール、親子 室、資料室	コミュニティ防 災センター、児 童館、資源回 収庫
木町通	青葉区 木町通一丁目 7 番 36 号	711-2561 212-4330	平成 16 年 2 月 27 日	10,480.00 2,437.95	会議室(2)、和室(2)、調理実 習室、ホール、市民活動室、 親子室、娯楽室	コミュニティ防 災センター、児 童館、小学校

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
広瀬	青葉区 下愛子字 観音堂 5 番地	392-8405 392-8410	平成 3 年 3 月 31 日	6,746.77 786.54	会議室、セミナー室(2)、和室(2)、創作室、サークル連絡室、プレイルーム	文化センター、図書館
宮城西	青葉区 熊ヶ根字石積 47 番地	393-2829 393-2491	平成 24 年 5 月 18 日	3,293.97 1,484.56	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、市民活動室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター
大沢	青葉区 芋沢字要害 65 番地	394-6891 394-6439	平成 2 年 5 月 24 日	6,318.73 1,124.14	会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館	コミュニティ防災センター、児童館、資源回収庫
落合	青葉区 落合二丁目 15 番 15 号	392-7301 392-6737	平成 6 年 3 月 31 日	4,078.96 1,248.45	会議室兼調理実習室、和室(2)、ホール、図書室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター、資源回収庫
吉成	青葉区 国見ヶ丘二丁目 2 番地の 1	279-2033 279-9431	平成 8 年 4 月 26 日	3,281.99 1,412.34	会議室、会議室兼調理実習室、和室、ホール、親子室、資料室	コミュニティ防災センター、児童館
高砂	宮城野区 高砂一丁目 24 番地の 9	258-1010 259-7577	平成 6 年 3 月 30 日	10,000.02 1,736.16	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、親子室、資料室	コミュニティ防災センター、地域包括支援センター、老人福祉センター、保健センター、児童館、資源回収庫
岩切	宮城野区 岩切字三所南 88 番地の 2	255-7728 255-2075	昭和 56 年 12 月 15 日	2,322.13 1,911.14	講義室、研修室(2)、和室(2)、視聴覚室、調理実習室、創作室、体育館、図書室、親子室、資料室、交流室	コミュニティ防災センター、証明発行センター、老人憩の家、保健センター
鶴ヶ谷	宮城野区 鶴ヶ谷二丁目 1 番地の 7	251-1562 251-1564	平成 28 年 2 月 19 日	3,291.14 1,751.47	会議室(3)、和室、調理実習室、ホール、市民活動室、図書室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター
榴ヶ岡	宮城野区 五輪一丁目 3 番 1 号	299-5666 299-5690	平成元年 4 月 26 日	963.00 1,005.33	ミーティングルーム(2)、和室(2)、体育館、休憩室	防災資機材倉庫
東部	宮城野区 平成一丁目 3 番 27 号	237-0092 235-7634	昭和 58 年 4 月 8 日	1,794.17 1,269.64	会議室、和室(3)、調理実習室、体育館、娯楽室	児童館
幸町	宮城野区 幸町三丁目 13 番 13 号	291-8651 291-8561	平成 5 年 3 月 31 日	3,836.22 1,575.40	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、ホール、親子室、資料室	コミュニティ防災センター、児童館、資源回収庫、非常用飲料水地下貯水槽
田子	宮城野区 田子二丁目 4 番 25 号	254-2721 254-2722	平成 11 年 8 月 5 日	2,877.76 1,709.53	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、市民活動室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター、児童館
福室	宮城野区 福室五丁目 9 番 36 号	786-3540 388-6320	平成 15 年 1 月 10 日	4,669.67 1,690.14	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、市民活動室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター、児童館
七郷	若林区 荒井三丁目 7 番地の 2	288-8700 288-2340	昭和 58 年 3 月 7 日	5,649.44 1,902.15	会議室、研修室(2)、和室(3)、視聴覚室、調理実習室、創作室、体育館、市民活動室	証明発行センター、コミュニティ防災センター、保健センター、児童館、資源回収庫

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
荒町	若林区 荒町 86 番地の 2	266-3790 266-5436	平成 21 年 11 月 27 日	2,627.94 1,790.46	会議室(3)、和室(2)、調理実習室、ホール、市民活動室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター、児童館
六郷	若林区 今泉一丁目 3 番 19 号	289-5127 289-6359	昭和 56 年 12 月 15 日	4,320.94 1,744.15	会議室(3)、和室(3)、調理実習室、体育館、市民活動室、娯楽室	防災資機材倉庫、証明発行センター、保健センター、児童館
若林	若林区 若林三丁目 15 番 20 号	282-4541 282-2637	平成 3 年 4 月 29 日	3,048.00 1,435.22	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、資料室、親子室、ホール	コミュニティ防災センター、児童館、資源回収庫
沖野	若林区 沖野七丁目 34 番 43 号	282-4571 285-4681	平成 3 年 3 月 30 日	3,073.00 1,468.25	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、ホール、親子室、資料室	防災資機材倉庫、老人福祉センター、デイサービスセンター、児童館
生出	太白区 茂庭二丁目 8 番地の 1	281-2040 281-4319	昭和 55 年 3 月 31 日	4,253.24 946.65	講義室(2)、和室、調理実習室、体育館、図書室	証明発行センター、診療所、保健センター
中田	太白区 中田四丁目 1 番 5 号	241-1459 242-2535	昭和 56 年 3 月 20 日	1,281.75 1,801.97	講義室、研修室(2)、和室(2)、視聴覚室、調理実習室、体育館、図書室	コミュニティ防災センター、証明発行センター、図書館サービススポット
西多賀	太白区 西多賀三丁目 6 番 8 号	244-6721 244-0524	平成 30 年 10 月 15 日	2,525.25 1,530.61	会議室(3)、会議室兼調理実習室、和室、ホール、市民活動室	コミュニティ防災センター、児童館
八本松	太白区 八本松二丁目 4 番 20 号	246-2426 246-9023	昭和 60 年 5 月 12 日	3,606.73 1,495.44	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館、市民活動室	コミュニティ防災センター、児童館、資源回収庫、図書館分室
八木山	太白区 八木山本町 一丁目 43 番地	228-1190 228-1689	昭和 62 年 2 月 10 日	4,005.53 2,599.94	会議室、会議室兼調理実習室、研修室(3)、和室(2)、体育館、市民活動室、図書室、遊戯室、娯楽室	コミュニティ防災センター、杜のひろば
山田	太白区 山田北前町 13 番 1 号	244-0213 244-1843	昭和 62 年 4 月 17 日	3,677.70 1,496.88	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館、図書室、遊戯室、娯楽室	コミュニティ防災センター、資源回収庫
茂庭台	太白区 茂庭台四丁目 1 番 10 号	281-3293 281-4349	昭和 63 年 3 月 31 日	9,803.90 1,346.59	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館、娯楽室	コミュニティ防災センター、児童館、資源回収庫
東中田	太白区 四郎丸字吹上 51 番地	242-1185 242-7053	平成元年 3 月 5 日	5,516.21 1,429.19	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館、娯楽室	コミュニティ防災センター、保健センター、児童館、資源回収庫
柳生	太白区 柳生七丁目 20 番地の 7	306-6750 306-7081	平成 9 年 3 月 31 日	2,877.53 1,454.61	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、ホール、資料室、親子室	コミュニティ防災センター、児童館
富沢	太白区 富沢南一丁目 18 番地の 10	244-3977 307-5101	平成 13 年 11 月 22 日	4,068.46 1,839.30	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、市民活動室、図書室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
秋保	太白区 秋保町長袋 字大原 44 番地の 1	399-2316 399-2394	平成 25 年 3 月 29 日	5,281.00 1,643.03	会議室(2)、研修室、和室 (2)、調理実習室、ホール、 市民活動室、図書室、親子 室、資料室	
馬場	太白区 秋保町馬場 字竹林 45 番地の 1	399-2745 -	昭和 52 年 3 月 31 日	3,185.42 734.20	会議室、調理実習室、体育 館、図書室兼談話室	防災資機材倉 庫
湯元	太白区秋保 町湯向 2 番地 の 20	398-2720 398-2789	昭和 54 年 3 月 31 日	1,846.47 844.98	会議室、講義室、和室、視 聴覚室、調理実習室、集会 室	防災資機材倉 庫
根白石	泉区 根白石字 杉下前 24 番地	379-2108 376-5769	昭和 63 年 3 月 31 日	5,839.66 1,911.53	会議室(2)、和室、調理実習 室、工作室、ホール	防災資機材倉 庫、証明発行セ ンター、資源回 収庫、図書館分 室
南光台	泉区 南光台七丁目 1 番 30 号	253-1023 253-1024	平成 27 年 2 月 13 日	2,829.02 1,750.15	会議室(4)、和室、調理実習 室、ホール、市民活動室、親 子室	コミュニティ防 災センター、証 明発行センタ ー、図書館分 室
黒松	泉区 黒松一丁目 33 番 40 号	234-5346 219-2038	平成 4 年 10 月 20 日	5,264.63 1,491.48	研修室(2)、和室、多目的 室、調理実習室、ホール	防災資機材倉 庫、図書館分 室
将監	泉区 将監八丁目 1 番 18 号	372-0923 374-8704	令和 4 年 3 月 28 日	4,859.12 1,648.41	研修室(3)、和室、調理実習 室、ホール、市民活動室、市 民交流スペース	防災資機材倉 庫、老人憩の 家、児童センタ ー
加茂	泉区 加茂四丁目 2 番地	378-2970 377-4565	昭和 58 年 4 月 1 日	4,472.00 1,842.19	会議室、研修室(2)、和室、 調理実習室、体育館、市民 活動室、談話室	コミュニティ防 災センター、資 源回収庫、図 書館分室
高森	泉区 高森六丁目 1 番地の 2	378-9950 378-9969	平成元年 3 月 20 日	3,000.12 1,499.93	研修室(3)、和室、調理実習 室、音楽室、工作室、ホー ル、市民活動室	防災資機材倉 庫、資源回収 庫、図書館分 室
松陵	泉区 松陵五丁目 20 番地の 2	375-8101 375-6101	平成 2 年 3 月 10 日	2,806.93 1,498.49	研修室(3)、和室、調理実習 室、工作室、ホール、託児室	防災資機材倉 庫、資源回収 庫、図書館分 室
寺岡	泉区 寺岡二丁目 14 番地の 4	378-4490 378-4534	平成 3 年 3 月 10 日	2,665.42 1,481.22	研修室(3)、和室、調理実習 室、トレーニング室、ホー ル、市民活動室	防災資機材倉 庫、資源回収 庫、図書館分 室
長命ヶ丘	泉区 長命ヶ丘 二丁目 14 番地の 15	377-3504 377-3508	平成 5 年 4 月 27 日	2,885.07 1,496.35	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、ホール、親子 室、市民活動室	図書館分室
松森	泉区 松森字城前 9 番地の 2	776-9510 776-9512	平成 11 年 12 月 10 日	3,999.50 1,870.33	会議室、和室(2)、調理実習 室、工作室、ホール、市民活 動室、図書室、親子室、娛 楽室	コミュニティ防 災センター、資 源回収庫
桂	泉区 桂三丁目 19 番地の 1	375-0550 771-5931	平成 13 年 12 月 4 日	7,759.48 1,862.94	会議室(2)、和室(2)、調理実 習室、創作室、ホール、市民 活動室、親子室、娯楽室	コミュニティ防 災センター、児 童センター
南中山	泉区 南中山二丁目 24 番地の 12	379-4780 348-4340	平成 15 年 11 月 13 日	5,718.56 1,579.66	会議室(2)、研修室、和室 (3)、調理実習室、体育館、 市民活動室、図書室、親子 室、娯楽室	コミュニティ防 災センター、資 源回収庫

3 令和8年度 市民センターの体制

(令和8年4月1日現在)

市拠点館

生涯学習支援センター

- 市の全域を主たる対象区域としてその事業を行う。
- 全ての市民センターを統括する。

区拠点館

青葉区中央
市民センター

宮城野区中央
市民センター

若林区中央
市民センター

太白区中央
市民センター

泉区中央
市民センター

- 所在する区の区域内を主たる対象区域としてその事業を行う。
- 区域内に所在する地区市民センターを支援する。

地区館

〔青葉区〕

柏木市民センター
北山市民センター
福沢市民センター
旭ヶ丘市民センター
三本松市民センター
片平市民センター
水の森市民センター
貝ヶ森市民センター
中山市民センター
折立市民センター
木町通市民センター
広瀬市民センター
宮城西市民センター
大沢市民センター
落合市民センター
吉成市民センター

〔宮城野区〕

高砂市民センター
岩切市民センター
鶴ヶ谷市民センター
榴ヶ岡市民センター
東部市民センター
幸町市民センター
田子市民センター
福室市民センター

〔若林区〕

七郷市民センター
荒町市民センター
六郷市民センター
若林市民センター
沖野市民センター

〔太白区〕

生出市民センター
中田市民センター
西多賀市民センター
八本松市民センター
八木山市民センター
山田市民センター
茂庭台市民センター
東中田市民センター
柳生市民センター
富沢市民センター
秋保市民センター
馬場市民センター
湯元市民センター

〔泉区〕

根白石市民センター
南光台市民センター
黒松市民センター
将監市民センター
加茂市民センター
高森市民センター
松陵市民センター
寺岡市民センター
長命ヶ丘市民センター
松森市民センター
桂市民センター
南中山市民センター

※ 仙台市内の市民センター 60 館（青葉区 17 館、宮城野区 10 館、若林区 6 館、太白区 14 館、泉区 13 館）

※ 市拠点館及び区拠点館については、地区館としての機能も有している。

※ 地区館の業務（生涯学習事業、施設の使用許可等）は、指定管理者（公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団）が行っている。

4 仙台市市民センターの施設理念と運営方針

(令和7年10月改定)

はじめに

「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」は、平成20年に仙台市公民館運営審議会からの答申を基に本市市民センター事業の基本的指針として策定された。おおむね5年ごとに見直しを行うこととしており、平成26年の第1回改定では、区中央市民センターの区役所移管や生涯学習支援センターの機能強化等の内容を整理するとともに、東日本大震災の経験を反映している。令和元年の第2回改定においては、拠点館機能の明確化やSDGs(※1)の概念を盛り込むなどの見直しを行ったところである。

第2回改定以降の本市の動きとしては、令和3年4月に、まちづくり全体の指針である「仙台市基本計画」、並びに本市教育の理念と方針を定める「仙台市教育構想2021」が策定され、市民センターにおいては、これらを踏まえた事業の企画・実施等に取り組んでいる。また令和7年3月には、誰もが安心して暮らし、自分らしく活躍できるまちの実現に向け「仙台市ダイバーシティ推進指針」が策定された。なおこの間、約3年半にわたり新型コロナウイルス感染症が流行して市民生活に様々な制約や変化が生じ、市民センター事業にも大きく影響した。

仙台市公民館運営審議会においては、「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の第三次見直しに向けて、令和6年1月より審議が行われてきた。

審議にあたっては、留意点として、住民の主体的な参加や世代を超えた学び合いに関する点、人材育成や多様な主体との連携・協働を推進する点、震災の経験やコロナ禍からの回復に関する点、の3点を設定した。そのうえで、地区市民センター等からの報告や事業視察をもとに、本市における市民センターを基盤とした生涯学習の現状を調査するとともに、ウェルビーイング(※2)の向上やアフターコロナのつながりづくり、デジタル対応など国の方向性も踏まえながら、見直しのあり方について議論が行われた。

令和7年7月には、「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の第三次見直しのあり方について提言がまとめられ、多様な世代の住民が気軽に利用でき、地域活動への参画を後押しする市民センターの役割や、仙台の特長として震災の経験を継承していく必要性など、様々な意見をいただいた。また、市民センター事業においては学習支援、地域づくり支援、人材育成、連携協働が密接不可分であることについてもご指摘いただいた。

上記の提言を受け、あわせてこの間の社会情勢および教育環境の変化を踏まえて、「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を改定するものである。

※1 SDGs：2030年に向けて世界が合意した17の持続可能な開発目標。本方針には3目標を表記。



※2 ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。一人ひとりの多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもある。

仙台市市民センターの施設理念



市民センターとは、次の3つの機能が相互に関連し一体となって運営される社会教育施設である。

- 1 市民の学びのプロセスに沿った学習支援のための諸機能を有し、全世代にわたって多様な市民一人ひとりの学びを総合的に支援する、市民との協働による市民本位の生涯学習の支援拠点としての機能
- 2 こどもから高齢者までのあらゆる市民が集い交流し、多様な市民による様々な活動が主体的に行われる、市民のための市民が主役の交流拠点としての機能
- 3 学びを通して地域の人と人とをつなぎ、住みよいまちづくりにつながる人づくりを行う地域づくりの拠点としての機能

仙台市市民センター事業の運営方針



1. 市民センター事業の目的

1) 市民センター全体の事業目的

市民センターは、地域の市民ニーズに応じた多様な事業を実施することにより、市民一人ひとりの主体的な生涯学習活動が充実し、活動をきっかけとして仲間が集い交流が生まれ、相互の交流を通して住みよい地域づくりにつながる自治活動が活発になるなど、学びを循環させて、地域社会の活性化とウェルビーイングの向上に寄与する“人づくり”を目指す。

【重点方針】

- ・全ての市民センター事業は、この目的に向かって計画性を持って実施する。
- ・実際の事業の企画・実施にあたり、職員は「きっかけ」「仕掛け」「働きかけ」といった社会教育的関わりを常に意識し、市民の主体的な「学び」を支え、市民と協働して事業に取り組む。
- ・職員はこのような目的が達成されているかどうかを自己点検・評価するとともに、参加者の意見や市民・地域住民による評価を受け、事業の改善に絶えず努める。
- ・東日本大震災の経験と復興を踏まえるとともに、地域課題の解決や共生社会の多様な担い手の育成に向けた取組の強化を図る。

2) 拠点館事業の主要な目的

拠点館事業の主要な目的は、本市における、あらゆる市民のライフステージごとの学習ニーズに対応した、多様な生涯学習事業の計画的かつ体系的な推進である。さらには、指定管理者制度の下で事業を受注している地区館（地区市民センター）に対して、市拠点館（生涯学習支援センター）はその果たすべき業務の目的・目標を設定するとともに、区拠点館（区中央市民センター）は定期的に事業を評価し必要な助言を行うなど、発注者としての地区館事業へのマネジメントを行い社会教育施設としての質の確保を図ることである。

【重点方針】

- ・ 拠点館は、体系化された事業計画と社会教育の専門性を持って、市民センター事業全体の質を維持し高めるものとする。
- ・ 拠点館職員は常に専門性の維持・向上に努め、現代的課題や地域課題を踏まえた調査研究事業の充実と地区館支援のための環境整備に重点的に取り組むものとする。

3) 地区館事業の主要な目的

地区館事業の主要な目的は、地域を基盤とし、地域づくりにつながる人づくりを行うことであり、市民一人ひとりが「出会い・ふれあい・学びあう」ことでつながり、さらには市民自ら地域課題に向き合い住みよいまちづくりに協働して取り組むことができるように支援することである。

【重点方針】

- ・ 地区館は地域づくりの拠点機能を果たすことを重点目標とし、幅広い層の市民が参画しやすい工夫を行い、開かれた運営を目指すとともに、地域の多様な人や団体、活動をつなぐコーディネーターの役割を担うものとする。
- ・ 地域の連帯感を高め豊かな地域社会を創るために、地域における市民の主体的で多様な生涯学習活動を支援し、質・量ともに充実するものとする。

2 市民センターの役割

1) 市拠点館（生涯学習支援センター）の基本的な役割

(1) 市民センターにおける生涯学習事業体系の策定と行動計画の立案、及び全市にわたる生涯学習事業の推進

本市における生涯学習に関わる機関・団体との役割分担を踏まえ、学校教育や関係局・区役所とも連携しながら、市民センターが担うべき生涯学習事業体系を策定し、事業目標を定めた行動計画にしたがって本市の生涯学習事業を着実に推進する。併せて、人材育成にかかる事業を中心とした生涯学習事業を総合的・体系的に実施する。

(2) 生涯学習推進のための専門性の向上

少子高齢化・国際化・情報化、男女共同参画、社会的包摂、多様性配慮などの現代的な課題、SDGsや本市が抱える諸課題への先進的な取組、及び市民のライフステージごとの多様な学習ニーズの把握と効果的なプログラムづくり等の調査・研究を推進するとともに、その成果を地区館等へ還元する。

また、東日本大震災を機に生じた地域社会のあり方、大規模自然災害の備え、エネルギー問題等の社会的課題や社会からの要請に対応する取組についての調査・研究を推進する。

(3) 市民一人ひとりのニーズに対応した生涯学習支援体制の充実

〔学習活動のネットワーク化とリーダー等の養成〕

市民相互の学習活動やそのネットワーク化を支援するとともに、学習リーダーや学習ボランティアを養成し、その活動を推進する。

〔生涯学習に関する関係機関等との連携・協力の推進〕

生涯学習について、小学校、中学校、高等学校、大学等、市民活動団体等関係機関・団体との連携・協力を推進する。

〔生涯学習情報の計画的体系的な収集と提供〕

計画的で体系的な生涯学習情報の収集と提供を行い、多様な属性の市民に情報が届けられるよう、デジタル技術の活用を含めた効果的な発信を進めながら、生涯学習相談事業の充実を図る。

(4) 指定管理者制度下での指定管理業務のマネジメントの推進

市民センターの指定管理業務を統括する立場から、地区館業務の目的とそのため
の事業の目標及びその要求水準の考え方を明確にし、地区館ごとに事業を評価できる体制を構築する。

(5) 職員の育成

〔職員研修の体系化と専門研修の充実〕

初任者・中堅者・館長などに対する経験や役割に応じた体系的な研修や、社会教育を担当する職員としての専門性を高める研修の充実を図る。

〔職員への助言及び支援体制づくり〕

事業が具体的な目標のもとに計画的に推進できるよう、事業を担当する職員への専門的な助言や支援のための体制づくりに努める。

2) 区拠点館（区中央市民センター）の基本的な役割

(1) 区内の生涯学習事業の推進

〔区内の生涯学習事業の推進と地域リーダーの発掘・育成〕

地域の諸団体や学校等、区役所関係課、区内地区館などとの連携を図り地域課題に取り組むことで、区内の生涯学習事業を推進するとともに、区内の地域リーダーの発掘・育成に努める。

〔区内の市民の学習・グループ活動への支援〕

区内の生涯学習活動を幅広く支援するため、生涯学習情報の収集と提供及び相談事業を充実させるとともに、活動する市民・団体等のグループ化やネットワーク化への支援に努める。

(2) 区内地区館事業への支援

〔関係諸団体との連携の推進〕

地域団体、NPO・ボランティア団体等の民間諸団体や、区役所関係課等の行政機関、小学校、中学校、高等学校、大学等の教育機関との連携によって地区館

事業が活発に展開されるよう、地区館を積極的に支援する。

特に、社会教育主事の配置を生かして、地域課題の把握とその対応等に向け、学校や区役所関係課と地区館とが連携して取り組み、こどもの参画や市民協働による地域づくりが推進されるよう支援する。

〔家庭及び地域での教育力向上、ジュニアリーダーの育成支援〕

地域での子育て支援やこどもが育つ環境づくりのために、地域団体、民間諸団体、区役所関係課等、学校等、嘱託社会教育主事研究協議会支部等と連携し、地区館において、家庭及び地域社会の教育力の向上に資する取組とジュニアリーダーの育成支援が十分に行われるようともに取り組む。

〔地区館職員の育成〕

定期的な連絡会の開催や、区内地区館が連携して進める事業の支援など、地区館職員の育成が図られ、かつ効果的な事業が推進されるよう働きかけを行う。

(3) 指定管理者制度下での区内地区館業務のマネジメントの推進

地区館業務の目的、各事業の目標及び要求水準をもとに、それぞれの地域ニーズを地区館職員と共有し、より効果的な事業の実施に向けた助言等を行うとともに、事業の結果についての的確な評価を行うことで、地区館事業の質・量の充実に努める。

3) 地区館（地区市民センター）の基本的な役割

【取組指針】

社会教育施設としての地区館に求められる下記の機能は、相互に関連を持ちながら総合的に発揮されなければならない。それにより、これまで市民センターに関心のなかった人々が、地区館事業に様々な形で関わることができ、地区館が多くの市民の参画を得ながら地域づくりの拠点として活発に機能することになる。

地区館の職員は、区拠点館の支援を受けつつ、地域に積極的に出向きながら、これらの機能が総合的に発揮されるよう「きっかけ」をつくり、「仕掛け」「働きかけ」を行う。また、地域住民や地域の諸団体等のつなぎ役としての機能を果たし、協働して事業を展開するとともに、人材育成やネットワーク構築に継続的に取り組むものとする。

(1) 地域住民本位の生涯学習拠点機能

〔学習ニーズ・地域課題を踏まえた特色ある事業の実施〕

住民の学びや活動への意欲を喚起し主体的な参加を促進するためには、ニーズの把握が重要である。地域住民を対象にしたアンケート調査や事業運営懇話会、日々の地域情報の収集などを通して学習ニーズと地域課題を掘り起こし、地域住民の思いを言葉や形にして特色ある事業を実施する。

〔事業の魅力づくりと参加しやすい条件づくり〕

事業の企画にあたっては「学びを通じての人と人とのつながり」を基本方針とし、地域住民が楽しく参加したくなるような工夫（魅力づくり）に努めるとともに、障害の有無や多文化共生の観点などにも留意し、多様な市民が参加しやすい条件となるよう配慮する。あわせて新しいデジタル技術の活用も積極的に進める。

〔市民参画の推進と市民の活動の育成支援〕

市民の主体的な学びの活動が地域で多様かつ継続的に展開できるよう、市民参画による事業を積極的に推進するとともに、地域を基盤としたサークル活動や市民活動、ボランティアやジュニアリーダーの育成支援に取り組む。

(2) 地域の交流・拠点機能

〔地域住民の交流の場、子どもたちの交流の場の確保〕

多様な地域住民が気軽に集い、楽しく交流のできる場と機会を設ける。

特に、地域の中で次代を担う子どもたちを見守り育てていくための子育て支援と青少年の交流の場、地域住民と児童生徒との交流の場の確保に配慮する。

〔様々な地域ネットワークの拠点機能〕

地域にある様々な団体、NPO、ボランティア等が共通の地域課題のもとに集まれるネットワークの拠点としてプラットフォーム機能を発揮できるよう努める。

(3) 地域のコミュニティづくり機能

〔コミュニティ意識の醸成〕

地域住民と協働し、地域の歴史・自然・行事などの地域資源を活かした地域文化の継承と創造の事業に継続的に取り組むとともに、地域の魅力と課題の発見を通して、多くの地域住民が地域と関わることができるよう積極的に働きかけ、地域住民のコミュニティ意識の醸成を図る。

〔地域活動を担う人材の育成〕

地域課題を踏まえ、地域の諸団体や学校等と連携しながら、地域での多様な活動を担う人材の育成に努める。この場合において、青少年を含め幅広い世代の人材育成にも配慮しながら取り組む。

〔地区館事業に市民が主体的に関わる仕組みづくり〕

地域に根差した地区館事業を市民と協働で推進するために、地域住民が地区館事業に主体的に関わる仕組み（地域住民による地区館ごとの運営協議会等）を創り活かす。

(4) 地域のコーディネート機能

〔地域にある機関・団体等のネットワーク化の支援〕

町内会・PTA・商店街等の地域団体、NPO等の民間諸団体、学校等の教育機関や区役所等の行政機関等と連携し、地域住民とともに地域課題に取り組むためのネットワークが構築されるよう支援する。市民センターが持つ情報や人脈を有効に活用しつつ、自らも地域に出向くなどして積極的に認知度向上に努め、さらなる連携を促進する。

〔地域と行政機関との仲介・調整〕

“地域の声”を施策や事業につなげるために、地域の諸団体等と行政機関等との仲介及び調整の窓口機能を担う。

(5) 地域の情報ステーション機能

〔地域の資源等の保管と公開〕

歴史、文化、自然、祭礼行事、施設、人材、活動といった、市民センターに集まってくる幅広い地域情報を多様な媒体に整理・保管し、住民が必要に応じて関

覧し活用できる仕組みを整える。

〔生涯学習情報・地域情報の収集と提供〕

紙媒体のほか、SNSなどデジタル技術も活用して発信力を高め、市民センターに関わる旬の情報や好事例を紹介する。地域内の学校や社会教育施設、区役所などの行政機関からのお知らせや催し情報のほか、地域団体や各種サークル、NPOなどからの活動情報、募集情報などを随時収集・整理し、適時、地域住民に提供する。

仙台市市民センターの施設管理の運営方針



1) 市民サービスの向上

- (1) 利用者の立場に立ったサービスを行う。
- (2) 利用者の安全安心の確保に積極的に取り組む。
- (3) 利用者のプライバシーを保護するよう十分配慮する。

2) 市民交流スペースの確保とオープンスペースの活用

市民の誰もが気軽に立ち寄り、交流のできる場と機能を確保する。

地区館のオープンスペース等に関しては、地域住民にとって魅力ある場となるよう、地域住民の意向を十分に踏まえた各館独自のルール及び運営体制を設けるなど、その利用を促進する。

3) 地域住民等との顔の見える関係づくり

地区館は、地域づくりの拠点としての機能を踏まえ、施設管理における日常の様々な場面において、地域住民や地域団体等との顔の見える関係をつくり、信頼され、信頼に応える運営を行う。

震災を踏まえた市民センターの役割と取組



平成23年3月11日の東日本大震災により大きな被害を受け、建替えを余儀なくされた市民センターがあった一方で、地域住民の避難所となった市民センターも数多くあった。市民センターは、住民に身近な施設として住民の安全を守る役割などを担ったところである。

そして、これまで市民センターにおいては、この震災を踏まえ、震災復興や地域の防災・

減災に資する事業、地域の絆を深める事業等に取り組んできたところである。

現在、地域においては、平時から地域団体や住民等が連携しながら、地域における防災体制を構築するなどの安全・安心な地域づくりが求められていることから、防災・減災に関する知識を深め、意識の向上を図るとともに、地域課題の解決や地域づくりの担い手の育成に向けた取組の強化を図ることが重要となっている。

各市民センターを拠点に、震災を踏まえた様々な活動が展開されていることは、仙台らしい取組であり、大きな特長である。徐々に震災の記憶が薄れつつあること、震災後に生まれた子どもたちや転入者も増えていることなどから、次世代への継承がますます重要となっており、今後も地域に根差した取組の継続が求められる。

1) 災害時における役割

現行の仙台市地域防災計画において、市民センターは、必要に応じて開設される補助避難所に、高砂市民センターは指定避難所に位置づけられており、食料、飲料水等の物資が備蓄されている。

災害時において避難所となる市民センターは、地域防災計画等に基づき、住民等の安全を守るとともに、多様な視点に立ち、求められる配慮を適切に行いながら、避難所の運営に協力し支える役割を担うこととなる。住民に身近で信頼される施設として、災害対応力の向上に努め、災害時における役割を十分に果たしていくものとする。

2) 地域の防災体制づくりへの支援

市民センターは、これまで培ってきた小学校、中学校、高等学校、大学等及び地域団体等とのネットワークを活かしながら、地域のコミュニティづくり機能やコーディネート機能等を十分に発揮し、防災訓練等も含め、地域の防災体制づくりに資する取組を行うとともに、地域主体の復興まちづくりにおいても、市民センターとしての役割を果たしていくものとする。

3) 震災を踏まえた講座等の実施

地域の生涯学習の拠点として、地域の防災・減災に資する講座等を積極的に開催するとともに、震災の経験や教訓、地域の歴史や文化等を広く発信していく。この場合において、知識やスキルの習得、身近な地域の災害についての学びのほか、多世代交流や多文化理解など様々な観点から企画を工夫し、次世代への継承、担い手の育成に向け重点的に取り組むものとする。

(付記)

「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」は、改定から5年間を目途に見直しを行う。

5 市民センター事業体系

<目的別分類>

大分類	中分類	事業内容(例)
01 市民が様々な課題に応じて学べるようになる	01 市民がライフステージに応じた課題について学べるようになる	インリーダー研修会 職場体験学習・社会教育実習等の受入 若者と地域住民との交流を深める事業 家庭教育に関する講座 健康づくりに関する講座 老壮大学 自然・教養・文化に関する講座 地域資源を活用した講座
	02 市民が、時代に応じた新しい課題について学べるようになる	学び直しに関わる講座 国際化時代に対応した講座 情報化時代に対応した講座 防災・減災に関する講座 環境保全に関する講座 男女共同参画に関する講座 子育て支援に関する講座 高齢化社会に対応した講座 福祉に関する講座 ボランティア・奉仕活動に関する講座
02 市民が、学習に必要な情報を得ることで、主体的に学べるようになる	01 市民が、市民センターで学習相談・情報提供を受けられるようになる	学習(地域)情報の収集 学習(地域)情報の提供・相談 サークル活動支援
	02 市民が、市民センターの講座情報をいつでも得られるようになる	市民センターだより・講座レポートの発行 生涯学習情報誌の発行 ホームページによる学習情報の発信
03 市民が学んだ成果を地域に生かせるようになる	01 市民が、生涯学習ボランティアとして活動できるようになる	ジュニアリーダーの育成支援 ボランティア養成講座 ボランティア活動の支援
	02 市民が、自らの知識や経験を生涯学習事業に生かせるようになる	市民による地域情報の発信 市民が企画・運営する講座の実施 生涯学習事業の企画の公募
04 市民が、地域で学びの活動を広げるようになる	01 学校、地域、市民活動団体が、地域活動を通して、連携できるようになる	学校と連携した事業 学校支援地域本部と連携した事業 地域の団体と連携した事業 学びのコミュニティづくり推進事業
	02 市民が、自らの学習活動を生かして、地域づくり・人づくりに参加できるようになる	まちづくりに参加する事業 地域間交流事業
	03 市民が、地域の人やほかの団体と交流できるようになる	市民センターまつり 市民の学習発表会 市民交流事業
05 市民が、質の高い市民センター事業を受けられるようにする	01 市民の意見が市民センターの運営に反映できるようにする	事業運営懇話会等 市民ニーズ・地域課題の把握 地域の各種団体と行政・専門機関との仲介・調整

＜分野別区分＞

区 分	定 義
家庭教育推進事業	子育て世代が育児や家庭生活について学び、親子のふれあいを深めることをねらいとする。 (例) 子育て講座／食育講座／子育てサロン／おはなし会 など
青少年健全育成事業	青少年がさまざまな体験を通じて学ぶ力を身に付けることによって心身の健やかな成長を培い、仲間づくりや親子・異世代の交流を図ることをねらいとする。 (例) ジュニアリーダーと遊ぼう／インリーダー研修／体験講座 など
成人学習振興事業	幅広い教養を身に付け、さまざまな課題を学習する機会を提供するとともに、共通の課題や関心を持つ市民(受講者)相互の仲間づくりや交流を図ることをねらいとする。 (例) 健康講座／市民企画講座 など
高齢者学習振興事業	長寿社会の中で、高齢者が学習を通じた仲間づくりや交流によって、生きがいを持って社会生活を送ることができるようになることをねらいとする。 (例) 老壮大学／高齢者の健康講座 など
地域社会教育推進事業	市民や地域の団体等がイベントや体験活動などを通して、地域住民との交流や地域活動の推進を図ることをねらいとする。 (例) 市民センターまつり／事業運営懇話会／防犯／防災減災関連事業 など
民間指導者育成事業	自らの学習成果や経験を生涯学習ボランティアとして社会に生かす意欲のある人材を養成し、その活動を支援することをねらいとする。 (例) ジュニアリーダー育成支援／ボランティア養成 など
学習情報提供・相談事業	地域の資源(歴史、文化、自然、祭礼行事、施設、人材等)などの情報を収集し、地域住民の活動に活用できるようにするとともに、市民からの問い合わせに対し、サークル活動や学習情報、講師情報など、生涯学習に必要な情報を提供する。 (例) 学習情報提供・相談／サークル活動支援／サークル体験／ 市民センターだより発行／学習・人材情報収集

Ⅱ 拠点館事業

令和7年度 市直営事業実績

1 地域づくり支援

市民自ら地域課題に向き合い、住み良いまちづくりにともに取り組むことができるよう、地域の身近な社会教育施設として、多様な学習の機会を創出するとともに、市民の主体的な学びを支援し、学びを通じた人づくりに取り組んでいる。

(1) 若者社会参画型学習推進事業

若者が地域づくり活動への参加や様々な人々との学び合いを通じて、身近な地域をより良くすることへの意識を高め、自発的・主体的に活動することを学ぶ事業である。

【各区中央市民センターにおける受講者数等一覧】

区	受講者数	受講者延人数	イベント参加者数	受講者内訳
青葉区	39	168	0	大学生
宮城野区	10	52	0	高校生
若林区	22	82	251	社会人・大学生・高校生
太白区	61	157	1,000	大学生
泉区	10	44	96	大学生

① 若者によるまちづくり実践塾

＜青葉区中央市民センター＞

本プロジェクトは、6つの大学から約40名の学生が登録・参加する取り組みであり、多様な背景や専門性を持つ学生が一堂に会する貴重な学びと実践の場となった。大学や学年の枠を超えた交流に加え、大学関係者や民間事業者、行政も参加する「ごちゃ混ぜワーク」を取り入れたことで、異なる立場や視点を相互に理解しながら議論を深める環境が形成された。

各回のプログラムでは、ブランディング事業を専門とする株式会社 BLUESODA の担当者から、ブランド構築の考え方や分析手法について継続的な支援を受けた。これにより、学生は感覚的なアイデア出しにとどまらず、調査・分析に基づいた戦略的思考の重要性を理解し、「戦略立案手法」や実務的な「ノウハウ・経験」を実践的に学ぶことができた。あわせて、グループワークや意見共有を通じて、他者と協働しながら考えをまとめ、伝える「コミュニケーション能力」の向上も図られ、将来の進学や就職、社会人としての活動に資するような学習効果が得られている。

② まいぶろ

＜宮城野区中央市民センター＞

令和7年度は、仙台市内にある地域の魅力を写真で撮影し、カレンダーの作成や写真展示を通じて、以下の2点を目標に取り組んだ。

- ① さまざまな人々と協働し、身近な地域をより良くすることへの関心を高めること。
- ② 社会や地域の一員として、自発的・主体的に行動できる人づくりを行うこと。

若者たちは、興味・関心を持った場所や風景などのまちの魅力を写真撮影し、オリジナルの写真入りカレンダーを作成した。これらの活動を通じて、自分の思いを表現する力やコミ

ユニケーション力が養われたほか、地域の魅力的な場所やモノに触れることで地域への理解が深まり、自分たちなりの地域貢献のあり方について考える機会となった。結果として、参加者の視野や関心にも広がりが生まれた。

③ 仙白園プロジェクト・人

＜若林区中央市民センター＞

大学生を中心とした概ね10代・20代の受講者が、地域の活性化に向けて、自ら地域の課題やニーズを考えながら様々な活動に取り組んでいる。

令和7年度は、「仙白園」と名付けた畑でサツマイモを栽培し、収穫したサツマイモをジュニアリーダーへ提供した。また、若者たちの発案により「様々な世代との交流」をテーマに活動を展開し、こどもたちへ体験活動の機会を提供するとともに、異年齢・異世代間の交流を促進することができた。

令和7年11月には「若者が教える！プログラミング教室」を開催した。南小泉地域ではこども会が休止している現状を踏まえ、こどもたちの交流の場を創出することを目的として企画したものである。また、令和8年2月には「みんなで作ろう！巨大すごろく&昔あそび工作会」を開催した。企画・広報・運営などを若者自身が担ったことで、若者の企画力や行動力の向上につながったほか、世代を超えた地域住民同士のつながりを生み出すきっかけづくりの場とすることができた。

④ わかブレ

＜若林区中央市民センター＞

高校生が中心となり、「中高生が自分らしくいられる居場所を作りたい」という思いから事業を実施した。令和7年度は不定期開催であるが、7月31日を第1回とし、11月、1月、3月と合計4回居場所づくりを展開した。7月と1月、3月は学校の長期休みに合わせ、中高生が参加しやすい日程で開催した。企画員である高校生が主導で企画・準備・運営を進め、回が終わるたびに、過ごしやすさや場の設定、安全の確保といった観点で振り返りを行った。この振り返りを次の回に生かすなど、活動をとおして企画員自身の成長にもつながった。

⑤ 仙台学生ネットワーク事業「つながりんぐ」

＜太白区中央市民センター＞

地域や地区市民センターから「学生と連絡を取りたいがどうしたらいいかわからない」、また、学生からは「社会貢献したいが窓口がわからない」等の意見を受けて、本事業を平成26年に立ち上げ、活動する学生のネットワークを「つながりんぐ」と名付けて活動をスタートした。

令和7年度からは長町駅西口広場公園と太白区中央市民センターを会場に行われている「長町秋のフェスティバル」の企画員を高校生、大学生から募り、若者の自由な視点でイベントを企画して実践する活動を通して、学生たち同士、地域で輝く大人たちとの交流や学校では得られない経験を目的として活動した。

「長町秋のフェスティバル」まで4回の企画会を通して、学生たちがイベントのテーマや

対象を決め、それに沿ったイベント内容を、交流を深めながら、決定した。工作ブース、お化け屋敷、アスレチックなどこれまで学生たちが経験したことを自分なりにバージョンアップすることで充実した内容のイベントが完成された。企画会を積み重ねるうちに最初は受け身だった学生達も主体性の高まりや企画力の向上がうかがえるようになった。学生達で声を掛けて、自主的に集まって準備するなど徐々に積極性も生まれていった。

イベント当日は、それぞれの担当のブースを仲間と一緒に声を掛けて運営をし、たくさんの家族連れと交流することで自分たちのイベントが楽しまれていることを大いに実感できる機会となった。

今後はイベント終了後も継続して学生たちが集い、主体的に学生自身が地域に参画できる場を提供していく工夫が必要である。

⑥ ICP イズミ・コミュニティ・プロジェクト

＜泉区中央市民センター＞

泉区内に通学している大学生を中心とした企画員が地域の現状や課題について考え、学生の自由な発想で地域創造に向けて取り組みたいことを企画し、実施する事業を行った。

令和7年度は、企画員の「七北田公園を活用したい」という思いを出発点として活動した。七北田公園活性化協議会や（一社）泉区プラスに協力していただき、まちづくりやイベント運営について学ぶとともに、地域とのつながりを深めた。その成果として、七北田公園で開催された「IZUMINATION」に学生ブースを出展し、「牛乳パックランタン」や「光るブレスレット」作りのワークショップを実施した。当日は、企画員だけでなく、活動に関心を持った学生もスタッフとして参加し、主体的に事業へ関わる機会となった。

企画員は、企画立案から準備、広報、当日の運営まで一連のプロセスを主体的に担い、子どもから大人まで楽しめる内容について話し合いを重ねながら事業を進めた。地域団体や地域人材との連携、参加者との交流、FM いずみのラジオ番組への出演による情報発信など、多様な経験を通して地域づくりへの理解を深めた。また、ワークショップには2日間で約100名の市民が参加し、世代を超えた交流の場を創出するとともに、企画員自身の自信や実践力の向上につながる貴重な経験を得ることができた。

⑦ 「若者社会参画型学習推進事業」にかかる支援

＜生涯学習支援センター＞

（ア）方向性を確認する会

日時：4/9(水)15:30～17:15 参加者：各区中央市民センター事業担当者等19名

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に、年度初めに際し、今年度の実施予定事業についての情報交換や、今後の事業展開の見通しについて意見交換を行った。

（イ）若者事業参加者交流会

日時：8/23(土)14:00～16:00 参加者：各区若者事業参加者、関連団体17名

若者事業に参画している若者を対象とし、東北学院大学 未来の扉センターを会場として交流会を行った。コーディネーターはONE TOHOKU HUB 手島 慧氏で、講話と「現在取り組

んでいる活動」についてのグループワークを行った。

(2) 住民参画・問題解決型学習推進事業

各区中央市民センターのコーディネートのもと、住民と市民センターの協働により地域課題を発見し、その課題解決への取り組みを学び、実践する事業である。平成 23 年度から実施しており、地区市民センターとも共催しながら事業を展開している。

【各区中央市民センターにおける受講者数等一覧】

区	受講者数	受講者延人数	イベント参加者数	受講者内訳
青葉区	22	206	27	北山 11、旭ヶ丘 5、柏木 6
宮城野区	37	244	1,338	榴ヶ岡 11、高砂 5 岩切 6、幸町 15
若林区	34	212	1,735	七郷 8、六郷 15、 若林中央 5、沖野 4
太白区	43	75	2,165	太白区中央 20、山田 8、 茂庭台 6、富沢 9
泉区	43	77	243	泉区中央 7、根白石 12、 松陵 24

① 地域元気クラブ

＜青葉区中央市民センター＞

受講生が講座を通じて得た学びやネットワークを生かして、地域の資源や人材を活用し、地域活性化のための企画を提案・実践していくことを通し、地域を元気にするノウハウについて学びを深めることができた。企画する事業への参加者が増えたり、学校をはじめとする地域の諸団体と連携する機会が増えたりするなど、地域づくりにつながるネットワークの構築が進んでいる。

「北山さんぽみちー過去から未来へ」（北山市民センター）は、地域資源を活用した地域学習と、学びの成果を地域住民に広め、住民自身による魅力あるまちづくりにつなげることを目的に開催した。北山周辺の水跡をテーマにすることを企画会議で決め、へくり沢跡、四ツ谷用水跡、北山を流れた小川跡を一年かけて辿った。へくり沢は「へくり沢散歩道ウォークマップ」、四ツ谷用水は「四ツ谷用水再発見！デジタルマップ」、北山の小川は「昭和 39 年の仙台地図帖」を参考に散策した。講師を頼まず、地図を片手に現在は暗渠になっている水跡を探索した。また、4 月に新坂通を歩き学んだ成果を「北山交流まつり」で展示発表し、地域の方たちに広めることができた。

「台原森林公園をまるごと楽しもう」（旭ヶ丘市民センター）では、市民の方にもっと台原森林公園を楽しんでもらいたいという思いから作成した地図を活用する事業展開を目標とした。令和 7 年度は 5 月～11 月までの全 6 回の予定で講座をスタートし、作成した地図を活用して企画員の解説付きの散策会を 5 月と 2 月に実施した。また、令和 6 年度にまとめた、台原森林公園についての意見要望を青葉区公園課に伝える事もできた。

「防災デイキャンプ 2025 in 通町小」（柏木市民センター）では、通町小学校での「青葉区総合防災訓練」を契機に、通町小おやじの会と通町小学校が企画員として始まったものである。4月から10月までに打合せを重ね準備を行った。しかし、インフルエンザが流行し、学校閉鎖となったため、中止した。

② 地域の魅力発信プロジェクト

<宮城野区中央市民センター>

榴ヶ岡市民センター、高砂市民センター、岩切市民センター、幸町市民センター、田子市民センターと連携しながら、住民がこれまで以上に地域づくりに関心を持ち、地域の課題や将来像を共有できるようにするためのワークショップやフィールドワーク等を展開する講座を行った。

「東口ゆうえんち」（榴ヶ岡市民センター）は、こどもが安全安心に遊ぶことのできる機会や場を提供することを目的に、社会人や大学生のボランティアスタッフが集まって運営している事業である。学校や家庭では体験できない遊びをこどもたちに経験させるため企画員がアイデアを出し合い、令和7年度は、「東口縁日」「ウォーターバトル」「こうさくえすと」「真冬のおばけやしき」の全4回のイベントを実施した。イベント当日には企画員とこどもたち、また企画員同士での世代間交流が和やかに行われた。

「高砂の魅力再発見プロジェクト」（高砂市民センター）は、被災地として語られることが多くなってしまった高砂地区について、地域住民と共に高砂の魅力を再発見、発信していく事業である。令和7年度は、地域のマップ作りと年度末の写真展の実施を念頭に、取材や写真撮影に取り組んだ。5月に岡田地区で仙台市の「とれたて仙台プロジェクト」に参加している農家の取材をした。11月には福田町周辺を歩きながら風景写真を撮影した。3月には、電力ビル1階アクアホールにて、写真展「高砂に生きる～震災のマエとアト～」を実施し、河北新報の取材を受けた。参加者・企画員ともに地域の魅力を大いに見つめ直すことができた。

「広がれ！スズムシの輪（りーん）」（岩切市民センター）は、仙台市の虫「スズムシ」の普及と、自生できる自然環境の大切さを多くの市民に啓発してきたすずむしの里づくり実行委員会の担い手の育成を目指す事業である。令和7年度は、岩切市民センターが大規模修繕工事の期間に入るため、秋以降はスズムシを飼育することができなくなった。この状況を見据え、スズムシの里親制度を考案した。各家庭でスズムシを育て、その育てたスズムシを事業のために提供する制度である。夏の配布交換会に来場した方々に里親制度の趣旨説明と募集を行ったところ、34の家庭から里親登録を得ることができた。

「市民企画会議『日本全国幸町プロジェクト』～＃幸町でつながろう！～」（幸町市民センター）は、「幸せな町になってほしい」との願いが地名にこめられた「幸町」の地域を知り、他地域の「幸町」とつながるために企画員が会議を重ね、地域の魅力を発信し、地域活性化を図ることを目的とする事業である。令和7年度は、幸町の魅力をまとめたガイドマップを完成させることができた。ガイドマップは地域の小学校の注目を集めており、今後、学校の授業などでの活用や、出前授業の推進を目指している。

また、リーダー・副リーダー・補佐を決めたり、「学ぶ」「遊ぶ」「叫ぶ」の3つの部会を

作ったりするなど、企画員の自主的な活動が盛んである。グループ内の規約や、外部へSNSを発信するときの運用ポリシーなどの整備に努めており、来年度の運用を目指している。

「地域連携宮城県準絶滅危惧種ミズアオイ生息地田子プロジェクト」(田子市民センター)は、田子地域を流れる七北田川沿岸で発見された、国の準絶滅危惧種である「ミズアオイ」を学校、田子小学校PTAと協力し、地域住民とともにミズアオイを育てる学習を通して、地域の環境保全を考えていく事業である。令和7年度からの新規事業であり、4月から7月は、前年に育てたミズアオイの株から出た芽を新たに株分けし、PTAや児童・地域のボランティアとともに勉強会を行いながら育成した。8月には、学校など、地域各所へ田子小学校で育てたミズアオイの花を提供した。夏休みには、10月には地域住民と梅田川の環境調査を行い、ミズアオイを広く周知することができた。年度末にはリーフレットを完成させることができ、今後の活動の推進につなげている。

③ 地域の担い手育成「わかばやしふるさとプロジェクト」

＜若林区中央市民センター＞

各地区館と共催して、地域住民が課題と向き合い解決を目指す取り組みを支援した。

「わたしのふるさとプロジェクト」(六郷市民センター)では、東日本大震災において被災した六郷東部地区の「にぎわい再生」「交流」「再会」「復興の歩みや震災記憶の発信」をテーマに取組を続けている。令和7年度は、7月に東六郷コミュニティ・センターにおいて六郷東部夏まつりを、2月に第11回目となる「ふるさとにつどう鎮魂の花火」を実施した。

「集まれ！わんぱくキッズ～お父さん出番です～」(沖野市民センター)では、沖野東小学校、沖野小学校それぞれのおやじの会と市民センターが共催で、児童向け講座「スポーツ鬼ごっこ大会」「こども相撲」「ドッジボール大会」などの企画・運営を行った。親子同士の交流の場を提供し、地域活性化に繋げることができた。おやじの会メンバーも沢山の経験を積み、子どもたちが喜ぶ事業を企画・運営する技術を高めた。

「子どもイベントを考えよう」(若林区中央市民センター)では、こどもたちが楽しめるイベントを開催したいと企画員が話し合いを重ね、近隣の中学校・高等学校にボランティア協力を仰ぎ、10月に「ワイワイ！こどもまつり」を実施した。南小泉小学校区ではこども会が休止しているが、地域と多様な教育機関の連携による地域課題の解決を目指した。

「Nana フェス！」(七郷市民センター)では、企画員が、新旧住民の関係の希薄化の解消のために、だれもが楽しめる音楽イベント「Nana フェス～七郷黄昏光響曲(シンフォニー)」を開催した。出演者として、市民センターで行った合唱やダンスの講座に参加した地域住民や、サークルに声を掛け発表の機会の場、交流の場を提供することができた。

④ 太白おとなのチカラ

＜太白区中央市民センター＞

太白区中央市民センター(拠点館)の「太白おやじネットワーク事業」では、太白区内各小中学校に在籍する児童・生徒の保護者を中心に構成する通称「おやじの会」の活動を支援することにより、若い世代の地域づくり活動への参画機会の充実と地域づくり活動の活性化を図る取り組みを進めている。

令和6年度に「長町秋のフェスティバル」の企画員である学生たちのサポート役を「おやじの会」が引き受けてくれたことにより、「おやじの会」側でも地域のこどもたちのために学校では得られない体験させたいという気持ちが芽生え、自分たちが過去に行っていた「綱取り」に新たな発想を取り入れながら、令和7年11月30日にプレイベント「綱取り交流会」を行った。イベント当日は、準備から運営までおやじ達が行い、声を掛け合うことで地域を超えての連携が見られた。また、今まで太白区おやじネットワーク会議に参加していなかったおやじたち同士の交流も図られた。

各地域の「おやじの会」のさらなるネットワークの輪の広がり、ノウハウの共有を目的として、令和8年2月15日に「太白おやじサミット」を新たに開催し、その結果、八木山地区の「おやじの会」が太白区おやじネットワーク会議に参加してくれることとなり、各地域の「おやじの会」の連携の強化が図られた。

また、区内地区館3館と共催し、地域課題解決につながる活動に取り組んできた。山田市民センターの「楽元の森プロジェクト」、茂庭台市民センターの『『みんなの広場』プロジェクト』、富沢市民センターの「パワフルとみざわネットワーク」は、これまで積み重ねてきた実績を基に、地域課題解決へ向けた工夫を凝らしながら実施した。

⑤ 地域いきいきプロジェクト

＜泉区中央市民センター＞

地区館が実施する市民企画事業を中心に支援を行った。主な支援としては、企画に関する相談・企画のサポート、予算に関する支援、情報提供、連絡調整等を行った。

泉区中央市民センター（地区館）の「まちを知る 七北田を歩くー地域いきいきプロジェクトー」では、自主活動グループ「七北田探訪会」が案内人となり、洞雲寺や七北田刑場跡、熊野神社、中山早坂石碑群などを巡るまち歩き講座を実施した。訪問範囲を泉区西部へ拡大するとともに、「質問カード」の活用などにより参加者の主体的な学びを促し、地域の歴史資源への理解と愛着を深める機会となった。また、講座参加者から2名が「七北田探訪会」に加わり、活動の広がりにもつながった。

根白石市民センターの「かむりの里・子育てプレイス～地域いきいきプロジェクト～」では、子育て世代の企画員が、ホタル観察会や体操イベント、ノージェネレーションフェスティバルを企画・実施した。地域の特色や資源を活かした活動を通して、こどもたちの自然体験や運動の機会を創出するとともに、幅広い世代の交流を促進し、地域全体でこどもを育てる環境づくりにつなげた。

松陵市民センターの「つながるプロジェクト」では、松陵・向陽台地区の高齢者サロンを紹介するパンフレットを作成した。各サロンの活動拠点であるコミュニティセンターや集会所へ出向き、事業の趣旨説明や聞き取りを行いながら情報収集に努め、最新の活動内容やサロンの雰囲気や伝わるよう内容を充実させた。パンフレット作成を通して、サロン同士の横のつながりの強化や地域住民への情報提供の充実を図ることができた。

⑥ 「住民参画・問題解決型学習推進事業」にかかる支援

＜生涯学習支援センター＞

(ア) 方向性を確認する会①

日時：4/9(水)15:30～17:15 参加者：各区中央市民センター事業担当者等 19 名
生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に、年度初めに際し、今年度の実施予定事業についての情報交換や、今後の事業展開の見通しについて意見交換を行った。

(イ) 方向性を確認する会②

日時：7/10(木)15:30～17:15 参加者：各区中央市民センター事業担当者等 16 名
生涯学習支援センター・各区中央市民センターにおける事業の取り組み状況の報告と今後の予定などの情報の共有化を図り、今後の事業展開の参考とするために実施した。

(ウ) パンフレットの発行

市民や関係機関に向け、住民参画・問題解決型学習推進事業の啓発のため、令和8年3月に発行した。1,300部作成し、市民向けに市民センター等に配架した。

(3) 子ども参画型社会創造支援事業

小学校中学年の児童から中学校・高等学校の生徒まで、こどもたちがそれぞれに地域社会の構成員としての意識を育みながら成長していくことを目指し、こどもたち自身が主体的に参画し、こどもならではの役割と可能性を自由に発揮できる事業である。平成 23 年度から実施しており、各区中央市民センターを中心に、地区市民センターとも共催しながら事業展開を図っている。

【各区中央市民センターにおける受講者数等一覧】

区	受講者数	受講者延人数	イベント参加者数	受講者内訳
青葉区	21	114	13	小・中学生、高校生
宮城野区	29	336	298	小・中学生、※大学生
若林区	51	314	51	小・中学生
太白区	27	272	672	小学生・中学生
泉区	9	47	391	高校生

※宮城野区の大学生はアシスタントとして参加

① 地域盛り上げ隊

＜青葉区中央市民センター＞

2つの地区館と共催で事業を実施している。

木町通市民センターでは、木町通小学校と第二中学校の児童・生徒から企画員を募り、「木まちたんけん隊」を実施した。柏木・二日町エリアでまち歩きを行い、商店や施設を見学したり、職員の方にインタビューを行ったりして、交流を図りながら地域について学ぶことができた。また、学習の成果としてすごろくを作成することで地域への興味・関心が高まった。

中山市民センターでは、仙台青陵中等教育学校と中山中学校の生徒から企画員を募り、地域の小学生を対象とした講座を企画・運営する「N（なかやま）プロジェクト」を実施した。地域の小学生を対象に「ドキドキ忍者ライフ」「防災アクション運動会」という地域のための講座の企画から準備、運営までの一連のプロセスを経験し、実践的な学びを深める機会となった。また、小学生との交流を通じて地域世代間の交流につながり、生徒自身が地域づくりの担い手としての意識を高める一助となった。

② 宮城野区子ども参画プロジェクト

＜宮城野区中央市民センター＞

2つの地区館と共催し、こどもたちの目線で地域課題を考えたり、それぞれの地域を盛り上げる企画を提案したりする活動を行った。こどもたちは地域の市民センターに自分たちの活動拠点を設け、イベントの企画や情報の収集・発信などを通じて地域とつながり、社会参画へのきっかけをつかんでいる。

宮城野区中央市民センター（地区館）では、原町小・宮城野小・東宮城野小の児童を対象に「キッズもりあげ隊」を実施している。令和7年度の企画員は10人で、「自分たちの住んでいるまちを盛り上げるためにできること」をテーマに活動した。月1回のペースで集まり、イベントの企画や実施について話し合い、地域のためにさまざまな取り組みを行った。なお、若者同士のつながりや新たな活動の機会づくりを目的として、毎回、まちづくりやこどもた

ちの活動に関心のある大学生や専門学校生がスタッフとして参加し、活動の支援を行っている。

鶴ヶ谷市民センターでは、鶴谷中学校と連携し、「チーム『ニコ鶴』プロジェクト」を実施した。生徒有志 19 名が企画員として参加し、11 月には地元で開催されていたミニマルシェに初めてブースを出店し、イベントを盛り上げた。3 月には「ニコ鶴運動会」を企画・運営した。地域の大人もコーディネーターとして関わり、中学生の主体的な活動を支援している。

③ 若林区子ども参画・ボランティア事業

＜若林区中央市民センター＞

若林区中央市民センター（拠点館）では、チャイルドボランティア「チャボ！」を平成 23 年度より継続実施している。これは、こどもたちに地域でのボランティア活動の機会を作ったり、こども自身が「地域のためにできること」を企画・実施する活動をしたりすることで、自分の存在の大切さを実感するとともに、将来、社会・地域にその一員として積極的に関わることができるようにしていく事業である。対象は区内の小学 4 年生から中学生。地域の団体や施設などの協力を得て、一年を通して月 1、2 回活動しており、令和 7 年度は、高齢の方に届ける宅配弁当に添える手紙書き、南小泉児童館まつりの実行委員、南小泉児童館の児童を対象としたイベントの企画・実施、地域のごみ拾い活動といった活動を行った。

④ たいはくキッズリーダー育成事業

＜太白区中央市民センター＞

「にしたがキッズ情報局」は、西多賀市民センターとの共催により、近隣小学校 3 校から参加児童を募集して地域の魅力を取材し、シナリオを作成して、エフエムたいはくのラジオで発信するという事業内容である。

令和 7 年度は、「変わりゆく西多賀～戦争から復興へ～」をテーマに、戦災復興記念館を訪問したり、地域の歴史に詳しい方の話を聞いたりするなどして西多賀地域と戦争について取材し、ラジオ番組を制作した。地域のキッズリーダーとして、西多賀市民センターを拠点に活動することにより、地域のさまざまな方と交流することができた。また、番組制作を通して、地域の良さを再発見することができ、自分たちの地域をもっと調べて発信したいという意欲につながった。

「ぼくらの長町黄援隊！」は、主に長町エリアの小中学校から参加児童・生徒を募集し、長町駅前商店街連合会、仙台 89ERS の協力を得て地元長町と仙台 89ERS を盛り上げる活動を行う事業である。

令和 7 年度は、太白区中央市民センター主催の「長町交流フェスタ 2025」において、長町地域の歴史や仙台 89ERS の選手をテーマにしたクイズラリーを実施した。また、仙台 89ERS のホームゲームでスタッフの仕事を体験したり、来場者から選手への応援メッセージを集めたりするなど、長町地域の活性化につながる活動に取り組んだ。こうした活動を通して、参加した児童・生徒は普段できない体験をしたり、自分たちの活動が地域の人々に認められたりする経験を重ね、地域活動への参加意欲を高めることができた。

さらに、令和7年度からは茂庭台市民センターの「茂庭台をもっと元気にし隊」が新規事業として加わった。この事業は、こどもたちの視点から地域を盛り上げることをコンセプトとしている。こどもたちは自ら企画を考え、綿あめやカジノゲームなどのブースを出店し、地域の夏祭りを盛り上げることに貢献した。このような体験は、地域の人々との交流を深めるとともに、仲間と協力して一つのものをつくり上げる達成感や喜びを味わう貴重な機会となっていた。さらに、地域への愛着や主体性を育むことにもつながっている。

⑤ 子どもまちづくり企画室

＜泉区中央市民センター＞

泉区中央市民センター（拠点館）では、企画員への助言や物品の購入、企画事業の運営支援などを行い、地域を舞台としたこども社会参画型社会創造支援事業を推進した。

将監市民センターの「将監ふるさとづくりプロジェクト」では、将監沼散策マップの改訂や児童館まつりへの参加、小学校の総合学習への協力などを行った。企画員が考案した新しい散策マップや将監沼に関するクイズを活用しながら、地域の自然や歴史の魅力を伝えるとともに、地域住民への投票により将監沼遊歩道の愛称を決定した。これらの活動を通して、こどもから大人までの交流を促進し、地域への愛着を育む機会となった。

⑥ 「子ども参画型社会創造支援事業」にかかる支援

＜生涯学習支援センター＞

（ア）方向性を確認する会①

日時：4/9(水)15:30～17:15 参加者：各区中央市民センター事業担当者等 19 名

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に、年度初めに際し、実施計画をもとに情報交換を行い、今年度の事業展開について見通しを持つことを目的として実施した。

（イ）方向性を確認する会②

日時：7/10(木)15:30～17:15 参加者：各区中央市民センター事業担当者等 16 名

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に、情報交換と地区市民センターへの事業支援の在り方に関する検討を行うことにより、事業内容をブラッシュアップし、効果的な事業展開を推進することを目的として実施した。

（ウ）リーフレットの発行

地区市民センター及び仙台市内の小中学校に向けて、子ども参画型社会創造支援事業の啓発のため、令和8年3月に発行した。事業に参加しているこどもの声を取り上げ、学校教職員などこどもと関わる方々の理解が得られるような内容として1,900部作成し、地区市民センター職員と市内小中学校、高等学校、中等教育学校、各小中学校のPTAに配付した。

(4) 仙台市市民センター 子ども・若者・大人事業成果報告会

＜生涯学習支援センター＞

こども・若者・大人事業についての理解を深め、自館の事業に生かす視点を育むこと、発表や交流を通じて事業参加者や市民センター職員の意欲の向上を図ること、市民センターにおける主体的な生涯学習活動に対する市民の関心を高めることの３点を目標として、生涯学習支援センターを会場に、各市民センターの特色ある取り組みのステージ発表や、ポスターを展示し紹介した。

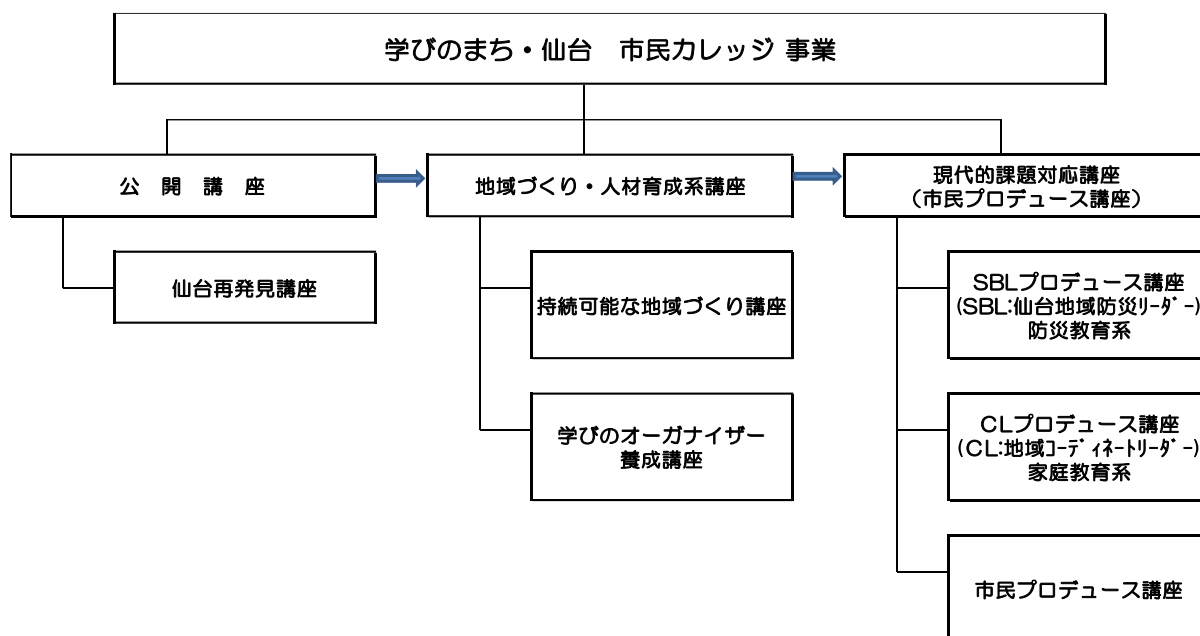
開催日：令和８年１月１８日（日）

参加者：市民 157 名（事業参加者含）、市民センター職員 27 名、行政・教育関係職員 16 名

(5) 学びのまち・仙台 市民カレッジ事業

<生涯学習支援センター>

本市における生涯学習の支援拠点として、全市域の市民を対象に、地域資源や地域課題、現代的課題等をテーマに、専門的で質の高い学習の機会を提供することで、地域づくりを牽引する人材の育成を目指すとともに、学習成果が地域や社会に還元されるような仕組みづくりを進める。



① 公開講座

仙台的従来気付かなかった側面を改めて見出すことを共通テーマに、歴史、文化、仙台の原風景等それぞれの専門家による講座を実施した。

【仙台再発見講座 全4回】

回	開催日	概 要	受講者
1	5/17(土) 14:00～16:00	講話：「仙台で刻んだ97年の歴史「産総研東北センター」のあゆみとこれから」 講師：国立研究開発法人 産業技術総合研究所東北センター 産学官連携推進室 室長 佐藤 麻樹 氏	31
2	7/19(土) 14:00～16:00	講話：「仙台とわたしの文学」 講師：小説家 佐伯 一麦 氏	47
3	9/20(土) 14:00～16:00	講話：「昭和の写真と地図で仙台の“？(ナゾ)”を解く」 講師：風の時編集部 代表 佐藤 正実 氏	87
4	11/15(土) 14:00～16:00	講話：「“伝える”を仕事にして生きる - 地域メディアを起業して見えた仙台の姿」 講師：TOUHOKU360 代表・編集長 安藤 歩美 氏	38

② 地域づくり・人材育成系講座

地域づくりに関する専門性を高める学習の場を提供することで、身近な地域をより良くするため主体的に行動するとともに、中核となって地域を支える人材の育成を図る。

(ア) 持続可能な地域づくり講座

持続可能な地域づくりに関する学びを提供することで、受講者が、現代的な課題を受講者自身の事として捉えようとする意識を醸成することをねらいとして実施した。

回	開催日	概 要	受講者
1	6/14 (土) 14:00～16:00	講話：「地域とこどもの未来をつくる ゲバサンバの可能性」 講師：市民活動団体「KuuUFuUU」代表 小野寺 香那恵 氏	22
2	6/28 (土) 14:00～16:00	講話：「地域自給×協奏で育む、持続可能な里づくり」 講師：株式会社 百 代表取締役 舩 昌汰 氏	17
3	7/5 (土) 14:00～16:00	講話：「“交流” が生み出すまちの未来 ～人と人をつなぐ場づくりの秘訣～」 講師：認定 NPO 法人 まちづくりスポット仙台 事務局長 岩間 友希氏	15

(イ) 学びのオーガナイザー養成講座

地域の活動に参加するために必要なスキルを身に付けるとともに、自分の良さや強みを知り、それらを生かしながら地域で主体的に活動しようとする人材を育成することをねらいとして実施した。

講師：株式会社ばとん 代表理事 遠藤 智栄 氏

回	開催日	概 要	受講者
1	11/14(金) 18:30～20:30	講話：「アイスブレイクとトークフォークダンス」	16
2	11/21(金) 18:30～20:30	講話：「えんたくん活用とワールドカフェ」	12
3	11/28(金) 18:30～20:30	講話：「振り返りミーティングの手法」	12

③ 現代的課題対応講座（市民プロデュース講座）

市民センターの講座等の受講生や市内で活動する団体等が、身近な地域をより良くするために、学びや専門性を生かして講座の企画やコーディネートを行い、他の市民とともに専門的な講話やワークショップから学ぶ。仙台市地域防災リーダー（SBL）、学校支援地域本部のスーパーバイザーやコーディネーター等の地域コーディネーターリーダー（CL）、社会教育実習に参加した大学生有志の企画・運営による講座を実施した。

(ア) SBLプロデュース講座 「防災・減災講座」 5回連続講座

回	開催日	概 要	受講者
1	8/23(土) 14:00～16:00	講話：「地球温暖化と気象防災」 講師：気象予報士 AAB 秋田旭放送 気象キャスター 和田 幸一郎氏	67
2	8/30(土) 14:00～16:00	講話：「地域の災害予防対策を進めるには？」 講師：東北大学災害科学国際研究所 准教授 福島 洋 氏	70

3	9/13(土) 14:00～16:00	講話：「災害を伝える」を考える 講師：東北大学災害科学国際研究所 准教授 佐藤 翔輔 氏	51
4	10/4(土) 14:00～16:00	講話：「災害関連死ゼロをめざす、被災者支援 ～能登半島地震の教訓を次に生かす～」 講師：一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと 代表理事 小山内 世喜子 氏	49
5	11/1(土) 14:00～16:00	講話：『あの時を、今どきに』 ・・荒浜小の14年をお伝えします・・」 講師：震災遺構 仙台市立荒浜小学校 元校長 川村孝男 氏	52

(イ) C L プロデュース講座 「子育ての家庭と地域の役割再発見」

回	開催日	概 要	受講者
1	11/26(水) 10:00～12:00	講話：「メディアとの上手なつきあい方」 ～スマホのある時代の子育て～ 講師：実践女子大学 教授 駒谷 真美 氏	20
2	12/5(金) 10:00～12:00	講話：「特別なニーズがある子の将来を豊かに」 講師：尚絅学院大学 准教授 佐々木 健太郎 氏	14
3	12/12(金) 10:00～12:00	講話：「みんなの居場所」 ～こども食堂から広がる地域の輪～ 講師：よりみちの会 代表 植村 暢子 氏 講師：おりざの家 代表 佐藤 宏美 氏	10

(ウ) 市民プロデュース講座 「商店街と麴と私 ～荒町商店街から考える～」

回	開催日	概 要	受講者
1	2/7(土) 10:00～12:00	講話：「せり沼へようこそ！～根っこまではまる、せりの魅力～」 講師：三浦農園 代表 三浦 隆弘 氏	19

2 広域規模の学習支援

(1) 高等学校開放講座

<生涯学習支援センター>

高等学校の持つ教育機能を生かし、市民の生活上・職業上の専門知識・技能及び一般教養の修得を図る。【昭和 51 年度開始 市立高校 4 校・4 講座、受講者 46 名、延 69 名】

学校名	講座名	内容	実施日	受講者
仙台大志高校	シルクスクリーンでバッグを彩る	オリジナルの絵柄でシルクスクリーンの版を作り、綿のバッグに刷り上げる。	7/26(土)	5
仙台工業高校	親子でLet's ドローン (ドローン体験)	親子でドローンについて学び、実際にドローンの操縦を体験する。	9/27(土)	18
仙台青陵中等教育学校	自動で走るロボットを作ろう	レゴ®マインドストームを使って、自走するロボットを作る。	10/4(土) 10/11(土)	12
仙台商業高校	表計算入門『エクセル基礎講座』	表計算ソフト「エクセル」の基礎から、表計算・表の作成・関数・グラフの作成等を学ぶ。	11/15(土)～ 11/16(日)	34

(2) ミンナシテマザール

<生涯学習支援センター>

誰もが、障害の有無にかかわらず、共に学び、生きる共生社会を実現することを目標に、障害者の生涯学習推進事業「障害のある人もない人も共に学ぶ ミンナシテマザール」を令和 5 年度より実施している。

令和 7 年度は、NPO 法人・行政・個人・大学生など様々な関係団体と連携し、仙台市内全 5 区でプログラムを実施しており、延べ 149 名の参加者のうち、78 名が障害のある当事者だった。

回数	実施日	主な活動内容	参加者
1	6 月 21 日 (土)	アート体験(ミンナシテイロドール)	30
2	7 月 12 日 (土)	七夕飾りづくり (ミンナシテツクール)	32
3	9 月 6 日 (土)	化石レプリカづくり(ミンナシテタメースカガーク)	25
4	11 月 22 日 (土)	インクルーシブスポーツ体験(ミンナシテスポーツ)	20
5	12 月 21 日 (土)	ジャンベ体験 (ミンナシテジャンベール)	14
6	2 月 28 日 (土)	すずめ踊り体験(ミンナシテスズメデツナガール)	28

(3) 仙台明治青年大学

<生涯学習支援センター>

地区市民センターの老壮大学やシルバーセンターのせんだい豊齢学園等を修了した 61 歳以上の高齢者が「生きがいと自己実現」を図ることを目的として活動している。

主な活動として、学習会では文化・歴史・健康・科学・防災など、幅広いテーマに基づき外部講師を招聘し実施している。また、同期会、クラブ活動、ボランティア活動も盛んに行われており、クラブ活動や個人の日頃の活動の成果を発表する場として、年 1 回大学祭を開催している。大学の運営や行事はホームページにて公開されており、広報活動も積極的に行っている。

本学は昭和 41 年に開設され、令和 8 年度に創立 60 周年を迎える。

(年度別在籍者数の推移)

年 度	R3	R4	R5	R6	R7
新入生数	55	43	78	81	86
在籍者総数	800	708	717	756	778

(学習会開催状況)

年 度	R3	R4	R5	R6	R7
実施回数	19	12	20	19	19
延参加者数	6, 576	5, 587	9, 939	11, 240	10, 649

(4) 仙台自主夜間中学

「仙台自主夜間中学」(主催：仙台自主夜間中学(平成 26 年 11 月開講、令和 3 年 5 月に「仙台に夜間中学をつくり育てる会」から名称変更))を、平成 29 年度から仙台市教育委員会との共催事業と位置付け、会場の提供や広報の支援等を行っている。

(活動状況)

第 1・3 水曜日 昼間部開講 24 回(会場:生涯学習支援センター)

第 1・3 水曜日、第 2・4 金曜日 夜間部開講 48 回(会場：生涯学習支援センター)

参加者延人数 2, 146 人(生徒 1, 024 人 スタッフ 1, 060 人 見学等 62 人)

令和 8 年 3 月末実数 生徒 48 人 スタッフ 46 人

3 人材育成

(1) 職員研修（学びを支える人材育成推進事業）

<生涯学習支援センター>

市民センター全 60 館ならびに 19 カ所の社会教育施設等の職員が、生涯学習事業の推進に必要な知識や考え方を深められるようにするとともに、社会の変化や市民ニーズに迅速かつ柔軟に対応しながら、積極的に市民や地域と連携を図ることができる専門性やスキルを身に付けられるようにする。

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
基礎研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 （博物館、科学館、図書館、天文台、大倉ふるさとセンター、オーエンス泉岳自然ふれあい館、仙台ひとまち交流財団、仙台市市民文化事業団、防災環境都市推進室 震災遺構荒浜小学校） ・関係課職員	◇社会教育施設等新任職員研修【全 1 回】 5/16（金）14:30～17:00 ◎講話「社会教育施設職員に求められるもの」 東北大学大学院 准教授 松本 大 氏	51
		◇社会教育施設等職員資質向上研修【全 2 回】 <第 1 回> 7/2（水）14:00～17:00 ◎講話「社会教育における評価」 東北学院大学 教授 原 義彦 氏 ◎グループワーク <第 2 回> 11/27（木）14:00～17:00 ◎講話「学びを通じた地域づくりのための社会教育の役割」 文教大学 准教授 青山 鉄兵 氏 ◎グループワーク	22 21
	・市民センター職員	◇市民センター新任職員研修【全 1 回】 4/16（水）14:00～17:00 ◎講話 1 「新任職員への期待 ～市民センター職員に期待すること～」 尚絅学院大学 教授 松田 道雄 氏 ◎講話 2 「市民センターの概要」 ◎講話 3 「市民参画型事業について」 ◎講話 4 「学校との連携について」 ◎講話 5 「職員研修（学びを支える人材育成推進事業）について」 ◎講話 6 「情報システムについて」	38

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
基礎研修	・市民センター館長	◇市民センター館長研修【全1回】 8/22（金）14:00～17:00 ◎講話「地域・学校・家庭の連携・協働による 地域の教育力の向上について」 文部科学省 CS マイスター 三鷹市教育委員会 三鷹市総括スクール・コミュニティ推進員 四柳 千夏子 氏 ◎グループワーク	52
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	◇現代的課題対応研修【全2回】 <第1回> 6/11（水）14:00～17:00 ◎講話「地域でともに学ぶために」 文部科学省 障害者の生涯学習推進アドバイザー みんなの大学校 フェリス女学院大学 准教授 引地 達也 氏 ◎グループワーク <第2回> 9/25（木）14:00～16:45 ◎講話「社会教育におけるウェルビーイング って何だろう？」 日本女子大学 准教授 萩野 亮吾 氏 ◎グループワーク	22 12
応用研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	◇ファシリテーション研修（基礎編）【全3回】 <第1回> 7/18（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「ファシリテーションとは」 「ファシリテーション6つの技術」 ファシリテーター事務所Pやん 代表 山田 美保子 氏	12
		<第2回> 8/28（木）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「面談やOJTに効果的なホワイトボードの使い方」 ファシリテーター事務所Pやん 代表 山田 美保子 氏	12
		<第3回> 9/26（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「業務や行事を効果的に進める役割分担や マニュアル作成の進め方」 ファシリテーター事務所Pやん 代表 山田 美保子 氏	12

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
社会教育 研修	・市民センター 職員 ・他の社会 教育施設 職員 ・関係課職員	◇ 広報企画研修【全1回】 9/12（金）14:00～17:00 ◎講話とグループワーク 「効果的な情報発信の実践について ～広報誌「ばれっと」の編集室から～」 仙台市市民活動サポートセンター 小田嶋 くるみ 氏	14
	・生涯学習支 援センター、 各区中央市 民センター等 に所属する 社会教育主 事等教育局 職員	◇ 社会教育推進研修【全1回】 6/19（木）14:15～17:15 ◎講話、グループワーク 山形の自然の魅力！満喫プロジェクト 代表 山口 俊一 氏	19
社会教育 研修	・市民センター 職員 ・他の社会 教育施設 職員 ・地域連携担 当教員 ・嘱託社会 教育主事 ・関係課職員 ・関係教員	◇ 学校との連携・協働研修【全1回】 10/29（水）14:00～16:45 ◎講話「地域と歩む学校づくり ～大洗うみ・まちコミュニティスクールの実践から～」 茨城県大洗町教育委員会 教育長 長谷川 馨 氏 ◎グループワーク	50
社会教育 研修	・市民センター 職員 ・他の社会 教育施設 職員 ・関係課職員 ・希望する市 民	◇ 学びの還元（ボランティア）研修【全1回】 12/4（木）14:00～16:00 ◎講話「伝える喜び、支える誇り！ ボランティア活動の魅力に触れよう！」 戦災復興記念館アドバイザー ボランティア 及川 節郎 氏 ◎戦災復興記念館施設見学	10

（2） 学びの還元（ボランティア）研修 （再掲）

＜生涯学習支援センター＞

「学びのまち・仙台」を支える基盤の充実を目指し、より多くの市民や団体等が、学びの活動に参画できるよう、市民や行政といった立場の違いを越えて理念の共有を図るとともに、ネットワークの構築を進めることを目的として実施した。

※職員研修・発展研修としても位置付ける。

(3) 地域コーディネーター研修

＜生涯学習支援センター＞

こどもを育む地域力を高める視点に立ち、地域内のコミュニケーションやネットワークの活性化を目指し、地域で核となる人材を育成する事業。実際に地域で活躍している市民（企画員）との協働により研修内容を企画・実施した。

受講対象	概 要	受講者
・学校支援地域本部事業、放課後子ども教室事業、図書室等開放事業、社会学級、学コミ事業の関係者 ・PTA 関係者、学校教員、児童館職員 ・市民センター職員 ・その他	◇第1回「地域コーディネーター研修会」 9/20（土）13:30～16:15 研修テーマ：「つながる多世代広がる未来 ～大学生の話がヒントになる研修会～」 ◎事例発表 学生ボランティア団体「てらいく」 ◎グループワーク 助言：利府町文化交流センターリフノス センター長 野澤 令照 氏	43
	◇第2回「地域コーディネーター研修会」 2/14（土）13:30～16:10 研修テーマ：「まだ間に合う、伝わる地域広報 ～あきらめたらそこで試合終了ですよ…？～」 ◎事例発表 「地域を動かす『伝わる』をデザインする広報」 講師 株式会社ユーメディア クリエイティブディレクター 阿部 奈穂 氏 ◎グループワーク 助言：利府町文化交流センターリフノス センター長 野澤 令照 氏	44
	※地域コーディネーター研修会企画員会 研修会の方向性や内容の検討(全6回 延参加者42名) ①5/22（木）15:00～17:00 ②6/20（金）15:00～17:00 ③7/30（水）15:00～17:00 ④10/22（水）13:30～16:00 ⑤11/26（水）15:00～17:00 ⑥ 3/3（火）15:00～17:00	

(4) ボランティア養成等人材育成事業

① 託児ボランティア養成・活動支援

＜生涯学習支援センター＞

子育て中の保護者が安心して学習できるよう、市民センターでは託児付きの講座を設けている（令和7年度実績：11事業）。

託児は、ボランティアグループによる主体的な運営を基本としている。そのため、託児ボランティアグループの活動を支援するとともに、新たな託児ボランティアの養成のための講座を実施している。

事業名	開催日	内 容	延受講者
託児ボランティア連絡会	5/17(土) 10/24(金) 3/6(金)	市民センターで活動する託児ボランティアグループの代表者等と意見交換を行うため、連絡会を開催した。	48
託児ボランティア養成講座	9/6(土) 9/11(木) 9/18(木) 9/25(木) 10/4(土) 10:00～ 11:30	託児ボランティアとしての活動に必要な知識や技術を学ぶ講座（全5回）を実施した。 ① オリエンテーション ② 講話「子どもを取り巻く環境①」 蒲町保育所 総括主任 加茂 あずみ 氏 ③ 講話「子どもを取り巻く環境②」 落合保育所 総括主任 佐藤 幹子 氏 ④ 講話「子どもの病気とけが」 泉区役所 家庭健康課 幼児保健係 主任 藤田 空羽 氏 ⑤ 話し合い・実技等「これからの活動に向けて」	23
託児ボランティアフォローアップ研修	10/24(金) 10:00～ 11:30	より質の高い託児室運営のため、託児ボランティアの資質や技術向上に役立つ研修を実施した。 講話「みんなで話したい！子どもと保育のいま。」 高砂保育所 支援主任 宮森 祥子 氏	24

【託児ボランティアグループ一覧】（令和8年3月現在）

グループ名	設立年月	主な活動区域（区域以外での活動有り）	会員数
にんじん	S59.7	宮城野区	7
たんぼぼ	H3	太白区	12
アリスの会	H5.7	若林区、宮城野区	3
託児ボランティアグループ てっての会	H6.4	青葉区、泉区	8
クリップ	H9.4	若林区	7
ひまわり	H9.8	青葉区、泉区、宮城野区	7
でんでんむし	H12.3	太白区	8
さくらんぼ	H14.5	青葉区、宮城野区、若林区、太白区、 泉区	8
ハイジ	H22.4	若林区、宮城野区、青葉区	5
合計 9 グループ / 会員数 65 名			

② 図書ボランティア活動支援

<生涯学習支援センター>

29 館の市民センターでは、市民センター併設の図書室等において市民ボランティアの協力により図書の貸し出しや選書等の運営を行っている。

【図書ボランティア一覧】（令和 8 年 3 月現在）

	グループ名	活動館	会員数
1	まったりお茶の間文庫	青葉区中央市民センター	5
2	さくらさくら	北山市民センター	13
3	カンナの会	福沢市民センター	10
4	ぼけっと	三本松市民センター	5
5	片平市民センター・児童館ボランティア	片平市民センター	4
6	（グループ名なし）	水の森市民センター	12
7	図書ボランティア「ひまわり」	貝ヶ森市民センター	8
8	（グループ名なし）	中山市民センター	4
9	図書ボランティアコスモス	大沢市民センター	12
10	葉の会	落合市民センター	11
11	たんぽぽ	吉成市民センター	5
12	かすみそう	高砂市民センター	10
13	しおりの会	岩切市民センター	14
14	もくれんの会	鶴ヶ谷市民センター	17
15	（グループ名なし）	東部市民センター	3
16	ひまわり	幸町市民センター	7
17	（個人）	田子市民センター	1
18	わかば	荒町市民センター	11
19	（グループ名なし）	生出市民センター	4
20	ブックスフレンド中田	中田市民センター	11
21	図書ボランティア	八木山市民センター	25
22	図書ボランティア縄文	山田市民センター	15
23	（グループ名なし）	茂庭台市民センター	11
24	（グループ名なし）	東中田市民センター	5
25	ブックポケット	柳生市民センター	8
26	（グループ名なし）	松森市民センター	6
27	富沢市民センター図書室ボランティアの会	富沢市民センター	23
28	虹	南中山市民センター	11
29	（グループ名なし）	七郷市民センター	8
30	（グループ名なし）	沖野市民センター	4
ボランティア数計 283 名			

③ 地域情報発信サポーター養成

＜生涯学習支援センター＞

生涯学習情報や地域に関する情報に関心を持ち、それらを発信していく人材を発掘・養成するため、市民の方と社会教育施設等職員とが共に参加できる講座を実施した。

講座では、参加者が情報交換等を行いながら、地域の情報発信について考えた。

開催日	内 容	受講者
1/31(土) 14:00～17:00	「コピーに学ぶ目をひくメッセージの届け方」 講師：鎌田高広事務所 鎌田 高広 氏	33
2/7(土) 14:00～17:00	「コピーに学ぶ目をひくメッセージの届け方」 講師：鎌田高広事務所 鎌田 高広 氏	31

(5) 実習受入

① 社会教育実習生

東北学院大学、東北芸術工科大学、山形大学、創価大学からの依頼を受け、各大学の社会教育主事資格取得を目指す学生を社会教育実習生として生涯学習支援センター及び各区中央市民センターで受け入れ、公民館（市民センター）の概要や講座の企画立案・実践について指導した。

a. 施設実習 8/下、9/中、11/中

b. 講座実習 9/上～12/中

実習生 東北学院大学 21 名、東北芸術工科大学 2 名、山形大学 1 名、創価大学 1 名

② 大学生施設見学（生涯学習支援センター）

大学の授業の一環として施設見学を受け入れ、市民センター業務について学ぶ機会を提供した。

聖和学園短期大学……35 名

③ 児童・生徒の職場体験実習

仙台市立の小学校、中学校、特別支援学校の職場体験実習を受け入れ、市民センター業務について学ぶ機会を提供している。

《生涯学習支援センターの受入実績》

【小学校】（1 校 8 名）

榴岡小学校（第 4 学年総合的な学習の時間「弟子入り留学」）…8 名

【中学校・中等教育学校】（2 校 5 名）

東華中学校…3 名

田子中学校…2 名

【特別支援学校高等部】（1 校 1 名）

鶴谷特別支援学校高等部…1 名

※各区中央市民センター（拠点館）においても、同様に児童・生徒の職場体験実習を受け入れている。

4 ジュニアリーダー

ジュニアリーダー育成・支援

ジュニアリーダーとは、青少年ボランティア活動の一環として、地域の市民センターを拠点とするサークルに所属し活動する中学生・高校生のことであり、地域の子ども会活動のお手伝いや様々なボランティア活動に積極的に取り組んでおり、自身の人格形成にも生かされている。

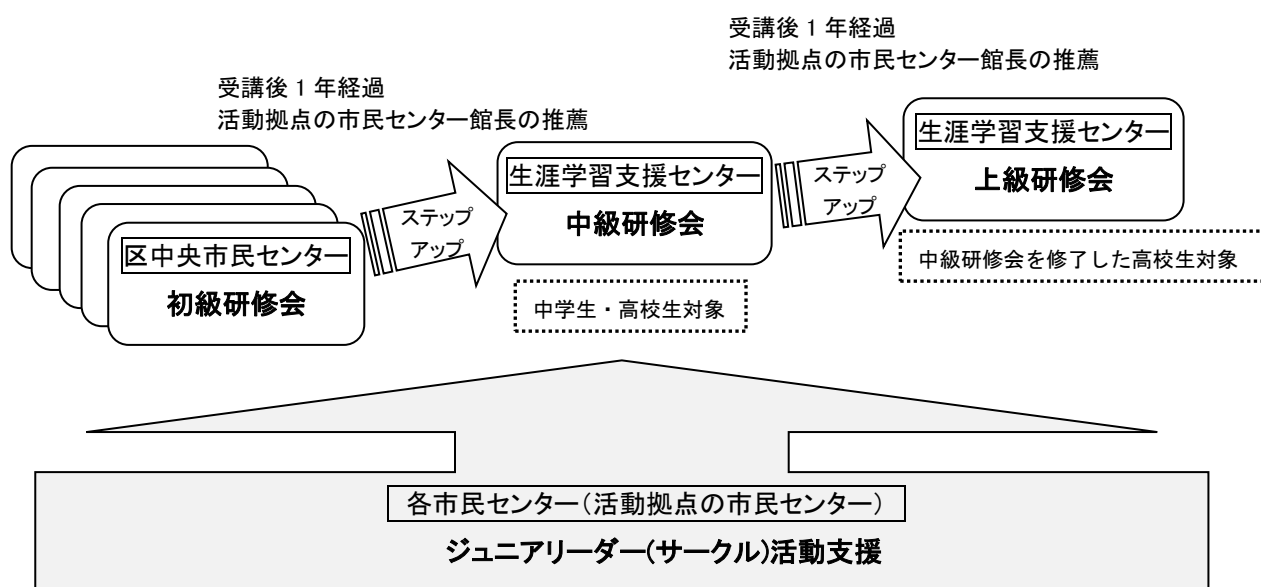
ジュニアリーダー育成支援は、社会教育における“青少年の健全育成”、また、“学びを通じた人づくり”の一環として位置づけられる重要な事業である。仙台市生涯学習支援センターおよび各区中央市民センターでは、ジュニアリーダーを育成するために、下図の通り段階的に研修会を開き、ジュニアリーダー活動に必要な知識や技能を習得する場を提供している。また、活動拠点となる地区市民センターでは、ジュニアリーダーが幅広い視野や責任を持って地域での活動を行えるよう支援を行っている。

【ジュニアリーダーサークルの主な活動】

○自主企画(ジュニアと遊ぼう、交流会など)、定例研修会及び連絡会、各種研修会の実施

○子ども会、市民センター、その他の機関からの要請による活動

- ・子ども会行事の実施及び企画の補助
- ・区民まつりへの参加
- ・市民センター事業への補助
- ・児童館行事のスタッフ 等



(1) ジュニアリーダー初級研修会

＜区中央市民センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会支部）

ジュニアリーダー活動の理念に触れ、興味・関心を高めるとともに、現ジュニアリーダーとの親睦を図り、今後の活動への意欲を持たせることを中心にした内容の研修を各区で実施した。対象者は、「新たにジュニアリーダーを志す中学生・高校生」とした。

研修内容：ジュニアリーダーの活動について、子ども会について、安全に活動するために 等

【令和7年度実績】

主催館名	開催日	受講者
青葉区中央市民センター	7/5（土）	11
宮城野区中央市民センター	8/6（水）	19
若林区中央市民センター	12/7（日）	21
太白区中央市民センター	7/5（土）	28
泉区中央市民センター	10/25（土）	15

（2） ジュニアリーダー中級研修会

＜生涯学習支援センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会）

活動の中心となるジュニアリーダーとして、より専門的な知識と高度な技術の習得を中心とした内容の研修を実施した。対象者は、「初級研修会を受講し、ジュニアリーダーとして活動を行っている中高校生」で、かつ、「こども対象の要請または定例会やサークル活動に参加した経験があり、活動拠点となる市民センターの館長の推薦を受けた者」とした。

○34名受講 8/1（金）～2（土） 会場：仙台市生涯学習支援センター

研修内容：今、ジュニアリーダーに必要なものとは？リーダーとして要請の場で必要な力、こどもを引き付けるコツとは？要請のプログラムを作成しよう、要請のプログラムを実践しよう 等

（3） ジュニアリーダー上級研修会

＜生涯学習支援センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会）

青少年のボランティア活動と地域の子ども会活動の一層の振興を図るために、仙台市ジュニアリーダー全体をまとめ、リードする立場にある高校生ジュニアリーダーの資質向上と技能の研鑽のための研修を行った。

対象者は、「中級研修会を修了し、引き続きジュニアリーダーとして活動している高校生または高校生の年齢に相当する者」、かつ、「活動実績・資質ともに上級リーダーとして適格であり、活動拠点となる市民センターの推薦を受けた者」とした。

本研修会は、ジュニアリーダー活動のスキルアップを中心とした内容で実施した。

○33名受講 7/26（土）～27（日） 会場：オーエンス泉岳自然ふれあい館

研修内容：上級ジュニアリーダーとしての役割と心構え、子ども会と野外活動について、助言と援助の在り方について、集団運営の在り方について 等

（4） ジュニアリーダー実践研修会

＜生涯学習支援センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会）

上級研修会を受講したジュニアリーダーが講師となり、ジュニアリーダーとしてのスキルを伝達する研修会を実施した。併せて、5区のジュニアリーダーが交流を深め、幅広い視野や責任感を持って地域で活動できるリーダーとしての資質向上・技術向上を図る場とした。対象者は、「仙台市ジュニアリーダー全登録者」である。

○51 名受講 11/29 (土) ～30 (日) 会場：オーエンス泉ヶ岳自然ふれあい館
 研修内容：コミュニケーション研修、自分らしい表現をできるようになる 等

【ジュニアリーダーサークル及び活動拠点館一覧】(令和 8 年 3 月現在)

区内連絡会	No	サークル名	登録数	活動拠点館名
青葉区 (95 名) 連絡会「星のすなどけい」 (青葉区中央市民センター)	1	MRVC くまっこ	26	広瀬市民センター
	2	かめ吉	9	福沢市民センター
	3	朝実巢あかよばく	10	北山市民センター
	4	Colors	10	旭ヶ丘市民センター
	5	SKY	14	中山市民センター
	6	みずの森一ダー' S	6	水の森市民センター
	7	Blue Leaf Spirits	20	青葉区中央市民センター
宮城野区 (72 名) 連絡会「Lovers」 (宮城野区中央市民センター)	1	高砂フレンズクラブ	8	高砂市民センター
	2	岩切ガンキリーズ	7	岩切市民センター
	3	鶴ヶ谷 Yourself	23	鶴ヶ谷市民センター
	4	幸町 Fortune	9	幸町市民センター
	5	With Us 宮城野	25	宮城野区中央市民センタ
若林区 (92 名) 連絡会「田んぼっ区」 (若林区中央市民センター)	1	郷郷七郷	10	七郷市民センター
	2	RUN	7	六郷市民センター
	3	ビ野沖ヲ	19	沖野市民センター
	4	JARO	25	若林区中央市民センター
	5	ワンマイル荒町	12	荒町市民センター
	6	若林にゃくりん	19	若林市民センター
太白区 (63 名) 連絡会「ANON」 (太白区中央市民センター)	1	なかだかな	2	中田市民センター
	2	おいでもん	6	生出市民センター
	3	ジュニアリーダーサークル Green Powers	0	秋保市民センター
	4	にしたがつつまん	19	西多賀市民センター
	5	ながまっくる	30	太白区中央市民センター
	6	moni-s	6	茂庭台市民センター
泉区 (105 名) 連絡会「ざわざわ森」 (泉区中央市民センター)	1	七北田 JL サークルありす	15	泉区中央市民センター
	2	黒松ファミリー	4	黒松市民センター
	3	南光台アドバルーン	2	南光台市民センター
	4	もみの木カリヨン	0	根白石市民センター
	5	向陽台ぱびふぺパレット	0	松陵市民センター
	6	将監くれよん	4	桂市民センター
	7	南中山巣子つぶ	12	南中山市民センター
	8	高森流星サークル	9	高森市民センター
	9	寺岡流星サークル	12	寺岡市民センター
	10	みちのく松陵	9	松陵市民センター
	11	加茂プレゼント	6	加茂市民センター
	12	パズル鶴が丘	3	松森市民センター
	13	根住 s	8	根白石市民センター
	14	AMYY	21	長命ヶ丘市民センター
市全体 (427 名/38 サークル) 仙台市連絡会『ずんだ』(生涯学習支援センター)				

5 地域社会教育推進

(1) 学びのコミュニティづくり推進事業

<生涯学習支援センター>

こどもの健やかな育ちを支援するつながりを地域に育てることを目的として、平成 13 年度に事業を開始。

区 分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
委託団体数（うち新規委託団体数）	1(0)	3(3)	7(3)	7(1)	6(2)

《令和 7 年度の委託団体》6 団体

団体名	区	学校区	ねらい・概要	年数
西中田小学校 学びのコミュニティ推進委員会	太白	西中田小	地域で行われる行事等において、参画を希望するこどもたちが企画立案した事業を地域住民とともに遂行することで異世代間の「顔の見える関係づくり」を進め、地域団体が CS の目指すこども像の実現のため協働して事業に取り組む。	3 年目
柳生小おやじの会	太白	柳生小	地域のこどもたちの健全な成長を、大人が積極的に関わっていくこと、地域のコミュニティを推進する役目を担うことをねらいとしている。	3 年目
TERAMURA まなこみ	泉	寺岡小	こどもの健やかな育ちを支援するための多様な人間関係を地域に育てる。学校、PTA、町内会等の団体が連携してこどもと大人の交流や自然体験、社会体験の機会を提供するコミュニティづくりを促進させる。	3 年目
南材小みどりの池プロジェクト	若林	南材木町小	南材コミュニティビオトープ『みどりの池』の管理運営を通し、生物、植物への学びを深めるとともに、地域の憩いの場として人々の交流、こどもたちの健やかな育ちを支援する。	2 年目
荒町の歴史を継ぐプロジェクト	若林	荒町小	地域内の団体が連携して、荒町の歴史をこどもたちや地域につなぎ「誇りを持って荒町の未来を担う」こどもたちを育成することをねらいとする。	1 年目
北仙台 KT エンジョイプロジェクト	青葉	北仙台小	こどもたちの健全育成の為に、地域のお父さん達を中心となって、地域住民を交えての参加型事業を運営する。	1 年目

(2) 学びのコミュニティづくり推進事業支援等（再掲）

「学びのコミュニティづくり推進事業」の委託団体及び、3 年間の委託期間終了後も自主的に事業を実施している団体に対して活動支援を行った。

○実施団体研修会

<生涯学習支援センター・各区中央市民センター>

委託期間が終了した後も自立した活動を行っている 29 団体を含めた、事業実施団体連絡会による研修会を開催し、団体相互の情報共有を図った。

※3 人材育成 (3) 地域コーディネーターリーダー研修 第 2 回地域コーディネーターリーダー

研修会としても位置付ける。

【委託終了後の事業に対する継続的支援等】

館名・事業名	概 要	実施回数	延参加者
宮城野区中央市民センター			
榴岡かいわい学びのコミュニティづくり推進事業	仙台駅東口かいわいの幼児、小学生を対象として遊びの広場を提供した。また、地域の住民や中学生、ボランティア等の参加も促し、異世代間交流を図る。 ・推進委員会（通年） ・12月13日 つつじがおかワイワイ冬まつり	6 1	240 278
若林区中央市民センター			
区内小学校合宿等支援	学びのコミュニティづくり推進事業から続く「通学合宿！連坊！」など区内小学校の合宿等の事業を支援する。 ・実行委員会（8月、9月、10月、11月） ・通学合宿（10月）	4 1	50 29
太白区中央市民センター			
ながまち学びネット	長町中学校区の児童・生徒や保護者、地域住民とともに、こどもたちの健全育成を目的とした参加体験型の活動を行うことを通して、地域のコミュニティ形成と連携した地域づくりを目指す。 令和7年5月27日（火）コアメンバー会議 令和7年11月15日（土）森の響き たき火編（地底の森ミュージアムにおける小学生親子の交流を目的としたイベント）	1 1	5 50
がんばれ秋保っ子	これまで「郷土かるた大会」を実施してきたが、活動団体の高齢化と、イベント参加者・支援者の減少から団体が解散し、事業は終了した。	0	0
おいで里ネット（No.19）	おいで里ネット推進委員会（おいでわいわいサミット）の意向で、小中学生の有志による企画員会議を開催し、企画案を実現させる形でイベントを実施した。イベント名を「おいでよ！夏のひんやりドキドキフェスタ」として、流しそうめんやお化け屋敷、さらわれた〇〇を探せなどを楽しむ企画を行った。 【市民企画会議「おいで里ネット委員会」全6回】 令和7年5月28日、6月25日、7月2日、7月12日、8月2日、9月3日	6	53
泉区中央市民センター			
ふれあい学びネットい・ず・み推進委員会（No.4）	七北田中学校区内の諸団体が連携し、青少年健全育成事業の展開を図るとともに、こどもの居場所づくり事業について協議、企画、実施している。 ・役員会、推進委員会（通年） ・あそびの天国2026（令和8年2月22日）	16 1	218 168

6 学習情報提供

(1) 市民センターホームページや SNS の運営

<生涯学習支援センター>

市民センターホームページにおいて、各市民センターの情報を集約・統合して発信している。令和 7 年度よりシステムを刷新し、スマートフォン・タブレット等でも閲覧しやすいものとした。

また、YouTube に「仙台市市民センターチャンネル」を開設し、講座や事業の様子を紹介する動画を公開している。令和 8 年 3 月末時点で 119 本の動画を公開。

さらに、Instagram に「仙台市生涯学習支援センター」を開設。SNS を活用する若い世代の講座や事業への参加に繋げるため、情報発信を継続している。

【令和 7 年度 市民センターホームページアクセス件数】

アクセス件数	1,136,697	一日あたりの閲覧数	3,114
--------	-----------	-----------	-------



【市民センターホームページ URL】

<https://www.sendai-shimincenter.jp/>

2 次元コード

(2) 市民センター事業ガイド

<各区中央市民センター・生涯学習支援センター>

講座等参加者の募集中、募集予定がある事業について、区ごとにまとめ、毎月 1 回発行して、市民への情報提供を行った。市民センターホームページでも公開している。

(3) 「学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス」支援等

<生涯学習支援センター>

大学等の高等教育機関の連携組織である「学都仙台コンソーシアム」（平成 18 年設立）のうち「サテライトキャンパス部会」で実施する公開講座や部会構成校が独自に実施する市民向け公開講座について、市民の受講が活発となるよう、広報及び情報提供等の支援を行っている。

7 各区中央市民センター事業

(1) 嘱託社会教育主事研究協議会区部会との共催事業

嘱託社会教育主事（社会教育主事資格を持ち学校に在籍している教員）研究協議会の各区部会と各区中央市民センターの共催による事業を通して、こどもたちの健全育成や地域コミュニティの活性化を図り、地域でこどもを育てる環境づくりを推進した。

館名	内容	実施回数	参加者
青葉区中央市民センター	6月18日 青葉区社会教育推進研修会 7月5日 ジュニアリーダー初級研修会 9月6日 親子対象事業「青葉チャレンジキッズ」 1月17日～2月14日 インリーダー研修会（11会場）	14	446
宮城野区中央市民センター	5月～2月 宮城野区社会教育推進連絡会・事業検討会（4回） 6月24日 宮城野区社会教育推進連絡会研修会 8月6日 宮城野区ジュニアリーダー初級研修会 10月18日 体験活動事業「蒲生干潟生き物観察会」 1月17日～2月14日 インリーダー研修会（8会場）	14	309
若林区中央市民センター	7月4日 若林区地域学校連携推進会議 10月26日 みんなでチャレンジ！若林デイキャンプ（雨天中止） 12月7日 ジュニアリーダー初級研修会 1月31日 2月14・15日 インリーダー研修会（6館）	8	231
太白区中央市民センター	6月27日 第1回地域連携ネットワーク会議 6月～1月 太白区内地域連携ネットワーク事業（各中学校区で事業実施） 7月5日 ジュニアリーダー初級研修会 12月6日 インリーダー研修会事前打合せ会 1月～2月 インリーダー研修会 1月28日 第2回地域連携ネットワーク会議	23	724
泉区中央市民センター	6月～2月 泉区の社会教育を考える会 7月2日 泉区地域と学校をつなぐ研修会 10月25日 泉区ジュニアリーダー初級研修会 5月～2月 インリーダー研修会 12月6日 第4回みんなでジャンプ！2	13	387

(2) インリーダー研修会

子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会活動についての知識やレクリエーションなどの実技を学習するための研修会を実施している。

【令和7年度実績】

区	開催状況
青葉区	11 回開催 209 名参加
宮城野区	8 回開催 138 名参加
若林区	6 回開催 143 名参加
太白区	10 回開催 345 名参加
泉区	5 回開催 105 名参加

(3) 生涯学習研究事業

◎事業例：泉区の社会教育を考える会

＜泉区中央市民センター＞（事業検討5回、延参加者：40名）

区内の社会教育について、嘱託社会教育主事研究協議会泉区部会と協働で、既存の事業の見直しや、新たな事業の企画を行った。また、それら事業を実施検証し、泉区の社会教育事業の新たな展開の可能性を探り、活性化につなげた。

(4) その他の主な事業

館名	事業名	内容	開催回数	参加者
青葉区 中央市民 センター	こどものための 日本語講座	日本語を母語としない小学生、中学生に日本語を学習する機会を提供し、充実した学校生活を送れるように支援している。	34	815
	せんだい日本語 講座	在仙の外国人等に、日常生活に必要な日本語習得の機会を提供するとともに、日本の伝統文化に触れ交流する場を設定することで、国際交流や多文化理解を促進している。	678	6,685
宮城野区 中央市民 センター	青空ミーティング事業	地域活性化や地域の新たな人材育成、さらに、市民センター事業の見える化を図ることを目的とした事業。宮城野区中央市民センターと宮城野区役所、JR 陸前原ノ町駅に囲まれた芝生広場を活用し、市民企画員と共に企画運営する「青空緑日」を年間3回、また、宮城野図書館と連携して行う「ぬいぐるみおとまり会」を7月に1回実施した。	14	633
	町の未来をえがこうプロジェクト	小学生が総合的な学習の時間の授業に考えたまちづくりのアイデアを市民センターや関係団体と協働し実現させる事業である。宮城野小、原町小で実施された。	5	468

若林区 中央市民 センター	まなびごっこ	若林区内で活動する生涯学習指導者ボランティアグループ「まなびごっこ」がこれまでに培った知識や技術を生かして、当センターと共催で誰でも参加しやすい内容の講座・教室（映画上映会、歴史講座など8種類）を開催した。なお、令和6年度で活動を終了した。	12	161
---------------------	--------	--	----	-----

8 仙台市公民館運営審議会

社会教育法第29条、仙台市市民センター条例第13条に基づき、市民センターにおける各種の事業の企画実施につき調査審議を行う、本市が設置するすべての市民センターに共通の公民館運営審議会として設置している。

現委員は14人で、任期は令和7年11月1日から令和9年10月31日までの2年間となっている。

【委員名簿】 [令和8年3月31日現在]

氏 名	職業または所属団体
○ 相 澤 雅 子	仙台市立南小泉中学校学校支援地域本部スーパーバイザー
伊 藤 美由紀	東北工業大学ライフデザイン学部 准教授
門 脇 佐 知	株式会社ユーメディア 執行役員 メディアクリエイション部部长
佐々木 聡一	仙台市立上野山小学校 校長
佐 藤 郷 美	東北福祉大学教育学部 准教授
佐 藤 司	公募委員
佐 藤 朋 子	仙台市社会学級研究会 会長
佐 藤 正 実	風の時編集部 代表
千 葉 修 平	仙台市議会議員
塚 田 昭 美	地域夢つなぐ実行委員会Wakka 代表
◎ 原 義 彦	東北学院大学地域総合学部 教授
牧 靖 子	マイスクール川平 コーディネーター
松 岡 幸 雄	仙台市連合町内会長会 庶務理事
三 谷 高 史	宮城教育大学大学院教育学研究科 准教授

◎：会長 ○：副会長 敬称略・50音順

【近年の審議内容(平成15年度～令和7年度)】

提出日	種別	テーマ(題名)	主な内容
平成 15 年 10 月 7 日	提言	市民センターにおける子どもの事業のあり方について	1 審議会における検討の過程 2 子どもの事業に取り組む課題と視点 3 ジュニアリーダーの育成と活動支援 4 学社連携・融合事業について 5 学校週 5 日制に対応した事業について
平成 17 年 9 月 12 日	提言	市民センターにおける市民参加と市民協働の推進について	1 市民参加と市民協働の課題 2 市民センター運営における市民参加について 3 市民企画委員によるプログラムづくりについて 4 市民参加を広げる事業活動をめざして
平成 19 年 10 月 30 日	答申	市民センターの施設理念と運営方針の見直しについて	1 見直しの背景 2 見直しにあたっての考え方 3 市民センターの施設理念と運営方針
平成 21 年 10 月 13 日	報告	審議の経過報告	1 今期審議会のテーマ設定と議論の経緯について 2 経過報告のまとめについて ＜これまでの審議内容(各委員の意見)の概要＞ 1 市民センターの区への移管について 2 連携事業の調査からみえてきたもの ＜市民センターが大切にしてきた社会教育の価値とは＞(梨本雄太郎委員) ＜区行政との「融合」をめぐって＞(石井山竜平委員)
平成 22 年 3 月 16 日	意見	「次期行財政改革計画(素案)」に対する意見書	区役所への移管については課題や懸念があることから、それらを解決・解消した上で判断するべきと考える。
平成 22 年 8 月 31 日	提案	市民センターを拠点とした新しいまちづくりの提案ー仙台プランー	＜市民センターを拠点とした新しいまちづくり＞ 1 意識を変える 2 人材発掘・育成とネットワーク化 3 市民の活動の場を生み出し支援する ＜新しいまちづくりに向けた市民センターの新たな一歩 /今後の取り組み[提案] / 仙台プラン対応事業案＞ 1 住民参画・問題解決型学習事業 2 子ども参画型社会創造事業 3 学社連携・既存の事業範囲枠を超えた公共施設の連携事業
平成 23 年 1 月 25 日	意見	「市民センターを生かした地域づくりの推進」に関する意見	1 検討の進め方について 2 組織見直しをめぐる課題について
平成 25 年 5 月 31 日	答申	仙台市市民センター事業の評価のあり方について	1 これまでの経緯 2 評価の現状と基本的な考え方 3 本審議会が実施する外部評価 4 本審議会以外が実施する外部評価 5 まとめ

提出日	種別	テーマ(題名)	主な内容
平成 25 年 10 月 26 日	報告	平成 24 年度仙台 市市民センター事 業評価報告書	1 評価の目的 2 評価の実施 3 評価の結果 4 まとめ
平成 25 年 10 月 26 日	意見	仙台市市民センタ ーの施設理念と運 営方針の見直しに 関する意見につい て	1 「仙台市市民センターの施設理念」について 2 「仙台市市民センター事業の運営方針」について 3 「仙台市市民センターの施設管理の運営方針」につ いて 4 東日本大震災を踏まえた内容の見直しについて 5 その他
平成 26 年 7 月 31 日	報告	平成 25 年度仙台 市市民センター事 業評価報告書	1 評価の目的 2 評価の実施 3 評価の結果 4 まとめ
平成 27 年 8 月 25 日	報告	平成 26 年度仙台 市市民センター事 業評価報告書	1 評価の目的 2 評価の実施 3 評価の結果 4 まとめ
平成 27 年 10 月 17 日	意見	震災を踏まえた今 後の市民センター 事業のあり方等につ いて	1 震災後の取り組みの成果と課題 2 今後の市民センター事業に関する委員の意見
平成 29 年 3 月 23 日	報告	仙台市市民センタ ー事業評価報告書	1 評価の目的 2 評価の実施 3 評価の結果
平成 29 年 10 月 23 日	意見	仙台市市民センタ ー事業評価に関す る意見について	1 事業評価について 2 事業運営懇話会等について
平成 30 年 11 月 8 日	報告	仙台市市民センタ ー事業評価報告	1 評価の目的 2 評価の実施 3 評価の結果

提出日	種別	テーマ(題名)	主な内容
令和元年 7月4日	答申	「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の見直し(第二次)のあり方について	<見直しのあり方に関する意見> 1 拠点館の役割の再検討及び記載の明確化について 2 「震災を踏まえた市民センターの役割と取組」の記載事項の内容・構成の再検討 3 「仙台市市民センターの施設管理の運営方針」の記載事項の内容・構成の再検討 4 全体、他の項目への意見等
令和2年 11月5日	意見	今後の市民センター事業に関する意見について	<新型コロナウイルス感染症との共生時代の市民センター事業に関する意見> 1 オンラインと対面(リアル)のバランスについて 2 子どもの育ち・交流・実体験の場となることについて 3 記録を残すことについて 4 グループ討議を踏まえた意見など
令和3年 10月28日	報告	仙台市市民センター事業(子ども参画型社会創造支援事業)調査研究報告書	- I 調査研究について - II 対象事業について - III 調査研究の進め方について - IV 事業評価について - V まとめ
令和5年 8月24日	答申	住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について	1 各事業のこれまでの成果と課題 2 各事業の現状に関する評価 3 今後の展開について
令和7年 10月1日	提言	仙台市市民センターの施設理念と運営方針の改定	1 仙台市市民センターの施設理念 2 仙台市市民センター事業の運営方針 3 仙台市市民センターの施設管理の運営方針 4 震災を踏まえた市民センターの役割と取組

【審議経過】

開催日	会議種別	協議議題
令和7年 5月22日(木)	定例会	協議：(1)本日の協議の進め方 (2)提言(最終案)の確認
7月10日(木)	定例会	協議：(1)本日の協議の進め方 (2)「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の第3次見直しのあり方について (3)「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」改定案の確認
8月28日(木)	定例会	協議：(1)本日の協議の進め方 (2)「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」改定最終案の確認 報告：(1)学びのまち・仙台 市民カレッジ事業 (2)障害者の生涯学習推進事業「ミンナシテマザール」
11月6日(木)	定例会	協議：(1)会議の公開、非公開について (2)議事録及び署名人について (3)公民館運営審議会定例会の進め方について 報告：(1)仙台市公民館運営審議会について (2)仙台市市民センターの概要について
令和8年 1月22日(木)	定例会	協議：(1)今期の審議テーマについて (2)今期の日程について 報告：令和7年度仙台市市民センター子ども・若者・大人事業成果報告会について
3月12日(木)	定例会	協議：(1)本日の協議の進め方 (2)生涯学習支援センター(市拠点館)事業について

Ⅲ 地区館事業

令和7年度 指定管理事業実績

青葉区中央市民センター

〔沿革〕

青葉区中央市民センターは、昭和 40 年 4 月、市立東二番丁小学校に「仙台市市民教養センター」として開設され、昭和 61 年、小学校の全面改築に伴い廃止され、昭和 63 年 1 月に「仙台市中央公民館一番町分館」として開館した。平成 13 年 4 月、隣接の「アスピア一番町（勤労青少年ホーム）」を統合し、現在の「青葉区中央市民センター」としてスタートした。

市の中心部で交通の便が良いため、若い世代から高齢者まで昼夜を問わず利用率が高い。また、仙台市の日本語講座が継続的に行われていることから来館する外国人も多く、国際交流の場としても一翼を担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	おとなの食育 日本酒に親しむ		
参加者	20 歳以上の成人	延参加者	35 人
開催日	全 3 回 令和 7 年 10 月 25 日（土）～令和 7 年 12 月 12 日（金）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	国籍に拘らず幅広い方々に呼び掛け、酒造りや美味しい飲み方などを学びながら市民センターを生涯学習の場として認知してもらうきっかけとなることを目的とする。講師は県内の酒造メーカーに依頼し地産地消に寄与する。		
概要・成果	20 歳以上を対象に、ユネスコ無形文化遺産の日本酒をテーマとして、10/25 は日本酒醸造元の杜氏が日本酒入門編を実施。11/22 は塩釜市にある酒蔵の見学や利き酒体験を行い、座学だけではなく、体験することで学びを深めた。12/12 には利き酒師の資格を持つ横丁の飲食店主を講師に招き、気軽に作れる酒肴のレシピ紹介と試食、日本酒の楽しみ方について講座を行った。参加者は地元宮城の酒に注目し、日本酒の知識と魅力を幅広く学び、地産地消と日本の酒文化を学ぶ機会となった。また、参加者同士の交流も見受けられ、和やかな学習の場を提供できた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
いきいき家族の笑顔で子育て！	子育て費用・親子での調理・子育て会話術「ペップトーク」の全 3 回で、子育て中の仲間と交流しながら、こどもを育てるために必要な知識や心構えを学べる講座を開催した。	5 月 30 日 8 月 6 日 11 月 14 日	3	27
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動の円滑な運営のため令和 8 年度子ども会リーダーとして活動する小学 5 年生や世話人を対象に、子ども会活動について学習する機会を提供した。	1 月 31 日	1	31
青葉区中央こども塾	れんが下水洞窟探検や建築物の構造についてのワークショップ、児童館と共催でのジュニアリーダー企画やコンサートを実施し、異なる学校、年齢のこども達が共に遊び、学ぶ場を提供した。	6 月 14 日 7 月 25 日 10 月 18 日 1 月 10 日	4	113
みんなで地域はかせになろう！	こども達からの人気が高い「奥州・仙台おもてなし集団 伊達武将隊」を講師に、記憶に刻まれる、教室では体験できない特別な座学・まち歩きを実施した。	6 月 5 日 10 月 21 日 10 月 24 日	3	81

《青葉区》

図書ボランティア連携講座	図書ボランティア「まったりお茶の間文庫」のメンバーと企画会を行い、読書活動を推進する講座を開催して、参加者同士が交流する機会を提供した。	4月15日～ 12月16日	5	57
あおばカレッジ	シニア世代に向けて、健康、自然科学、文化など多様なジャンルの学習を行い、新しい知識取得の場を提供した。またワークショップで受講生同士の交流機会を提供した。	6月20日～ 2月20日	8	238
★防災減災講座	現役医大生からなる団体「災強のすけっと」を講師に、防災リュック・応急処置の二本立ての講座を行った。外国人を含む多世代が協力し楽しみながら実践に取り組み、防災に対する敷居が下がる講座となった。	2月7日	1	22
世界と仙台 歩いチャオ！	在仙外国人を講師とし、その視点を通して仙台の町を見ることで新たな魅力に気づき、地元愛に繋がれた。外国人と交流をもつことで多文化共生への理解も深められた。	6月7日 6月21日 10月4日 10月11日	4	39
がんばる私のリフレッシュタイム～今日は介護をお休みします	介護にかかわる市民を対象に、軽体操や口腔ケア等日常生活に役立つ学習と組み合わせた交流会を開催。楽しく学びあう事の出来る場を提供した。	7月30日 8月27日 10月29日 11月28日	4	36
青葉区中央市民センターまつり 2025	市民センターを利用している団体や地域の学校の活動成果の発表の場として、展示・ステージ発表・体験コーナー等を実施した。各参加者・来場者同士の交流を促進できた。	9月27日 9月28日	2	978
一番町みんなのステージ	ケルト音楽と弦楽四重奏のコンサートはどちらも初出演開催。毎年恒例のジャグリングショー&体験会、ビックバンドジャズライブも開催し、市民センターの賑わいを創出した。	8月23日 11月1日 12月21日 2月21日	4	338
地域懇話会	地域の学校、諸団体、利用者などとの間に情報共有の場を設ける事で「顔が見える関係」を維持し今後の事業展開に役立てた。	6月10日 11月20日	2	20
市民企画会議 まちなか散歩「杜の都 仙台」を知ろう	仙台市中心部の城下町に焦点を当てた実技講座を企画した。まちなかの歴史や地域の生活の変遷について学び、企画員が地域の特性や課題について積極的に企画・運営を実施した。	5月22日～ 12月25日	8	84

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ボランティア団体への活動支援と地域団体の活動のためのコーディネート

青葉区中央市民センターでは、ロビーに設置している「まったりお茶の間文庫」の管理運営を行う図書ボランティアの活動を支援している。令和7年度はメンバーから蔵書の整理・点検作業に加え、市民センターまつりで本の交換イベントをしたいとの意見が出たため、メンバーと相談しながら、「誰かに読んでほしいおすすめの本」の提供を呼び掛けるチラシづくりなどを支援した。その結果、ボランティアの活動目的である市民が本に親しむ場づくり、図書ボランティア「まったりお茶の間文庫」の活動情報の発信を行うことができた。

また、地域のサンモール一番町商店街振興組合が主催する Co2 削減コンサートでの、出演団体のコーディネートを行った。地域に親しまれる温かな空間づくりとクリスマスのイメージを考え、事前に東北ハンドベルフェスティバルを視察し、宮城学院中学校高等学校ハンドベル部に出演を依頼した。幅広い世代が楽しめる選曲や楽器解説を盛り込んだプログラムとなるよう、関係者間の連絡調整を行い、当日は通行の安全に配慮した機材配置や動線の確保などの運営を補助したことで、買い物客や地域住民が澄んだ鐘の音に包まれながら癒しのひとときを楽しむ素晴らしいステージとなった。

柏木市民センター

〔沿革〕

柏木市民センターは、昭和 61 年 7 月に旧仙台高等学校(後に仙台女子高等学校)の校舎を改修し、中央公民館柏木分館として開館した。平成元年の政令指定都市移行とともに、「柏木公民館・市民センター」として独立、そして平成 2 年には名称を「柏木市民センター」とした。その後、施設の老朽化のため平成 7 年 4 月から一時休館して改修工事を行い、平成 10 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設した複合施設として新たに開館した。施設の特徴としては、収納式のステージをもつホール、会議室、和室等に加え、広いロビーがあり、地域住民の学習・スポーツ・交流の場として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●仙台伝統ものづくり塾実行委員会共催事業 「鳴子こけし絵付け体験」、 「仙台伝統のお正月を学ぶ」、「一閑張りで竹皿づくり体験」		
参加者	小学生とその保護者、成人	延参加者	53 人
開催日	全 5 回 令和 7 年 8 月 20 日（水）～令和 8 年 1 月 22 日（木）		
協力者・協力団体	仙台伝統ものづくり塾実行委員会（いきいき青葉区推進協議会）		
ねらい	市民が気軽に仙台の伝統的なものづくりを体験できる機会を創出し、その魅力を伝えることを目的とする。仙台伝統ものづくり塾実行委員会との共催で、広く仙台市内全域の伝統工芸や風習を扱うことが可能となる。		
概要・成果	平成 27 年度から伝統文化に触れる講座として継続実施している。令和 7 年度は鳴子こけし絵付け体験、一閑張りで竹皿づくり体験、仙台の正月飾りや料理等をテーマにした講座を開催した。参加者は普段学ぶ機会の少ない伝統文化について、職人と交流しながら伝統の技や地域の特色を学び、地域の歴史資源への愛着を深めた。 また、令和 7 年度は、令和 6 年度に続き市民企画員による企画会も開催し、正月飾りの輪通し作りを体験する講座を企画・実施した。企画員は事前に輪通し作りを学んだ上で、講座を運営するにあたっての留意点等の検討を行い、講座当日は講師補助や会場設営を担う運営メンバーとして、主体的に活動することができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	子ども会次期リーダーとなる児童と世話人を対象に開催し、児童にはゲームを中心に研修、世話人には、子ども会での役割の演習と運営方法、情報交換を行い、子ども会活動の充実と活性化を図った。	1 月 17 日	1	45
八幡まちあるき～親子で謎解きチャレンジ～	地域で古くから営む商店と大崎八幡宮を会場に、謎解き問題を解きながらのまち歩きを行い、参加者が地域の歴史や文化を楽しみながら学んだ。	8 月 2 日	1	15
我がまち再発見～語り継ぎたいまちの記憶～	市民企画員が地域住民の「思い出マップ」を作ることを目的に開催。市民センターまつりでは市民企画員作成の地図を展示し、企画員が来館者から思い出を聞き取るなど、住民の交流の場となった。	5 月 17 日～ 2 月 7 日	10	49
柏梁学院	講話、朗読体験、館外見学、コンサート、軽体操など幅広い内容での学習を行った。自主運営のクラブ活動や周年事業、懇親会を通して受講生相互の交流を深めた。	4 月 9 日～ 3 月 4 日	11	545

《青葉区》

かしわぎ健康寿命延伸部	高齢者が気軽に集い心身を動かす場として健康教室を開催。自宅でも継続してできる運動の紹介と実技指導、交流会を行った。	5月28日 6月11日 6月25日 7月9日	4	60
●地域防災講座	関連団体と連携して「地域防災訓練」などを企画・開催することにより、地域住民の災害に対する取り組み姿勢を強化し、防災意識の向上を図ることを目的とした講座。	6月17日～ 12月3日	10	640
●交流広場ギャラリーかしわ	地域住民を対象に、当館ロビーのギャラリー仕様の特色を活かした展示やワークショップ、コンサートを実施し、年齢を問わず気軽に集い、交流する場を提供した。	7月5日～ 12月6日	5	104
●地域の魅力発信講座	地域の歴史や自然、文化等について学ぶ講座を開催し、地域への理解や愛着を深めた。また、関係団体と連携・共催することで、より多くの市民に地域の魅力を発信する機会となった。	6月25日～ 2月28日	6	196
てらまちフェスタ2025～あそびでつながるまちづくり～	秋休み期間の児童の居場所づくりを目的として、区役所や小学校・児童館・保育園等が実行委員会に加わり、地域団体による遊びのコーナーや小学校合唱団の合奏などを実施した。	10月15日	1	432
第22回柏木ふれあいまつり	ステージ発表、展示、体験、出店などを実施し、市民センター利用サークルや町内会の他に近隣の学校や地域団体の活動発表の場となった。こどもから大人まで幅広い年代が楽しむことのできるイベントとなった。	10月5日	1	648
柏木地域懇話会	柏木市民センターの活動について、学校・連合町内会等の代表者から意見・要望等いただき今後に活かすとともに、地域の情報・課題の共有を図り連携を深めた。	6月20日 2月13日	2	12

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域団体会議の事務局運営と関係団体のコーディネート

市民センターでは地域の15団体が構成する「ご近所会議」の事務局と、会議参加団体が中心となって開催する地域イベント「てらまちフェスタ」の事務局を担っており、関係団体である通町小学校、通町児童館、通町地区町内会連合会、近隣保育園等との連絡調整や実行委員会運営を行っている。会議は、情報交換の場となり、それをきっかけに各団体同士が繋がりを持ち、連携して行事などを開催している。

「てらまちフェスタ」は、事前申込制を廃止し、自由参加で実施することができた。前年同様、22の地域団体が参加・協力し、それぞれに趣向を凝らしたブースでこども達が楽しむ様子が見受けられ、地域が一体となるイベントとすることができた。

北山市民センター

〔沿革〕

北山市民センターは、昭和 49 年 7 月に北山福祉会館として設置され（所管は仙台市社会福祉協議会）、平成元年の政令指定都市移行に伴い「北山市民センター・公民館」となり、平成 2 年には「北山市民センター」と名称を改めた。地域の生涯学習の拠点としての機能を果たしてきたが、施設の老朽化に伴う改築後、平成 23 年 1 月に再開した。

地域内には、青葉神社、大崎八幡宮、北山五山などの神社仏閣があり、歴史的・文化的資源や緑に恵まれている。また、東北福祉大学や東北大学国際交流会館の立地により、若者や外国人の居住者が多い。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	Kitayama で世界を知ろう！		
参加者	地域住民	延参加者	218 人
開催日	全 5 回 令和 7 年 7 月 27 日（日）～令和 7 年 12 月 14 日（日）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	北山市民センター周辺には東北大学や国際交流会館があることから外国人の姿が多く見受けられる。しかし、北山地域に暮らす外国人と日本人が交流する機会は少ない。そこで国際色豊かな地域の特性を活かし、互いの文化を理解するために外国人と日本人の交流の場を設けることで、多文化を尊重した相互理解のある地域づくりを目指していく。		
概要・成果	外国人と日本人を対象に国際交流講座を開催した。7 月に世界のお茶をテーマとした日本とバングラデシュの「抹茶とマサラチャイを味わおう！」、8 月に二日続けて在日インドネシア留学生協会宮城支部（PPI Sendai）と共催の「インドネシアのお祭りを見てみよう！」、12 月に二週連続で大沢市民センターと共催の「凧あげを体験しよう！」を実施し、インドネシア・スリランカ・ナイジェリア等の国の方々が参加された。講座中は講師も交えながら受講生同士が楽しそうにコミュニケーションを取って交流を深めており、積極的に互いの国や文化を知ろうとする姿が見られた。北山地域で暮らす外国人と日本人が講師や受講生として関わることで互いの国の文化や価値観を理解することにつながり、異文化に対する視野を広げるきっかけをつくることができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
わたしのまちの歴史探検	通町小学校 5 年生の地域学習の一環として、北山ガイドボランティアを講師に迎え、北山五山の現地学習をした。また、市民センターに職業体験で来ていた 6 年生が職員見習いとして参加した。	11 月 27 日	1	56
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に研修を行った。子ども会活動の充実と活性化を図るための知識を、講話やグループワーク、ゲームを通して学習した。	1 月 17 日	1	45
きたやまキッズクラブ	小学生を対象に、全 3 回の工作講座を行った。大型作品の共同制作を通して参加者同士の交流を図り、完成した作品は北山交流まつりで展示した。	7 月 12 日 8 月 2 日 8 月 23 日	3	98

《青葉区》

地域の魅力発信講座	地域資源である北山五山について地域で活躍するガイドボランティアを講師に学習した。また、仙台藩天文学者戸板保佑についての講話、観測器機の見学を行った。	6月21日～ 9月7日	5	127
北山市民医学講座	テーマとなる分野の専門医を講師として招き、様々な疾患や最新の医療、予防策について学習した。健やかで明るい地域づくりの一助となるよう、病院・町内会・市民センターが協力して講座を実施した。	5月28日～ 3月25日	6	235
北山さんぽみち-過去から未来へ	4月の一般参加者から新規企画員を迎え、北山周辺を流れていた川筋跡を中心に散策した。北山交流まつりでの学習成果の発表、成果報告会も参加した。	4月10日～ 3月12日	21	158
北山シルバースクール2025	高齢者同士の交流を促すため、軽体操、工芸館見学、気象についての学習、コンサートを実施した。また、土人形に絵付けをしたものは北山交流まつりに展示をした。	5月23日～ 2月27日	9	217
北山地域防災講座	地域住民を対象に想定される災害及び発災時の適切な避難行動、避難所の実態、在宅避難の基本等を学び、災害への備えについて理解を深める講座を実施した。	8月28日～ 2月14日	6	37
第18回 北山交流まつり	地域住民の交流の場となるよう、ステージ発表・展示発表・体験コーナーの3部門と出店を実施した。町内会やサークル、学校等が参加した。	10月18日 10月19日	2	637
地域懇話会	各団体の状況や課題を把握し、相互理解を深めることを目的とし、近隣町内会長や関係小中学校長等と令和7年度事業の概要及び令和8年度事業の方向性を共有した。	7月4日 2月6日	2	29

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「仙台おもちゃ病院エコ」の活動支援

おもちゃを修理するボランティアである仙台おもちゃ病院エコに対し、隔月開催している「おもちゃ病院」の運営や広報などの支援を行った。家族連れの来院者が多く、待ち時間に親子室を開放したり、市民センター職員が来院者への会場案内を行ったりすることで、おもちゃドクターが修理に集中できる環境づくりを行った。また、市民センターだよりやホームページにおいて活動日程の周知や活動の様子を報告することで、多くの方にご来場いただくことができた。

福沢市民センター

〔沿革〕

福沢市民センターは、昭和 59 年 6 月 9 日、コミュニティ防災センターを併設して開館。平成 20 年 6 月より大規模改修工事を行い平成 21 年 1 月 14 日に再開した。

当市民センターの地域内は、東照宮の門前町として栄えた宮町を含め、歴史を感じる雰囲気を感じ、今にとどめており、下町情緒に溢れている。現在では仙台市中心部から近いこともあり、マンションが建ち並び新旧住民が混在した地域である。ここ数年地域の総人口は増加に転じているが高齢化が著しく進む地域でもあり、災害等に備えた地域コミュニティの形成がより重要となりつつある。

当センターでは、地域コミュニティ形成のために様々な方法で取り組みを工夫し実施している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座 福沢こども遊ばせ隊		
参加者	地域内の小学生親子	延参加者	197 人
開催日	全 10 回 令和 7 年 5 月 17 日（土）～令和 8 年 2 月 7 日（土）		
協力者・協力団体	東北福祉大学ボランティアサークル「ふぁみりあ」、学生ボランティア「てらいく」、ジュニアリーダー「かめ吉」		
ねらい	こどもの健全育成のため、地域でこどもを見守る人材の発掘と育成を目的に、あそびと交流の場を提供する。また、これまでの繋がりを維持し交流を促進することで、持続可能なコミュニティ形成につなげる。		
概要・成果	複数年事業として、令和 5 年度から地域住民が企画員となり、地域の 4 つの小学校児童の親子を対象に講座を企画・実施している。企画員のメンバー拡充についても話し合いながら、地域全体でこども達を見守る体制づくりにつなげてきた。 令和 7 年度は、新たに 2 名の企画員が加わったことで地域情報を共有することができ、企画員が主体となって学生ボランティアと協力し講座の企画・運営を行った。夏休みに「ダンボールでお神輿づくり」、秋休みに「おばけのやかたのハロウィン探検」、冬休みに「巨大書道アート」を実施し、普段できない体験をすることや親子で触れ合う機会となるなど、参加者同士の交流も図られた。また、企画員が新たなボランティア団体と交渉するなど、自立して活動できるようになっており、企画員や学生ボランティア自身のスキルアップにもつながった。継続して行うことで企画員の活動が根付いてきており、地域の学校や団体との協力体制も築かれ、地域コミュニティが広がった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てわくわくサロン～子育てを楽しんじゃおう♪～	地域の 3 つの児童館と共催し、民生委員児童委員協議会との連携で、手作りおやつづくり、親子工作、コンサートを実施した。	12 月 19 日 1 月 16 日 2 月 6 日	3	78
エンジョイ！こどもひろば	地域の 3 つの児童館と共催し、各児童館の子どもに向けて、ジュニアリーダーと遊ぼうや、工作とゲーム、スポーツチャンバラを実施した。	7 月 31 日 8 月 21 日 10 月 15 日	3	134
インリーダー研修会	子ども会の児童、世話人を対象に活動計画づくりやレクリエーションゲーム、世話人の役割等について学び、ジュニアリーダーと一緒にゲームの実践研修を実施した。	1 月 24 日	1	15
つながる Café～街をまるごと楽しもう～	地域住民同士が交流することを目的に、仙台で活躍する講師から和菓子作りやこぎんざし、お茶について学び、近隣のまち巡りを実施した。	5 月 22 日～ 9 月 25 日	5	31

《青葉区》

福沢シニア大学	高齢者が健康で充実した生活を送れるような学習の機会を提供するため、コンサート、軽体操などの実技、自然や歴史に関する講話など、幅広い分野の講座を実施。	5月15日～ 2月19日	9	459
学んで活かそう防災講座	地域の実情に合う在宅避難等の講座、AED研修を実施、地域住民の防災意識の活性化に寄与した。	6月18日 9月12日 9月27日 12月3日	4	75
歴史講座～宮町界隈いま・むかし～	宮町界隈の歴史、文化を学び、まち歩きでは地域にある神社、仏閣等を巡った。また、小田原遊郭跡地や地域住民に親しまれている梅田川の歴史等を知る機会とした。	5月28日～ 10月29日	5	68
福沢音楽会	ハワイアンソング、南米音楽、ジャズ、サックスとピアノ、高校生、大学生によるコンサート等を実施。気楽に音楽に親しむ機会と生活に潤いを与える音楽会とした。	7月5日～ 2月14日	6	198
福沢市民センターまつり 2025	作品展示やステージ発表、出店、健康チェックなどの体験コーナー、バザーなどの催しを開催し、地域住民同士の交流を図った。	11月16日	1	980
福沢懇話会	市民センターの事業や施設管理に対する地域の理解促進と要望や意見を把握、館の運営に反映させた。	6月21日 11月29日	2	29

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

読み聞かせボランティア「ちっちゃなおはなし会」の活動支援

福沢市民センターの図書室では、読み聞かせボランティア「ちっちゃなおはなし会」が活動している。小学校の授業で宮町周辺に残る民話をお話してほしいとの依頼を受け、市民センターが学校と打ち合わせを行い「ちっちゃなおはなし会」による「民話を聞く会」を実施した。さらに活躍の場を広げるため、市民センターが新たに地域の保育園へ出向き「ちっちゃなおはなし会」を紹介し、出張読み聞かせの場をコーディネートした。保育園や小学校からも大変喜ばれ定期的な活動へつながった。

旭ヶ丘市民センター

〔沿革〕

旭ヶ丘市民センターは、地下鉄南北線建設事業の一環として昭和 60 年 6 月に開館した。地下鉄・バスの利便性が非常に良い立地にあり、また近隣は日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）、HOKUSHU 仙台市科学館、仙台文学館等の学術文化ゾーンとなっている。さらに西側には市民から親しまれている台原森林公園が広がり自然環境にも恵まれている。当市民センターは、旭ヶ丘ターミナルビルにある立地を生かし、多様なニーズに対応する生涯学習の場を提供するとともに、地域資源・人材を活用した事業展開を推進しながら、地域コミュニティ活性化支援の役割も担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「台原森林公園をまるごと楽しもう」		
参加者	成人	延参加者	44 人
開催日	全 6 回 令和 7 年 5 月 16 日（金）～令和 8 年 2 月 23 日（月）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	令和 4 年度から複数年講座として実施している。令和 5 年度までの講座を通して、台原森林公園の見どころをまとめ学習成果を還元したいという機運が高まったことから、令和 6 年度は台原森林公園の地図作成を行った。令和 7 年度は作成した地図をもとに散策会を行う。学習成果を発揮し、自己有用感を得ることで、さらなる学習・社会活動の後押しになるよう支援する。また、地域資源である台原森林公園の更なる活用の一助とする。		
概要・成果	地域資源である台原森林公園をさらに利用してもらうべく、令和 6 年度に作成した地図を活用した散策会（初夏と冬）、散策会に向けた下見、意見要望を伝える回を開催。企画員は散策会に向け、チラシや当日のスケジュール作成、リハーサル等を自主的に進めた。当日も司会や準備運動の指導、植物の説明等を主体的に進め、大変好評であった。また、台原森林公園の意見要望を伝える回では、令和 4 年度からの活動を通して感じたこと、地図には落とし込めなかった要望を青葉区公園課に伝えることができた。 散策会参加者等から直接地図の感想を聞き、加えて小学校の授業で地図が活用されていることを知れたことは、企画員の自信につながった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
あつまれ！旭ヶ丘キッズ	小学生（回によっては親子）を対象に開催。学校とは異なる環境で学習・体験することで、学びの視野拡大、直接体験の楽しさを感じる一助とすべく、紙飛行機作り、将棋体験、スポーツチャンバラ体験等を行った。	7 月 26 日～ 2 月 15 日	6	151
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会の充実と活性化を図るため、子ども会のリーダーとなる児童と世話人に対して活動に必要な知識や技能を習得する機会を提供した。	1 月 24 日	1	10

《青葉区》

市民センターで交流	孤独感や閉塞感を抱える住民のために、ヨガやラジオ体操等の運動や、ポプリ作り、コーヒーの淹れ方講座等を開催し、生涯学習を始めるきっかけをつくり、学びを通じた交流を図った。	6月7日～ 12月9日	6	67
旭ヶ丘老壮大学	地域のシニア世代を対象に、いきいきとした生活が送れるように、カルシウムセミナー、体操、歌、川柳、アナウンサー講話、館外学習、みやぎご当地検定、歴史、コンサートなど様々な学習機会を提供した。	5月9日～ 2月6日	9	524
ホテル調査隊	地域の方々を対象に、地域団体「旭ヶ丘ホテルとメダカの会」と東北学院中学校・高等学校科学部生物班が行っているホテルの保護活動を知ってもらうために、ホテルの生態と保護活動講話、カワニナのえさやりと放流体験、コンサートとホテル観賞会を行った。	5月17日 6月28日 9月13日	3	104
旭ヶ丘市民センター出前講座	坂道等の影響で来館が難しい地域の高齢者を対象に、各町内会集会所等に出向き、太極拳や健康マージャン等の講座を行った。	9月25日 11月13日 3月5日	3	43
旭ヶ丘みんなのコンサート	生涯学習へ興味を持ってもらうきっかけとして、来館してもらう事を目的に市民センターを利用している音楽サークル等に依頼し、ゲーム音楽やマリンバ、ギター等のコンサートを開催した。	8月23日 11月29日 2月7日	3	143
災害につよいまちづくり	非常変災時において旭ヶ丘地域防災管理マニュアルに基づいた避難所の開設及び運営がスムーズにできるよう、会議・避難所運営訓練・防災学習の場を提供し、地域防災に対する住民の意識形成につなげた。	4月25日～ 11月21日	6	254
旭ヶ丘市民センターまつり	市民センター利用団体や地域活動団体の学習成果発表の場を提供し、地域住民・参加者の交流と親睦を深め地域活性化に寄与した。	10月18日 10月19日	2	1,400
旭ヶ丘地域懇話会	地域の諸団体各代表者等と意見交換を行い、地域の課題や資源、人材等についての情報を収集・分析し、地域課題の解決や地域ニーズに即した各事業の運営につなげていく。	5月22日 11月6日	2	24

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

JL と地域団体とのコーディネート

・仙台旭ヶ丘ホテルとメダカの会は、毎年、旭丘小学校3年生の授業のゲストティーチャーを務めていて、台原森林公園でホテルについての講話を行っている。そこで、市民センターが「令和6年度台原森林公園をまるごと楽しもう」講座で作成した地図を、その授業で使用してもらうため小学生に配付したことで、台原森林公園についての理解を深める一助となった。

成果物を使った活動支援

・台原老人福祉センターからジュニアリーダー「Colors」に、まつり（台原交流祭）の支援要請があり、市民センターがつかないで、バルーンアート作成とジュニアリーダー活動のPRを行った。老人福祉センターからの要請は初めてだったが、こどもから高齢者までにジュニアリーダー活動をPRできた。そのジュニアリーダーの活躍を台原地区社会福祉協議会の方が見て、社会福祉協議会の「だれでもございんまつり」でもバルーンアート作成等をしてほしいと要請があり、地域での活動の幅が広がった。

三本松市民センター

〔沿革〕

三本松市民センターは、北仙台駅から程近く、閑静な住宅街である堤町の中に位置し、西側には野鳥や山野草に恵まれた三本松緑地公園が隣接している。堤町は、現在は登り窯の火は消えてしまったものの、古くから「堤焼き」と「堤人形」の町として知られた歴史のある地域である。

当市民センターは、昭和 62 年 4 月 1 日、泉ヶ岳を眺望できる高台に建設された。駐車場(35 台)、舞台付で約 50 畳の和室と広い体育館(バスケットボールコート 1 面、バレーボールコート 2 面、卓球台 9 台)があり、地域住民の生涯学習の場として広く利用されている。平成 27 年度に大規模修繕を実施し、平成 28 年 4 月に再開した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	落ち葉を活用して堆肥作りをしよう！		
参加者	地域住民	延参加者	68 人
開催日	全 4 回 令和 7 年 11 月 22 日（土）～令和 7 年 12 月 20 日（土）		
協力者・協力団体	三本松町内会、三本松緑地公園愛護協力会		
ねらい	当館周辺は豊かな緑地に囲まれており、地域住民は紅葉の時期を迎えると、毎年大量の落葉に悩まされている。そこで、三本松町内会や三本松緑地愛護協力会等の地域団体と連携して落ち葉を集めて堆肥作りをする事により、地域住民の課題を解決するとともに自然循環を意識し、SDGs の実践につなげていく。		
概要・成果	当講座は、令和 4 年度に市民企画講座として始まり、令和 5 年度からは複数年事業として、地域課題である大量の落ち葉を堆肥作りに活用し、課題解決に向けて地域住民・市民センターが一同となり取り組んでいる事業である。 4 年目となった令和 7 年度は、令和 4～5 年度に作った堆肥の配付を申し出のあった地域住民に譲渡した。また、参加した受講生のうち 14 人が「落ち葉を活用して堆肥作りボランティア」に登録するなど活動の輪が広がってきている。また、地域にある中学校へボランティアを依頼し、3 日間で延べ 11 人の参加があった。参加した中学生と地域住民が活動を通して交流を深める良い機会にもなった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	縮小傾向にある子ども会活動を活性化するため、子ども会の次期リーダーとなる児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションを学習する機会を提供した。	1 月 24 日	1	10
三本松寺子屋	小学生が体験学習を通して成長する機会を提供するため、緑地のいきもの観察や、全 3 回のヒップホップ講座、星空観察（クマ目撃情報があったため中止）を企画・開催した。	4 月 19 日 9 月 27 日 10 月 5 日 10 月 11 日	4	85
堤町彩発見	堤町の町の歴史・文化の魅力を再発見し、地域に愛着を持つきっかけとなるように、伝統工芸である「堤人形」の絵付け体験や地域をめぐるまちあるきを実施した。	10 月 29 日 10 月 30 日 11 月 13 日	3	32
防災講座	地域住民の防災意識を高めるため、町内会と共催の防災訓練と防災教材倉庫にある物品についての講話、「台原地区の防災を考える会」と共催で地域の小学校へ災害時のトイレについての講話・携帯型簡易トイレの体験を実施した。	6 月 14 日 9 月 8 日	2	113

《青葉区》

三本松老壮大学	高齢者が心身ともに健康で豊かな生活が送れるように、健康、生活、歴史の講話と、音楽プログラム、軽運動、臨床美術、モルック等の実技の他、落語やコンサートを開催した。	5月14日～ 3月11日	10	298
市民企画講座「三本松で自然と遊ぼう」	身近な三本松緑地の生き物を知り、観察することで興味を深め、親しみや関心を高めることができるように、緑地の生き物についての講話、鳥のえさ台作り、野鳥観察会を幅広い年代を対象に実施した。	9月13日 10月18日 11月15日	3	56
三本松市民センターがやってくる！	市民センターの周知・理解を図るために様々な学びを地域内の集会場や児童館等に出向いて提供した。内容は、足もみ健康体操とダーツ、児童館ではモルック体験を行った。	9月4日 9月20日 1月7日	3	108
「よむ」楽しみをみつ けよう！	「川柳を詠む」、「本を読む」ことを通じて日々の生活をより充実させることを目的とし、川柳の募集、川柳入門講座、地域の中学校へ出向いて図書委員へ本の紹介の仕方や、図書館の利用方法の講話を実施した。	6月6日 6月28日 12月10日 12月18日	4	158
三本松市民センター まつり	市民センターで活動しているサークルや個人・地域団体が、日頃の学習成果の発表や地域交流を目的として、実行委員会を立ち上げて市民センターまつりを行った。	10月12日	1	550
三本松から音楽の風 を！	地域住民をはじめとする多くの市民が気軽に集い、交流する場を提供し、音楽を通して癒しと活力を感じてもらえるように、馬頭琴と電子ピアノ、ジャズ、マリンバやグロッケン等のコンサートを行った。	6月1日 12月14日 2月25日	3	166
三本松地域懇話会	地域住民や団体、市民センター利用者に市民センターについての意見を収集し、より市民センターへの理解を深めてもらえるように情報交換の機会を設けた。	5月18日 11月29日	2	51
市民企画会議「カフェ タイム in 三本松」	地域の住民が企画員として、地域資源の三本松緑地公園の自然や生きものを知り、地域資源である緑地に興味を持ってもらうことを目的とした「三本松で自然と遊ぼう」の講座を企画、実施した。	5月29日～ 11月15日	7	29

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

図書ボランティア“ぽけっと”の活動支援

図書室の活性化や図書ボランティアサークル“ぽけっと”の活動支援のため、市民センターでは様々な働きかけを行った。

ボランティア定例会でメンバーから令和6年度に引き続き、玄関ロビーの七夕飾りや、三本松市民センターまつりでの「オリジナル絵本手作り・本のリサイクル」イベントを実施したいとの意見が出たため、令和7年度も実施することとなり、それに向けて支援を行った。メンバーは、準備から当日まで各々アイデアを持ち寄り、積極的に取り組んでいる姿がみられた。その結果、利用者との間に会話が生まれ、交流を深めることにつながっていた。その他、「修理研修」や「無償譲渡会」に参加することで自分たちのスキルアップを図り、図書室の蔵書拡充に力を入れる活動もできた。

今後も、ボランティアの更なる活動意欲の向上とメンバー増加、図書室の利用者拡大を目指して、支援していきたい。

片平市民センター

〔沿革〕

片平市民センターは平成元年、児童館とコミュニティ防災センターを併設して、東北大学農学研究所跡地に開館し、令和7年に児童館のみ片平丁小学校内へ移転した。市内中心部に位置し、交通が便利なことから町内会など地域の団体ばかりでなく、全市的な市民活動の場として盛んに利用されている。

また市民センターが立地する地区は、市街地にありながら広瀬川がつくりだす独特な地形と、仙台城や経ヶ峯の豊かな自然に囲まれたところである。さらには歴史的な資源に恵まれ、大学の研究機関などが隣接する。

こうした地域の資源を活かした生涯学習プログラムの提供や、市民の自主的な活動の支援、各種団体との共催事業の提供を通して、地域に貢献している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	日本の伝統文化を体験しよう！in 片平		
参加者	地域の外国籍住民	延参加者	15人
開催日	全3回 令和7年8月2日（土）、9月13日（土）、10月12日（日）		
協力者・協力団体	片平丁小学校社会学級		
ねらい	近年片平地域では外国籍住民の増加に伴い多文化共生が求められるようになっていく。そこで、様々な伝統文化関連の講座を展開している片平丁小学校社会学級と共催で外国籍の方を対象に講座を実施することで、気軽に楽しく日本文化を体験しながら交流するきっかけとする。		
概要・成果	地域に幅広い人脈を持つ片平丁小学校社会学級と共催することで、浴衣体験・お琴体験・茶道体験といった外国籍住民が気軽に参加できる多様な講座を展開することができた。また、英訳付きの広報や二次元コードを活用した申込に加え、地域住民による通訳を毎回配置することにより、参加のハードルを下げ、言葉の壁を越えた交流を実現した。さらに講座内では日本文化の体験にとどまらず、参加者が自国の文化や習慣を紹介し合うなど、双方向の心温まる交流へと繋がった。 計3回の講座を通じ、様々な国籍や年齢の外国籍住民の参加があり、近年地域で課題に挙げられている多文化共生の実現へのきっかけづくりの場とすることができた。		

〔令和7年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
片平児童館共催事業「ぴよぴよコンサート」	乳幼児親子を対象に、音楽を楽しみながら親子の触れ合いを深めるとともに、市民センターについて知ってもらうため、市民センター利用団体によるコンサートを行った。	8月30日	1	26
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、次年度子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、講話やレクリエーション、情報交換を行った。	1月31日	1	31
かたひらわくわくランド	小学生を対象に、学びの興味関心を広げ、社会性や協調性を育むことを目的として、レクリエーションやものづくり体験、天体学習を行った。	5月10日 2月7日 2月27日	3	82
広瀬川界限ぶらり散歩	ガイドボランティア「広瀬川をゆっくり歩く会」の案内で、広瀬川沿いの地域の史跡、自然を散策した。公開講座では、地域探訪の新たな魅力を学んだ。	4月12日 ～2月28日	7	148

《青葉区》

市民企画講座「地元自慢のさんぽみち」	片平地域の魅力発信のため、市民企画会「かたひら探検隊」の企画員が自ら講師となりまち歩きを開催した。	11月1日	1	6
片平シニア隣経大学	高齢者を対象に、学習と交流を通した生きがいくりと、社会参加の機会とするため、歴史や文学、運動など多様な分野を織り交ぜた講座を実施した。	5月9日～ 2月5日	9	488
地域の宝 みんなの片平公園	地域住民を対象に、地域資源である片平公園への関心と美化意識を高めるため、公園の資源を活用した花壇づくりや藍染などの講座を実施した。	5月17日～ 2月14日	5	38
楽しく学ぼう 地域防災	片平丁小学校5年生児童対象に洪水の防災学習、地域住民対象に普通救命講習、児童クラブ児童対象に防災ゲームを開催し、地域の防災力向上に繋がった。	9月10日 11月18日 12月26日	3	107
かたひら waiwai 広場	地域団体と連携し、展示、ステージ発表、児童館遊びのコーナー、バザー、グラウンドゴルフ、いも煮ふるまい等を実施したことで、地域住民の交流の場となった。	10月18日	1	900
片平のひびき～臥竜梅コンサート	地域の小中学生のブラスバンド、お琴、吹奏楽の演奏やすずめ踊りの演舞、市民センター利用団体による合唱、アカペラ、室内楽の演奏により地域を盛り上げた。	11月15日	1	250
片平市民センター懇話会	地域の町内会長、団体の代表、学校関係者を招き、地域の活性化に向けた市民センター事業に対するご意見、地域と学校の連携、地域の課題についての情報交換を行った。	7月11日 1月23日	2	21
折り紙ボランティアスキルアップ講座	折り紙ボランティアとしてのスキル向上を目指し、スキルアップ講座を実施した。また、児童と大人の方に折り紙指導を行うことで学びを還元した。	6月26日～ 12月4日	6	54
市民企画会「かたひら探検隊」	若年層の新たな人材発掘と地域活性化のため企画会を開催。既存のボランティア団体の協力も得ながら独自のまち歩きを企画運営した。	5月31日～ 11月1日	9	21

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「片平ひだまりの会」の活動支援

平成29年度に市民センター主催事業から自主グループとして立ち上がった「片平ひだまりの会」は、講座で学んだスキルを活かして長年ボランティア活動を行ったが、コロナ禍以降、活動機会と会員の減少という課題があった。そこで、令和7年度は、ボランティア活動の認知による新規会員獲得と活動機会を広げるため、片平市民センターだより「げんべえ」への掲載やチラシによる広報に取り組んだ。しかしながら、新規会員は若干増えたものの、活動機会の拡大には至らなかった。そこで、「片平ひだまりの会」と協議し、市民センターに来てくれる人を待つのではなく、地域のコミュニティ活動の場へ出向いての活動を目指すことにした。市民センターが活動紹介のチラシ作成や地域の諸団体の会議の場で「片平ひだまりの会」の活動紹介を行ったところ、早速、町内会からの依頼が入り、新たな活動につながるとともに、会員個々のモチベーション向上につながった。

水の森市民センター

〔沿革〕

水の森市民センターは、市民の憩いの場として広く親しまれている自然豊かな水の森公園の南側入口に立地している。管内は昭和30年代半ばから宅地開発が進んだ水の森、東勝山、桜ヶ丘、川平等の閑静な住宅地を擁する地域である。

当市民センターは、児童館・温水プール・コミュニティ防災センターを併設する複合施設として平成2年9月に開館。令和2年11月から大規模改修を行い、令和3年11月に再開した。斬新な外観の施設は地域のランドマークとして親しまれ、一年を通して多くの利用者が訪れる。2階の広いロビーは、地域住民の情報交換や憩いの場として高齢者から幼児まで常に賑わいをみせている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	学び・守り・未来につなぐみんなのたから「水の森公園」		
参加者	成人、小学生と保護者等	延参加者	96人
開催日	全10回 令和7年5月15日(木)～令和8年1月15日(木)		
協力者・協力団体	水の森公園に親しむ会、(公財)仙台市公園緑地協会		
ねらい	水の森市民センターに隣接する水の森公園は、豊かな自然環境に恵まれ、散策やウォーキング、自然観察など地域住民に親しまれている。地域の諸団体と連携し、自然と共に生きる知恵を学ぶとともに、水の森公園で感じられる豊かな自然環境の魅力を最大限発信し、引き継いでいくことを目指す。		
概要・成果	「水の森公園に親しむ会」と事業計画のための企画会を行い、「なぞときウォーキング」と「クリスマスリースづくり」の2つの事業を行った。なぞときウォーキングでは、水の森公園に親しむ会のメンバーが森の達人として参加者と一緒に森を歩き、なぞなぞを解いていくことで水の森公園の植物や公園について知ることができる内容とした。参加した子どもたちも大人も楽しみながら身近な自然について主体的に学ぶ機会となった。また、初夏からリースに使う素材を水の森公園で集め、セリバオウレン、フジのツル、どんぐり、松ぼっくりなど自然素材を使ってクリスマスリースづくりを楽しみつつ、植物について知る機会とした。体験を通して、自然、特に植物などについて知り、水の森公園の魅力を感じたり、興味関心を高めたりすることができ、地域への理解と愛着を深める一助となった。		

〔令和7年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
集まれファミリーズ	子育て中の保護者が託児付きの講座で食育や子育てにかかるお金について学んだ。また0歳からの乳幼児家族を対象としたあそびうたコンサートで楽しんだ。	7月2日 7月16日 2月26日	3	77
インリーダー研修会	子ども会の中心となる児童と世話人を対象に子ども会活動についての知識やレクリエーションについて学び、子ども会活動の活性化を図った。	1月31日	1	22
市民企画講座「みんなでボッチャを楽しもう」	小学生親子を対象に、チーム総当たり形式でボッチャの体験講座を実施した。市民企画員が講師となり、ジュニアリーダーが講座運営をサポートした。	11月22日	1	18

《青葉区》

市民企画講座「子どもの育ちを支えよう！」	市民企画員と企画会議を重ねながら、子どもたちの健やかな育ちの助けとなり、好奇心を持って参加できる講座を企画、運営した。	5月21日～ 2月14日	7	31
水の森シニア学園	地域の高齢者が、健康で生きがいのある生活を送れるよう、歴史講話やコンサート、ニュースポーツなどを行った。また受講生同士の交流も図った。	5月15日～ 2月19日	9	421
荒巻地区・桜ヶ丘地区 出前講座	桜丘小学校で、ボッチャ体験講座、荒巻コミュニティセンターで脳トレ、筋トレ講座、桜ヶ丘コミュニティセンターで歴史講話の出前講座をそれぞれの会場で実施した。	11月18日 12月17日 1月23日	3	122
みんなのつながりが チカラになる防災講 座	地域住民や中学生を対象に地形から読み解く自然災害（大雨災害等）への備えについての講話やまち歩きを行った。また地域防災団体が小学生に地域防災の出前授業を行った。	6月22日～ 12月5日	6	558
みんなの笑顔が集う 場所 水の森ロビー講座	幅広い世代の来館と交流を促し、地域に開かれた親しみやすい場づくりのために、市民センターのロビーを活用して展示やコンサート、体験会を行った。	9月3日～ 2月18日	5	217
水の森地域まつり	サークルや地域団体、学校・大学がステージ発表、作品展示、お茶席やチャリティバザー等を行い、練習成果の発表や活動紹介をした。地域コミュニティで世代間交流の場となった。	11月15日 11月16日	2	700
水の森懇話会	市民センターの事業・施設運営に理解を深めてもらい、その向上を目指すために、子育て支援関連団体や地域団体と地域の課題について情報交換を行った。	6月26日 7月3日 9月2日 2月20日	4	35

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

学校と地域団体とのコーディネート

桜丘小学校から3年生の福祉について学ぶ総合的な学習の時間において、ボッチャの講師を紹介して欲しいと依頼があり、当センターを中心に活動している「ボッチャ・水の森」を紹介した。小学校からの依頼も3年目を迎え、学校から好評をいただいている。世代間交流が生まれ、児童は80歳代のメンバーを含む講師たちが生き生きと楽しむ姿を目にすることで、ボッチャが年齢問わず誰でもできる競技であることを実感できたようだった。また、サークルのメンバーにとっても練習の成果を発揮し、児童へボッチャを教えることはやりがいにつながっている。

また、北仙台小学校から5年生での総合的な学習の時間において、防災の話をしてくれる講師を紹介して欲しいと依頼があった。そこで、以前に北仙台小学校の授業で講師をしたことがあり、更なる活動の場を求めている地域で活動する団体「北仙台女性防災ネット」を紹介し、防災についての出前授業を行った。地域に住み、防災活動に取り組むメンバー約20人が東日本大震災当時の地域の様子や体験談を伝え、児童たちは災害時の初動についてどうしたら良いのかを考えた。児童と顔の見える関係を築き、地域の防災力を高める一助となった。

貝ケ森市民センター

〔沿革〕

“貝”をモチーフにしたデザインが館内随所に配された貝ケ森市民センターは、貝ケ森地区に平成 5 年 4 月、児童館を併設して開館した。閑静な住宅街の中にあつて、その瀟洒な建物は、隣接する貝ケ森中央公園とともに地域のシンボルとして親しまれている。

風光明媚な貝ケ森地区は自然の風物に富み、さらに高等教育機関や文化施設などに恵まれており、国際交流の盛んな場所でもある。

当市民センターは、可動式の舞台を持つ多目的ホール、会議室、調理台付き小会議室、水屋付き和室等があり、地域住民の学習・スポーツの場として、また、憩いの場として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★防災リーダー養成講座		
参加者	小学生、中学生、高校生、成人	延参加者	534 人
開催日	全 5 回 令和 7 年 9 月 6 日（土）～令和 8 年 1 月 29 日（木）		
協力者・協力団体	貝ケ森児童館、貝ケ森市民センター補助避難所運営委員会、国見小学校、第一中学校、仙台高等学校		
ねらい	昨今、地震や集中豪雨等様々な災害が日本中で発生しており、いつ、どこで起きてもおかしくない状況である。また、感染症の流行と、地震や豪雨などの自然災害が重なる「複合災害」も懸念されている。そのような中、被災時の避難所運営に、地域住民が小中高生のマンパワーに期待するものは大変大きいものがある。災害時に、小中高生が自らリーダーとして活動できるよう、学びの機会を提供する。また、市民センター補助避難所を利用する五町内会の補助避難所運営委員と協力を図り、合同防災避難訓練を連携事業として実施する。		
概要・成果	第一中学校では、1 年生生徒対象にわしん倶楽部の防災士・減災アドバイザーに講師をお願いして、「ぼうさい駅伝」を行いながら防災知識を会得した。国見小学校では、5 年生児童対象に同じ講師をお願いして、「クロスロードゲーム」を中心に災害時の対応について学んだ。仙台高校では、防災委員対象に防災士を講師にお迎えし、防災ボトルの作成方法を教えて頂き、日常から準備すべきことや災害時の注意点について学んだ。大人の部では、補助避難所立ち上げの手順確認と、パーティーの組み立て訓練、発電機作動訓練等を行った。また、補助避難所運営訓練は、大規模修繕工事を経て 2 年ぶりに通常の形で行い、地域の防災力を更に高める必要性を学んだ。当該事業を進める過程で、小中高校や町内会及び消防や行政機関と連携を密にすることで、センターのコーディネート機能を発揮し、地域一体となり防災に取り組む環境を構築することができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ちびっこまつり	地域の乳幼児親子を対象に、子育てに関わる 10 の地域団体と連携して、コーナー遊びと童謡の演奏を通じて楽しく交流する機会を提供した。	9 月 26 日	1	53
ペタンクであそぼう！	地域の小学生を対象に、ペタンクの体験会を開催した。貝ケ森児童館と共催で実施し、小学生の運動できる環境づくりに取り組んだ。	6 月 28 日 7 月 12 日	2	9
中学生のハローワーク	総合学習の一環として中学校 1 年生を対象に 7 業種の社会人講師から興味のある講師 2 人を選んで、講話を聴き、講話の後質疑応答を行った。	11 月 13 日	1	200

《青葉区》

インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童及び世話人を対象に、子ども会活動についての知識やレクリエーションゲームなどを講話と実技で学んだ。	2月7日	1	32
地域の魅力発掘隊	地域の魅力や遺産を学ぶため、地域講師をお迎えし、壽徳寺と貝ヶ森・国見の歴史についての講話と、貝ヶ森・国見地域のまち歩きを行った。	10月3日 10月30日 11月6日	3	27
市民企画会議 中年期の現代的課題 を考える	中年期にあたる企画員が、同世代に向けて自分の生き方や後世に残す持続可能な社会について考えられるような講座を企画し開催した。	5月14日～ 11月18日	7	23
市民企画講座「無理なく楽しむ暮らしデザイン講座」	中年期に起こる様々な喪失の体験後にも前向きに自分の生き方や持続可能な社会を考えられるよう、中年期世代を対象に相続後の庭の管理に関する話や心が整う小物づくり等の講座を開催した。	8月23日 9月20日 9月27日	3	31
貝ヶ森シニア学園	シニア世代を対象に、コミュニケーション不足や運動不足などの問題解消を図るため、健康福祉・歴史・運動・もの作り・館外学習などの幅広い内容の講座を実施した。	5月28日～ 3月4日	10	251
貝ヶ森交流サロン	地域住民を対象に交流や高齢者の外出のきっかけづくりのため、まち歩き、コンサート、もの作りといった気軽に参加できる講座を貝ヶ森地区社会福祉協議会と共催した。	5月29日～ 2月10日	6	177
貝ヶ森市民センター リニューアルオープン イベント「尺八コン サート」	地域の方々にリニューアルオープンした貝ヶ森市民センターを見ていただき、今後も継続して利用していただくきっかけとして、第一部は「式典」、第二部は「尺八コンサート」を開催した。	4月19日	1	90
豆まき会	地域の幼児から高齢者まで幅広い世代を対象に、気軽に参加できる行事を開催した。太鼓と笛の演奏、獅子舞いの他、けん玉などのコーナー遊び、豆まきを行った。	1月24日	1	116
貝ヶ森地区文化祭	貝ヶ森地区連合町内会を中心とする実行委員会が共催し、住民の交流と学習成果を発表する場を提供した。地域の団体、サークルと連携し、展示発表・舞台発表・出店などを行った。	10月18日 10月19日	2	1085
地域懇話会	連合町内会や小学校から大学までの各学校、地域諸団体、児童館の支援団体を対象に、地域の意見を把握するために、市民センター事業の報告と情報交換を行い、地域課題を共有した。	9月11日 2月13日	2	29
かいがもりサークル 体験会 in2025	貝ヶ森市民センターを主な活動拠点としているサークル（貝ヶ森太極拳サークル、貝ヶ森朗読の会）の体験会を実施し、活動支援を行った。	5月14日 6月3日 7月10日 9月25日	4	13

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

国見地域包括支援センターと貝ヶ森地域住民とのコーディネート

これまで直接の関わりが少なかった国見地域包括支援センターより、貝ヶ森地域の方々に活動紹介や健康相談を行いたいと申し出があり、「貝ヶ森地区文化祭」にてコーナーを設け、地域の方々と直接のつながりを深める場を作った。直接的な「人と人とのつながり」を意識し、持続的な関係性を構築することができた。

中山市民センター

〔沿革〕

中山市民センターは、旧中山コミュニティセンターを増改築し、平成7年4月に児童館を併設して開館した。近隣には月急山公園、うどう沼公園があり、街路のケヤキや桜並木に囲まれ緑豊かな自然にあふれている。地域では、街道市や七夕祭り、とびの子祭り、学区民運動会、老人クラブ演芸大会、町内会夏祭り等地域団体が主催する行事が活発である。

当市民センターが受け持つ中山・川平地区は、戸建て・集合住宅のほか、近年は大型マンションが増え、新しい町並みを形成している。また、近くに「工房しらかば」、「せんだんの杜」、「せんだんの里」等の介護や福祉関係の施設があり、福祉に関する住民意識と学習意欲の高い地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画型社会創造支援事業N（なかやま）プロジェクト		
参加者	仙台青陵中等教育学校生徒、中山中学校生徒、小学生	延参加者	120人
開催日	全16回 令和7年5月17日（土）～令和8年3月15日（日）		
協力者・協力団体	青葉区中央市民センター 仙台市仙台青陵中等教育学校、中山中学校		
ねらい	中山市民センターの管轄内ではイベントや地域行事が多数開催されている。当日の運営ボランティアとして地域の中学生在が力を発揮しており、地域の若い担い手として成長を期待されている。しかしながら、企画から準備、運営までの一連のプロセスを経験する場が少なく、実践の場が必要となっている。 そこで、仙台青陵中等教育学校と中山中学校の生徒が地域のための講座の企画・運営する実践の場を提供することで、地域人材の育成を目的とする。		
概要・成果	令和7年度は5月から毎月1回程度の定例会を開催し、企画講座の対象やテーマ、タイトル、内容などの話し合いと準備を進めた。10月には企画講座「忍者にでもなる？ドキドキ忍者ライフ」を開催した。森の屋敷にタイムスリップした参加者のこどもたちが屋敷主からの忍者試練に挑戦していくというストーリーのもと、導入劇や自作の忍者衣装を着用し、こどもたちが楽しめる工夫を凝らした。2月には防災と運動を掛け合わせた「防災アクション運動会」を開催し、体を動かしながらも、防災を身近に感じられる講座を企画した。震災、火災、土砂災害など、様々なシチュエーションに対応する運動ゲームを考え、参加したこどもたちは楽しみながらも学べる機会となった。 令和6年度までは定例会ごとに出席しているメンバーが異なり、リレーのように内容を決めていく傾向があったが、新しく加入した中山中学校の1年生のメンバーが安定して参加しているため、統一感をもって内容を決められるようになり、講座への責任感も増した。また、学校の違う生徒が月に1回の定例会の中で積極的に意見交換ができるように、メンバー同士の交流会も開催し、参加しやすい雰囲気作りに努めた。高校生がリーダーシップを発揮しながらも、中学生メンバーが安心して積極的に発言できるようになり、それぞれのアイディアを実現に向けて思考することで、グループとしての一体感や実践力強化につながった。		

〔令和7年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
かわだいらお楽しみ広場	市民センターや中心部から距離的に遠い川平地区の乳幼児親子が気軽に参加し交流できる場として出前講座を開催した。手遊び、紙芝居、絵本などを楽しみ交流した。	2月14日	1	8

《青葉区》

インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる小学5年生と世話人を対象に、子ども会の活性化を目指し、子ども会の役割やゲーム、世話人の情報交換などの研修を実施した。	2月7日	1	32
小正月を祝おう	小学生を対象に小正月行事の伝承と世代間交流を目指し、地域団体の協力のもと、餅花飾り体験と羽子板づくり・遊びを実施した。	1月10日	1	14
中山わくわくスクール	小学生を対象に、異年齢の交流と学校以外での学びの場の提供を目的として、仙台青陵中等教育学校のロボット研究部によるプログラミング講座を実施した。	12月13日	1	21
せんだいアラカルト	成人対象講座として、生涯学習を始めるきっかけづくりを目指し、ナノテラスの見学会、格闘技エクササイズ、台湾料理づくり、絵手紙づくりを実施した。	7月17日 10月16日 10月20日 12月10日	4	51
中山銀鈴倶楽部	地域の高齢者に向けて、定期的な学習と交流機会の提供を目的に、「コンサート」「ボッチャ体験」「箸づくり」「動物園講話」「科学館見学」「片付けの講話」を行った。	5月9日～ 1月16日	14	244
落ち葉堆肥でエコタウン	地域住民を対象に環境問題やSDGsへの意識の向上を目的に、毎年大量に発生する街路樹の落ち葉を活用した堆肥作りを行った。	11月30日 12月21日	2	31
防災講座	小学生を対象に、仙台市家庭健康課と高齢企画課との共催で、防災・減災の知識を深めるために実施した。防災講話、リュックの体験及び防災に関するクイズなどを行った。	12月24日	1	30
中山市民センター・児童館まつり	地域住民を対象にサークルや学校などの学習成果の発表の場と、地域住民の交流を目的にステージや展示発表、児童館によるあそびの広場等を実施した。	9月27日 9月28日	2	761
懇話会	地域住民や地域団体、利用団体、学校関係者を対象に、地域課題やニーズを把握することを目的として懇話会を実施した。	7月8日 1月29日	2	32
「わがまち」ぶらり再発見	地域住民を対象に、地域の新たな魅力を発見するために、11月18日にまち歩き講座「東北電力(株)研究開発センターへ行ってみよう」を企画実施した。	5月20日～ 11月19日	7	28

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

仙台市立中山小学校への活動支援

中山小学校の放課後子ども教室である生き生き中山っ子教室より、6年生の卒業記念制作の支援をしてほしいとの依頼があった。卒業制作の内容を聞き取り、卒業記念のオリジナル缶バッチを作りたいとの要望だったため、缶バッチマシンの準備と制作当日の運営・補助を行った。生き生き中山っ子教室と中山市民センターで6年生の制作を支援することで、児童に地域との関わりや交流の機会を提供することができた。

また、中山小学校3年生の「まち探検」と1年生の「昔遊び」の授業では、地域人材の紹介と当日の運営補助を行った。地域の歴史や昔遊びの伝承を通して、世代間交流の一助となった。

折立市民センター

〔沿革〕

折立市民センターは、平成7年5月30日に市内50番目の市民センターとして、折立児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターは仙台市中心部から西方約5kmの地点に位置している。東側には青葉山丘陵、南側には里山蕃山があり、北側には広瀬川が流れ、西側にはその広瀬川によって形成された河岸段丘が開けており、遠くには奥羽山系を眺望できるという自然環境に恵まれた場所に立地している。

施設には可動式のステージが備わった多目的ホール、照明付の舞台を備えた49畳の和室、調理用機器を完備した会議室兼調理実習室等があり、地域住民の生涯学習・スポーツ・コミュニティづくりの場として、広く利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「おりたてZ世代プロジェクト」		
参加者	折立中学校生徒	延参加者	167人
開催日	全33回 令和7年5月22日（木）～令和8年3月13日（金）		
協力者・協力団体	折立中学校、折立昔あそびボランティアグループ「わらすこ」、折立ふれあいまつり実行委員会、ライトアート in 折立運営委員会、折立地区社会福祉協議会		
ねらい	折立中学校の生徒を対象に企画員を募り、新たな視点から地域を活性化させるためのアイデアを出してもらい、「折立ふれあいまつり」、「ライトアート in 折立」、「折立地域交流会」内でのコーナー運営や、市民センターでのこども向け講座の企画運営を行う。これらの活動を通して、企画員が地域活動に関心を持ち、地域に愛着を持つきっかけ作りの場とする。		
概要・成果	地域の中学生から大学生の、いわゆるZ世代の企画員を募集し、『若い力で折立地域を盛り上げていこう！』として立ち上げた事業。令和7年度は延べ14名のZ世代が参加し、自らが主体的に学年に関係なく様々なアイデアを出し合い、仲間と協力しながら活動を行った。8月に開催した地域のこども向け講座「昔ながらの夏祭り～水祭（みずさい）～」では、レクリエーションや地域ボランティアグループと協働でイベントコーナーを展開し、多世代の和やかな交流の場を生み出した。 その他、地域団体との共催事業である「折立ふれあいまつり」、「ライトアート in 折立」、「折立地域交流会」においては、ワークショップやレクリエーションの企画運営のほか、イベント全体のボランティアスタッフとしても大いに活躍した。 また、JLとして活躍している企画員もあり、その経験や人のつながりを活用して企画会議のほか、バルーンアートやレクリエーションゲームの研修なども行うことで、企画員全体のスキルの底上げにもなっている。 地域住民の間でも地域活動を活発化させる取り組みとして定着しており、学校からも生徒が学校以外で活躍できる第3の居場所として評価されている。		

〔令和7年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親とキッズの体験ひろば	e スポーツ・科学実験・食品サンプル作り・仙台みそについての学習など学校や家庭ではできない体験を親子で共有することで、親子間の交流を深めることができた。	8月3日 8月9日 8月30日 9月20日	4	49
わらすこさんと遊ぼう！	地域のこどもたちが昔遊びボランティアグループ「わらすこ」から昔遊びを教わり交流することで、地域の大人とこどもの顔の見える関係づくりができた。	4月23日～ 3月6日	9	158

《青葉区》

仙台市子ども会インリーダー研修会	次年度子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に子ども会活動についての研修を行った。子ども会についての知識や、レクリエーションゲームなどを学んだ。	2月14日	1	6
小学生の防災教室	小学生が自然災害の脅威やその対応について防災ゲームなどを通して学び、災害発生時の自分がとるべき行動を考えることができた。	10月7日	1	75
中学生の防災教室～僕たち私たちの力～	地域の高齢化が進む中、災害時における活躍が期待される中学生を対象に、実践的な防災訓練を地域の防災組織のメンバーと一緒に学び、顔の見える関係づくりを行うことができた。	5月21日	1	103
折立地区防災講座	地域住民を対象に、地震のVR体験や東日本大震災後の折立地域の復旧過程について学ぶ研修などを行い、防災意識を高める機会を提供した。	2月7日 3月11日	2	47
市民企画講座「おりたてZ世代プロジェクト」	市民企画会議にて企画した、小学生向けのイベントや、「折立ふれあいまつり」・「ライトアート in 折立」・「折立地域交流会」におけるこども向けコーナーを開催し、企画員とこどもたちが楽しみながら交流することができた。	6月27日～ 1月31日	6	490
折立老壮大学	歴史・経済・国際文化・介護予防の講座、コンサート、ワークショップや館外学習など、多種多様な内容の学習機会を提供し、受講生同士の交流を促した。	5月15日～ 2月19日	8	254
ライトアート in 折立	地域・学校・市民センターが連携しながら、折立公園を会場に光のイベントを企画運営した。ステージ発表やワークショップなど地域コミュニティの活性化・世代間交流を促した。	7月24日～ 12月13日	11	1,512
折立地域交流会	コンサートや正月飾り作りワークショップ、豆まき大会など、様々な年代の地域住民が気軽に参加し交流できる機会を提供し、顔の見える地域作りを行った。	6月20日 12月9日 12月10日 1月30日	4	443
折立ふれあいまつり	地域の小中学校や幼稚園、市民センター利用サークル等の発表の場と各団体・サークルの相互の交流の場となり、住民同士や各団体同士の結びつきを強める機会となった。	10月25日	1	1,200
折立市民センター懇話会	地域課題の解決に向け、地域住民や諸団体等が意見や課題を共有し相互理解を図ることができた。	6月10日 2月10日	2	32

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

折立折り紙ボランティアサークルの活動支援

令和3年度に市民センターの講座から立ち上がった「折立折り紙ボランティアサークル」の活動支援を行った。

市民センターではサークルが作成した折り紙作品を展示しており、七夕の時期には吹き流しなどの七夕飾りを展示している。来館したこども達が願い事を書いた短冊と一緒に飾るなど、人々の交流の場になるようコーディネートしたほか、使用する竹材を地域の太梅寺から提供していただくなど、地域の協力も得ながらサークルの活動を支援した。

また、折立小学校から総合学習の授業「折立わくわくタイム」で折り紙を教えてくれる講師を紹介して欲しいと依頼があり、市民センターが折り紙ボランティアサークルの紹介し、4～6年生児童へ折り紙を教える機会を提供した。折り紙の体験学習を通して、児童が自主的・主体的に学ぶきっかけづくりの場となり、サークルとしての今後の講師としての活動の広がりが期待できる。

木町通市民センター

〔沿革〕

木町通市民センターは、木町通小学校の改築に伴い、平成16年4月に小学校、児童館、コミュニティ防災センターとの複合施設として開館した。当施設は建物の5・6階に位置し、全館バリアフリーに対応している。また、環境に配慮した屋上緑化を施しており、その一部は児童館の遊び場としても活用されている。

木町通地区は仙台市の中心部に位置し、官公庁や学校、病院、商業施設、マンションが建ち並ぶ一方で、従来の一戸建て住宅は減少傾向にある。特に地下鉄南北線「北四番丁駅」に近いなど、交通利便性の高さから、近年は中・大型マンションの連続した新設が相次いでおり、市平均を大幅に上回る人口および世帯数の増加が見られる。

当センターは、このような地域環境の変化を踏まえ、複合施設としての利点を最大限に生かしながら、地域社会と緊密に連携した学びの場を提供することを目指している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●きまち仙臺物がたり		
参加者	地域住民	延参加者	184人
開催日	全8回 令和7年5月31日(土)～令和7年9月5日(金)		
協力者・協力団体	木町通地域包括支援センター、ぴぽっと支倉、早稲田イーライフ青葉、支倉保育所 木町地区社会福祉協議会、木町地区民生委員児童委員協議会、仙台市都市整備局交通政策課		
ねらい	年齢や国籍の違い、障害の有無に関わらず、共に集まり協力しあう関係となる地域づくりを目指すとともに、地域の歴史や郷土食などを新しい住民に紹介し、自分たちが住む地域への愛着を育む一助とする。		
概要・成果	地域課題の解決とコミュニティ強化を目指し、多様な主体が参画する実践的な講座を開催した。戦後の地域写真等をもとにした、歴史共有による新旧住民の融和、多世代協働での七夕飾り制作、外国籍住民との郷土食作り（しそ巻きとおくずかけ）を通じた国際交流など、多様な交流を促進した。さらに行政と連携した公共交通見学では、バリアフリー対応の実情や運行の苦労を体感し、共助の意識を高めた。本事業は、初めて顔を合わせる住民同士に一体感を醸成する契機となった。各活動での新鮮な驚きや学びが地域への関心を引き起こし、住民が主体的に地域社会に関わるための契機として極めて高い成果を収めた。		

〔令和7年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
わくわくキッズ	こどもたちが学校や家庭ではできない体験をすることを目的として、「ハワイアンリボンレイのスマホホルダー作り」、「縄文時代のアクセサリ作り」、「スポーツ鬼ごっこ」等の体験講座を行った。	7月19日～ 2月28日	6	102
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動のリーダーとして活躍できる児童および世話人の養成のため、今後の活動に活かせる知識やレクリエーションを学ぶ機会を提供した。また、他校の子ども会との合同開催により交流の場としても良い機会となった。	1月31日	1	31
わたしの“好きな”北三公園	北三番丁公園を舞台にフォトコンテストや星空観望会、樹名板作りを開催。これらを通してこどもたちが地域資源に親しむ機会を創出するとともに、連携団体との交流により有意義な多世代間交流を実現した。	6月28日～ 3月11日	7	831

《青葉区》

木町通のサークル体験会	春秋に多様な団体が集うサークル体験会を開催し、参加者の学びや団体間の交流を促進。事後の見学や入会者が増えたことで、サークルの新たな担い手確保と活性化を達成した。	5月17日10月4日	2	81
木町通学区の防災講座	危機意識の継続を目的に地域団体と連携し、救急救命や災害対処法の講座を実施。防災・減災に関する事業を通じて、住民の災害に備える意識の向上と救命技術の習得を図った。	8月28日12月13日	2	35
木町通老壮大学	高齢者が心身ともに健康で充実した生活を送れるような様々な学習の機会を提供し、受講者が楽しく交流しながら仲間づくりをする場とした。	5月14日～2月18日	10	488
子ども参画型社会創造支援事業「木まちなんけん隊」	企画員が同年代のこども達に地域の良さを知ってもらおうと「木まちすごろく」を制作し、木町通小学校の全児童に配付し各家庭で遊んでもらった。また、児童館でも遊んでもらった。すごろくを通して企画員のこども達の成果や地域の思いを共有し、地域の魅力を発信した。	4月26日～2月7日	11	37
やってみるっちゃ～ Let's enjoy culture time～	外国人住民との相互理解を目的に、郷土料理作りやスポーツ大会の講座を実施。共同作業を通して言語を超えた連帯感が生まれ、互いの文化や人柄を知る貴重な交流の場となった。	8月9日11月8日2月14日	3	51
木町通市民センターまつり	サークルや地域団体、小中学校が協働し、ステージ発表や作品展示を通して日頃の成果を発信した。各活動への理解促進を図るとともに、地域住民の多様な交流を生み出し、コミュニティの活性化を達成した。	10月17日10月18日	2	500
木町通市民センター運営懇話会	より良い市民センター運営のために、当市民センターの施設運営や事業内容等に関する意見や感想を地域各団体の代表者から伺い、地域の現状や課題を把握する場とした。	5月29日2月26日	2	39
木町通小学校社会学級連携講座「チーム・KIMACHI」	新旧住民の交流を目的に、高砂神社の宮司による社会学級向けの講話会を開催。震災復興の縁や歴史背景、和歌を交えた講話を通して、相手を思う大切さを学ぶとともに、新たな地域交流と学びへの関心を促した。	8月26日	1	12

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「こよなく北三番丁公園を愛する会」と木町通小学校とのコーディネート 地域課題の解決に向け多角的な活動を行う「こよなく北三番丁公園を愛する会」に対し、広報や学校との連絡調整、ロビーでの活動周知など包括的な伴走支援を展開した。特に、木町通小学校との連携を深める協働事業において大きな成果を収めた。デジタルを活用した「フォトコンテスト」では、児童のクロムブック活用を促進したことで、応募数が例年の3倍に急増。審査会では、町内会や小中学校長を巻き込んだ多世代間交流を創出した。また、7年目を迎えた「樹名板作りと取り付け作業」では、高齢化による人手不足と「樹名板を作ったこどもが設置に関われない」という積年の課題を抱えていた。そこで、従来の土曜開催から学校カリキュラムへの組み込みを目指し、小学校側へ活動の意義を伝え、粘り強く調整を重ねた。その結果、総合的な学習の時間の確保に至った。当日は、「おやじの会」や学校支援地域本部のボランティア、保護者の協力のもと、3年生の児童全員が自らデザインした樹名板を自らの手で設置する仕組みへの刷新を達成した。学校側の協力意識も高く、次年度以降の持続可能なカリキュラム化を実現している。本支援は、高齢化する団体の負担軽減とこどもの地域愛醸成を同時に達成し、学校と地域が持続的につながる強固な連携体制を構築するといった成果を上げた。
--

広瀬市民センター

〔沿革〕

広瀬市民センターは、広瀬川の中流域に位置し、周辺にはサイカチ沼や月山池、蕃山などの豊かな自然と、子愛観音をはじめとする数多くの旧跡が残る。また、近年は住宅の造成や商業地域の開発が進み、人口が著しく増加している地域で、平成 31 年 4 月には、錦ヶ丘中学校が開校した。

当市民センターの歴史は古く、昭和 24 年大沢・広瀬両村に村立公民館が建設されたことに始まる。昭和 62 年仙台市との合併により仙台市宮城公民館となり、条例改正により仙台市宮城市民センターと改称、平成 3 年 6 月に名称を広瀬市民センターと改めて現在の場所に移転した。

施設は広瀬文化センター・広瀬図書館との複合施設で、地域住民の交流と生涯学習活動の拠点として広く親しまれ利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ひろせサロンコンサート		
参加者	成人	延参加者	511 人
開催日	全 6 回 令和 7 年 6 月 26 日(木)～令和 8 年 2 月 26 日(木)		
協力者・協力団体	広瀬文化センター		
ねらい	広瀬文化センターが休館する中で、地域で活動する多くの音楽家や団体の方々に演奏の機会を提供するとともに、住民が楽しみながら交流する機会を作ることで、地域コミュニティ活動の維持、活性化につなげる。		
概要・成果	令和 7～9 年度の広瀬文化センター・市民センターの大規模修繕工事による休館期間中のイベント休止をふまえて、団体の交流や発表の機会を維持するためにサロンコンサートを開催した。第 1～4 回はプロの演奏家によるコンサート（仙台フィルのヴァイオリン・クラリネット奏者とピアニストの演奏、篠笛演奏、ギター弾き語り、ヴァイオリン・ピアノ演奏）を行った。各回とも多彩な楽曲が演奏され、身近な場所で質の高い音楽を楽しめる機会となり参加者から好評を博した。第 5～6 回は地域サークルの発表会（合唱、ギター、ハワイアンダンス、カラオケ、紙芝居、レクダンス）を行い、地域住民の方が多く観覧する楽しいイベントとなった。また、サークルに発表の場を提供することで活動継続の支援につながった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ひろせ子育てひろば	愛子児童館と共催し、乳幼児親子を対象にアロマヨガやリトミックあそび講座を開催し、親子や参加者同士が交流する場を提供した。	7 月 31 日 8 月 21 日	2	35
仙台市子ども会インリーダー研修会	管内子ども会の世話人と 5 年生を対象に、子ども会活動の役割についての講話や、ジュニアリーダーと交流しながらレクリエーション研修を学び実践的なゲームを発表する場を提供した。	2 月 14 日	1	16
広瀬子ども体験講座	管内の児童を対象に、様々な分野のワークショップを行い、学びへの興味関心の幅を広げる機会を提供した。また、人との関わりや交流を深める機会となった。	7 月 13 日 11 月 15 日 12 月 7 日 12 月 21 日	4	961
地域こども活動実践講座	地域の中高生を対象にバルーン研修、KYT 危険予知トレーニング、クリスマスワークショップ運営ボランティア体験を実施し、地域貢献活動への意欲を高める機会となった。	8 月 2 日 10 月 18 日 12 月 21 日	3	26

《青葉区》

ひろせのまち～手づくりサロン～	身近な植物を活用したリースづくりやアロマづくり、鍋敷きづくりなどの体験学習を通して、参加者同士が気軽に交流する機会を提供した。	8月8日 9月4日 10月2日 12月5日	4	57
広瀬シニア塾	60歳以上を対象に、2グループに分け5回ずつ開催した。軽体操、ヴァイオリン・チェロコンサート、薬剤師による健康講話、介護に関する講話、仙台文学館学芸員による文学講話など、高齢者の生活を豊かにする多くの分野における学びを提供することができた。	5月8日～ 3月5日	10	373
ひろせ地域防災講座～みんなで減災・防災～	この地域で起こりうる災害の説明や危険性について学び、災害時の理解を深めた。段ボールベッド組み立てなどの実技体験は小学生にもわかりやすく、減災・防災の意識を高める機会となった。	7月26日	1	34
ひろせ懇話会	町内会、教育機関、地域団体の代表者、サークル等が地域課題や情報を共有し意見交換を行う場となった。各団体との協力体制を確認し事業運営に活かすヒントとなり、休館期間中の当市民センターの事業内容やサークル支援について周知できた。	6月25日 1月29日	2	38
広瀬市民センターまつり	地域のサークル11団体に作品展示や活動紹介を発表する場を提供できた。また地域住民がサークル活動を知ることによって興味、関心が広がり、地域活性化に繋がった。	11月1日 11月2日	2	500
市民企画講座「なかまと楽しむほっこりサロンPart3」	近隣の町内会と連携し住民同士が気軽に交流できるサロン(ギター弾き語りコンサートやフラワーアレンジメント教室など)を開催した。この催しを通して地域住民の心を豊かにすることができた。	6月18日 7月15日 7月26日 12月14日	4	141
市民企画会議「なかまと楽しもう！このまちで」	町内会の役員の方々を企画員として地域住民の楽しい交流に繋がるサロンを企画した。企画の内容としては、地域で生き生きと暮らし心身の健康を保つ一助となるようなイベントを検討した。	4月11日～ 10月2日	8	13

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「くまっこ」の活動支援

ジュニアリーダー「くまっこ」は、歴史あるサークルで現在26人が登録している。市民センターは、ジュニアリーダーの自主性や考えを尊重しながら活動をサポートしている。ジュニアリーダー自身が企画運営する講座「ジュニアリーダー『くまっこ』と遊ぼう！【くまっこまつり】」は毎年地域の方々が楽しみにしているイベントであり、令和7年度も〈おばけやしき〉や〈もぐらたたき〉がおこなわれ、約370名の大勢の親子が参加し好評を得た。このような催しは、ジュニアリーダー各自の意欲向上の一助となっている。また、バルーンアートなどの技術研修やゲームレクリエーション研修を実施し、ジュニアリーダーのスキルアップにつなげた。その他の行事として、自主企画「クリスマス会」「三年生を送る会」などを通して、メンバー同士の交流を図ることができた。また、年間約60件のボランティア要請についても円滑に活動できるよう支援をおこなっている。

宮城西市民センター

〔沿革〕

宮城西市民センターは、昭和 51 年 4 月に宮城町西部地区公民館として開館した。その後、昭和 62 年 11 月 1 日宮城町が仙台市と合併して仙台市宮城西公民館となり、平成 2 年 4 月 1 日から仙台市宮城西市民センターと改称した。その後、施設の老朽化に伴い平成 22 年 8 月から一時休館して改築工事を行い、平成 24 年 7 月に新たに開館した。

当市民センターは、宮城地区西部の自然環境に恵まれた緑豊かな山間地に位置している。近年過疎化が進み、少子・高齢化の現状にあるが、地域の活性化を図るため町内会・老人クラブ等の各種団体と連携を密にして社会情勢の変化に伴う学習要望に応え、地域住民と共に歩む生涯学習を推進している。また、地域住民の自主活動の場、交流の場として広く利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●大倉ダムの魅力発信事業 ～鯉のぼり×大倉ダム～		
参加者	地域住民	延参加者	2,147 人
開催日	全 12 回 令和 7 年 4 月 5 日～令和 8 年 2 月 15 日		
協力者・協力団体	大倉ダムの魅力発信実行委員会、大倉ふるさとセンター、大倉ダム管理事務所、水道記念館、大倉地域連合町内会、作並地域連合町内会、上愛子学区連合町内会、上愛子小学校、広陵中学校、大倉ダム管理事務所、大倉ふるさとセンター、宮城総合支所まちづくり推進課		
ねらい	国内唯一のダブルアーチ式ダムであり、土木遺産として認定された大倉ダムの地域資源としての魅力を周辺の景観の素晴らしさとともに広く発信し、少子高齢化によって人口減少の続く本地域への交流人口の拡大を目指す。		
概要・成果	地域の小中学生が描いた鯉のぼりと地域から寄せられた鯉のぼりを大倉ダムに吊るし、大倉ダムとその周辺の景観の魅力を広く発信した。 令和 7 年度は、小中学生のこども企画員による工作コーナー、白鯉のぼりへのメッセージ、シャボン玉体験コーナー、おふくろの味の販売など、こどもたちが楽しめるようなコーナーを設置した。こどもを中心に来場者が笑顔で楽しみ、滞在時間が増えた印象がある。県外ナンバーの車も多く見られ、交流人口の拡大に貢献することができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
くまっちワンダーランド	工作や野外活動、調理や伝統文化行事などの様々な体験活動を行い、地域のこども・家族間、近隣の保育所・幼稚園の交流を深めることができた。	5 月 10 日 7 月 30 日 10 月 28 日 1 月 11 日	4	94
インリーダー研修会	子ども会リーダーの児童と世話人を対象に、子ども会活動の知識や技術の研修会を実施した。ジュニアリーダーの役割についての講話や実技等を学んだ。	2 月 14 日	1	16
中学生のハローワーク	中学生を対象に社会人から職業講話をしてもらい、進路選択や生き方について参考となる機会を提供した。	8 月 22 日	1	28
ゆうゆうの森プロジェクト	上愛子小学校児童を対象に、植生観察や自然体験イベントなどを行い、こどもたちが自然と楽しく触れ合う機会を提供した。各地域団体との連携・協力を得て、整備活動や事業運営を行った。	6 月 11 日～ 11 月 18 日	6	139

《青葉区》

みんなで愉しむ自然体験	気軽に参加できる自然散策や室内でも楽しめるネイチャークラフトなどを行い、地域の魅力や自然と親しむ機会を提供することができた。	6月21日 12月21日	2	24
暮らしいきいき！なでしこクラブ	主に地域女性を対象として、料理や作りもの、スポーツ体験など様々な体験学習を行い、生涯学習と交流の場を提供した。	6月18日～ 3月14日	10	124
出前講座	各町内会の集会所等へ市民センターが出向き、全9回の出前講座を実施し、高齢化や交通手段の減少等により市民センターに来館できない方々に学びの機会を提供した。	7月2日～ 2月19日	9	127
宮城西「土木遺産をめぐる旅」	宮城西部地区にある大倉ダムと仙山線鉄道施設群の2つの土木遺産と、熊ヶ根にある史跡を学ぶことによって、土木遺産の価値を広めると共に、宮城西部地区の歴史を学んだ。	7月26日 10月18日 11月29日	3	53
宮城西のしらべ～春待ちコンサート～	冬場、家に閉じこもりがちな地域住民に、音楽の楽しさを味わってもらうため、地域在住の音楽家を招聘してコンサートを行った。	3月8日	1	91
老壮学級	交通安全、健康づくり、ものづくり、歴史講話、マジックショー、交流会等の講話や実技など、心豊かに暮らすために様々な学習内容を提供し、生きがいつくりの一助とした。楽しみながら共に学び交流を深めた。	6月19日～ 1月15日	7	247
自主防災活動を推進するための「防災・減災学び塾」	宮城西部地区住民の日頃からの防災意識を高めると共に、中学生の地域貢献意識向上を図ることを目的に、座学と地域合同防災訓練を実施した。	7月11日 8月30日 10月25日	4	157
宮城西市民まつり	宮城西部地区住民を対象に、コミュニティづくりや地域の活性化を目的として、演芸発表、作品展示、こどもコーナーなど、住民が自らの運営で市民まつりを実施した。	11月23日	1	1,670
宮城西地域懇話会	令和7年度の事業内容を報告し、令和8年度の事業内容を説明した。また、各町内会、学校・保育所と情報交換を行った。より良いセンター運営のためのご意見をいただいた。	12月14日 1月29日	2	34
宮城西つながりキッチン	地域住民を対象に、大沢広陵地域包括支援センターと共催して、カレーライスを楽しみながら多世代が集まる機会を提供した。地域の介護タクシー事業所と連携し、送迎対応も行った。	12月6日	1	104
●市民企画会議 宮城西まち活ネット	地域在住のこども企画員と市民企画員による合同市民企画会議を開催し、地域イベントのコーナーを担当した。市民協働で地域課題について企画検討し事業に反映するなど、地域のサポート活動をした。	4月12日～ 3月21日	13	67

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

学区内小中学校との連携と活動支援

地域の高齢者と上愛子小学校4年生との、「おじいちゃん・おばあちゃんとの交流会」を実施した。参加する高齢者を市民センターが老人会を通して募り、当日は、高齢者と児童とが笑顔で交流する場面が多く見られた。さらに、上愛子小学校に隣接するゆうゆうの森の伐採作業をしてくれるボランティア団体を小学校に紹介し、ゆうゆうの森の整備作業を支援した。

また、広陵中学校2年生の社会科授業支援では、地域の良さに目を向けた生徒目線によるスライドショーづくりを支援した。地域にある店舗や施設の取材協力を学校と一緒に行った。青葉区中央市民センターの協力を得ながら授業での支援を進め、中学校と地域を結びつける橋渡し役を担うことができた。

このほか、上愛子学区社会福祉協議会の研修会では、講師選定、チラシ作成等の活動支援を行った。当日は、50名以上の地域の方々が集まり、研修を深めることができた。

大沢市民センター

〔沿革〕

大沢市民センターは、平成2年5月、青葉区の西北部、田園地帯や緑多い丘陵地帯など豊かな自然環境の中に、児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成30年度には大規模修繕を実施し、平成31年4月に再開した。

古い史跡が点在する歴史ある地域としても知られ、古くからの村落と成熟化が進行する団地、開発が進む新興団地が混在する中、若い世帯の増加が著しく更に発展が見込まれる。こうした地域状況を背景に市民センターとしての機能を活かし、地域住民の活動・交流の拠点として、社会変化に伴う市民のニーズに対応する生涯学習事業を展開している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	大沢・川前地域交流ネット あがれ！天旗		
参加者	こどもから大人まで	延参加者	150人
開催日	全5回 令和7年9月13日（土）～令和8年1月18日（日）		
協力者・協力団体	大沢児童館、川前児童館、大沢・川前するめ天旗愛好会		
ねらい	仙台伝統の凧「するめ天旗」の作製と凧あげを通して、伝統文化を継承し、大沢地域と川前地域の地域間交流や、異世代間交流を図るとともに、地域住民で構成される「大沢・川前するめ天旗愛好会」が講座運営に携わることで、地域活動を担う人材の育成を図り、もって地域の活性化を目指す。		
概要・成果	複数年事業である本事業は、市民企画講座から始まり、講座から立ち上がった「大沢・川前するめ天旗愛好会」との連携・協働で進めており、大沢・川前両地域の住民が交流して地域全体が活性化する貴重な機会になっている。また、若い子育て世代の参加など、地域活動を支える人材の発掘や育成の機会ともなっていて、新たなつながりが生まれている。さらに、本事業は児童館と連携し、大沢地域の自然資源・人材資源の豊かさを活用して、学校や家庭では学べない内容を体験する機会を提供し、こどもの居場所づくりや健全育成、子育て支援にも寄与している。 令和7年度は、北山市民センターの講座「Kitayama で世界を知ろう！」とコラボレーションした「凧あげを体験しよう！」で、外国出身の方と異文化交流し、多文化共生について考える機会ともなった。令和8年度も、初めての人や凧作り講座に来られない人も凧を作れて凧あげに参加できるように、凧の作製キットの販売と作り方の動画配信を続け、学びと交流の輪を広げていく。		

〔令和7年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子どもお楽しみ体験講座	こども達に様々な学びと体験の場を提供した。デイキャンプ、スリランカのおやつ作り、グラウンドゴルフ体験、宮城県産米粉といちごを使った調理実習を実施した。	8月30日 9月20日 11月12日 2月15日	4	89
インリーダー研修会	大沢小の児童を対象に、インリーダーの役割やレクリエーションゲームの進行方法を学んだ。世話人の部ではイベントを企画して見えた課題の意見交換を行った。	2月7日	1	5
大沢農学校	専門家の指導の下、講義と実技で土づくり、野菜栽培、農薬の特性、道具の使い方など幅広いテーマを学習した。作業を通して受講生同士の交流を図った。	4月18日～ 3月6日	17	182

《青葉区》

大沢・川前学びのサロン	誰もが気軽に参加し、集い交流できるボッチャ体験や読み聞かせ会を開催し、市民センター利用の裾野を広げ、生涯学習への取組を促すきっかけを作った。	2月22日 3月4日	2	34
大沢朗々学園	高齢者を対象に、様々なテーマで学習を実施した。地域の垣根を越えて参加者同士が交流した。地域ニーズをふまえ、運営委員が企画した運動講座も実施した。	5月15日～ 3月5日	9	382
大沢市民まつり	大沢地域で活動している団体の成果発表の場として、また、来場者同士の交流の場として、実行委員会で協議し、展示やステージ、出店などを開催し、地域活性化を図った。	10月18日 10月19日	1	710
スポーツで地域交流「大沢・川前グラウンドゴルフ交流会」	大沢・川前両地域住民を対象に大沢小学校校庭でグラウンドゴルフ大会を実施した。日頃交流の少ない大沢と川前の両地域住民の親睦を図った。	9月7日	1	42
大沢地域出前講座	広域である大沢地域において、市民センターへの来館が難しい地域住民に対し、集会所等で講座を実施し、生涯学習に取り組む契機とした。	4月22日 ～2月10日	7	130
大沢地域防災講座	災害時に迅速に行動できるよう、防災・減災の知識を確認し、自助・共助の意識を醸成するため、大沢地区防災訓練、避難訓練コンサート、地域防災講演会を実施した。	6月14日 11月23日 2月8日	3	123
大沢・川前地域合同発表会	地域内の中学校、小学校、幼稚園、保育園と連携し、こどもたちの学習成果物の発表および地域ボランティアの工作コーナーにて地域住民の交流を図った。	1月31日 2月1日	2	202
大沢地域懇話会	ニーズに即した事業を展開するために、町内会等の地域団体や、児童教育福祉機関と、情報や意見を交換した。	5月22日 3月13日	2	19
市民企画講座「健康な食ってな～に？」	市民企画会議を経て、食の安全についての講話や「塩こうじづくり」「地域の野菜を食べる」「みそづくり」を地域の食材や人材を活用して実施し学びを深めた。	12月13日 1月10日 2月22日	3	39
大沢市民企画会議	地域住民から企画員を公募し、「食と健康」をテーマにして地域課題やニーズを考え、地域の特色を活かした事業を展開するために会議を実施した。	6月12日～ 2月22日	11	22

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「大沢・川前するめ天旗愛好会」活動支援

大沢・川前するめ天旗愛好会メンバーと、講座開催に向けての話し合いや準備作業を行い、するめ天旗事業の継続・承継を支援した。新たに若い（子育て）世代1名が愛好会へ加入した。

小学校への活動支援

大沢小学校の総合学習の授業に、昔あそびの講師として地域の方々を紹介し、活動の支援も行った。学校との連携が深まった。また、世代間交流の一助ともなった。

宮城大学学生のフィールドワーク支援

取材を受けてくれる地域の人々の紹介や助言をしたり、みやぎ台で開催したイベントの参加者の募集や、その成果の「大沢市民まつり」での発表（展示）に協力したりした。

落合市民センター

〔沿革〕

平成6年に開館した落合市民センターは、広瀬川、齊勝川、蕃山などの自然環境と、仙山線（陸前落合駅）、国道48号線仙台西バイパス、作並街道という交通環境に恵まれた地域にある。また、宮城県立こども病院をはじめとする医療機関、栗生小学校、宮城県宮城広瀬高等学校などの教育機関、宮城消防署などの公共施設があり、国道沿いには大規模な商業施設も多い。地区外からの転居により人口も増加した比較的若い世代が居住している地域である。一方薄れつつあるが、西館跡をはじめとした遺跡や神社など地域の歴史や風習など伝統も残っている地域である。

こうした地域環境の中で、当市民センターは開館以来、施設利用および生涯学習講座等を通じて、地域コミュニケーション活性化、まちづくり推進の拠点として広く地域住民の方々から愛され、利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	おらがまちのいいところ発見！		
参加者	地域住民	延参加者	165人
開催日	全13回 令和7年4月11日（金）～令和8年3月13日（金）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	落合市民センター北側に植えられている桜をまとめた桜マップの作成を行い、地域に自然の魅力が多くあることを発信していく。同時にこれらの活動をする中で、地域づくりに意欲ある人材の育成を目指す。		
概要・成果	令和5年度から始めた落合市民センター北側にある12種15本の桜について、専門家のアドバイスのもと全ての種類を特定させた。また、桜の花全種類のハーバリウムを作成し、まつりで展示したことで、地域住民にも発信することができた。桜を紹介するリーフレットの制作においては、企画段階から東北工業大学の学生が参加し、受講生と主体的に意見を交わしながらお互いの意見を尊重し合う良好な関係が生まれ、デザイン・内容ともに納得のいくものができ、大きな達成感を得た。 リーフレットが完成した3月には樹木医を講師に迎えた公開講座を開催。多くの地域住民が参加し、落合市民センターの桜に加え、地域の桜についての講話を通して地域の魅力を発信する機会となった。		

〔令和7年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子でつながる びよびよフェスタ	近隣児童館や保育所等5団体と連携した夏フェスや運動会、市民センター単独開催のファーストアート制作やコンサート等を実施。毎回充実した内容で参加者同士や家族間の交流が図られていた。	6月21日～ 12月6日	5	125
OK!わくわくキッズアカデミー	仙台高専と共催した電子回路工作、宮城広瀬高校との連携によるバドミントン講座、親子対象のeスポーツ、ジュニアリーダーと交流する講座を実施。学校では体験できない特別な学びの場を提供した。	8月5日 10月25日 1月24日 3月8日	4	62
インリーダー研修会	子ども会活動の充実をはかるため、児童と世話人を対象に研修会を実施。子ども会用のプログラムの企画や、各子ども会活動の状況についての情報交換などを行った。	2月7日	1	16

《青葉区》

来たれ！男のまなび舎	歴史、レコード鑑賞、ウィスキー工場見学、茶道、宮城マスター検定、モルックと、幅広い分野の講座を実施。男性の仲間づくりと、地域活動への参画意識向上につながる機会を提供した。	7月5日～ 1月10日	6	81
めざせ健康！元気あっぷチャレンジ	腸活をテーマとした座学、軽運動やレクリエーション、太極拳の講座を実施。各回ともに日常生活に取り入れやすい内容で、受講生同士の交流も多く見られた。	6月10日 10月7日 11月11日 1月20日	4	112
季節を感じるものづくり	七夕飾り、つまみ細工、クリスマスリース作り等を通して、受講生の交流の場を提供した。落合・栗生地区まつりにおいては、受講生が制作した作品の展示を行った。	7月9日 9月10日 11月19日 1月7日	4	38
落合栗生実年学級	歴史講話やコンサート、調理実習、落語、介護予防や火災予防の講座、館外学習など、多種多様な内容の学習機会を提供し、受講生同士の交流を促した。	5月15日～ 2月19日	12	472
地域防災講座	宮城消防署との共催による小学3年生親子対象の講座と、地域の町内会との共催による自主防災訓練を実施。自助・共助などの防災意識がより高まる講座となった。	7月24日 9月23日	2	170
落合・栗生地区まつり	地域の学校や保育所等のこどもたちによる展示やステージ発表、および市民センター利用サークル等の日頃の成果を発表する場となり、住民同士や各団体同士の結びつきを強める機会となった。	10月19日	1	1,057
地域懇話会	町内会長や地域諸団体の代表が集まり、市民センター事業に関することや地域課題について協議した。参加者同士が意見や課題を共有し相互理解を図ることができた。	5月29日 2月18日	2	32

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

図書ボランティア「栞の会」への活動支援

落合市民センター図書室を拠点に活動する図書ボランティア「栞の会」は、図書の貸出業務のほか、図書室の環境整備や購入図書の選定、「落合・栗生地区まつり」における古本市の開催など10名の会員が活発に活動している。市民センターでは活動支援として、月に一度定例会を開催し、情報交換や図書室運営上の課題等を共有している。令和7年度は定例会で提案された要望を受け、広瀬図書館の職員を講師に招いての研修会を開催した。研修会では選書や除籍についての講話や、ブックコートフィルムかけの実技を学び、図書ボランティアのスキル向上と活動の活性化につなげることができた。

吉成市民センター

〔沿革〕

吉成市民センターは、仙台市北西部の吉成と南吉成の小学校区中間位置に、市内 51 番目の市民センターとして平成 8 年 4 月に、児童館及びコミュニティ防災センターを併設しオープンした。当該地区は住宅地と商店街が共存し、市内北部と西部を結ぶ交通の要衝となっている。

当市民センターは、吉成小学校区と南吉成小学校区の 2 連合町内会を対象地域としている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	もっと知ろうわたしのまち		
参加者	成人	延参加者	28 人
開催日	全 3 回 令和 7 年 6 月 28 日（土）～令和 7 年 10 月 25 日（土）		
協力者・協力団体	権現森自然研究会・宮城地区郷土史研究会・白沢カルデラプロジェクト・くよみ郷土研究会・社会福祉法人大石ヶ原会		
ねらい	自分が住むまちについて多角的に学び、住民自らが「住み続けられるまちづくり」のために地域を考え・動く足がかりとすることを目的とする。		
概要・成果	複数年事業として地域の自然や歴史に着目し、権現森自然研究会を講師とした地域の自然への関わりや、楽しみ方について語っていただく講座と、「巨石の森大石ヶ原を語る」と題して講師を招いたほか、宮城地区郷土研究会や白沢カルデラプロジェクト、くよみ郷土研究会、地域住民からの様々な情報提供とともに交流する講座をそれぞれ開催した。講師からの話題提供だけではなく、参加者がそれぞれの視点での話題を提供しあい、共有することで、改めて地域の歴史やなりたちについて考える機会となった。また、この講座をきっかけに、受講生みずからが実際に地域の歴史を歩いたり、地域の方からお話を聞いたりして確かめたいという意欲を喚起することができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
うちの子写真館	子育て中の保護者がこどもと一緒に連続で開催する講座に参加し、楽しい時間を共有することで、保護者同士が交流を深めたり仲間づくりをしたりするきっかけとなった。	6 月 18 日 7 月 16 日 7 月 30 日	3	47
吉成チャイルドスクール	学校では体験できない様々な体験学習（絵手紙、キンボール、ダンス、プログラミングなどの講座）を提供し、地域のこどもたちの成長を後押しした。	7 月 31 日～ 12 月 6 日	4	57
市民企画会議	中学生自身が自分たちの世代のニーズをとらえ、そのニーズを反映した講座を実現するための企画会議を開催し、調理の講座を企画・運営した。	8 月 6 日～ 9 月 6 日	4	15
市民企画会議を経て企画する講座 「Let's ジュニアクッキング」	中学生がひとりで簡単に作ることができるような調理の講座を開催した。食事づくりの楽しさと、達成感を味わうことで家庭内での実践につなげることができた。	9 月 6 日	1	6
インリーダー研修会	子ども会の次期リーダーとなる児童および世話人を対象に、行事企画や知識など充実した子ども会活動となるための手法を学ぶ機会を提供した。	1 月 31 日	1	17

《青葉区》

サークル活動へのいざない	既存のサークルが高齢化で会員が増えない現状をふまえ、新たに体験型のテーブルマジック講座を実施し、サークル立ち上げのきっかけをつくり、潜在的な生涯学習へのニーズに応えた。	6月3日～ 10月28日	6	39
吉成出前講座	距離的に来館が難しい地域や、高齢化で自ら交流や学習の機会を作ることが難しくなった地域団体に寄り添いながらさまざまなコンサートを企画・運営し、地域住民の生涯学習の機会を確保した。	6月13日～ 2月17日	4	217
きらめきスクール	学習意欲の高い吉成地域の高齢者を対象に、様々な分野の学習機会を提供し、健康で充実した生活を送る一助になるとともに、交流を後押しした。	5月9日～ 1月9日	8	494
吉成減災対策講座	減災に対する意識を高めるために、吉成地域女性防火クラブと協力し、災害時の自助・共助について意識を高める講座「クロスロード」を小学5年生と一般に向け、それぞれ開催した。	9月26日～ 1月23日	3	156
吉成・南吉成地域子育て支援ネットワーク	子育て支援関係機関の協力体制を深めながら、地域の子育て支援環境の充実を図るために情報交換をし、研修会を開催した。	4月24日～ 2月6日	6	108
吉成市民センターまつり	日頃の活動の成果を発表する場として、サークルおよび諸団体の代表による実行委員会により計画、実施した。地域の中高校生ボランティアも交えて世代間交流が生まれ、地域活性化の一助となった。	10月17日 10月18日	2	788
ニューススポーツ交流会	年齢を問わず誰でも参加できるニューススポーツ交流会を開催することで、交流の機会が少ない吉成・南吉成両学区の住民同士が交流する機会を提供した。	4月26日～ 11月15日	4	124
地域懇話会	管内の諸団体の代表者に市民センターの業務や活動紹介すると共に地域情報提供や要望を共有することで、今後の市民センターの取組や運営に資する機会となった。	6月19日 2月19日	2	23

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

小学校5年生の防災教育への活動支援

令和7年度は小学校からの依頼を受け、吉成小学校・南吉成小学校の5年生を対象とした防災の授業のために、講師を紹介することになった。授業では、クロスロードゲームを通じて、こどもたち自身が災害への備えを考える機会を提供することができた。

この事例は、主催講座「吉成・南吉成地域子育てネットワーク」の会議において、吉成・南吉成の各学校支援地域本部のスーパーバイザーより出された防災教育の話題をきっかけに、小学生を対象とした防災教育に向けて、学校との連携につながったものである。日頃から、管轄である吉成・南吉成両地域を対象にして事業を開催し、地域を超えた顔の見える関係を心がけてきたことが、地域のニーズを引き出すことにつながった。

宮城野区中央市民センター

〔沿革〕

宮城野区中央市民センターは、平成 24 年 8 月、宮城野区役所や J R 陸前原ノ町駅に隣接する複合施設内に、市内 60 番目の市民センターとして開館した。同施設には、文化センター、図書館、児童館、情報センターが併設されており、交通の利便性も良く多くの市民に利用されている。

当センターの周辺は、古くから歌枕の地と知られる歴史をきざみ、近隣には原町商店街や陸上自衛隊仙台駐屯地などを擁しており、旧来の地元住民に加え転出入者も多い地域である。市民センターとしての歴史は浅いが充実した施設を活用して、様々な学びの機会を提供するとともに、地域情報の収集・提供に努め、地域の活動を担う人材の育成や交流拠点としての事業展開を図っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	●ウェルカムひろば		
参加者	乳幼児親子	延参加者	108 人
開催日	全 2 回 6 月 25 日（水）～10 月 30 日（木）		
協力者・協力団体	宮城野区家庭健康課、宮城野図書館、原町児童館のびすく宮城野、原町地区・宮城野地区主任児童委員、おひさまキッズ、ぱーしもんキッズ、育児サークルあんだよ		
ねらい	地域で活動する子育て支援団体と共催し、より多くの乳幼児親子が気軽に参加できる講座を実施することで、必要な情報に触れ、参加者同士・支援団体が自然に交流できる場を提供する。それにより、子育ての悩みや不安を解消するとともに、地域全体で子育て支援ができる環境づくりを図る。		
概要・成果	共催団体との協議により、乳幼児親子が気軽に参加できるよう事前申込不要・入退場自由とし、会場内に設けた絵本、工作、おしゃべりコーナー等を自由に楽しんでもらう形で開催したことで、参加者が増え、活発な交流が生まれ、充実した情報交換と交流の場が提供出来た。育児サークルに参加した方や、家庭健康課での相談につながる方もおり、仲間づくりや子育ての不安を解消する場となった。共催団体との会議では、地域の子育ての情報交換と、イベントの運営や役割分担等の準備を行っており、顔の見える関係が維持され、連携が強化された。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
みやちゅうジュニアスクール	「ジュニアリーダーとあそぼう!」「ボッチャにチャレンジ!」「つつけんであそぼう!」など、小学生が交流しながら体験・学習する場が提供できた。また、当センターで活動するジュニアリーダーを積極的に活用することができた。	7 月 23 日～ 2 月 14 日	5	123
インリーダー研修会	地域の子ども会のリーダーとなる小学校高学年と世話人を対象に、子ども会の意義を学び、またレクリエーションゲームの進め方等を実践的に学ぶ機会を提供した。	2 月 7 日	1	10
子ども参画型社会創造支援事業「キッズもりあげ隊」	地域の小学生を企画員として募り、地域を盛り上げるためにできることを考えてイベント等を企画・開催した。夏季と冬季イベント実施と成果報告会にも参加した。	6 月 15 日～ 3 月 8 日	13	285
はらのまち・みやぎの Funtime	幅広い住民層にセンターの生涯学習事業を周知するため、マジックの出前講座、認知症予防講座、親子ビクスの実技、ピラティスと薬膳の夜間講座を行った。	8 月 23 日 11 月 26 日 12 月 20 日 1 月 30 日	4	105

みやぎの大学	高齢者を対象に火曜・金曜クラスに分け同じテーマと講師で実施。コンサート、健康・気象災害・歴史・文学・日本文化講座や軽体操、館外学習、運営委員自主企画講座を行った。	5月9日～ 2月10日	16	897
原町本通りに七夕を飾ろう	仙台の伝統文化継承と地域の活性化のため、地域住民とともに七夕飾りの制作を行い、原町本通り商店街、宮城野区文化センター、JR陸前原ノ町駅、陸上競技場に展示した。	5月29日～ 7月10日	7	106
●Miyachu ギャラリー	学校や地域団体と連携して、館内展示スペースを活用した学習成果の展示と、地域住民が気軽に参加できるワークショップを開催した。	4月16日～ 2月15日	11	3,530
★●みやぎの防災・減災ひろば	地域住民を対象に、乾物防災食調理実習講座、災害拠点病院を知る講座を実施。地域の高等学校と小学校の出前授業ではクロスロードの講話と実技を行った。	7月5日～ 12月5日	6	234
Miyachu ロビーコンサート	地域住民が利便性の高い複合施設で気軽に音楽に触れる機会を設けた。また、地域人材も活かしつつヴァイオリン、ピアノ、フルート、声楽などのコンサートを開催した。	7月18日 11月20日 1月28日	3	262
宮城野区中央市民センターまつり M フェス	利用団体やサークル、管内の学校に日頃の学習成果発表の場を提供し、地域の交流と親睦、活性化を推進することを目的に、舞台発表、出店、ジュニアリーダーのバルーンアート、健康チェックコーナー等によるセンターまつりを開催した。	10月4日	1	1,196
宮城野区中央市民センター地域懇話会	町内会や管内学校、地域諸団体の代表者と懇話会を開催。センター事業の取組内容を共有しながら、地域課題や住民ニーズについて意見交換を行い、把握した課題・ニーズをセンター事業へ反映させた。	7月2日 2月6日	2	33

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「宮城野原案内人の会」への活動支援

「宮城野原案内人の会」は、市民センターの講座から立ち上がった地域ガイドボランティアであり、地域で活動するための支援を通年で行っている。

令和7年度は、月1回のまち歩きと活動紹介パネル展の他に、仙石線名板設置記念誌の報告会や、原町と深い関わりのある土井晩翠を取りあげた自主企画講座「原町本通りと土井晩翠」を実施し、活動の幅を広げ会員の増加につなげることが出来た。また、「みやぎの区民活動表彰」を受け、その活動の成果が認められたことは団体の励みとなった。

生涯学習支援センター

〔沿革〕

仙台市の公民館は、昭和 21 年に在仙文化人有志による民間団体が主体となって設置されたことが始まりで、昭和 24 年に仙台市公民館条例が制定され、行政機関としての「仙台市公民館」が発足した。その後、各地域の公民館設置とともに、昭和 48 年には「仙台市公民館」を「中央公民館」と改称。昭和 58 年には榴岡図書館とともに現在地に開館し、平成元年には「中央市民センター・公民館」となり、翌年には「中央市民センター」と改称した。さらに平成 26 年 4 月より「生涯学習支援センター」と改称し、仙台市の生涯学習支援体制の充実・強化を図った。

当センターが位置する仙台駅東口周辺は、高い利便性を生かした企業や学校、マンションが混在するとともに、古い歴史ある地域としての顔も併せ持っている。こうした立地条件から、市内各方面からの利用者や夜間の利用頻度も高く、多様な学習活動、市民活動が活発な状況となっている。

なお、施設機能の見直しに伴い、当センターにおける地区館事業は、平成 26 年度より近接する榴岡市民センターの出前講座として実施していたが、令和 5 年度より徐々に再開している。

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
じぶんプランニング	小学生を対象に、企業や学校（音楽科）から職員や生徒を招いて、仕事や専門授業の体験学習を実施した。将来に対する就業意識を醸成した。	10 月 11 日 11 月 8 日 2 月 22 日	3	44
ジュニアリーダー企画会	中高生ボランティアのジュニアリーダーより有志を募り、主に小学生が楽しめるイベントの企画会議を実施した。	8 月 24 日～ 1 月 25 日	6	48
ジュニアリーダー企画会で企画した講座（賑わい創出プロジェクト）	学区や学年の枠にとらわれない交流の場を創出することを目的に、こどもたちが楽しめる催事を開催した。	11 月 9 日 12 月 14 日	2	120
まちなか発表会	当センターの立地（仙台駅が近い）や特殊性（音楽室・工作室が存在する）を活かして、利用団体の活動成果発表会を実施した。	11 月 19 日 12 月 25 日	2	80
生涯学習支援センター懇話会	利用団体や町内会、関連団体と「顔の見える関係」を構築するため、話合いの場を設け、情報共有を図り、今後のセンター運営に活かした。	5 月 22 日 10 月 4 日	2	9
榴岡にぎわいワークショップ	榴岡図書館と連携し、図書館の持つ様々な専門性を活かした講座を実施した。具体的には、伝統芸能体験、中高生向けの職業診断、乳幼児向けの工作教室等を実施した。	5 月 10 日～ 12 月 20 日	5	45
特殊詐欺防止対策講座	特殊詐欺防止に関する講座実施の要望をいただいて、巧妙化・凶悪化する犯罪の事例を交え、その抑止力を高める講座を実施した。	2 月 6 日	1	18

〔令和 7 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

展示フロア・展示スペースの提供、地域懇話会の開催

生涯学習支援センターは、立地やアクセスの良さから周辺地域からの利用者も多い。多様な地域から集まる利用者の活動成果発表の場および交流・にぎわいの場として、1 階の展示フロアや展示スペースを無料で貸し出し（申込制）、団体や個人の成果発表の機会を提供している。展示に参加した団体にとっては、日頃の学習や活動の成果を発信する励みとなり、来館者にとっては多様な展示作品に触れることで、生涯学習活動を始めるきっかけとなっている。また、当センターは施設の成り立ちや場所柄、地域団体や町内会との関わりが比較的少ない面があるが、定期的に地域懇話会を開催し、地域団体等の意見・要望を伺いながら、センター運営に反映させている。

高砂市民センター

〔沿革〕

高砂市民センターは昭和 43 年、高砂小学校校舎を改築し高砂公民館として発足した。昭和 53 年宮城県沖地震で建物が大破し隣接する前高砂小学校給食センターを改築、昭和 54 年に移転した。平成元年「高砂市民センター・公民館」、翌年「高砂市民センター」と改称、その後平成 6 年高砂地区の中心部に複合施設として新たに開館した。

この地区は、七北田川、貞山運河、蒲生干潟、そして南部には広い田園地帯が広がっている自然に恵まれた地域である。また、東北の海の玄関口、物流の拠点である仙台港を配し、背後地には大型商業施設等の進出も相次ぎ、急激な都市化が進んできたが、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災により、沿岸部が津波で甚大な被害を受け、中野地区は仙台市災害危険区域条例に基づき災害危険区域に指定され移転対象地区となった。地区内の 4 町内会は解散し、多くは田子、上岡田、南福室に移転した。

令和 7 年 1 月から大規模改修を行い、令和 8 年 4 月に再開した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★市民企画会議「高砂の魅力再発見プロジェクト」		
参加者	地域住民（企画員）、一般市民	延参加者	1020 人
開催日	全 8 回 令和 7 年 5 月 10 日（土）～令和 8 年 3 月 24 日（火）		
協力者・協力団体	地域住民（元高砂地区連合町内会会長）、中野ふるさと YAMA 学校		
ねらい	「高砂の魅力再発見プロジェクト」は、令和 5 年度から始めた複数年事業であり、高砂地域の失われた歴史・遺跡・遺物や住宅地として日々進化していく高砂の町の魅力を探り、複数年かけて高砂の魅力を発見・発信することを目指している。企画員は、元々の住民や転勤などで引っ越してきた新住民、30 代～40 代の若い層等、多彩な顔ぶれであり、今後、企画員が次世代の地域を担う人材として活躍することを期待している。		
概要・成果	令和 7 年度は、7 回の企画会を経て、令和 8 年 3 月 24 日から 29 日までの 6 日間に渡り、市街中心部の電力ビル 1 階展示ホールで「高砂に生きる～震災のマエとアト～」と題した高砂写真展を開催した。高砂地区に残る史跡や神社、お寺などの建造物、震災の前とその後の高砂地区の様子などの写真を展示した。また、これまでの講座で撮影された蒲生干潟の写真などもあわせて展示した。来場者からは「昔の高砂の写真を見て懐かしくなった」「震災の経験を次世代へ伝えていきたい」「蒲生干潟が復活して嬉しい」など多くの感想が寄せられた。約 1,000 人の来場者があり、震災から再生した地域の文化や高砂地区の魅力を多くの市民に伝えることができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て応援講座	高砂児童館と共催し、近くの集会所を借りて乳幼児親子向けの出前講座を行った。また、地域の民生委員主任児童委員から要請を受けて子育てサロンを行った。	4 月 22 日～ 12 月 10 日	6	46
高砂 Kids スクエア	小学生を対象に高砂老人福祉センターと共催でスカットボールや卓球、折り紙などを開催した。また、児童館でジュニアリーダーと遊ぼうを開催した。	6 月 14 日～ 12 月 13 日	5	161

★●蒲生干潟観察会	鶴巻小学校 4 年生へ向けて蒲生干潟観察会を開催した。1 回目は講義、2 回目は実地見学と連続講座を行った。	6 月 17 日 6 月 24 日	2	148
宮城野区インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活動する児童と世話を対象に子ども会活動の意義や必要な知識・技能を学ぶ機会を提供した。	1 月 31 日	1	13
高砂オープンカレッジ	地域の歴史について兵庫県高砂神社の宮司や東北大学の助教授による講話を開催した。また、町内会の出前講座としてフラワーアレンジメントやお笑い講座を共催で実施した。	8 月 17 日～ 3 月 10 日	7	188
学ぼう！SDG s	認知症についての講義、干潟を会場とした観察会、工場見学など開催した。またリサイクルを目的とした使用済みのろうそくを使ってキャンドルづくりを行った。	9 月 3 日 10 月 25 日 12 月 3 日 12 月 24 日	4	116
高砂老壮大学	大規模修繕工事により、他館を借用して開講式および閉講式を開催し、その他に館外学習として七十七銀行金融資料館や博物館、動物園の施設見学を行った。	5 月 21 日～ 1 月 21 日	5	163
みんなで考える BOSAI	避難所運営委員による 2 回の企画会を経て、休館期間に実際の避難所となる高砂小学校を会場として指定避難所防災訓練を実施した。	6 月 6 日 10 月 14 日 11 月 9 日	3	350
★仙台蒲生日和山山開き登山プロジェクト	日本一低い山である蒲生の日和山の山開きを企画員とともに企画し開催した。なかの伝承の丘を出発し、震災前の蒲生の街並みや地域の営みについて説明を受けながら日和山まで歩いた。	4 月 18 日～ 7 月 18 日	5	171
高砂地域懇話会	大規模修繕後の開館時期に合わせて、町内会長や利用団体を対象にして、大規模改修後の開館及び取組について説明し、地域課題等の共有、改善のための意見交換を行った。	5 月 28 日 3 月 15 日	2	47

〔令和 7 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

高砂市民センター指定避難所運営委員会の活動支援

高砂市民センターは、市民センターで唯一「指定避難所」に指定されている。この地域は地震、津波による被害だけでなく、七北田川氾濫、大雨による内水氾濫地域でもある。様々な災害を想定して避難所開設に備える必要があり、日頃から地域の避難所運営委員会との連携協力、活動支援は不可欠である。高砂市民センターは令和 7 年 1 月から令和 8 年 3 月まで大規模修繕による休館のため、指定避難所の指定が解除され、その期間は高砂小学校が指定避難所となった。そのため、令和 7 年度は実際の避難所となる高砂小学校を会場として防災訓練を実施し、災害時の避難経路を確認したり、徒歩による移動時間の目安を確認したりするなど、より実践的な訓練を行うことができた。授業として参加した小学生や地域住民の防災意識の向上につながる機会となった。

岩切市民センター

〔沿革〕

岩切市民センターは昭和 56 年に開館した「岩切公民館」を前身とし、平成 2 年「仙台市市民センター条例」により「仙台市岩切市民センター」と改称された。建物内部には市民センターのほかに、保健センター、老人憩の家、コミュニティ防災センター資機材倉庫が併設されており、さらに平成 22 年 3 月より岩切証明発行センターが併設された。

当地区は宮城野区の北東部に位置し、美しい田園風景が広がる。古くからの歴史と文化を伝える神社、仏閣、遺跡が点在している。近年の岩切駅前地区の再開発が一段落し、現在は今市・山崎地区と入山・神谷沢地区で土地区画整理事業が進められている。今後、JR 貨物ターミナルが移転してくることもあり、一層の開発が予想される地域である。

令和 7 年 11 月から大規模修繕工事のため休館している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	すずむしリンリン講座		
参加者	出前授業：岩切小学校 4 年生 配布会：どなたでも 市民まつり：どなたでも	延参加者	433 人
開催日	全 3 回 令和 7 年 6 月 20 日（金）、令和 7 年 8 月 2 日（土）、令和 7 年 10 月 26 日（日）		
協力者・協力団体	すずむしの里づくり実行委員会、岩切小学校、宮城野区中央市民センター、岩切地区町内会連合会		
ねらい	都市化が進むことで失われつつある自然環境の中、仙台市の虫・スズムシを飼育し、自生させる活動を通して、多くの市民が自然に興味を持ち、人とスズムシが共存できる潤いのあるまちづくりを目指す。		
概要・成果	岩切小学校 4 年生を対象とした出前授業において、こどもたちは「スズムシ」が仙台市の虫であることを知るとともに、スズムシの特徴や飼育法を学ぶことでスズムシに対する興味関心を高めることができた。スズムシ配布会と交換会では、毎年楽しみに来館する市民の方が多く「息子と育てます」「とても、良いイベントだと思います」などの肯定的な感想をいただいた。岩切市民まつりでは、スズムシの一生を説明したパネル展示や DVD の放映、新しい試みとしてスズムシの羽をモチーフにした物づくりワークショップを開催した。一連の事業を通して、こどもから大人まで幅広い世代にスズムシの魅力を発信するとともに、スズムシを通して自然環境や命の大切さを伝えることができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●家庭教育地域交流会	連携団体との関係強化を図りながら、6 回の情報交換及び企画会議と、1 回の防災キャンプを実施。2 月の企画ではサバ飯づくりと公衆電話機の掛け方体験を行い、地域防災の向上を図った。	6 月 5 日～ 2 月 28 日	7	65
●岩切子育て応援事業	地域の子育てに関わる 19 の団体が一丸となって子育て中の親子を支援するため、3 回のイベント（6 月のわいわい広場、10 月の市民まつり参加、12 月のちびっこ運動会）を企画・実施し、地域の子育て世代の交流促進を図った。	4 月 16 日～ 1 月 8 日	14	308

インリーダー研修会	次世代の子ども会リーダーと世話人を対象に、子ども会行事の運営方法や意義を学んだ。また、ジュニアリーダーを活用し、参加者同士の情報共有の場を提供した。	1月17日	1	4
こどもの広場	地域の小学生とこどもの広場ボランティアと一緒に「卓球」「昔あそび」「ボードゲーム」「からむし」「おりがみ」などのあそびの場を通じて、世代間交流や顔の見える関係性を築いた。	5月31日～ 10月18日	5	153
岩切小学校地元学連携講座	岩切小学校4年生を対象に、古くから地域に自生し活用されていた植物「カラムシ」を利用し、茎を繊維にする方法や、繊維を編んでストラップを作る体験を行った。	7月15日 9月9日 9月10日 9月26日	4	449
岩切いろいろアカデミー	気象災害についての講話、eスポーツ体験、おもしろ寄席、フレイル予防運動と講話、図書ボランティアによる工作など、多岐にわたる学習を提供した。	6月22日～ 10月26日	5	258
岩切老壮大学	「身近な犯罪について」「卓球バレー」「骨カルシウムセミナー」「仙台藩志会とは」「修了式・記念コンサート」など、高齢者のニーズにあった多様な学習プログラムを提供し、心身ともに健やかな生活を送る一助とした。	5月21日～ 10月15日	5	275
考えよう！岩切の安心安全	地域の諸団体と連携して岩切全体の防災力・結束力を向上させるために、スマホ防災アプリ体験と救命救急講習およびAED体験を実施した。	7月18日 12月6日	2	28
岩切市民まつり	作品展示、ステージ発表、体験コーナー、地域団体による出店など、学習成果の発表の場と地域住民の交流の場を提供した。	10月25日 10月26日	2	1,600
岩切市民センター懇談会	岩切市民センターの事業運営や施設利用に関してご意見をいただくとともに、まちづくりに係る地域課題について、町内会や地域諸団体と情報交換を行った。	6月14日 2月26日	2	23
広がれ！スズムシの輪（りーん）	スズムシ愛好家のつながりをつくる目的で「スズムシ里親制度」の構築や「スズムシカフェ」を開催した。「すずむしの里づくり実行委員会」の次世代担い手の発掘、育成を進めた。	5月23日 7月10日 10月4日 1月18日	4	40

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「いわきり子育てネットワーク」への活動支援 地域の子育てに関わる19の団体に加え、岩切地区町内会連合会、岩切地区社会福祉協議会が協力団体となり、地域一団となる「地域の子育て」への支援体制を強化することができた。14回目を迎える「いわきり親子でわいわい広場」の開催や岩切市民まつりへの参加、子育て講座の開催など、団体の特性を生かしたコーディネートを行い、企画・運営に取り組んだことで子育て世帯に親子の絆を深める機会や集いの場、安心したゆとりのある子育て環境を提供できたとともに、活動を通じて団体同士の繋がりがさらに安定し堅固なものとなった。

鶴ケ谷市民センター

〔沿革〕

鶴ケ谷地区は、仙台市が大型モデル団地として開発し、昭和 43 年から入居を開始した住宅団地である。鶴ケ谷市民センターは昭和 47 年 5 月 22 日、団地の完成とともに RC3 階建、温水プールを併設する施設として開館した。

その後、地域住民から生涯学習への要望が高まり、昭和 59 年から岩切公民館の協力を得て各種の講座を開始した。本格的に生涯学習が展開されたのは、仙台市の政令指定都市移行に伴い、平成元年に市民センター・公民館として発足（翌年「市民センター」に改称）してからのことである。平成 4 年 4 月には児童館が併設され、地域の生涯学習・児童福祉・コミュニティづくりの拠点となった。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により建物が被災し使用不能となったことから、平成 24 年 3 月から近傍に仮事務所を設け生涯学習事業を行ってきた。

平成 28 年 4 月 2 日からは、第一市営住宅団地再整備地内に市民センター（単独館）を改築・移転して開館し、地域の生涯学習・交流・コミュニティづくりの拠点として多くの人々に利用されている

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★●みんなでつくる鶴ケ谷地域防災		
参加者	地域内小学生・地域内中学生・地域住民	延参加者	641 人
開催日	令和 7 年 9 月 16 日（火）から令和 8 年 2 月 7 日（土）まで 全 10 回		
協力団体	仙台市立鶴谷中学校・仙台市立西山中学校・仙台市立鶴谷小学校・仙台市立鶴谷東小学校・仙台市立燕沢小学校・仙台市立西山小学校・鶴ケ谷 S B L 協議会・西山地域防災協議会・仙台市危機管理局減災推進課・宮城野消防署救急係・宮城野消防署鶴谷出張所・仙台市宮城野区区民生活課生活安全係		
ねらい	小・中学生への出前講座を通じた担い手育成と、地域諸団体への研修による防災力の向上を推進し、学校・地域・センターが一体となった災害に強いまちづくりを目指す。		
概要・成果	本事業は、3つの講座を柱に取り組んできた。 ①中学生対象出前講座「君もプチレスキュー」 仙台市防災・減災アドバイザー・消防署等を講師に招き、地域内2つの中学校で避難所設営や救命法の実技訓練を実施した。講座の知識や経験を活かし、中学生が地域の防災訓練でボランティアとしてブース運営を支え、地域の新たな担い手として活躍した。 ②小学生対象出前講座「防災で未来を拓く」 大川伝承の会共同代表の佐藤敏郎氏を講師に迎え、地域内4つの小学校（5年生）で実施した。東日本大震災の教訓から命を守る行動を学び、児童が防災を自分事として真剣に考える貴重な機会となり、自ら考えて行動する主体性を育む大きな成果を上げた。 ③防災研修会企画会・防災研修会 仙台市防災・減災アドバイザーの講義を受講後、S B L 協議会や町内会長、学校、市役所の避難所担当課が一堂に会して避難所運営体制を協議した。互いの顔の見える関係性を築き、有事の際に学校と地域、そして行政が三位一体となって円滑に連携するための関係を整えた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●鶴・燕・西子育て支援ネットワーク事業	区家庭健康課や児童館等と連携し、乳幼児親子向けのイベントや企画会議を開催した。関係機関からの情報提供を通じて孤立防止を図り、安心して子育てができる地域づくりを目指した。	5 月 14 日～ 3 月 10 日	9	232

仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダー児童と世話人を対象に、運営に役立つ知識や技能の習得及び情報交換を行う研修会を実施し、組織の活性化や課題解決へのヒントを得る機会とした。	1月24日	1	23
鶴ヶ谷キッズステーション	小学生を対象に、知的好奇心を刺激し、学ぶ意欲の育成を目的として、実験や工作などを通して、本物に触れる体験活動の場を提供した。	8月1日～ 1月31日	5	133
チーム「ニコ鶴」プロジェクト	中学生の地域貢献意識の醸成と人材育成を目指し開催した。全14回の企画会議を経て、地域マルシェへの出店や運動会を自ら企画・運営し、地域活性化につながる主体的・実践的な活動を展開した。	7月17日～ 3月14日	16	349
ジュニアリーダーとあそぼう！	小学生の成長と社会性向上を目指し、中高校生ジュニアリーダーとの交流事業を一部児童館と共催した。工作やゲーム、まつりでのバルーン出店を通じ、異年齢の豊かな交流を図った。	6月28日 10月25日	2	150
鶴ヶ谷ことぶき大学	地域の60歳以上を対象に、健康で豊かな生活と交流を目指し、月1回講座を開催した。地元学、健康講座、館外学習、世話人会企画など、月替わりのテーマで学習を深めた。	5月21日～ 2月18日	9	431
「和」を感じて	日本の伝統文化に触れる機会を提供し、歴史や文化への理解を深めた。苔玉や干支押絵の制作、醤油の講話、和出汁調理、和楽器コンサートなど多彩な講座を通じ、和の魅力を伝えた。	5月28日～ 1月31日	6	165
つながれ すずむしの里	仙台市の虫「スズムシ」の普及や自然環境の理解を目的に、配布・交換会や小学校への出前授業を実施した。	7月8日 7月26日 8月27日	3	603
鶴ヶ谷市民センターまつり	実行委員会を中心に地域が協力し、ステージや展示、模擬店、防災訓練等を実施した。多彩な活動を通じ多世代のつながりを生み、地域の活性化と生涯学習への意欲向上を図った。	10月25日	1	1,800
鶴ヶ谷市民センター懇話会	第1回は町内会長や学校長等の地域諸団体、第2回はサークル団体の代表者を招き、事業への取組説明や意見交換を行った。懇話会を通じて、事業の周知を強く図るとともに、地域のニーズや課題を把握し、今後の事業運営に反映させた。	7月2日 12月4日	2	56
鶴ヶ谷音頭を踊ろう！	保存会の協力で新たな踊り手を育成し、鶴ヶ谷音頭の地域伝承を図った。小学校運動会や市民センターまつり、地区の賀詞交歓会等に参加し、盆踊りを通じて地域の活性化を推進した。	5月10日～ 3月7日	24	214

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

図書ボランティア活動支援

図書室の適切な管理運営や季節ごとの館内装飾、児童向けのおはなし会の企画などについて話し合う定例会を毎月1回開催し、活動の充実につながる働きかけを継続した。これに加えて、ボランティアの新規募集や活動の周知を積極的に行った。

また、活動開始10年の節目を迎えたことから、持続可能な組織づくりを目指して会則・規約の見直しをコーディネートした。

これらの取組みにより、ボランティア数は増加し、令和7年度までは毎週水曜日と奇数土曜日だった開室日を、令和8年度からは毎週水曜日と土曜日に拡大することとなった。センターの伴走支援が組織の基盤強化と、地域における図書活動のさらなる活性化につながった。

榴ケ岡市民センター

〔沿革〕

榴ケ岡市民センターは、日本住宅公団の高層共同住宅の建設に伴い、一階・地階部分の一部を市民会館の分館として位置付け、昭和 48 年 6 月に開館した。平成元年 4 月には公民館が併設され、翌年 4 月に「榴ケ岡市民センター」に改称された。平成 24 年 7 月 31 日にはそれまでの本館を閉館し、同年 8 月 28 日に榴岡公園軽体育館の名称を「榴ケ岡市民センター」へ変更して現在に至っている。

当市民センターは、市民の憩いの場である榴岡公園に隣接し自然環境に恵まれ、近くには仙台市歴史民俗資料館、国の合同庁舎、東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地である宮城球場などがある。中心市街地として都市基盤整備が進み古くからの街並みが日々変化している中、新旧地元住民の交流の場として、また各種会合や生涯学習活動の場として多くの人々に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民センターに行ってみよう！		
参加者	地域住民	延参加者	50 人
開催日	全 3 回 令和 7 年 6 月 25 日（水）、9 月 6 日（土）、12 月 14 日（日）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	市民センターは、気軽に行く場所というよりは学ぶために行く場所というイメージが強い。そこで地域住民が学ぶ場としてだけではなく、興味関心のあるテーマに気軽に集まり、楽しく交流できる場を提供する。		
概要・成果	老若男女を問わず誰もが気軽に参加できるテーマ（第 1 回コーヒー、第 2 回写真、第 3 回和菓子）を選び、開催曜日を固定せずに都度募集で 3 回実施した。コーヒーの淹れ方や写真の撮り方、和菓子の作り方などのハウツー物ではなく、その回その回のテーマを楽しめる内容で実施し、興味関心を同じくする参加者同士が気軽に交流できた。この 3 回を通して 17 人の方が市民センターの講座に初めて参加され、学ぶ場所という認識が強く入りにくいというイメージが、少しは解消された機会となった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
東口ゆうえんち	異学年のこどもたちが、企画員との異世代交流を図りながら縁日、ウォーターバトル、工作×クイズ、お化け屋敷を行い学校や家庭ではできない学びや遊びを通して公共性や社会性を育む一助となった。	6 月 22 日～ 2 月 15 日	6	153
インリーダー研修会	子ども会やインリーダー、世話人の役割について講話をした。世話人は情報交換、こどもはレクリエーションを覚えた後、参加者全員でレクリエーションを実施したことにより参加者同士の交流を図れた。	2 月 7 日	1	26
ものづくりラボ	橋の強い構造の理由の講話、ケント紙を使った橋の模型づくりとペットボトルによる耐荷実験を行った。技術者による橋のつくり方の講話をしたことにより、ものづくりの大切さを学ぶことができた。	7 月 30 日 7 月 31 日	2	9

私にもできる SDGs	(公財) みやぎ・環境とくらしネットワークと共催し、雑紙の再利用、食品ロス、今の気候変動等を学んだ。家庭でも環境問題について身近な取組を考える一助となった。	10月31日 11月7日 11月14日 11月28日	4	34
歌枕の名所「みやぎの」	宮城野通りに埋まるプレートに刻まれた和歌の講話後、実際にプレートを見学し、好きな和歌を選んで筆ペンで色紙に書き写した。和歌を選んだ理由を話すことにより、地元の歴史・文化について学びが深まった。	7月5日 7月12日 9月3日 9月10日	4	40
東口ますます元気教室	高齢者の身体機能の維持を図る運動で体全体を動かしたり、歌を歌って喉を鍛えたり、音楽を聴いて心のケアをしたり、表情筋体操を行ったりして多方面から介護予防に役立てた。	6月18日～ 12月17日	5	145
榴ケ岡老壮大学	高齢化社会において、地域の高齢者が安心して心身ともに豊かな生活を送れるよう様々なテーマの講話・実技を通して、学びと交流の場を提供した。	5月15日～ 2月19日	9	305
榴ケ岡寺子屋	歴史編では城下町と和歌を通じて地域の歴史を学び、地域への理解と愛着を深めた。また、防災編では地震や気象現象に伴う自然災害への対処法を具体的に学んだ。	5月16日～ 3月13日	9	153
榴岡公園サポーターズ	榴岡公園および周辺地域への愛着を深めることを目的に、公園の植物やまちづくり活動についての学びと、公園愛護活動を体験した。	6月14日 11月1日 3月7日	3	46
榴ケ岡市民センター懇談会	第1回をまつりの実行委員会後に、第2回を寺子屋実行委員会の後に実施した。サークル及び地域の諸団体の代表に参加していただき、市民センターへの要望等を聞くことができた。	11月15日 3月13日	2	17
令和7年度榴ケ岡市民センターまつり	センターを拠点に活動するサークルや地域団体の活動成果を発表する場を提供した。また、主催事業のブースを設けることで、市民センター事業の発信もできた。	10月3日	1	445
東口ゆうえんち企画会	学生や社会人の企画員が企画会を通して話し合いや企画で使用する物の試作をした。令和7年度は4回の企画を実行した他、センターまつりやワイワイ冬まつりにも参加したことにより、住民同士の交流・世代間交流にもつながった。	5月10日～ 3月8日	12	44
東口ガイドボランティア養成講座・公開講座	東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」と共催し講座を実施した。仏像の造形、まち歩きを楽しむ方、ガイドのやりがいの講話をした。	1月24日 2月28日 3月7日	3	83

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」の活動支援

当センターを拠点に活動する東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」は、定例のまち歩きや様々な団体から要請を受けてのガイド活動など現在も活発に活動している。活動支援として、月例のまち歩きの広報チラシの窓口への設置やガイドを希望する方からの問い合わせ対応、市民センターまつりで活動発表の場の提供を実施している。そのほか、「宮城野さんぽみち」と共催で「東口ガイドボランティア養成講座・公開講座」を実施し、さんぽみち会員を講師として活動紹介の場を提供した。会員が円滑に司会を行えるよう計画し、打ち合わせを重ねた。また、東口の仏像、まち歩きの楽しみ方についての講話を行うにあたり、外部講師との連絡調整役を担った。会員からは、受講者へ東口の新たな魅力を伝えることができた、講師をした会員から学ぶ機会にもなったと好評だった。

東部市民センター

〔沿革〕

東部市民センターは、昭和 47 年 5 月に旧保健所庁舎の一部を改装し開館した「東部市民福祉会館」を前身としている。昭和 58 年 4 月に改築され、平成に入り「東部市民センター」に改称、平成 5 年 4 月には「東部児童館」が併設されている。当市民センターの中学校区は東仙台中学校、小学校区は東仙台小学校・新田小学校が管轄である。

周辺には、JR 苦竹駅・陸前原ノ町駅・小鶴新田駅・東仙台駅があり、仙石線、東北本線、貨物線、新幹線等が通る鉄道景観が見事に交錯する街並である。

さらに、当センターは宮城野区役所から北東へ約 0.7km の地点に位置し、南に国道 45 号線と北に利府街道、その中間を跨ぎ繋ぐ形で、通称「中原地区」といわれる住宅地にある。また、付近には、東仙台・苦竹・原町・自衛隊仙台駐屯地など、それぞれに歴史を持つ住宅地や商業地が広がっている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	「こんなところに〇〇が？見つけてみよう東部のステキ」		
参加者	成人	延参加者	59 人
開催日	全 7 回 令和 7 年 6 月 10 日（火）～令和 7 年 12 月 9 日（火）		
協力者・協力団体	二瓶 その氏（荒浜文庫主宰）・松尾 福子氏（まつお文庫主宰）・新田地区民生委員児童委員協議会		
ねらい	東仙台地区・新田地区は JR 東北本線・仙石線の駅が近いことから通勤・通学の便が良いため新しい住民が増えている。大型スーパーやチェーン店の店舗が増える一方で昔ながらの商店が点在する地域でもある。自分たちが住む地域の魅力を再発見し広めることで地域住民同士の交流と地域活性化を目指す。		
概要・成果	新田地区民生委員児童委員の役員を市民企画員に迎え、企画会議で講座の内容、広報などを検討した。1 月 20 日に新田地域の魅力を発信する講座「新田のなかの荒浜って？…荒浜文庫いま・むかし…」を開催し、“本のあるこどもの居場所”である「家庭文庫」の役割と、荒浜文庫が震災を機に新田地域へ移転した際の状況などについてトークセッション形式で話を伺った。 企画講座によって家庭文庫である「荒浜文庫」の活動への理解を深められたと同時に、こどもを取り巻く環境の変化により家庭文庫の利用が減少するなかで、地域の大人としてこどもを見守り続ける意義や心得について、参加者と企画員とが、考えられる機会となった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●親子おうえん！子育てひろば	東部児童館と共催して、産後ヨガ・手あそび・コンサート等の講座を実施した。第 2 回には宮城野区家庭健康課と共催して夏に乳幼児の身の回りで発生しやすい事故について学ぶ場を提供した。	6 月 27 日 7 月 2 日 11 月 28 日 12 月 3 日	4	82
令和 7 年度 東部キッズクラブ	ジュニアリーダーと小学生とが工作やレクリエーションゲームで異年齢交流する講座を実施したほか、児童が市民センターと児童館にある花鉢を飾る絵を描き、来館者に広く見ていただけるよう取り組みを行った。	8 月 8 日 12 月 24 日 2 月 14 日	3	33
中学校の企画講座	地域内にある東仙台中学校の生徒が自ら企画・運営する小学生向けの防災講座を実施した。講座の運営を通して、中学生が自身の自尊感情を高めながら、地域の実態について関心を持つ機会とした。	5 月 14 日 6 月 25 日 8 月 9 日	3	10

仙台市子ども会インリー ダー研修会	充実した子ども会活動をできるように、子ども会の役割や運営、ゲームやレクリエーションの進め方等を学び、他の子ども会との情報交換ができる機会を提供した。	1月24日	1	30
市民センターくつろぎサ ロン	市民センターの利用が難しい方にも参加していただけるよう、集会所やコミュニティ・センターを会場とし、「みんなで楽しむ落語」と題する落語の出前講座を全3回実施した。	10月19日 11月15日 2月8日	3	70
令和7年度 東部学びカフ ェ	住民が気軽に参加でき、生涯学習への関心を高められる講座を目標とし、郷土料理や多国籍料理の調理実習、指ヨガ、eスポーツ、クリスマスコンサートなどを実施した。	5月17日～ 12月13日	5	85
はつらつ健康ライフ	将来介護に頼らない自立した生活を過ごす一助とするため、シナプソロジー、口腔ケア、ピアノの演奏にあわせた歌唱、床バレエ、脳トレ、軽運動を実施した。（共催：東仙台地域包括支援センター）	7月25日～ 12月11日	5	64
地域講師に学ぶ	講師である「お手玉サークル」のメンバーと受講生が、お手玉製作やお手玉の技の練習に取り組みながら交流を重ねる講座を実施した。講座の集大成として、東部ふれあいまつりに出演し、学びを通して地域で活躍する体験も行った。	7月17日～ 10月4日	5	53
東部いきいきスクール	高齢者が心身ともに健康で充実した生活を送れるよう、健康・歴史・経済の座学や、運動・モノづくりなどの体験型の学習講座を実施した。またトークタイムやレクリエーションなどにより受講生同士の交流を深めた。	5月21日～ 2月18日	9	272
★日常に考える非常時の 備え	非常食のレシピや最新の防災道具新の活用法を学ぶ講座、クロスロードゲーム体験を実施した。また、子どもと大人が一緒に考える防災のワークショップも実施し、地域住民の防災意識向上の一助となった。	5月29日 8月20日 1月7日	3	37
第29回東部ふれあいまつ り	町内会やサークル団体、地域住民が日頃の学習や活動を発表する場を設け、参加者が協力しあって実施する地域のまつりを実施した。	10月4日	1	482
東部市民センター地域懇 話会	住民交流の場・学びの場・集いの場として地域住民が主体的に活動できるよう、支援の方向性を検討し、地域の現状と課題、町内会や教育機関との連携などについて深める場とした。	7月18日 2月13日	2	10

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域の高齢者にメッセージカードを届けよう

東仙台よろこびの会、新田よろこびの会は地域のボランティア団体であり、その活動の一環として独り暮らしの高齢者に弁当を配食する事業を行っている。東部市民センターでは、配食される弁当に小学生が作成したメッセージカードを添えて、地域の高齢者へカードが届けられるよう、連絡調整等のコーディネートを行った。東部児童館と新田児童館の協力により、合わせて300枚を超えるカードが製作され、各地域のよろこびの会へ贈呈式を行った。地域の大人からの直接感謝の言葉がかけられる機会となり、小学生の自己肯定感を育む一助となったほか、メッセージカードを介して、高齢者と「よろこびの会」メンバーの交流が図られ、地域活動の活性化にもつながった。

幸町市民センター

〔沿革〕

幸町市民センターは、平成 5 年 4 月 20 日、幸町児童館及び幸町コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。令和元年度には大規模修繕を実施し、令和 2 年 4 月に再開した。

当市民センターがある幸町中学校区は、大型商業店舗の進出、民間マンションの建設などで町並みの変容が著しい幸町・大楯地区と、与兵衛沼、柗江の森などの緑豊かな自然に恵まれた柗江地区からなる。仙台市ガス局や県・市障害者福祉センターなどの公共施設や、きぼう園、いずみ授産所などの福祉施設と共に、国、県、市の公営住宅があり、民間も含めて集合住宅が多い地域でもある。また、平成 26 年度には災害公営住宅も完成した。高齢化が進む中、子育て中の世代や若年層の住民の増加もみられ、ここ数十年で地域の環境は大きく変化した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「日本全国幸町プロジェクト～“#幸町”でつながろう		
参加者	地域住民	延参加者	161 人
開催日	全 16 回 令和 7 年 4 月 19 日（土）～令和 8 年 2 月 21 日（土）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	令和 5 年度から、「幸せな町になってほしい」との願いが込められた「幸町」の地域を知り、他地域の「幸町」とつながるために企画員が会議を重ね活動してきた。令和 6 年度は SNS による発信や他地域とつながるために活動してきたが、目標達成には時間が必要であるとわかり、令和 7 年度も継続して SNS による発信や地域の魅力を地域の人々に理解を深める活動を行い、他地域とつながり魅力を発信することを通して地域活性化につなげることを目的とする。		
概要・成果	他地域の「幸町」と繋がり、地域の活性化を図るために、市民企画員が企画会議やまち歩き講座、まつり展示・運営参加等を行った。活動 3 年目になり、メンバー同士の交流も活発になった。リーダー・副リーダーを選出し、また 3 つの部会を設置してそれぞれの部長を決めることで、各々がより自主的に活動できる形を作り、SNS による情報発信も少しずつできるようになった。また、キャラクターを制作し、広報やイベントで活用したり、トレイルカメラを設置して、地域の自然を観察したりと活動の幅を広げた。令和 6 年度から制作してきた幸町の魅力を伝えるマップが完成し、小学校の授業などでの活用することもできた。また、活動に賛同する方たちが新たなメンバーとして加わった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●子育て楽しんじゃ OH！	乳幼児親子を対象に、親同士が情報交換して楽しい時間を過ごせるように、おやつ試食会や運動、ものづくり、家庭健康課による育児相談会を行った。	9 月 11 日 9 月 27 日 11 月 26 日	3	37
さいわいどんぐりクラブ	小学生を対象に、体験活動の場を提供するために、走り方教室やテーブルゲーム体験、お菓子作り、ジュニアリーダーと遊ぶ会を行った。	5 月 11 日～ 3 月 25 日	4	61
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会の世話人と次期リーダーとなる児童を対象に、子ども会活動の活性化のため、講話やレクリエーション実践、世話人同士の情報交換を行った。	2 月 14 日	1	4

幸町生涯大学	60 歳以上の成人を対象に、交流と学習を目的として、コンサートや運動、館外学習、陶芸制作、防犯、演芸、健康などの講座を行った。	5 月 15 日～ 2 月 19 日	9	270
GO!GO! 与兵衛沼 & 枅江の森地域の自然を楽しもう！	地域住民を対象に、地域の豊かな自然への理解や愛着を深めるため、「いこうかい枅江の森」メンバーを案内役として森の散策会を開催した。	5 月 17 日 3 月 14 日	2	38
幸せ奏でるコンサート	地域住民を対象に、交流と音楽による癒しの時間となるように、ハワイアンバンドやチェロとピアノ、尺八と箏、高校音楽科の学生によるコンサートを開催した。	7 月 12 日～ 12 月 15 日	4	182
地域がもっと好きになる地元学ー幸町の今昔	地域住民が交流し、地域への愛着を深めるために、スナップ写真を持ち寄り、写真をもとに町並みや世相の変化などを語り合う座談会を開催した。	1 月 31 日 2 月 7 日	2	13
幸町 de グッドアクション～身近な SDG s アクション～	地域住民が SDGs への意識を高め、自分ごととして取り組むきっかけとなるよう、グリーントンネルやダンス「みんなでおどりまショー」、野菜活用法の講座を行った。	6 月 5 日～ 12 月 11 日	4	166
みんなで考える減災ー安心して暮らせる街へ	災害時に必要な初期対応を学ぶため、中学生向けに「逆説の地域防災」、小学生向けに VR を使った地震の防災講座と避難訓練を行った。	7 月 23 日 12 月 25 日	2	31
しめ縄作り講座	これまで地域の名人から教わってきたしめ縄作りの伝統を伝え、世代間交流を図るため、地域でボランティアを養成し、小学生にしめ縄作り出前講座を開催した。	12 月 7 日～ 12 月 19 日	5	130
第 27 回幸町市民センターふれあいまつり	地域の住民の発表・交流の場とするために開催し、ステージ・動画発表や作品展示、体験コーナー、出店、ジュニアリーダーと遊ぼう、抽選会などを行った。	11 月 16 日	1	500
幸町市民センター地域懇談会	市民センター事業への理解と協力を頂くために、地域の主な施設・団体の代表者を対象に、事業報告や事業予定等について説明し、併せて地域課題等の情報交換の場とした。	6 月 18 日 2 月 18 日	2	44

〔令和 7 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民センター事業から立ち上がったグループへの活動支援

市民センター館内の図書室で、図書ボランティア「ひまわり」のメンバーが月 4 回貸出・返却業務と、本の整理・修繕等を行っている。月 1 回開催の定例会に、市民センター・児童館の職員も参加し、図書室の運営についてヒアリングし、必要に応じて助言することで、自主的な活動をサポートしている。

主催事業「枅江の森発信プロジェクト」を経て誕生した「いこうかい枅江の森」のメンバーがこれまでの勉強会の成果を地域に還元できるよう、主催事業「GO!GO! 枅江の森&与兵衛沼 地域の自然を楽しもう！」において、森林浴の講師として参加した。当日だけでなく、講座内容・構成を話し合い、森の下見や、安全確認など準備にも携わり、活動継続の意欲を高める機会ともなった。

田子市民センター

〔沿革〕

田子市民センターは、平成 11 年 8 月、仙台市で 53 番目の市民センターとして開館し、児童館とコミュニティ防災センターを併設し、多目的ホール、会議室 2 室、和室 2 室、調理実習室、児童館図書室などを備えている。

当市民センターの位置する田子地域は仙台市東部に位置し、市中心部と直結する JR 仙石線（最寄駅：福田町駅）や国道 45 号線等に近い交通の利便性のよさから開発が進み、宅地造成や借家などの建設により、生産年齢人口が増加している。平成 27 年頃からは 65 歳以上の高齢化率が緩やかに上昇し単身世帯が増加してきている。幼稚園や小中学校、高校等の教育施設にも恵まれ、地域リーダーとして活躍する人材が豊かで、地域づくりに関する住民意識も高く、地域防災訓練等の特色ある活動が活発に行なわれている。当市民センターは、これらの立地条件を活かしながら、地域団体や学校との連携に努め、事業を展開している。

こうした中、平成 26 年度以降、田子西地区では東日本大震災の復興土地区画整備、復興公営住宅整備も終了し、現在新 4 町内会では地域行事等町内会活動に積極的に取り組んでいる。田子市民センターの管轄エリアは田子小学区 10 町内会、高砂小学区 4 町内会となった。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	地域連携「宮城県準絶滅危惧種ミズアオイの生息地田子プロジェクト」		
参加者	小学生及び地域住民	延参加者	123 人
開催日	全 15 回・令和 7 年 4 月 26 日土曜日から令和 8 年 3 月 18 日水曜日まで		
協力者・協力団体	仙台市田子小学校・田子小学校 PTA・田子市民センター（田子の魅力発信広報部）		
ねらい	東日本大震災の津波によって被害を受けた沿岸域の周辺地域では、生育環境が悪化して姿を消していた国の準絶滅危惧種であるミズアオイが復活した場所が報告されている。 田子地域内でも、令和 5 年度田子の魅力発信広報部の企画講座の下見の際に、田子地域を流れる七北田川沿岸にミズアオイの生息場所を発見した。しかし、それらも大雨や災害などにより生育環境がなくなってしまう状況にあることから、地域にある田子小学校、田子小学校 PTA、田子児童館と協力し、地域住民と共にミズアオイを育てる学習を通して、地域の環境保全を考えるきっかけとする。		
概要・成果	田子の魅力発信広報部員が自主的に地域調査を行っていた結果、令和 7 年度には梅田川でのミズアオイ自生地が拡張していたことがわかり、該当地域の仙石町内会の方々に伝えることができた。令和 7 年度地域団体連携促進事業のもと、専門家からのアドバイスを受け、ミズアオイの啓発リーフレットを作成し、地域への広報を行うことができた。 今後の活動においては、田子小学校の PTA 活動の一環として田子地区は継続し、仙石町内会は、町内会の方々はじめ北部梅田川環境美化推進協議会の活動として、見守り活動ができるようだ。仙石の自生地は、仙台市民の方々が希少なミズアオイを鑑賞できる唯一の場所になるように広報を行っていきたい。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
みんなニコニコ♪子育て広場	子育てについて学んだり仲間と共有したりできるよう、地域諸団体共催の子育てサロンや、親子ショー、ヨガ、託児付き講座などを実施した。	5 月 29 日 9 月 4 日 11 月 27 日 12 月 20 日	4	92
たごっ子キッズタイム	田子児童館や学校、地域のサークル・団体と連携し、子どもたちに様々な分野の学習や交流の場を提供し、子どもたちの社会性を育む講座を実施した。	7 月 26 日～ 12 月 25 日	5	85

田子小学校連携事業 「田子のお宝を発見しよう」	田子小学校3学年を対象に、田子の歴史・自然等をまとめたリーフレットを活用して田子についての講話、まち歩き等を実施した。	5月28日～ 2月13日	6	88
仙台市子ども会イン リーダー研修会	充実した子ども会活動ができるよう、児童・世話人を対象に子ども会活動や運営に役立つ知識や実技について学び、子ども会同士で情報交換ができる場を提供した。	1月17日	1	20
いきいき健康づくり	参加者の健康増進と住民同士の交流促進を目指し、地域包括支援センターと共催して誰もが気軽に学べる健康講座を実施した。	10月17日 10月24日 11月14日 11月28日	4	43
田子老壮大学	健康・介護予防・軽体操等の知識を学ぶ場を提供し、高齢者が健康で充実した日々を送るための一助とし、学びを通して高齢者同士の交流を図った。	5月14日～ 3月4日	10	213
田子の魅力発信広報 部の企画 田子歴史 を巡る 田子の湯殿 山碑めぐり	それぞれに謂れがある田子の2つの湯殿山碑を巡り紹介するまち歩きを実施し、その成り立ちから地域理解を深めた。	6月18日	1	8
みんなで学ぶ地域防 災	防災に関する講話「あなたは、大丈夫ですか、大雨・洪水対策」や、地域の児童や生徒も参加して各町内会が一斉に行う地域合同防災訓練等を実施した。	8月21日～ 12月12日	5	2,242
おいでよ！たごの芸 術会	あらゆる世代を対象に余暇を楽しむコンサートやマジックショーを開催し、地域情報を得たり住民同士の交流を図った。	6月22日 10月26日 12月20日 1月25日	4	119
たごっ子まつり	地域活性化を目指し、実行委員や参加者が協力し、ステージ発表、作品展示、模擬店、田子小・田子中ジョイントコンサート等を実施した。	2月21日	1	1,000
田子市民センター懇 話会	地域団体や利用者、近隣の小・中・高校との懇談を通して、地域課題の把握や地域情報の共有を図った。	6月27日 12月11日	2	23
田子の魅力発信広報 部	講座企画会、「まち歩き」を企画し実施した。また、ミズアオイプロジェクトに協力し、地域の小学生を対象とした地域学習と一緒に受講し、苗の植え替え作業の支援を行った。	4月16日～ 3月18日	13	156

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

サークル及び地域の方の活動支援

地域内絵画サークルの活動を多くの方々に知っていただくために、館内に一定期間作品を展示する機会を設けたところ、利用者や展示作品を見に来る方々も相当数あり、利用者からも好評であった。

また、館内の掲示板や壁面等を活用し、講座等における作品を展示したり、地域の方々の作品を展示したりしたことで、多くの人に活動や取り組みを知ってもらうことができた。さらにホームページや募集案内等を活用した時宜を得た情報の提供と積極的な広報活動により、参加者層の幅を広げるきっかけにもなった。今後も継続的な取り組みとしたい。

福室市民センター

〔沿革〕

福室地区は西に七北田川、北は多賀城市に接し、南は仙台港背後地に囲まれた地域で、かつては豊かな田園地帯であった。昭和 30 年～40 年代にかけて住宅地や市営住宅が造成され、住環境が急速に整備された。国道 45 号線、JR 仙石線の沿線という利便性から、最近では仙台港背後地の開発や商業施設の増加に伴い、高層住宅、集合住宅が増え、人口は増加傾向にある。旧来の農地は激減したが、今も七北田川周辺の豊かな自然は健在である。

同地区に位置する福室市民センターは、中野中学校区を対象地域として平成 15 年 3 月に開館し、児童館、コミュニティ防災センターを併設している。年々利用者も増加し、地域住民の生涯学習の拠点として、広く親しまれ利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	地域で育む学びの芽		
参加者	小学生	延参加者	164 名
開催日	全 4 回 令和 7 年 11 月 7 日（金）、12 月 19 日（金）、2 月 14 日（土）、3 月 7 日（土）		
協力者・協力団体	福室小学校、高砂おたから探訪の会、仙台市天文台		
ねらい	地域人材を活用して小学生へ地域学習の機会を作るとともに、気軽に参加できる工作やニュースポーツをすることにより世代間交流や近隣の小学生同士が交流する機会を設け、コミュニケーション力向上の一助とする		
概要・成果	地元学を学ぶ「高砂おたから探訪の会」を講師に福室小学校の 3 年生を対象とした「歴史ウォーク」を開催した。講師は日ごろの学習の成果を児童の学びに生かすとともに、児童は世代間交流をしながら地域学習をすることができた。「移動天文台ベガ号の星空観察会」では星の観察を通して参加者同士の会話が弾み、あたたかな交流の場が形成された。「ボッチャ大会」では世代を超えた様々な参加者が集い、初対面同士でチームを結成し、優勝を目指した。チーム内での協力はもちろん、他チームにもエールを送るなどゲームと交流を楽しむことができた。「科学実験と簡単工作」では、空気砲やストロー飛行機など 3 点を作製し、できた作品を使って、隣接する小学校児童たちが和気あいあいとゲームをする場面が見られた。 児童の学びや遊びの場面に地域住民が参加する機会を増やすことで、世代を超えた交流が図られ、地域ぐるみの子育てや児童の健全育成の一助となった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ほんわか子育てタイム	小学生の保護者対象の子育て講話や、小学生親子向けクッキング講座、乳幼児親子向け造形講座など、講話や親子でふれあいながら学べる講座を実施した。	7 月 12 日 9 月 20 日 11 月 28 日	3	87
インリーダー研修会	子供会世話人と代表児童を対象に、子供会の運営方法やレクリエーションについて学ぶ研修会を実施した。	1 月 31 日	1	18
福室いきいき倶楽部	スマホ操作が苦手な高齢者を対象としたスマホの基本操作と詐欺対策の講座や、フレイル予防のために音楽に合わせて楽しくできる健康体操の講座を実施した。	7 月 9 日 16 日 11 月 7 日 14 日 21 日	5	80

福室老壮大学	地域の高齢者を対象に、現代社会に応じた様々な学びを提供し、地域でいきいきと暮らせるよう図った。また受講生同士が交流できる場を提供した。	5月28日～ 2月27日	9	476
福室音楽サロン	こども食堂と連携し「アイリッシュコンサート」「クリスマスコンサート」を実施。幅広い世代が参加した。また「ゲーム音楽コンサート」では、普段利用の少ない中高生や親子連れが多く参加した。	7月13日 10月4日 12月14日	3	178
だれでもサロンまざらいん	太極拳、ハンドメイドサロンやブックフェスタ、縁芸場など多様な講座を開催し、希薄化している地域住民同士の交流や情報交換の機会を提供した。	6月21日～ 1月17日	12	421
第19回福室市民センターまつり	市民センター利用団体や地域住民、近隣学校等に、日頃の学習成果を発表する機会の提供と、交流の場として開催した。	11月1日	1	800
地域懇談会	市民センターの事業説明及び事業報告と市民センターへの意見、要望を聞く場として開催した。地域団体の情報交換の場としても有効であった。	6月3日 2月19日 26日	3	50
ふくむろ防災塾2025	今後の災害に備えて、地域の諸団体、学校と連携して避難所運営委員会及び地域の防災対応力向上を図る機会を設けた。	5月31日 6月15日 10月17日 11月9日 2月28日	5	135
市民企画会「ちまちま応援隊」	地域の小学生を対象とした体験型学習の講座を企画・実施した。工作や調理などを企画員自ら準備・指導し、こども達と交流を図ったことで、地域の子育てを支える人材育成につながった。	6月6日～ 2月6日	12	94

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「楽々フィットネスクラブ」サークル立ち上げを支援

中高年を対象とした健康やフレイル予防の講座「福室いきいき倶楽部」を実施したところ、受講生から講座終了後も継続して活動したいとの声が上がったため、サークルの立ち上げを支援した。

サークルに参加はしたいが、世話役になることや会費がかかることをためらう受講生もいるなか、役員を担ってくれる方たちと規約づくりや役割分担などサークルを立ち上げるにあたっての相談を重ねて行った。会員募集の際は、市民センターだよりやポスター掲示で広報し、広く参加者を募ることに協力した。その結果、サークルの運営が可能な人数が集まり、サークル活動を軌道に乗せることができた。また、市民センターの部屋の申込みや減免手続きについても適宜案内したことで、自分たちでスムーズに運営できるようになった。

既存のサークルが高齢化や新型コロナの影響で減少する中、新しいサークルの立ち上げにより地域で活動できる機会が増えたことで、地域活性化の一助となった。

今後も他のサークルも含め、サークル活動が活発になるよう支援を続けていく。

若林区中央市民センター

〔沿革〕

若林区中央市民センターは、昭和 53 年、当時の養種園の改築に伴い、養種園の複合施設として「南小泉市民福祉会館」の名称で開館し、その後、条例改正により「南小泉市民センター」と名称を変え、平成 5 年 9 月 28 日、若林区文化センターの新設に伴い移転して、現在の「若林区中央市民センター」となった。また平成 29 年には、若林区中央市民センター別棟が、南小泉児童館、社会福祉協議会、子育てふれあいプラザとの複合施設として移転・新築された。当市民センターを含む若林区文化センターは図書館・市政情報センターも併設されている複合施設である。こうした立地の下、当市民センターは地域の生涯学習活動の拠点として多くの区民に活用されている。

令和 5 年 4 月から大規模改修を行い、令和 7 年 7 月に再開した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	★若中防災・減災講座		
参加者	小学生 南小泉中学校夜間学級生徒	延参加者	298 人
開催日	全 6 回 令和 7 年 8 月 19 日（火）～12 月 12 日（金）		
協力者・協力団体	共催：若林区まちづくり推進部若林区中央市民センター 連携：南小泉小学校、遠見塚小学校、大和小学校、南小泉児童館、大和児童館、南小泉中学校夜間学級		
ねらい	東日本大震災のような甚大な被害を知らない世代に、避難行動の大切さや命を守る方法について学ぶ機会を提供することで、災害に対する知識を深める。 また、各団体と共催・連携し、災害に対する地域防災対策や情報の共有に繋げる。		
概要・成果	昨今、全国的に様々な災害が多発していることから、幼少期から危機意識や自助共助の力を高められるよう、防災についての学びの機会を提供してきた。 児童館では小学 1 年生を対象に防災教育用のカードゲームを活用して、災害から身を守るための方法を学ぶ講座を実施した。小学校では 4 年生・5 年生を対象に心肺蘇生訓練や防災グッズ作りを実践し、一人一人の防災意識向上を図る講座を実施した。講座開催に合わせて地域防災訓練と授業参観が行われた小学校もあり、家庭や地域全体での防災意識の向上に繋がった。中学校夜間学級では 10 代から 70 代までの生徒が地域内外から通学していることから、生徒それぞれが住む地域の災害予測情報や日頃の備えの重要性などを伝えることができた。講座を通じて、学校が課題と捉えていた生徒と地域住民との交流の機会の提供という成果も上げることができた。 管内の児童館、小学校、中学校夜間学級の防災授業を市民センター主催で開催することは恒例となり、地域に根付いた講座といえる。防災講座の共催を通して、各団体間の連携を深め、お互いの顔が見える強固な関係の構築に繋がっている。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子で楽しむワクワク講座	乳幼児親子対象の「あそびのひろば」（共催：南小泉児童館、のびすく若林）や小学生親子対象の「おし花アートと草花探索を楽しもう」「地下鉄東西線荒井車両基地へ行ってみよう」などの体験講座を実施したことで、子育て世代の交流を深めることができた。	7 月 5 日 7 月 26 日 10 月 15 日	3	56
仙台市子ども会インリーダー研修会	令和 8 年度にリーダーとなる児童・世話人を対象に、子ども会活動についての知識やレクリエーションなどの実技を学ぶ研修会を実施した。	2 月 14 日	1	44

《若林区》

市民企画講座 「ワイワイ！こどもまつり」	地域の小学生以下を対象に、紙ひこうきや工作、バルーンアート、ニュースポーツなどの遊び場を提供した。また、ジュニアリーダーや中学生・高校生のボランティアの参加により、異世代地域交流が深まった。	10月11日	1	130
楽しさ発見！ いろいろ体験講座	成人を対象に「みつろうから作るハンドクリーム」「まち探検でタイムトリップ」「コーヒー講座」「消しゴムはんこワークショップ」を開催し、同じ趣味や興味を持つ仲間づくりの場を提供した。参加者は市民センターを初めて利用する方が多く、市民センター事業を知ってもらう機会となった。	6月26日～ 1月29日	5	61
南小泉老壮大学	地域の高齢者を対象に、定期的に集う学習の場として、様々な分野（歴史、防災、健康、防犯など）の講話や音楽鑑賞などの講座を全7回開催した。	7月9日～ 2月4日	7	426
こんにちは！ 市民センターです。	地域の諸団体と共催・連携し、「防災食づくりを体験」「オレオレ詐欺等の被害にあわないための防犯講座」「ジュニアリーダーとあそぼう」などの出前講座を中心に開催。地域団体との関係強化と参加者同士の交流を深める役割を担っている。	8月2日 1月16日 1月24日	3	60
仙台七夕に願いを	若林区文化センター・若林図書館と共催し、七夕飾りの制作やミニ吹き流し制作など「仙台七夕」に関する事業を開催し、地域住民に交流の場を提供した。また、南小泉児童館・のびすく若林の協力も得て、館内への飾り付けを行った。	7月10日 7月17日 7月24日 7月31日	4	31
若林区中央市民センター 「みんなのコンサート」	仙台フィルハーモニー管弦楽団メンバーとピアニストによる、幅広い年代が気軽に楽しめるコンサートを開催した。誰でも気軽に参加できるコンサートとして広くPRしたことで、市民センターを知ってもらう良い機会となった。	8月30日	1	135
若林区中央市民センター 学習発表フェスタ	地域で活動するサークルや団体の日頃の成果発表と活動活性化、地域住民の学習意欲の向上や交流を目的に、作品展示、ステージ発表、イベントコーナー、ジュニアコーナーなどを行った。	9月27日	1	600
若林区中央市民センター地域懇話会	地域の諸団体と話し合う機会を設け、地域全体で課題に取り組み、参加団体同士の協力体制強化を目的としている。「市民センター事業報告と計画」「共催連携に向けて」など、情報交換や意見交換を行い、顔の見える関係づくりに寄与している。	6月20日 2月19日	2	32
市民企画会議 「子どもイベントを考えよう」	企画員が話し合いを重ね、地域のこどもたちが気軽に遊び、交流する場として、「ワイワイ！こどもまつり」を企画運営した。企画員は地域人材として、様々な形で活躍の場を広げている。	5月24日～ 10月22日	7	29

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

地域サークルやボランティア団体、地域団体等の活動支援

若林区中央市民センターは、ジュニアリーダー「JARO」の活動拠点となっており、定例会や各種研修会、要請対応などの支援をおこなっている。ジュニアリーダーは、子ども会や町内会行事からの要請のほか、市民センター事業への参加など、幅広く活動している。

令和7年度は、地域懇話会をきっかけに大和児童館へ声掛けをし、新たに「ジュニアリーダーとあそぼう」を開催した。ジュニアリーダーが自ら講座の企画・運営を担うことでスキルアップにつながり、参加したこどもたちにとっては、講座を通じてボランティア活動に触れる貴重な機会となった。

他の児童館においてもジュニアリーダーへのニーズが多いことを受け、令和8年度の講座開催に繋がるなど、市民センターの働きかけがジュニアリーダーの活動を地域に広める役割を果たした。

七郷市民センター

〔沿革〕

七郷市民センターは、地元住民の要望により「七郷公民館」として昭和 58 年 4 月に保健センター・コミュニティ防災センターとの複合施設として開館し、平成元年には「七郷公民館・市民センター」となり、若林区の拠点館となった。平成 2 年に「七郷市民センター」と改称。その後、平成 5 年 9 月に若林区中央市民センターの開館に伴い拠点館機能を移行。平成 14 年 4 月には児童館を併設し、さらに平成 22 年 2 月に大規模改修工事を終え、七郷証明発行センターが併設された。

七郷地区は、復興公営住宅や防災集団移転を含めた土地区画整理事業が進展。地下鉄東西線の開業、医療施設やショッピングモール等の施設充実により人口が急増し、令和 6 年 5 月の統計で 32,000 人超となっている。利用者も年々増加し、事業実施や生涯学習支援業務にとどまらず、地域住民の日常生活支援・相談も業務の一つになっている。反面、流入人口の増加により、地域コミュニティの根幹に関わる様々な問題や課題が浮き彫りになってきており、新たな人のつながりの構築が必要な段階に入ってきている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●市民企画講座「Nana フェス！」		
参加者	地域の方どなたでも	延参加者	298 人
開催日	全 12 回 令和 7 年 4 月 17 日（木）～令和 8 年 2 月 21 日（土）		
協力者・協力団体	若林区中央市民センター、七郷児童館、蒲町児童館、中荒井町内会、七郷学区民体育振興会、（一社）荒井タウンマネジメント、せんだい 3.11 メモリアル交流館、七郷小・荒井小・蒲町小社会学級、あらいこども食堂、ちゃいるどらんどなないろの里こども園、マイムケア、七郷市民まつり実行委員会		
ねらい	地域の発展とともに新旧住民同士の交流や地域コミュニティにかかる様々な課題が懇話会や企画会議で上がった。そこで、市民企画員とともに、地域コミュニティ再構築と地域の活性化につながる講座を企画運営する。企画員が地域を支える人材となるよう支援しながら、様々な地域の団体と協働で事業を行うことで事業成果の相乗効果を期待し、交流や参画を通じて地域力の向上を目指せるよう展開する。		
概要・成果	6 回の企画会議を経て、こども達の健やかな成長を支える環境づくりの場や、参加者同士の絆や繋がりを深める場となり「出会い・ふれあい・学び合い」を意識し、音楽やダンス、光をテーマとした企画講座「Nana フェス！～七郷黄昏交響曲～」を開催した。 当日の発表を目標に生涯学習の場となるよう、小学生向けにチアダンス、中高生向けにダンス、大人向けに合唱の講座を展開した。また、地域の様々な団体の協力を得て制作したペットボトルイルミネーションの展示を通じて、当日の参加が難しい方へも地域活動へ参加する機会の提供となった。講座当日は、体験講座を経た大人・若者・こどもや普段から市民センターを拠点に活動している団体が取組の成果を発信し、250 人を超える参加者が集った。 企画員は、地域に対する思いや地域の現状、解決すべき課題の共有や意見の交換を行ったことで一体感が生まれ、地域コミュニティ再構築への機運を高める事業を行うことができた。また、地域活動に関わる様々な団体に所属している企画員が多く、それぞれの強みを活かし、地域づくりネットワークの形成を、スムーズに繋げることができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てはっぴいタイム	乳幼児子育て世代が、孤立することなく地域や仲間と交流したり、親子の絆を深めたりする機会として、こども夏祭り、親子運動、プレーパーク等を開催し、悩みや不安の解消に繋がった。	7 月 9 日～ 3 月 27 日	5	186

《若林区》

●みんな集まれ！なないろ☆ちびっこフェス	七郷にある児童館 3 館や区家庭健康課と共催し、地域の子育て関連団体と協力のうえ、遊び、読み聞かせ、バルーンアート、工作、各種相談、情報提供等を展開するフェスを開催し、集いと交流の場の提供と不安や悩みの軽減を図った。	9 月 30 日	1	193
七郷こどもクラブ	小学生と小学生親子を対象に、調理実習やものづくりなどの体験学習、施設の見学等を通して、学年の違う児童同士が好奇心を育みコミュニケーション力を身につけたり、親子の絆を深めたりする機会を提供した。	6 月 28 日～ 12 月 6 日	13	437
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と子ども会の世話人を対象に、子ども会活動に必要な知識、技能などを学習する機会を提供し、子ども会活動の充実と活性化を図った。	2 月 15 日	1	28
なないろ NewSchool	小学校高学年から中高生を対象に、自己表現力や肯定感、創造性の向上を目的とした体験活動として、ギター演奏、イラスト制作、J-POP ダンスを学ぶ講座を開催した。	9 月 14 日～ 12 月 6 日	8	37
七郷老壮大学	歴史、音楽、健康などをテーマにした講話と実技の講座や、自主運営委員会の企画等を通じて、地域の高齢者の社会的孤立や心身の機能低下を防ぎ、他者とのつながりを感じられる交流の場と学びを提供した。	5 月 14 日～ 3 月 11 日	10	779
七郷防災講座	近年、自然災害が国内で相次いで発生しており、いづどこでも起こり得る災害に対する意識を高め、役立つ知識を学ぶ機会を提供し、地域防災力向上を図る講座を開催した。	7 月 16 日 9 月 27 日 1 月 24 日	3	57
七郷市民まつり	町内会や地域諸団体等が協力しながら、地域コミュニティ構築と地域のさらなる発展をめざし開催した。利用サークルや地域団体、小中学校による舞台発表・作品展示、農産物の販売等を行った。	11 月 16 日	1	13, 256
七郷地域懇話会	得られた情報や課題を事業運営に反映し地域の活性化を図ることを目的に、幅広く地域の学習ニーズや課題・情報等を把握するための懇話会を開催した。児童館との共催とし、情報を共有しながら、地域団体との相互理解を深めることができ、出席者から好評を得た。	6 月 28 日 10 月 5 日 2 月 10 日	3	47
みんなのまち七郷	地域懇話会等で出た地域の課題・問題の軽減を目指し、誰でも参加可能で住民同士の交流の場となるよう、様々な地域団体と連携しながら、七夕飾りづくり、歌声サロン、ダーツ、お正月あそび等の講座を開催した。	6 月 25 日～ 1 月 10 日	6	281

〔令和 7 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜（さとはま）」の活動支援

七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜」は、平成 25 年度から 3 年に渡り実施した事業「未来への伝言―七郷を語り継ぐ」の参加者により平成 27 年 12 月に結成された。活動は 11 年目を迎え、七郷地域の方や全国各地から荒浜を訪れる方々に七郷の歴史や伝統・風土を伝える活動や、東日本大震災からの復興状況や震災前の荒浜について後世に語り継ぐ活動を行っている。令和 7 年度は、県内外から参加した震災語り継ぎ活動への要請を受け、ボランティアの活動がスムーズに進むよう仲介等の支援をしたほか、七郷中学校の教員と生徒に向けて、活動メンバー募集のチラシ配布や「七郷かるた」を活用し、郷土醸成の機会と世代間交流に繋がるかるた取り事業の支援等を行った。

荒町市民センター

〔沿革〕

荒町市民センターは、昭和 47 年に旧斎藤記念館を全面改築し、「荒町市民福祉会館」として昭和 48 年 5 月に開館した。昭和 58 年 4 月「荒町市民センター」と名称変更した。施設は、老朽化と機能拡充の必要性から現在地に建物を改築し、平成 22 年 2 月 2 日に開館した。

当市民センターが所在する荒町地区は、仙台市のほぼ中心部、昔からの商店街である荒町商店街の一角に位置しており、仙台藩の名残を今尚残している地域である。

地下鉄五橋駅から徒歩 5 分、JR 仙台駅から徒歩 20 分と交通の便に恵まれ地域の方をはじめ市内全域から多くの市民に利用されている当市民センターは、日中はもとより、夜間も仕事帰りの活動の場として、幅広い年齢層に活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座 麴の町 荒町 みんなで作ろう本場の味噌		
参加者	どなたでも	延参加者	24 人
開催日	全 1 回 令和 7 年 11 月 29 日（土）		
協力者・協力団体	荒町社会学級		
ねらい	地域の伝統を次世代につなぐ場として、伝承の麴を使って実際に味噌を作り、麴の町の歴史を学ぶ。地域の大学生や子育て世代等の参加を促すことで、自らの食を見直す食育の場としての側面も担い、世代間交流の場ともなることを目指す。		
概要・成果	地域に唯一残る麴店の方を講師に迎え、味噌の作り方や麴の町荒町の歴史についてお話を伺い、伝統の麴で作る味噌作りの体験を行った。20 代の学生、小学生親子等の子育て世代、高齢者など様々な世代が集まったことから、班編成では世代が偏らないよう工夫したことで、交流をしながら世代を超えた味噌づくりを行うことができた。参加者は講師の歴史の話に熱心に耳を傾けるだけでなく麴店に関する質問をする等、当事業を通して地域への関心が高まったこともうかがえた。また、小学生や大学生の参加者からは、初めて味噌を作ったことで味噌作りの大変さや想像以上に力仕事であることがわかったこと等の声が寄せられ、食育の場としての役割を果たすことができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
仙台市子ども会インリーダー研修会	荒町・連坊小路小学区の子ども会の 5 年生児童及び世話人を対象に講話や実技を通し、子ども会の意義やレクリエーションゲームについて学ぶ機会を提供した。	1 月 31 日	1	12
キッズランド	こども達が楽しく体験しながら様々な気付きを得て学びの関心へと繋がるよう、キッズフェスタ、ジュニアリーダーとあそぼう、和紙で作るくるくるライトを開催。	6 月 15 日 11 月 9 日 11 月 22 日 12 月 14 日	4	64
本のお楽しみ会	図書館職員をコーディネーターに招き、講師と受講生が自己紹介を兼ね、お勧め本について語り合うことで交流を図った。	6 月 20 日 7 月 4 日	2	13
姉妹都市の徳島ってどんなところ？	座学 1 回、阿波踊りの発表を含め体験を 10 回開催。座学では観光姉妹都市の徳島市について学び、阿波踊りの練習を毎月 2 回行い市民センター・児童館フェスティバルで発表した。	5 月 10 日～ 10 月 18 日	11	105

《若林区》

あらまち町民大学 シルバーセミナー	コンサート、ボッチャ体験、健康や防犯、身近な野鳥の話のほか独占禁止法について学んだ。また受講生が中心となり企画・運営した新春のつどいでは班ごとに出し物を行った。	5月21日～ 3月4日	10	636
荒町で感じる四季 の移ろい	地域資源である公園を活用し、スマホによる写真撮影会を行い、フェスティバルで展示した。地域で活動する人材・各団体と協力、連携しながらあじさい剪定、落ち葉掃き、イルミネーションを開催した。	6月5日～ 12月7日 12月～1月	5	165
伝統の仙台七夕飾り をつくろう	地域の方を講師に迎え、仙台七夕の歴史を学んだ。伝統の荒町商店街七夕まつりを盛り上げるための一助として、ピロティ用、商店街用、持ち帰り用の七夕飾りを制作した。	6月26日～ 7月31日	6	110
仙台荒町子まもり プロジェクト 地域向け防犯講座 「いざに備えて防 犯講座」	こどもから高齢者まで、幅広い年齢に合わせ、防犯ポスターコンクール、防犯講座、防犯ハロウィン駆け込み訓練を開催した。	10月15日 10月29日 9月～10月	3	553
いざという時どう する！防災減災	こども防災では、いざという時に自分の身を守れるよう講話やあっぱくんを使った心臓マッサージとAED体験を行った。地域防災では在宅避難や備えについて学んだ。	10月25日 11月14日	2	35
見つけよう！街の 魅力（奥州街道編）	①講話：伊達政宗のまちづくりと街道の整備②街歩き：奥州街道を歩く田町～芭蕉の辻③講話：中世の仙台～伊達政宗が登場する前、鎌倉・室町時代の世界④⑤企画会議	5月25日～ 12月20日	5	42
荒町市民センター・ 児童館フェスティ バル	地域住民・学校及び荒町市民センター・児童館を拠点に活動しているサークル団体や講座受講生が、学習成果の発表と地域交流の場としてステージ・展示発表・体験コーナー・地域のお店コーナー・児童館コーナーを行った。	10月4日	1	1,064
荒町市民センター 地域懇談会	地域に関心の高い利用団体と、また、子まもりプロジェクト実行委員会の中で、地域の状況について情報交換をし、センターの役割や事業について感想や要望を伺った。	8月21日 11月12日	2	42
荒町市民企画会議	荒町社会学級生が企画員として参加し、地域の情報の中から、麴の町として始まった荒町に唯一残った麴店に着目した。11月29日「麴の町荒町みんなで作ろう本場の味噌」を企画・運営した。	6月26日～ 12月20日	8	22

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

学びのコミュニティ推進事業の活動支援

荒町には歴史的な遺産や先人の逸話が数多くあることから、次世代に引き継ぐために地域内の団体が連携して荒町の歴史をつなぎ、「誇りを持って未来を担う」こども達を育成することを目的とした「荒町の歴史をつなぐプロジェクト」が立ち上がった。この活動を市民センターでは荒町地区学びのコミュニティ推進事業として、運営の助言等をしながら共に活動することになり、まずは偉人の一人である元海軍中尉齋藤七五郎氏の紙芝居を完成させた。紙芝居は小学校や市民センターで多くの人に見てもらうことができ、地域への関心を高め、住民同士の交流を深める機会にもなった。

六郷市民センター

〔沿革〕

昭和 56 年、地域住民の福祉増進を目的に保健センターとの複合施設「六郷市民福祉会館」が開館し、昭和 58 年に「六郷市民センター」と名称を改め、地域の社会教育活動の場として定着した。平成元年には公民館としての機能が加わり、平成 2 年には「六郷児童館」を併設、さらに平成 22 年 12 月に大規模改修工事を終えて再開し、生涯学習の拠点として現在に至っている。

六郷地域は名取川と広瀬川の合流点を有し、美しい干潟や貞山堀運河、屋敷林の居久根など自然環境や歴史的遺産等に恵まれていた。しかし、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、沿岸の六郷東部地区は住宅・学校・農地・事業所といった生活基盤のほとんどが壊滅的かつ甚大な被害を受け、地域が一変した。また平成 29 年 3 月末には東六郷小学校が六郷小学校と統合し閉校となった。

現在、六郷地区の再スタートということで、地域住民・町内会・各団体と連携を保ち、情報を共有しながら、地域を支えられる人材育成の推進と新たな地域の活性化に努めている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★市民企画会議「わたしのふるさとプロジェクト」		
参加者	地域住民	延参加者	1,413 人
開催日	全 12 回 令和 7 年 4 月 16 日（水）～令和 8 年 3 月 18 日（水）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部若林区中央市民センター		
ねらい	東日本大震災による被災や人口減少で閉校した小学校の跡地を活用し、地域のつながりと賑わいを再生するためのイベントを企画する。これにより震災の記憶を共有し、復興への道のりを語り合う貴重な機会を提供するとともに、新旧住民の交流や支援の場として機能させる。地域のリソースを最大限に活用し、共通の目標に向けて活動する基盤を構築することで、地域ネットワークの再生と強化を目指す。		
概要・成果	「わたしのふるさとプロジェクト」には地域を担う若い世代が企画員として集まり、地域活性化のために高い意識を持って活動に臨んでいる。令和 7 年度は企画会議で検討を重ね、東六郷小学校跡地を会場に「来てけさいん♪六郷東部夏祭り」と「ふるさとにつどう・つたえる鎮魂の花火」を開催した。イベントには幅広い年代の方々が訪れ、震災前の東六郷小と地域の歴史を伝え、交流の場を提供するという目的を達成することができた。特に「鎮魂の花火」では、東日本大震災直後の六郷中学校の歩みを記録した映像を上映するなど、伝承にも力を入れた内容となった。震災から 15 年が経ち、当時を知らない若い世代にもこの活動を伝えるために、今後は伝承活動もテーマに組み込んで活動することとした。新たに伝承活動へ目を向けることで、メンバーの目的意識や、やりがいをもたらし、若い世代や地域外へ活動の幅が広がる指針を作ることができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
出前のびすく六郷子育てサロン	乳幼児親子を対象に、手形アートや工作を楽しむサロンを実施した。同室内で地域団体による見守り託児を行い、育児中のリフレッシュや、親子同士の交流の機会とした。	7 月 18 日 11 月 21 日	2	51
楽しく体験！六郷クラブ	小学生を対象に、そば打ちやバルーンアート、英語あそび、天体観測など体験型の講座を実施した。講師に地域の中高生などを活用することで、異世代間交流の機会とした。	8 月 9 日～ 1 月 16 日	5	163

《若林区》

インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、子ども会活動の意義や役割を学び、レクリエーションゲーム等の技術を提供した。	2月14日	1	5
六郷充実ライフ	様々な体験型講座を開催し、幅広い世代に向けて交流の場を提供。新たな趣味の発見、さらに仲間と出会う機会を設け、生きがいつくり、仲間づくりの一助となった。	5月1日 9月17日 11月18日 12月4日	4	46
六郷あすなろ大学	高齢者を対象に、定期開催の学習の場を提供した。歴史・健康・音楽鑑賞等バラエティに富んだ内容や運営委員による自主企画で受講生同士の交流を深めた。	5月15日～ 3月5日	10	504
まるっと六郷！六郷の魅力みつけた！	六郷産の野菜を使用した調理実習と、歴史講話を実施した。地域生産者との交流や調理、地域史についての学びを通して、地元への興味関心や郷土愛を育む機会とした。	11月29日 1月28日	2	32
六郷お月見会	地域の団体と実行委員会を組織し、伝統行事を体験する場としてお月見会を開催した。会議は反省会を含め3回、講座は秋の虫の話、月の観察、親子工作等を行った。	8月6日 9月10日 10月4日 11月5日	4	51
●六郷地域防災事業	地域の安全は地域で守ることができるよう住民全体の委員会を中心に、学校、団体、行政等が連携して総合防災訓練等の防災事業に取り組んだ。	5月1日～ 2月20日	8	2109
令和7年度 六郷市民まつり	地域交流に重点を置いたまつりを企画、開催した。ステージや展示によるサークル・地域団体等の学習成果発表、出店、大抽選会等を行い、地域活性化を図った。	11月9日	1	3500
市民センター懇談会	当館の運営方針や事業内容を地域住民や諸団体、ボランティア、サークル等の利用者の方々に周知し、意見・要望を伺い、地域づくりや人づくりに役立つ運営を目指した。	5月22日 2月6日	2	53

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

大学研究室と地域とのコーディネート

東北学院大学地域コミュニティ学科の菅原研究室から、「地域コミュニティについて六郷地区を対象に研究するため協力してほしい」との依頼があり、地域情報の提供や地域人材の紹介、地域団体との取次ぎなどを年間通して行った。これを機に「六郷市民まつり」や地域行事などに大学生が積極的に参加し、運営にも携わったことで、イベントがより活気あるものになった。また、市民センターを会場にゼミ生主催のワークショップを開催し、中学生から高齢者まで様々な世代の地域住民が集まって、六郷の魅力等について和気あいあいと話し合った。地域の課題でもあった世代間交流の機会となっただけでなく、住民が地域の良さを再発見し共有することもでき、地域活性化の新たな可能性を感じさせるものとなった。

若林市民センター

〔沿革〕

若林市民センターは、平成 3 年 4 月に若林児童館、コミュニティ防災センターを併設して開館した。以来、地域の社会教育活動や福利厚生活動に活用され、親しまれて現在に至っている。令和元年度には大規模修繕を実施し、令和 2 年 4 月に再開した。

管内は藩政時代伊達政宗公ゆかりの史跡や広瀬川舟運、商人の町の歴史ある町名を残すとともに、広大な河川公園などがあり、自然に恵まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	知って安心！認知症講座		
参加者	地域住民どなたでも	延参加者	79 人
開催日	全 5 回 令和 7 年 7 月 23 日～11 月 26 日		
協力者・協力団体	河原町地域包括支援センター		
ねらい	認知症について継続的に学ぶことにより、認知症に対する悩みや不安を解消し、認知症への理解を深めることを目指す。河原町地域包括センターとの連携を図り、認知症に関する情報を適切に提供し、地域で支え合える関係づくりを目的に開催した。		
概要・成果	本事業は、令和 4 年度から継続的に開催しており、認知症に関心のある地域住民の方々と講座の企画を行っている。令和 7 年度は、高齢者の運転や、健康のための食事を調理し、試食したりと関心の高いテーマを企画、実施した。また、河原町地域包括支援センターの職員がコーディネーターとして、介護者やご家族の交流会や、患者ご本人の思いをもとに座談会を行い当事者に寄り添った内容の講座となった。 受講者からは、「いつ運転をやめるか夫婦で話し合うことができてよかった。」「皆で調理実習をして楽しかった。」「交流会では具体的な話が聞けてよかった。何かの時に頼れるところが必要だと思った。」といった声が聞かれ、大変好評であった。継続的に認知症講座を開催してきたことで、受講生の輪が広がり、「地域で支え合う関係づくり」に向けた下地ができつつある。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●親子のすっきりタイム	乳幼児と保護者を対象に、区家庭健康課からの子育てに関わる情報提供や交流を目的として、講話や工作、親子で一緒に楽しめるプログラムなどを提供した。	6 月 3 日 7 月 15 日 2 月 17 日	3	42
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会の活動を充実させるため、児童向けのグループワーク、保護者向けの講話と情報交換を行った。また、児童が計画したレクリエーションゲームを保護者と一緒に体験した。	2 月 15 日	1	51
わかばやしチャレンジクラブ	近隣 3 小学校児童を対象に、学校の授業だけでは体験できない学習をとおして、社会性を育み興味関心の幅を広げられるよう、運動や工作、e スポーツ等の学びの機会を提供した。	6 月 7 日～ 2 月 8 日	5	51

《若林区》

若林小学校連携事業 「わかばやし歴史探検」	若林小学校 5 年生を対象に、仙台の歴史や広瀬川についてのブックトークや、文化財課による歴史講話、地域散策を行い、自分が住む地域について学び、郷土への理解と愛着を深める機会を提供した。	11 月 14 日 11 月 18 日 11 月 27 日	3	150
古城小学校連携事業 「仙台まち再発見」	古城小学校 5 年生を対象に、地域の歴史的な遺産に触れ、地域への理解を深める機会とするため、自然と歴史に関するブックトークや、文化財課と連携して、地域の歴史や遺物に関わる講話、校外学習などを行った。	7 月 10 日 7 月 11 日 12 月 3 日	3	174
若林老壮大学	高齢者が孤立せず豊かな人生を送れるよう、心身の健康についての講話や運動体験のほか、相続に関わる情報を学ぶ講座、受講生同士の交流会、ゲーム体験等を実施した。	4 月 18 日～ 3 月 6 日	11	656
大人のリフレッシュ タイム	地域のミドル世代を対象に、地域活動への参加の一步として、親しみやすく興味関心を引く珈琲やマールアート、アロマヨガ等を題材とした講座を企画し、実施した。	8 月 28 日 9 月 26 日 10 月 21 日 12 月 26 日	4	62
★防災講座「みんなで 守ろう！若林」	直下型地震や洪水、内水浸水等の災害が懸念される区域であることから、防災士をファシリテーターとして、小学生と保護者を対象に防災ゲームを行い、防災減災意識を高め、自助共助の意識づけや地域の災害対応力の向上を図った。	10 月 21 日	2	57
若林ふれあいまつり	地域住民の交流の場として、サークル活動のステージ発表や、作品展示、交通安全や防災についての展示、軽食出店、児童館あそび広場を行った。	10 月 12 日	1	765
わかばやし気軽にコ ンサート	音楽をより身近に感じてもらう機会となるよう若林地区民児協と共催し、市民センターを会場に 3 世代交流スマイルコンサートを開催した。また、モンゴルの馬頭琴の演奏を楽しむ講座を行った。	5 月 25 日 11 月 22 日 1 月 24 日	3	240
地域懇話会	令和 7 年度の施設利用状況や事業内容を紹介するとともに、様々な意見や要望等を伺い、講座の企画をはじめ市民センターの施設運営等に生かした。	11 月 13 日 2 月 21 日	2	19

〔令和 7 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「河原町地域包括支援センター」によるコーディネート

河原町地域包括支援センターは、令和 4 年度から主催事業「知って安心！認知症講座」を連携して行っている団体である。令和 7 年度は、前年度より 1 講座増やし、全 5 回とし参加人数が 1.6 倍増加した。認知症の家族を持つ受講生も参加し、真剣に学ぶ姿が見られ、高齢者の免許返納について、自分事、家族事として考える機会となった。また、交流会では、介護の経験談や疑問、質問等気軽に話し合い、認知症になったとしても支え合えるパートナーがいることで変わりなく生活できて、新しいことにもチャレンジできるといった意見が述べられた。河原町地域包括支援センターを利用したことがない地域住民にとっては、相談・支援業務を行う包括支援センターの役割について認識するきっかけになったとともに、河原町地域包括支援センターにとっても、新しい活動の場が広がり、当市民センターとの今後の連携強化にもつなげることができた。

沖野市民センター

〔沿革〕

沖野市民センターは、平成3年4月、児童館・老人福祉センター及びデイサービスセンターとの複合施設としてオープンした（デイサービスセンターは令和4年3月に閉鎖）。東側に田園が広がり、西側はバイパスを境に住宅が密集している。多種の木々と、老人クラブや地域の方々が善意で植えてくださった花壇が、センター前広場に彩りを添えており、こうした花と緑豊かな広場を持つ当市民センターは、地域住民の憩いとふれあいの場所として利用されている。

地域住民の生涯学習活動に対する関心は高く、自主サークル活動も盛んである。また、町内会や老人クラブの結束力が強く、活動も活発で、学校や他の公共施設等とも円滑な関係を保っている。様々な分野の達人も多く、地域人材も豊富な地域である。令和4年秋に大規模修繕を完了し、同年11月から再開している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★進め！沖野ひまわりプロジェクト		
参加者	沖野ひまわりプロジェクト子ども実行委員会・沖野児童館・地域ボランティア・地域住民	延参加者	501人
開催日	全10回 令和7年4月17日（木）～令和8年3月11日（水）		
協力者・協力団体	沖野児童館・若林区中央市民センター 沖野中学校・沖野小学校・沖野東小学校・沖野老人福祉センター・沖野地区包括支援センター・沖野地区10町内会・沖野館町内会老人クラブ・沖野地区地域住民		
ねらい	東日本大震災の被災地に由来を持つひまわり「石巻ど根性ひまわり」の植栽を通じ、こどもたちが中心となって震災を振り返るイベントを地域住民と開催する。震災の風化を防ぎ、こどもたちの地域住民の一員としての意識や、防災意識を育むことを目指す。		
概要・成果	沖野ひまわりプロジェクト子ども実行委員会を中心に、ひまわりの苗を育て、地域住民や地域関連団体に希望を募り、苗の配布を実施した。沖野市民センター前の花壇にもひまわりの植栽を実施し、沖野児童館児童クラブのこどもたちの協力を得、継続的な緑化活動に取り組んだ。この花壇は「仙台市緑と花いっぱい花壇コンクール」で新人賞を受賞した。また地域を巻き込んだ植栽活動は「みやぎ花のあるまちコンクール」で優秀賞を受賞した。9月には「沖野ひまわり写真展」を開催し、190名の地域住民が鑑賞に訪れた。沖野地区市民まつりでは、ひまわり植栽の御礼と石巻ど根性ひまわりを植える意義と防災活動について地域住民に伝えた。3月11日には、こども防災事業「紙コップイルミネーション」を実施し、東日本大震災の風化を防ぐ一助とするとともに、音楽鑑賞やひまわりカフェの実施を通して、地域住民同士のつながりの大切さを改めて感じることができた。		

〔令和7年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●みんな笑顔～子ども連れでも大丈夫！季節の行事を楽しもう！～	幼児親子対象に、音楽コンサート、クリスマス工作、まめまき会行事や遊びのコーナーを開催した。参加者同士が地域とのつながりをつくるきっかけと交流の機会となった。	7月12日 12月11日 1月24日	3	110
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活動する児童及び世話人が子ども会運営のために必要な知識やレクリエーション・ゲームなどの実技を学び、活動の充実と情報共有を図った。	1月31日	1	4

《若林区》

ジュニアリーダーと遊ぼう 2025	ジュニアリーダーのスキルを活かしたゲームやバルーンアート制作を行った。子どもたちが互いの学び合いやコミュニケーション力を高める機会となった。	7月29日 11月3日 12月26日	3	137
集まれ！わんぱくキッズ～お父さん出番です～	地域のおやじの会と共同で、小学生・小学生親子を対象にスポーツ鬼ごっこや相撲の取組見学等のイベントを開催した。	6月18日 ～1月21日	8	175
お仕事たんけん隊	小・中学生を対象に、eスポーツや地下鉄、自衛隊、の職場見学・講話を実施し、学校の職場体験では体験できない職業に触れる機会を提供した。	7月5日 12月26日 2月1日	3	21
沖野耕友大学	地域の高齢者が生き生きと過ごせるように、幅広い分野での学習、クラブ活動、移動学習など自主的な活動を通じ学生同士の交流の場を提供した。	5月9日～ 3月13日	10	504
安全運転講習会	併設の沖野老人福祉センターと共催し、高齢者を対象に、サボカー体験や自己認知チェックなど、長く運転を続けられるように支援する講座を開催した。	10月2日	1	15
一緒に市民センター！お近くで出前講座をいたします！～	市民センターから離れている町内会と打合せを行い、集会所などで、出前講座を開催した。市民センターの認知度、機能などを知ってもらえた。	5月24日 1月16日 2月26日	3	46
●オキノトレジャーウォーク2	健康に対する意識づけと楽しみながら運動をする習慣をつけることを目的として、親子で参加できるなぞ解きウォーキングイベントを開催した。	10月5日	1	38
★みんなの力で地域を守る	沖野中学校区で開催されている総合防災訓練にて補助避難所としての訓練を行った。実践学習を行った。	9月6日 9月20日	2	46
歩いて語って沖野を知ろう	管内小学校の社会学級、老壮大学生との連携により、沖野地域にある歴史的遺構や名所を継承していくための企画会と、まち歩きを実施した。	4月17日～ 3月28日	10	24
沖野地区市民まつり	地域団体や市民センター利用団体のステージ・展示発表、豚汁販売コーナー、模擬店、バルーンフォトスポットコーナー、こどもの広場、霞目自衛隊コーナー、クイズラリーなどを行い、地域住民が気軽に足を運べる交流の場を提供した。	11月3日	1	2900
沖野地区懇話会	地域の代表者や地域関係機関から市民センターや児童館の事業に対する評価・要望・意見を集めるため、直接意見交換する場を設けた。様々な地域情報をお互いに共有し、地域理解を深めた。	5月10日 2月4日	2	45
Okino キッズスクール～沖野盛り上げ隊～	沖野小、沖野東小を対象にメンバーを募り、ダンスチームを立ち上げた。練習の成果を地域のまつりや市民まつりなどで披露した。	6月26日 ～11月3日	5	100
沖野の自然を感じよう	沖野地域の豊かな自然に目を向け、自然環境や生物を守る大切さや地域の良さを再認識した。	5月11日 10月25日	2	16

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「おやじの会」活動支援 当市民センター管轄地域では、沖野小「親児の会」、沖野東小「沖父ちゃん会」の2つのおやじの会が活動していたが、1つの会に統合し、地域のこども達から募集した「沖野団dism」に名称を変え、新たな地域ボランティア団体として活動をしている。しかし、発足当初からのメンバーがすでにOBとなり、後継者不足の状況が続いている。このため市民センターでは、おやじの会と一緒に、大人とこどもの交流活性化を図るような講座を企画運営することで、活動のアピールや新メンバー加入につなげられるよう、支援に取り組んでいる。
--

太白区中央市民センター

〔沿革〕

太白区中央市民センターは、平成 11 年 6 月長町商店街の中核をなす JR 長町駅前に開館した複合施設内にある。同施設には当市民センターの他、太白区文化センター、太白図書館、長町児童館及び太白区情報センターも設置されている。JR やバス、地下鉄などの公共交通機関の利便性に優れた立地のため、近隣の広い地域の生涯学習活動や交流の拠点として、多くの市民が利用している。

当市民センターの周辺は、昔から仙台市南部地域における商業の中心として活況を呈してきた歴史のある地域であるが、近年は地下鉄沿線・あすと長町地区での大規模小売店の進出やマンション建設等が進み、人口の増加が著しく、加えて JR 長町駅東口「杜の広場」の整備やこのほど策定された「長町・街並みづくりプラン 2026」の進捗により、南部地域の広域拠点として、これまでも増して多くの滞在人口がのぞめる地域となってきた。当市民センターではこうした長町地区の特性を踏まえながら、講座事業をはじめ、様々なサービスが提供できるよう積極的に取り組んでいる。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	市民企画講座 「たいはっくるからの贈り物〜クラシックギターとピアノのコンサート」		
参加者	地域住民	延参加者	90 人
開催日	令和 7 年 10 月 18 日（土）		
協力者・協力団体	ながまち交流フェスタ実行委員会、太白区文化センター、太白図書館		
ねらい	長町地域は駅東側の整備など近年大きく変化し、生活に便利な環境が整っていることから転入人口が多い。そのために転入者と以前からの居住者との関わりが希薄だという意見が市民企画会議の中で企画員から出された。そこで、誰もが気軽に参加し来場者に一体感を感じてもらえるコンサートを開催することで、新旧住民が集う機会を作り課題解決につながる一助とする。地域からサポーターを募り、講座の運営をとおして住民の交流が広がる機会とし、「ながまち交流フェスタ 2025」のプレ企画として実施することで市民センターの事業を知ってもらう機会とする。		
概要・成果	地域課題の「住民間の交流の希薄さ」の解消の第一歩として、申込不要で気軽に来場できるコンサートを開催した。ステージを観客が囲むようなレイアウトとし、入口を開放して演奏の音が会場の外にも自然に届くよう工夫することで、企画員や参加者が一体感を感じられる場を創出した。当日の運営には小学生、大学生、成人と幅広い年代の地域の方もサポーターとして加わり交流の機会にもなった。また、企画員はこの講座に参加することがきっかけで地域活動の幅を広げることができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て MY STYLE	親子だけで過ごす時間が長い未就学児親子が気軽に参加できるように、アルバム作り、音楽に合わせて体を動かすリトミック、英語絵本の読み聞かせを実施した。	6 月 25 日 8 月 1 日 12 月 11 日	3	33
ながまちキッズくらぶ	地域のこどもたちを対象に、地下鉄駅見学、身近な野鳥を知る講座、ヴァイオリンに親しむ講座を実施。こどもたちに普段できない体験と学習の場を提供した。	8 月 22 日 1 月 31 日 2 月 21 日	3	58

《太白区》

インリーダー研修会	児童向けプログラムではジュニアリーダーが中心にレクリエーションの研修と講話、世話人プログラムでは子ども会と世話人の役割についての講話と情報交換を行った。	2月7日	1	55
みんなの元気講座	春編は仙台青葉学院短期大学との連携で身体・体力測定を行い、それぞれに合った運動を実施。秋編はニュースポーツ、筋トレとストレッチ、格闘技エクササイズを行った。	4月15日～ 11月18日	5	148
ながまち老壮大学 健康教養コース	高齢者が健康や教養を学べる場を提供し、「知って安心！遺言書の書き方講座」などの講話や、仙台市博物館への移動学習、文化教養コースとの合同コンサートを開催した。	5月9日～ 2月13日	9	398
ながまち老壮大学 文化教養コース	地域の高齢者を対象に歴史、芸術等、人文系講座を中心に開催した。具体的なテーマについては地域に関わるものを取り上げるようにし学習意欲の向上を図った。	5月15日～ 2月19日	9	485
わがまち防災・減災実践講座	親子が建物の消防設備や表示などを探検しながら学んだり、地域住民が消防の仕事や最新の防災知識について学ぶことで地域の防災意識が向上する機会になった。	6月28日 11月21日	2	35
太中ふれあいサロン	地域に関心を持ったり地域理解が進む機会となるよう地域の歴史をテーマにした内容を3回、参加者が交流しやすいものづくりを2回実施した。	6月14日～ 1月17日	5	83
ながまち交流フェスタ 2025	市民センターや地域で活動する団体が作品展示、舞台発表、出店等で参加し開催した。ご当地ヒーローの出演や写真展など、世代を超えて賑わい地域活性化に繋がった。	10月25日	2	1120
太白区中央市民センター 地域懇話会	利用団体、学校、町内会や地域団体の方々に市民センター・文化センターの事業等について伝え事業企画に繋がる意見をいただいた。また、参加団体の情報共有の機会にもなった。	7月24日 2月4日	2	18
市民企画会議「きらりん長町」	地域課題を捉え、その解決の第一歩となるような来場者参加型のコンサート「たいはつくるからの贈り物」を企画した。	6月7日～ 11月15日	6	23

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域団体「長町まざらいん継承委員会」との関わりについて

主催事業「太中ふれあいサロン」において地域の懐かしい写真を活用したことをきっかけに、写真を所有し現在は活動を休止している「長町まざらいん継承委員会」と協定を締結し、今後は他の事業においても写真を活用していくこととなった。「ながまち交流フェスタ」では、164点の貴重な写真を一堂に展示する写真展を開催した。併せて、かつて地域の歴史を伝え、住民同士をつなぐ活動を行っていた「長町まざらいん」が発行した地域情報誌なども展示した。

当日は新聞に掲載された効果もあり、地域内外から、昔の長町を懐かしむ方々や、初めて知る長町の歴史に新鮮さを感じる親子連れなど、多くの来場者で賑わった。昭和元年から起算して100年目となる節目の年に、地域の歩みに思いを馳せる機会となり、地域への愛着を深めることにもつながった。

生出市民センター

〔沿革〕

生出市民センターは、昭和 24 年 4 月生出村公民館として発足し、生出小学校の一隅で公民館活動を行なってきた。昭和 31 年には仙台市との合併により「仙台市公民館生出分館」と改称された。地域住民の強い要望から昭和 42 年 4 月、地域社会教育の拠点として、現在地に「生出公民館」が建設された。

その後昭和 55 年 5 月には、地域住民から自由に利用できる体育館を併設した公民館の新設が要望され、公民館・診療所・保健センターが一体となった複合施設として開館した。後に、敷地内に調剤薬局・証明発行センターが開設され、同年の 10 月に第 1 回生出コミュニティまつりが開催され今日に至っている。平成 2 年には「仙台市生出市民センター」に改称され、市民相互の交流と地域活動振興の拠点、また地域づくりの拠点として利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「おいでよ！夏のひんやりドキドキフェスタ」		
参加者	生出小学校、ろりぼっぷ小学校児童、生出中学校生徒	延参加者	33 人
開催日	令和 7 年 8 月 2 日（土）		
協力者・協力団体	おいで里ネット委員会、生出小学校、生出中学校、生出小 PTA、生出中 PTA、青空レストラン、ANON 太白ジュニアリーダー		
ねらい	市民企画会議「おいでわいわいサミット」において「こども達が企画したイベントを、地域の大人がサポートし実現させよう」ということに決定し、生出小学校児童・生出中学校生徒より小中学生企画員を募り、企画会議を経て地域のこどもたちが楽しめるイベントを企画した。イベントを成功させるため、小中学生企画員と地域の大人が協力するという経験を通して地域活動の魅力に触れること、また、様々な年代の地域住民が交流を深めながら、市民センター事業や地域活動について知るきっかけとなることを目的とする。		
概要・成果	流しそうめんやかき氷等を提供した「もぐもぐタイム」、大人企画員と対決するストーリー仕立ての「さらわれたもも母を探せ」、「手持ち花火・フィナーレ花火鑑賞」という内容を実施した。小中学生企画員は司会進行やルール説明、ドッキリハウスの脅かし役等の運営を担い、大人企画員は軽食提供や、参加者と対決する悪役として運営を支援した。小中学生企画員は、参加者の様子から充実感や達成感を得ることができ、大人企画員は参加者のために立ち回る小中学生企画員から成長を感じる等、地域活動の魅力に触れることに繋がった。 参加したこども達は、大人企画員や保護者スタッフ、地域団体やジュニアリーダーと触れ合いながら小中学生企画員が企画したイベントを楽しむことができ、地域への愛着形成を促す機会を提供できた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おいでわんぱく広場	近隣の小中学生を対象に、田んぼのいきもの観察やバドミントン・卓球のスポーツ体験、竹細工を用いた工作体験や米粉を使った肉まんとかんまん作りを実施した。	6 月 7 日～ 2 月 22 日	5	88
仙台市インリーダー研修会	子ども会で活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会活動の充実と活性化を図るため、子ども会のリーダーとしての知識やレクリエーション等を学習する機会の提供を行った。	1 月 24 日	1	12

《太白区》

ワクワク！おいでライフ	内容によって「どなたでも」等対象を変えながら、今成山トレッキング、サマーコンサート、クリスマスリース作り、ねぶた灯ろうの絵付け体験、調理実習を実施した。	5月22日～2月7日	5	95
生出朗壮大学	高齢者にとって必要な課題、参加者同士が交流を図りながら楽しく受講できる参加型の講座、介護予防講座、音楽観賞会やものづくりの講座など、様々なジャンルの講座を開催した。	5月16日～3月13日	10	308
生出地区防災講座	町内会長や避難所担当課等を対象に「大雨災害から身を守るために」と題し災害VR（洪水・土砂災害）の視聴並びに、防災ハザードマップの見方や在宅避難のメリットと日頃の備え等について学んだ。	11月12日	1	18
市民企画会議「おいでわいわいサミット」	地域内の小中学生を対象に企画員を募り、小学生が楽しめるイベントの企画をした。また地域団体やPTA等で構成される大人企画員は、小中学生企画員のアイデアを安心安全に実施できるよう調整等を行い、それぞれの会議を交互に行った。	5月16日～9月26日	11	90
第21回「生出かかしまつり」	「交通安全」をテーマに、かかしコンテストや交通安全祈願祭、交通安全標識ビンゴ大会のほか、パトカー展示やセーフティーサポートカーみやぎくん体験などのイベントを実施した。	8月5日～9月13日	5	461
みんなで守ろう ホタルの里	地域住民と協力し、蛍の自生地を整備する活動として、生息地のいきもの調査や保全活動を行い、6月に実施した蛍観察会では小学生と一緒に手づくりした竹あかりを蛍観察路に飾った。	4月26日～11月16日	8	345
第35回「蛍と平家琵琶の夕べ」	坪沼八幡神社を会場とし、小学生手作りの竹あかりを飾って、平家琵琶の演奏、蛍観察会、地域団体による伝統芸能の発表、地場産野菜の販売、模擬店等を実施した。	6月28日	1	300
第44回「生出コミュニティまつり」	地域の小中学生や団体・サークルによるステージ発表や作品展示、焼きそば・玉こんにゃく等の模擬店のほか、野菜販売や地域団体の活動紹介、ものづくり体験、ジュニアリーダー等によるこども向けブースを実施した。	10月26日	1	1594
生出市民センター運営懇話会	町内会や地域団体、小中学校の代表者等と意見交換を行い、地域課題を共有するとともに、市民センターへの意見や要望を把握し、センターの事業等に反映した。	7月30日 2月25日	2	37

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「図書ボランティア」の活動支援

生出市民センターの図書室の運営は、8年前にセンターの呼びかけに応じて活動を始めた4名のボランティアが担っている。書架から本を抜き出して、1冊1冊きれいにすることから始まった活動は、その後、5年をかけて図書原簿を作成し、現在では選書から登録、ブッカーまでの蔵書管理や壁面装飾等、活動の幅を広げている。

センターはその意欲に応え、さらなる活動の発展のため、時には職員も活動に加わって意見・要望等、生の声を聴くことで、活動環境や体制の整備に努めている。

7年度はスキルアップ支援としてのブッカー講習会、ボランティア同士の交流を深めてもらうための茶話会、活動成果の館内掲示やセンターだよりでの紹介などで、モチベーションの向上を図り継続して活動していただけるよう支援を行った。

中田市民センター

〔沿革〕

中田市民センターは、昭和44年10月、仙台市で5番目の公民館「中田公民館」として、中田中学校跡地に同校の旧体育館と旧校舎の一部を改築して開館した。昭和56年3月に本館を鉄筋コンクリート2階建てとして新築し、平成2年4月には「中田市民センター」と改称。平成19年7月からの大規模改修工事を経て、平成20年1月に再開し、現在に至っている。

平成元年度から平成11年6月まで、太白区内市民センター13館の拠点館として太白区全体の生涯学習推進を担っていたが、現在は、主として中田中学校区を担当する地区館として事業を展開している。

また、町内会連合会と地域関係団体とで「中田公民館運営協力委員会」が組織されており、「中田まつり」や「中田ふれあいコンサート」など、市民センター事業や地域行事に大きな支援を行っている。近年、宅地開発が進み、戸建てやマンション、アパート建設などにより若い世代の転入者が増加している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「スタート a StartUp」		
参加者	中学生	延参加者	84人
開催日	全8回 令和7年5月28日（水）～令和8年1月22日（木）		
協力者・協力団体	中田中学校		
ねらい	文化部に所属する中学生が市民企画員となって講座を立案することで、文化部の活躍の場を拡充するとともに、地域との持続した関係性を新しくスタートさせ、次世代の担い手育成を図る。		
概要・成果	8回の企画会議を行い、講座に向けた打合せやリハーサル、講座実施後の振り返り等について話し合った。令和7年度に発足した地域の大学生ボランティアグループにもサポートしてもらいながら、小学生の交流機会減少という地域課題を見出し、その解決に向けて中田中学校の家庭部である自分たちがすることは何かを考え、小学生を対象としたクレープ作りとものづくりの2回の講座を企画した。中学生と地域の大学生、市民センターが一体となって取り組んだことで、良好な信頼関係を築きながら協力体制を強めることができた。また、1回目の講座については2・3年生、2回目の講座については1・2年生が中心となって積極的に意見を出し合って話し合いを進められたことで、次年度へとつながる基盤を整え、さらには地域の次世代の担い手育成に寄与することができた。		

〔令和7年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てふれ愛ひろば	中田地域の未就学児親子を対象にバルーンアート、工作ミニコンサートなどを行い、親子で楽しみリフレッシュできる機会を提供した。	9月10日 11月12日	2	67
中田こども大学	小中学生を対象に筆の体験学習を行い、学習目標を達成し、異学年交流を深める機会を提供した。	7月30日～ 8月2日	4	8
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会の児童と世話人を対象に子ども会活動にかかる研修を行い、児童同士の交流促進や子ども会の運営について情報共有を図った。	1月31日	1	16
中田老壮大学	高齢者を対象に健康、金融、ものづくり、音楽、防災などについて座学・実技講座を行い、受講生の自主学習と受講生同士の交流を支援した。	5月15日～ 2月19日	11	483

《太白区》

よりどころにここ広場	集いの場「よりどころにここ広場」体操、健康チェック、ゲーム、折り紙、相談「にここカフェ」認知症を理解するための劇やカフェタイム「コンサート」など、高齢者のよりどころを提供した。	5月23日～ 2月27日	9	146
なかだわいわいサロン	地域住民を対象に健康体操とドライフラワーリース作りを行い、顔見知りの輪を広げ新旧住民の交流の機会を提供した。	6月11日 6月18日 12月4日 12月11日	4	48
地域で取り組む中田の防災	地域住民を対象にVRによる防災学習、AED講習、防災まつりを行い、災害を自分事と捉える防災意識向上の機会を提供した。	7月12日 10月4日 11月2日	3	153
中田ふれあいコンサート	地域住民を対象にピアノとバイオリンによるコンサートを行い、音楽を通じて地域への関心や愛着を高める機会を提供した。	9月27日	1	125
中田まつり	地域の祭りを開催し、日頃の学習成果を披露する機会を設け、地域住民の交流、地域活性化の一助とした。	11月9日	1	490
中田地域懇話会	地域団体や教育関係団体を対象に市民センター事業や各団体の活動状況を紹介し、地域課題を共有し情報交換を行った。	6月25日 2月20日	2	28
中田中学校×中田市民センターStartUpラボ	小学生を対象にクレープづくり、おりがみ・ミサング・ストラップづくりを行い、こども同士の地域交流への参加意識を促し定着を図った。	8月8日 12月20日	2	36

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

大学生グループの活動支援・コーディネート

『南仙台に若い世代の居場所をつくりたい』という目標を掲げ、令和7年度に大学生グループが発足した。月1回の中田中央公園でのごみ拾いや、定例会を実施して若い人たちがどうしたら集まれるかの話し合いを行っている。中田市民センターでは、「地域懇話会」で地域団体や学校関係者にグループの活動を紹介し、地域の大切な存在として見守りをお願いした。また、市民企画講座「スタートaStartUp」では、中学生企画員の意見をまとめ整理するモデレーターの役割を担い、講座運営サポートとしても活躍した。令和8年度以降は「中田まつり」のブース出展にも参画し、地域の新しい活力として期待されている。

西多賀市民センター

〔沿革〕

西多賀地区は、桜で有名な三神峯公園や富沢遺跡があり、仙台でも暖かく環境に恵まれた、住みやすい土地である。昭和 50 年代、福祉に対する住民の要望が多様化し、自らが福祉活動に参加する傾向が現れてきた。そのため、活動拠点となる地域の施設を求める要望が高まったことから、昭和 53 年、仙台市として 5 番目の福祉会館として本施設が開設された。昭和 58 年、地域住民のより幅の広い利用を可能にするため、名称を市民センターと改めた。平成元年、政令指定都市移行に伴い地域の社会教育の充実のために公民館機能が組み込まれ、生涯学習の拠点として活用されている。

平成 3 年に児童館が併設され、平成 30 年 11 月には新館が開館した。現在は、こどもから高齢者まで誰でも気軽に利用できる市民センターとして親しまれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	手をつないで考えよう防災・減災		
参加者	児童、成人	延参加者	192 人
開催日	全 4 回 令和 7 年 7 月 25 日（金）～令和 8 年 1 月 28 日（水）		
協力者・協力団体	西多賀連合 SBL 会、日本赤十字社宮城県支部西多賀奉仕団、西多賀地区町内会連合会 西多賀児童館		
ねらい	こどもから大人まで幅広い年齢層を対象として、防災の基礎や地域を核とした防災・減災に係る講座を開催することにより、災害に対する更なる意識の向上と災害時の迅速かつ適切な自助・共助に資する。		
概要・成果	児童向けの講座として、地域の方々と一緒に、防災紙芝居の読み聞かせ、「防災 NURIE」体験、防災クイズ、ドローイングチャレンジを行った。その結果、世代間の交流が深まるとともに、児童が防災について楽しく学び、災害発生時における自分自身の行動をシミュレーションしたり、発案したりすることができた。 また、成人（市民）を対象とした「西多賀の地形を知って命を守る」は、学識経験者を講師として、地形学的観点から、ハザードマップに示されていない防災の視点について講話をいただき、その後の「まち歩き」で実際に確認することができた。これを契機として、連合町内会が自主的に防災マップづくりを開始し、現在もその取組が続いている。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て講座	小学生親子を対象に「電子顕微鏡の観察会」と「ガーランド作り」を実施。ものづくりの楽しさや難しさを親子で共有できた。乳幼児親子向けコンサートでは、同世代の親同士の交流する機会となった。	8 月 1 日 9 月 19 日 11 月 22 日	3	73
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、活動の充実と活性化を図るため、子ども会の活動の意義や役割、レクリエーションゲームの技術等を学ぶ機会を提供した。	2 月 7 日	1	77
西多賀今昔かるた大会	金剛沢児童館、西多賀児童館のこどもたちを対象にかるたを作成した「西多賀検定委員」の皆さんの協力のもとかるた大会を開催した。	12 月 25 日 1 月 7 日	2	90

《太白区》

ジュニアリーダーとあそぼう！	ジュニアリーダーが遊びを企画することにより、小学生と中高生が交流できる場を設けた。児童館と共催することで、より多くの子どもたちが異年齢交流に参加できるようにした。	8月6日 10月25日 12月25日	4	260
にしたがキッズ情報局 2025	プロのアナウンサーからアナウンスの技術や取材の方法などを学び、それを活用して西多賀地域について取材し、30分間のラジオ番組を制作して放送した。	7月26日～ 10月15日	6	34
大人の健康講座	「整える」をテーマに運動と食事の両面から講座を行った。1、2回目で筋肉量の測定・筋トレ、3回目に有酸素運動の指導。4回目に食事から体の整え方を学んだ。	11月18日 12月16日 1月9日 1月23日	4	72
西多賀寿大学	地域の高齢者が孤立することなくともに学びあえるよう歴史・文学・音楽など様々なテーマで講座を行った。	5月21日～ 2月18日	9	486
再発見！西多賀の歴史と自然	どなたでも参加できる西多賀開拓の歴史を学ぶまち歩きや、小学生親子対象の天沼公園自然観察、小学生対象の海洋プラスチックを学ぶ講座を行った。	4月24日 5月8日 10月4日 1月17日	4	38
西多賀ふれあいまつり	地域住民を対象に、地域のサークルや団体のステージ・展示発表などを行った。地元の中学生もボランティアとして参加し、地域交流の場となった。	10月25日	1	1,121
市民企画会議「広げよう福祉の輪」	福祉関連団体の企画員が中心となり「地域コミュニティ」「ボランティア」をテーマに課題解決にむけた講座を実施した。また、交流会「にしたが元気まつり」を開催し、地域住民への活動の周知を行った。	4月3日～ 2月14日	9	498
西多賀地域懇談会	当館における地域とのかかわりや生涯学習事業の推進などについて、団体等の代表者から意見を聴取するとともに、団体相互に情報交換を行った。	6月24日 2月26日	2	43

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

地域団体と中学生とのコーディネート

西多賀地区では、町内会や社会福祉協議会などをはじめとして、多くの地域団体がそれぞれの目的の下に活動し、魅力ある地域づくりに取り組んでいる。この活動を今後も維持、継続するためには、若い世代の地域参加や異世代間の交流が必要である。そこで、当市民センターでは、仙台市立西多賀中学校に協力をいただき、中学生を対象とする「西多賀ふれあいまつりボランティア」の参加を呼び掛けた。当日参加した生徒3名は、「まつり」を運営する地域の方々と一緒に来館者の受付や会場案内などを行いながら様々な会話を通して、世代を超えた交流を深めることができた。

八本松市民センター

〔沿革〕

八本松市民センターは、八本松地区の国有地を取得し、昭和 60 年 5 月に、コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。さらに平成 20 年 4 月には、八本松児童館が新たに併設された。平成 26 年度に大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

近辺には広瀬川が流れ豊かな自然環境に恵まれ、史跡として国指定を受けた郡山遺跡、北目城跡がある。長町副都心長町駅東再開発が行われ、歴史的情緒を持ち合わせつつ、近代的な街並みを呈した地域である。

建物は八本松公園と隣接しており、町内会の集会や文化活動、レクリエーション、スポーツにと、子どもから高齢者まで誰もが気軽に利用できる市民センターとして、地域住民に親しまれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●八本松子育てサロン		
参加者	0 歳から 3 歳の乳幼児とその保護者	延参加者	91 人
開催日	全 6 回 5 月 16 日～12 月 12 日（一部託児付）		
協力者・協力団体	八本松地区社会福祉協議会 ・ 八本松地区民生委員児童委員協議会 太白区家庭健康課		
ねらい	八本松地域は転出入が多いことから、地域の状況に不慣れな乳幼児を育てる保護者を対象に、子育てに関する悩みや負担を一人で抱え込むことなく安心して育児ができる環境づくりを目指す。地域の子育て支援団体と連携しながら講座を実施し、一部の講座では託児付きとし、母親が自分自身の時間を持ち、リフレッシュを図る機会とする。		
概要・成果	地域団体と連携し、地域子育て情報とお話会、離乳食講座、ベビーヨガ、ものづくり、ピラティス、ハンドベル演奏など多彩な講座を開催した。全 6 回のうち 2 回は託児付き連続講座とし、他 4 回は親子で楽しめるものとした。 初回のふれあい遊びや絵本の読み聞かせ、第 3 回「親子で一緒にベビーヨガ」、第 6 回「クリスマス会」の音楽鑑賞など親子でふれあう内容を充実させ、普段とは違うコミュニケーションを学ぶ事ができた。また、参加者の要望を取り入れた、第 2 回離乳食講座では、講師の栄養士に質問し熱心にメモを取る様子も見受けられた。また、第 4 回、第 5 回と 2 回連続で託児付き講座を開催したことにより、子どもと離れリフレッシュできる場にもなり、親同士の交流にもつながった。更に、社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会の皆さんにこどもの見守りなどをサポートしていただいたことで、参加者と顔の見える関係づくりにも繋がった。 なお、初回では八本松児童館から地域の子育てに関する情報なども紹介し、地域で子育てを支える場を知らせることができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子のわくわく ぼうけんタイム	小学生の親子を対象に、ヒップホップダンスや芋煮とおにぎりを作る調理講座を行った。同じ体験を通して共通の話題が生まれ、親子の仲が深まった。	6 月 28 日 7 月 19 日	2	38
インリーダー研修会	地域内 3 小学校のこども会を対象に、世話人として活動するための手法や情報交換を行った。また、児童向けにリーダーとしてゲームの進め方の実践などを行った。	2 月 14 日	1	48

《太白区》

うぶすなスクールコ ネクト	郡山中学校の1年生を対象に地域で活動する「八本松・郡山地域研究会」のメンバーを講師とする特別授業「八本松・郡山歴史再発見」を実施した。	11月11日	1	245
八本松寿大学	50歳以上の地域の方を対象に、バレエ・美容・歴史・遺跡をテーマとした講話、フルート・蓄音器の鑑賞、軽体操・ボッチャ・手話の体験を行った。	5月22日～ 2月26日	9	429
はちこおバスで行っ てみよう！	郡山コミュニティセンターでコケリウム作成と二胡コンサート、東郡山コミュニティセンターで馬頭琴コンサート、市民センターで調理実習を行った。	7月9日 9月10日 10月8日 10月15日	4	96
八本松スマイルコン サート	近隣の児童館・保育園と共催で、0歳から大人までが気軽に参加できる体験型のコンサートを開催した。	6月7日	1	133
八本松市民センター まつり 第29回うぶ すなフェスティバル	地域団体やサークルの活動披露や、近隣学校の児童生徒による舞台発表、作品展示、地域連携事業を行った。また、縁日では飲食の販売やゲームコーナーを行った。	11月2日	1	1,400
八本松市民センター 懇話会	利用団体および町内会長を対象に市民センターの利用状況や取り組み状況を説明し、市民センターに対する意見・要望や地域課題等の意見交換を行った。	6月25日 9月18日	2	21
八本松・郡山地域防災 講座	地域住民にむけて、SBLと連携して「基本のき今こそ学ぶ防災の基本」、隣接児童館と共催の「あそぼうさい」を行い八本松地区合同防災訓練にも参加した。	7月3日 9月27日 10月16日	3	1,003
複数年事業 地域を学ぶ ー八本松・郡山の歴史 的魅力ー	複数年事業の3年目。郡山遺跡をはじめ、周辺地域の歴史を学び実際にまち歩きで見聞を広めた。令和6年度に引き続き市民センターまつりで学習成果を展示し地域住民へ発信した。	4月26日～ 1月24日	7	90
市民企画会議 八本 松Danner's	企画員の男性5名が、男性が気軽に参加できる講座を検討し、男性向け料理講座の実施を決定した。内容や日程調整、当日の役割分担などについても企画員同士で話し合い、協力して行った。	5月9日～ 2月10日	7	34
Danner's Café	地域の男性を対象に、コーヒーの飲み比べと軽食を調理する料理講座を開催した。協同して作業することで、企画員と参加者同士の会話も生まれ、親睦を深めることができた。	1月31日	1	11

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「八本松・郡山地域研究会」への活動支援

地域の歴史研究サークル「八本松・郡山地域研究会」に対して、新聞社からの取材申し込みの取次ぎ、取材場所提供等の支援を行った。また、市民センター主催講座でも講話やまち歩きの講師をしていただいたことがきっかけで、団体メンバーが制作に携わった平成30年刊行の地域誌「八本松・郡山まち物語」を購入する方が増え、完売となった。さらに、講座を通じて研究会の活動に興味を持った方が新たに数名入会し、活動の活性化につなげることができた。

八木山市民センター

〔沿革〕

八木山市民センターは、仙台市南西部に位置し昭和 30 年代後半～40 年代中頃にかけて整備・開発された、豊かな自然が残る調和の取れた住宅地である八木山地区に、昭和 62 年 4 月 6 日開館した。平成 20 年 11 月には新しい体育館を増設、平成 25 年度から 26 年度にかけては大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

当市民センター周辺は、八木山動物公園や八木山ベニーランドなどのレクリエーション施設をはじめ、大学、放送局、総合病院など学術・文化・医療の施設等が揃い、地域住民ばかりでなく広く仙台市民に親しまれている地域である。また、センター隣接地が平成 27 年 12 月に開業した地下鉄東西線の西の起点駅（八木山動物公園駅）となり、交通利便性向上となったことから、新たに住民も増加し地域全体でも人口増となり、新しいまちづくりが進んでいる。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	八木山市民ふれあいまつり「こども企画会」		
参加者	八木山地域の小・中学生	延参加者	72 人
開催日	全 8 回 令和 7 年 6 月 14 日（土）～令和 7 年 10 月 25 日（土）		
協力者・協力団体	八木山市民ふれあいまつり実行委員会・東北工業大学大学祭実行委員会		
ねらい	八木山市民ふれあいまつりは令和 7 年度で 37 回目の開催となる歴史あるおまつりである。台風や新型コロナウイルス感染症の影響で開催を見合わせた年もあったが、令和 5 年度に名称を八木山市民センターまつりから八木山市民ふれあいまつりへ変更し、「あらゆる世代が楽しく参加できるまつり」を目指して開催している。その中で地域の小・中学生が地域の大人と交流しながらまつりの企画・運営に関わることで、「自分も役に立っている」という気持ちを育み、地域への愛着を深めていくことを目的としている。		
概要・成果	地域の小・中学生 11 名が参加し、企画・運営にかかわった。令和 5 年度から参加している企画員が中心となって進行し、活発な意見交換が行われた。企画したステージ発表は、発表を通じた交流を目的とし、早口言葉やダンスなど参加型の発表を行った。また、館内をくまなく回り、まつりに参加してもらいたいという目的でスタンプラリーを企画し、当日の運営も自分たちで行った。反省会でも「このような工夫をすれば参加者を増やせるのでは？」などの意見がでるなど、次年度実施へ向けた意欲がうかがえた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●あつまれ♪やぎさんママン	子育て世代が集い悩みや情報を共有する居場所を作り、参加者の意見を取り入れた企画会を行った。また地域に根差した繋がり作りを行い、地域全体で子育てを支援する機会とした。	4 月 24 日 ～ 11 月 27 日	6	78
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとして活動する児童及び世話人が子ども会活動の意義や役割を学び、レクリエーションの進め方等を修得した。	1 月 31 日	1	28
広げよう八木山防災の輪	八木山中学校 1 年生を対象に、仙台八木山防災連絡会活動紹介、救命救急講習、楽しく防災を学べる防災ダンス等を実施した。中学生が助けられる立場から助ける立場となり、防災について考える機会とした。	7 月 10 日	1	158

《太白区》

地域の絆プロジェクトでっかい夢を八木山に描こう	壁画作成に関連して様々な交流が生まれ、地域の小学生が地域への愛着を深めていくことが目的。八木山中学校美術部、東北工業大学生らと協力してベニーランド内の壁に絵を描いた。	11月19日 1月23日 2月15日 2月22日	4	101
在仙外国人向け日本語講座「日本語ティールーム」	日本語ティールームボランティアが在仙外国人に日本語指導、日本文化体験を行った。託児ボランティアによる託児もおこない、八木山地域における多文化共生を目指し開催した。	4月～3月	12	286
やぎやまシニア大学	多様に変化する高齢化社会に対し、様々な分野の学習の機会と同世代同士の交流を図りながら社会参加の場・学習参加の場を提供し健康で豊かな生活が送れるよう支援した。	5月15日～ 2月19日	9	632
八木山 みんなのカフェ	地域交流・出会いの場等の顔の見える関係づくりを目的に、5団体が共催で実施している。全体で内容を決定し、スマホ交流会、ポッチャ交流会、町内会への出前事業等を行った。	4月27日～ 3月14日	8	226
地域防災シンポジウム in 八木山	防災についてあらゆる世代が集まり、ともに学ぶ機会として開催した。防災クイズ、震災当時のパネルディスカッション、仙台西高等学校地学部による研究発表を行った。	11月29日	1	57
八木山市民 ふれあいまつり	サークル・団体の発表する場と、地域のあらゆる世代が集まり交流する場を提供した。新旧住民や世代間の交流を通して顔の見える関係を強化し、地域活性化と地域人材発掘に繋げた。	9月27日 9月28日	2	1600
秋の八木山フェスタ	地域の魅力発信や地域活性化を目的に、八木山ベニーランド・八木山動物公園・東北工業大学・東北放送(株)・八木山市民センターなどが、11月3日に誰でも参加できるイベントを行った。イベントの周知を目的に、小・中学生を対象としたポスターコンクールを行い広報の一端を担った。	9月2日 11月3日	2	15805
気軽に懇話会	八木山地域の町内会や八木山市民センター利用団体・地域団体を対象に、地域課題や地域の取組について情報交換を行った。市民センターへの要望等も聞き取りした。	1月23日 2月5日	2	18
おやじ達の企画会 ・事業	近隣の5つの小学校から参加者を募り、学校混成チームを編成。軽トラック引き、水消火器&担架リレーといった4種目を行い、競い合った。参加者は初対面が多かったが、班毎に協力して取り組んでいた。	5月21日～ 11月13日	8	142

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

仙台南高等学校「探求Ⅰ」の活動支援

当市民センターは、継続して仙台南高等学校「探求Ⅰ」という授業を受け入れている。市民センターで活動している図書ボランティア、在仙外国人に日本語を教えている日本語ティールームボランティアに加わって活動を体験したほか、ボランティアへ聞き取りなどを行い、それぞれの活動内容について学んでいた。

加えて、令和7年度は地域で活動する団体のメンバー募集チラシを作製した。城南高校からの依頼を受け、当センターが地域団体や利用サークルに趣旨を説明し、6団体から承諾を得た。生徒たちは各団体を直接訪問して活動内容を聞き取り、チラシを作成。各団体の確認と指摘箇所の修正を経て完成させた。この過程で団体の活動動機や内容を学び交流を深め、地域活動を知るきっかけとなった。

山田市民センター

〔沿革〕

山田市民センターは、昭和 62 年 4 月 17 日、旧笹谷街道沿いに戦後住宅街として開発され発展してきた山田地区に、コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

当市民センターは縄文遺跡や鹿除土手、太白山自然観察の森などの歴史遺産や昔ながらの自然を残す恵まれた環境の中にあり、太白消防署、鉤取郵便局、鉤取球場、縄文の森広場などの公所・施設や小中学校、大学などの教育機関も多く立地している。また、国道 286 号線沿いには大型商業施設が立ち並び、高い集客力を有している。こうした環境の中、当市民センターは地域の生涯学習や地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	山田音楽祭		
参加者	地域住民	延参加者	547 人
開催日	全 7 回 令和 7 年 8 月 21 日（木）～令和 8 年 2 月 25 日（金）		
協力者・協力団体	太白小学校、人来田小学校、上野山小学校、山田中学校、人来田中学校、仙台西高等学校、地域の音楽サークル		
ねらい	山田市民センター管内の学校同士・山田市民センターで活動する音楽団体同士が、音楽を通して山田・人来田・太白地域の交流を深める機会をつくる。また、地域の音楽に関わる人々自身が音楽祭の企画立案運営を行ったり、お互いの音楽を聴きあったりすることで、音楽を通して「地域づくり・人づくり・こどもたちの交流」の実現につなげる。		
概要・成果	令和 6 年度参加した小中高等学校の吹奏楽顧問や親の会の代表者、音楽サークルの代表者に集まっていたき、8 月～1 月にかけて実行委員会を開催し、音楽祭の企画・運営について話し合った。2 月 1 日第 3 回山田音楽祭本番では、午前の部は「スクール音楽祭」として、管内全ての小中高等学校の吹奏楽や合唱の演奏と全学校による合同演奏、午後の部は「音楽サロン山田」として、市民センターで活動する音楽サークルによる演奏と全サークルによる合同演奏を行った。 一般の方のボランティアや中高生のボランティアも定着してきている。受付や会場設営は管内の仙台西高、山田中、人来田中の生徒と地域住民にご協力いただいた。「スクール音楽祭」の司会は山田中、人来田中の生徒が務め、広報用ポスターやプログラムの表紙デザインを山田中に依頼した。また、実行委員自らも交代で受付を担当したり、「音楽サロン山田」で来場者に提供するコーヒーやお茶を配る役を「スクール音楽祭」で演奏した小学生が担うなど、自発的な動きや前向きな取り組みが見られた。音楽を通して、世代を超えた学校や地域との交流や地域づくり、まちづくりのきっかけにつながった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
サマースクール山田	夏休み中の小学生を対象に、地域の大人や共催団体・異なる年齢の小学生と交流し、様々な体験に取り組み地域一体でこどもを見守る環境づくりの機会を提供できた。	7 月 23 日 7 月 29 日	2	43
インリーダー研修会	令和 8 年度子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、講話や情報交換、JL とレクリエーションゲームの体験を通して子ども会活動について学習する機会を提供した。	1 月 24 日	1	47
山田豊齢大学	地域の高齢者が年間を通して市民センターに足を運び、学び、交流する機会を提供した。健康・文化・歴史・食育などの講話や軽体操、音楽鑑賞などを実施した。	5 月 15 日～ 2 月 19 日	9	620

《太白区》

山田・鉤取まち巡り	幅広い世代の人々が地域を理解し関心を深め、故郷に愛着が持てるよう動画作成や講座の開催・小学校との連携ができた。地域団体との共催による勉強会で運営委員のスキルアップを図った。	4月25日～ 11月9日	11	308
山田かがやき隊	高齢者や子育て世代、小学生や障がいのある子どもが交流できる機会を提供し、異世代間交流の場を設けると共に、諸団体と地域団体での見守り体制の構築へとつなげた。	4月18日～ 12月13日	7	158
山田市民センター出前講座	上野山地域、太白地域、人來田地域で出前講座を開催し、各連合町内会とのつながりを深めつつ、立地上市民センターへ足を運ぶ機会が少ない住民にも講座に参加していただくことができた。	5月2日～ 2月7日	8	204
●地域総合防災訓練講座	地域の安心・安全のため地域連合町内会や小学校・中学校が同日同時刻に、協働で防災訓練を行っている。市民センターとしてそれぞれの地域を結び、講座として各町内会、区民生活課、消防署、学校等リーダーの自分事としての防災意識を高め、会議や話し合いをコーディネートすることができた。	5月21日 8月20日 10月18日 11月26日	4	2,889
第27回山田ふれあいまつり	地域の住民や学校・団体・サークルに活動成果の発表と交流の機会を提供し、生涯学習の振興とコミュニティづくりの活性化を図った。	10月25日 10月26日	2	1,232
地域懇話会	地域の教育関係者やセンター利用者と意見交換を行った。地域課題やニーズの共有化を図るとともに、センターへの要望等について伺い、新たな館運営のための指標を得ることができた。	4月23日 2月27日	2	41
市民参画型事業「楽元の森プロジェクト」	地域資源である「楽元の森」の整備や活用・異世代交流を通して新たな人材の発掘や企画員のスキルアップを図り、地域づくりにつながる人づくりを目指した。講座を開催することで、地域住民に「楽元の森」の活動や利用を知ってもらう機会を提供した。	4月12日～ 3月14日	10	382

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

小学校と地域団体とのコーディネート

仙台市立上野山小学校より、去年に引き続き、3年生の総合学習の時間で、まち歩きを行い地元を理解し歴史を学びたいとの依頼を受け、市民センターから『「山田・鉤取まち物語」管理運営委員会』を紹介した。市民センターが中心になって、当日に向けての打合せやコース設定等を行い、小学校と委員会とをつないだ。委員会から、昨年同様に会員自らが講師となって事前学習会を開き子どもたちの学びを深めたいとの提案があり、学校の下承を得て開催できた。

まち歩き当日は、会員が解説担当・誘導担当等の役割分担をし、歴史・秋保電鉄・自然の3コースに分かれて歩き、児童に地域の歴史や自然の魅力を伝えた。後日、学校から「まち歩き」の発表会に招待され、児童から各コースごとに学習内容や感想が発表された。こどもたちの地域への理解が深まり、委員のやりがいにつながった。

茂庭台市民センター

〔沿革〕

茂庭台地区は仙台市南西部に位置し、市内中心部から車で約 20 分の距離にある。古くからの梨野地区と、住宅が多く建ち並ぶ茂庭台地区から構成されており、豊かな自然に恵まれている。

当市民センターは、昭和 63 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設して開館し、平成元年 4 月から地域社会教育の拠点として公民館事業を開始、平成 2 年に児童館が併設された。平成 30 年度に大規模修繕を実施し、平成 31 年 4 月に再開した。

地区の中央部に位置し、市民センターが管理する広場があることから、こどもが遊んだり地域住民が休憩したりする憩いの場として親しまれている。また、連合町内会主催の夏まつりの会場や、児童生徒の集会の場などにも活用されている。こうした環境の下、地域の生涯学習やコミュニティ作り、交流の場として、ネットワーク拠点となるような運営を行っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	住民参画型事業・複数年事業「みんなの広場」プロジェクト		
参加者	地域住民	延参加者	42 人
開催日	全 11 回 令和 7 年 5 月 10 日（土）～令和 8 年 3 月 28 日（土）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部太白区中央市民センター		
ねらい	地域住民の「顔の見える関係作り強化」「地域の拠点としての広場活用」を目指す事業であり、企画員を中心に講座の企画運営を行う。平成 30 年から複数年事業として継続している事業で、交流活性化に加え、人材育成と活用が進み、軌道に乗ってきている事業である。		
概要・成果	茂庭台地区の活性化を目指して、地区の中央に位置する市民センター前広場を活用した講座を、市民企画員が中心になって企画する。令和 7 年度は「盆踊り練習会」「音楽と灯りのもにわだいフェス」「天空の広場風あげ大会」を実施した。 事業を継続して実施してきたことにより、地域のイベントとして定着してきている。毎年イベントを楽しみに訪れる人も多く、参加者が増加している。企画員は、この事業が地域交流のきっかけとなっていると手応えを感じており、今後の継続・発展に意欲的である。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
茂庭台ファミリーひろば	人形劇鑑賞、クリスマスリース作り、ニュースポーズ体験を実施し、親子参加をはじめ様々な世代が交流できる場を提供した。	7 月 12 日 11 月 15 日 1 月 15 日	3	46
もに輪っ子体験ひろば	小学生を対象に、プロの演奏家によるコンサート、トマトスムージー作り、自然素材を使ったクラフト、コマ回し、e スポーツの体験活動を実施した。	8 月 5 日～ 3 月 25 日	5	84
インリーダー研修会	茂庭台及び生出地区の子供会を対象に実施した。嘱託社教主事を講師に、世話人及び児童へ講話を行うとともにジュニアリーダーによる演習を行った。	1 月 24 日	1	12
茂庭台をもっと元気にし隊	小・中学生の企画員（隊員）による企画会議を行った。会議を経て、こどもの運営で「夏まつりでいっしょに遊ぼう!」、「ホラーハウス」の 2 つの企画を実施した。	5 月 11 日～ 3 月 8 日	23	324

ジュニアリーダーとあそぼう	参加者全員で大きな絵を描くワークショップ、茂庭台地区市民文化祭での出店、レクリエーションをジュニアリーダーが主体となって実施した。	8月7日 10月5日 1月6日	3	93
茂庭台すこやかライフ	栄養に関する講話、歌声サロン、冬に負けない体づくりのための講座を実施した。	7月18日 10月24日 1月23日	3	75
茂庭台大学	講話（健康・防犯・歴史）、フレイル予防、ニュースポーツ体験、レコード鑑賞、ちぎり絵作成、コンサート、館外学習を実施した。	5月16日～ 3月6日	9	372
地域懇談会	地域団体及び関係者へ向けて、市民センター及び児童館事業について説明と報告、情報交換を行い、連携強化を図った。	6月19日 2月20日	2	46
地域防災講座	平時から防災や減災に関する知識を深めるため、児童向け講座及び地域高齢者向け講座を実施した。	7月24日 9月18日	2	53
再発見もにわだい	公園の樹木や道端の植物の観察を行った「春のまち歩き」とアイリッシュハーブの演奏と水道山整備ボランティアを紹介した「秋の水道山コンサート」を実施した。	6月7日 10月25日	2	33
茂庭台地区市民文化祭	展示発表、ステージ発表、出店・イベントを実施し、各部門で地域の団体やサークルが活動成果の発表などを行った。	10月4日 10月5日	2	1100
住民参画型・複数年事業 「天空の広場」盛り上げ隊	「盆踊り練習会」「音楽と灯りのもにわだいフェス」「天空の広場 凧あげ大会」の4事業を行った。	7月19日～ 2月14日	4	580

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ボランティア活動支援

水道山整備ボランティアとの初事業と水道山野外コンサート（熊出没情報により屋内会場へ変更）を行い、好評であった。剪定ボランティア、図書ボランティアはメンバーが新たに加わり、熱心に活動している。ジュニアリーダーには、「茂庭台をもっと元気にし隊」を兼ねている生徒がおり、地域を牽引する一員として活躍している。今後も活動支援と事業を連動させ、ボランティアが意欲的に活動参加できるよう支援していきたい。

小中学校への人材紹介

住民参画型・複数年事業「天空の広場」もり上げ隊の事業の一つ、「音楽と灯りのもにわだいフェス」の出演者を小中学校へそれぞれ紹介、派遣し、「仙台自分づくり教育」の一環としての学習を行った。小中学校及び各PTAの協力を得て、ヴァイオリン演奏を通して音楽に触れ、職業に関する講話をいただき好評であった。次年度も継続する予定である。

東中田市民センター

〔沿革〕

東中田市民センターは、平成元年４月に児童館、保健センター、コミュニティ防災センターを含む複合施設として開館した。令和２年１２月から大規模修繕工事を実施し、令和４年２月に再開した。

当市民センターが位置する東中田地区は、仙台市太白区の東南端・名取川下流域にあり、名取川と広瀬川の合流点にも近く、すばらしい自然環境に恵まれ、古墳や寺社仏閣などの歴史的資産を有している。

農村であったこの地域に、近年は高層の市営住宅や高齢者福祉関連施設、ミニ開発による一戸建て住宅が次々に建設され、商業の発展も著しい。新旧住民が混在し、急速に発展している地域環境に対応した地域コミュニティの確立が望まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	子育て応援講座		
参加者	小中学生の保護者、地域住民	延参加者	66人
開催日	全３回 令和７年６月２１日（土）、８月３０日（土）、令和８年１月２４日（土）		
協力者・協力団体	袋原中学校、四郎丸小学校、東四郎丸小学校、袋原小学校、東中田児童館、四郎丸小学校PTA、民生委員児童委員協議会		
ねらい	価値観の多様化や生活環境等の変化により、子育てに不安を抱える家庭（保護者）が増加し、学校以外での多様な家庭教育支援が求められている。そこで、中学校区の各学校と協力・連携し、子育て世代を対象とした講座を通じて、地域でできるサポートを提供する。		
概要・成果	１回目は、６月に元小学校校長で現在「相談・まなび塾」の塾長をお呼びして「今、子育てに必要なことは何か」をテーマにお話しいただいた。２回目は、前仙台市教育局教育相談課主幹で、現在は現職の小学校校長をお呼びして「多様なニーズに応じた支援の在り方」についての講話をいただいた。３回目は、生涯学習支援センター館長をお呼びし、情操教育から見た子育て支援と地域ができる様々な取り組みについてのお話をいただいた。参加者にとって、毎回違った角度からの話や取組を知ることは、自身の子育てにとどまらず、「地域で力を合わせて」というような意識につながっている。		

〔令和７年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
東中田キッズ広場	小学生を対象に健全な心を育むことを目的として、七夕飾り作り、移動天文台、競技ドッジボール体験、外国の文化学習、バスケットボール体験を実施した。	８月２日～ ２月７日	５	１２９
インリーダー研修会	子ども会の次のリーダーとなる世話人及び児童が円滑に子ども会活動を進めていけるよう、活動に必要なスキルや知識を提供した。また、ジュニアリーダーの活動を知り、関心を持つ機会となった。	２月１４日	１	２６
東中田いきいきタイム	成人に向けて、新たな学びを得る機会と地域住民の交流の場を提供することを目的とし、ラベンダー講座、地域人材を活用した講座、運動、健康、手芸、和紙に関する講座を実施した。	７月４日～ ２月２６日	６	７２

《太白区》

楽しく学ぶキャンプ de 防災	家庭や地域などの身近な場所の防災について考えるきっかけを作ることを目的として、ひっぱりうどんづくりやテント設営などキャンプの知識と技術を楽しみながら学ぶ講座を実施した。	6月28日 7月12日	2	21
市民企画会議「健康イベントを考えてみよう」	地域住民の成人を対象に健康に関する講座を開催するため市民企画会議を重ねた。会議では、よりよい講座を開催したいという企画員の思いが話し合われた。	5月13日～ 2月3日	9	33
Let's スマイル～みんな で楽しく健康タイム～	市民企画会議で企画した「椅子ヨガ体験」「ボッチャ交流会」「調理実習」の3つの講座を開催した。講座終了後は、茶話会が開催され、参加者同士の交流が活発に行われた。	9月9日 11月11日 1月27日	3	51
東中田老壮大学	館外学習、ボッチャ、食と健康、文化祭、時事問題等を実施した。班ごとに受講することで、対話が増えて活発な交流が生まれ、出席率が向上した。	5月21日～ 2月18日	9	421
東中田まちめぐり	新旧住民が地域の自然と歴史を学び、実際に歩くことで、地域への理解と興味を深めることができた。また、土曜日開催を増やしたところ、受講者数が格段に増えた。	9月6日 12月6日 1月14日	3	53
防災・減災学びの学校	東中田地域は自然被害において、浸水被害が想定されており、地域課題の一つとなっている。水害を含む様々な災害について学習し、防災、減災に対する意識をより高める機会となるよう講座を実施した。2回とも講師に東北大学災害科学国際研究所の佐藤健氏をお呼びし、身近な防災施設に目を向け、小学校高学年からの参加としたことで世代間交流も行うことができた。	10月18日 11月22日	2	27
●東中田市民まつり	地域内の町内会連合会と保健センター、児童館と共催することでこどもから大人まで多くの人が集い、楽しみながら交流する姿が見られ、地域全体が盛り上がる機会の一つとなった。	10月5日	1	2,504
みんなのコンサート	マリンバとピアノによる演奏、吹奏楽演奏、地域の児童生徒や音楽団体によるコンサートを実施し、こどもから大人までが集い、一緒に楽しめるコンサートを開催した。	7月20日 11月8日 3月28日	3	532
東中田地域コミュニティ懇話会	活力あるコミュニティづくりを推進するため、地域団体が活動について情報共有しながら、学びを通して連携を深める内容となるよう実施した。	5月28日 2月13日	2	32

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「ほっこりサロン」ボランティア活動支援

平成26年度の市民センター事業から立ち上がったサロンボランティア「ほっこの会」は、現在9人のメンバーで構成され、誰もがほっとできる地域住民交流の場づくりに取り組んでいる。市民センターでは、活動継続のためのスキルアップ講座開催や広報での支援を行っている。令和7年度は、町内会より要請があり、町内会の集会所へ出向き、出前サロンを実施した。また、小学生を対象とした当センターの主催事業「東中田キッズ広場」の講師を務め、地域の子どもたちと交流することができた。ボランティア活動の幅を広げる支援により、メンバーの活動へのモチベーションを向上させることができた。

柳生市民センター

〔沿革〕

柳生市民センターは、平成 9 年 4 月に、市内 52 番目の市民センターとして児童館・コミュニティ防災センターを併設して開設された。

当市民センターが位置する柳生地区は仙台市最南端に位置し、住宅地・商業地として発展している。また自然環境に恵まれ、柳生和紙など伝統工芸も残されている。マンション等の建設に伴い、他地域からの転入者も多く、若年層の世帯が比較的多い地域である。

このような地域特性と地域資源を活かし、多様化する住民の要望等に対応しながら生涯学習の拠点として各種事業を展開し、地域コミュニティの形成・住民の自主的活動の場としての役割を担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	いっしょにスポーツ		
参加者	地域住民	延参加者	102 人
開催日	全 5 回 令和 7 年 6 月 13 日（金）～令和 8 年 1 月 17 日（土）		
協力者・協力団体	西中田学区民体育振興会、西中田地域包括支援センター		
ねらい	ボッチャをはじめさまざまなスポーツを体験する場を提供して、体を動かしながら地域住民の交流を深めるきっかけをつくることを目指す。		
概要・成果	年齢・性別を問わず楽しめるスポーツ「ボッチャ」と「モルック」の体験会を行い、最終回は「ボッチャ交流大会」を開催した。 参加者がコートの設定やゲーム中の声掛けを行い、楽しみながら積極的に参加する様子がみられた。ボッチャ交流大会は、土曜日に開催したことで地域の放課後デイサービスのこどもの申し込みがあった。未就学児から高齢者まで幅広い参加者が一緒にプレーし、異世代間交流の機会となった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
カブトムシ博士になろう！	カブトムシという身近な昆虫を卵から成虫まで飼育することで命の大切さに気づき、さらに自然とかわろうとする気持ちを高めることができた。	5 月 10 日 7 月 5 日 9 月 19 日	3	54
キッズあそび隊	体験型の講座を実施することにより、教え合ったり手伝い合ったりするなどの参加者同士でコミュニケーションをとり、異世代のこどもの交流を図ることができた。	6 月 1 日 6 月 21 日 12 月 13 日 1 月 31 日	4	87
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、活動に必要な知識や技能を習得する場を提供する講座を実施した。	2 月 21 日	1	15
絵本を楽しむ	読み聞かせサークルと講座を企画し、絵本の魅力を知る機会を提供した。講座後参加者が「おとなのための絵本カフェ」を開催し、地域とつながるきっかけができた。	6 月 27 日 7 月 4 日 10 月 30 日	3	53
柳生シニアスクール	高齢者を対象に、食文化、ニュースポーツ体験、馬頭琴コンサートなどの生涯学習と相互交流を図る機会を提供した。	5 月 28 日～ 2 月 25 日	9	623

《太白区》

フレイル予防講座	高齢者を対象に、交流しながら体操や健康マージャンを行なうことで、フレイル予防につなげた。	10月24日 10月31日 11月28日 1月30日 2月13日	5	69
柳生和紙を知ろう	地域の伝統文化である柳生和紙を多くの住民に広めていくため「柳生和紙プロジェクト」と連携し、和紙のランプシェード制作を行った。	10月8日 10月15日	2	17
●知って安心！ みんなで防災	乳幼児親子を対象に、日常生活に活用できる備えについて学ぶ場を設け、災害対応力の向上につなげた。	10月17日	1	6
音楽の広場	多くの皆さんに市民センターの生涯学習事業を知ってもらうため、学校とも連携し、足を運びやすく、気軽に音楽を楽しむことができるコンサートを開催した。	11月15日 11月29日	2	76
第20回柳生市民センター・児童館まつり	当館利用団体や小中学校、地域団体の学習成果・活動発表等により、生きがい作りや地域のつながりを深め、また世代間交流を図り、地域協力体制にもつなげた。	9月27日	1	1,377
柳生・西中田地域 懇話会	市民センター・児童館事業の理解促進と事業参加を促す情報交換のために、事業計画や活動内容を説明した。活動に対しては高評価の意見をいただいた。	6月7日 11月19日	2	36
市民企画講座 「おやじのイベント」	地域の親子同士での交流を促す機会を提供することを目的とし、花火大会やおばけやしきなどを企画、開催した。	7月19日 9月27日 12月6日 2月22日	4	1,002
おやじの作戦会議	令和3年に発足した柳生小学校おやじの会と連携し、小学生親子同士の交流を図るイベントを企画、開催するため、作戦会議を行った。	5月10日～ 2月22日	12	98

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「おはなしボランティア なかよしこよし」への活動支援 「おはなしボランティア なかよしこよし」は、柳生小学校・柳生児童館・柳生市民センター児童館まつりなどで、こども向け読み聞かせを行っている団体である。 当団体との活動に関する話し合いではメンバーを増やしたいという要望が出され、気軽に参加できる「絵本を楽しむ」講座と一緒に企画・実施し、メンバー加入につなげることができた。 また、講座終了後、「絵本カフェ」という交流会を開きたいとの要望を受け、「おとなのための絵本カフェ」を共同で企画・実施した。 さらに、定期開催に向けた話し合いの中で名称を「絵本カフェ ことこと」と決め、活動内容をセンターだよりで広報するなどの支援を行った。当団体が中心となって企画し、相互交流を目的とした自発的な活動である。地域交流がさらに広がるよう、今後も支援を続けていきたい。

富沢市民センター

〔沿革〕

富沢市民センターは、平成 13 年 11 月、地下鉄南北線富沢駅近くにコミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターの位置する富沢地区は、名取川・JR 東北本線・国道 286 号に囲まれており、中央部は笹川が流れ、富沢・大野田遺跡が点在している。かつては田園地帯であったが、地下鉄南北線開業以降、2 つの大きな区画整理事業により広範囲に宅地化が進められ、集合住宅と戸建住宅が混在する地域に変容した。当地区は、人口増が続き、転入者や子育て世代が多く、こどもも多い地域である。

当市民センターは、市民が気軽に利用できる共有スペースとして親子室・娯楽室・図書室やラウンジを有し、年間を通し多くの地域住民が来館し、生涯学習及び交流の拠点として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●つながる地域の子育て応援隊「ホッと in とみざわ」		
参加者	①地域の子育て支援団体 ②乳幼児親子	延参加者	348 人
開催日	全 9 回 令和 7 年 4 月 22 日（火）～令和 8 年 2 月 3 日（火）		
協力者・協力団体	・太白区家庭健康課・富沢地区民生委員児童委員協議会・富沢地区社会福祉協議会 ・富沢児童館・大野田児童館・児童発達支援センター「仙台市大野田たんぼぼホーム」 ・太白区育児サークル応援隊「たい子さん」・子育てふれあいプラザ長町南「のびすく長町南」		
ねらい	子育てを支援する団体と市民ボランティアからなる「地域の子育て応援隊」が協議を重ね、子育て世代のために必要な情報を知り、交流できる講座を企画運営する。支援の輪を広げ、孤独な子育てから地域とつながる子育てができる環境作りを目指す。		
概要・成果	太白区家庭健康課、富沢地区民生委員児童委員協議会、富沢地区社会福祉協議会、富沢児童館、大野田児童館、大野田たんぼぼホーム、太白区育児サークル応援隊たい子さん、のびすく長町南、市民ボランティアからなる「つながる地域の子育て応援隊」が、情報交換や子育て世代に向けての企画検討会を 7 回、企画検討会を経て「ママのしゃべりタイム」と「ホッと in とみざわ」の 2 講座を実施した。 富沢地域の子育て世代や、他地域からの転入により地域に不慣れな親子に、地域の子育て支援の情報を届けることができた。また、講座では参加者同士の交流もあった。子育て情報の共有のみならず、区役所や近隣の児童館等の施設や市民ボランティアも含めた支援者等、地域の子育て支援のネットワークが築かれ広がりを見せている。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おはなしの部屋	月 1 回の開催で保護者と 0 歳～2 歳の幼児を対象に、絵本や紙芝居などの読み聞かせ会を実施した。	5 月 15 日～ 3 月 11 日	11	260
富沢こども未来キャンパス	地域の小学生やその保護者を対象に、地域資源への親しみや豊かな心を育む内容を中心とした体験学習の場を提供した。	6 月 21 日 7 月 28 日 11 月 21 日 1 月 24 日	4	117
小学校連携事業「私たちが住んでいるまち、どんなところ？」	富沢小学校 3 年生の総合的な学習「富沢自然探検隊～富沢の自然とこれからを考えよう～」と連携し、「笹川の自然と生き物」「環境保全を考える」を開催した。	6 月 12 日 1 月 20 日	2	360

《太白区》

インリーダー研修会	大野田小学校・富沢小学校のこども会の次期リーダーとなる 5 年生と世話人を対象に、こども会活動の意義や技能を習得してもらう研修会を実施した。	2 月 21 日	1	18
交流したい女性のためのリフレッシュカフェ	地域のミドル世代が興味関心のある企画をし、若い世代の来館のきっかけづくりや世代間、地域間交流促進を図る講座を開催した。	5 月 30 日～ 12 月 13 日	6	88
富沢シニアクラブ	65 歳以上の受講生を対象に、5 月から 12 月までの全 7 回で、各種講話、館外学習、コンサート等を実施した。	5 月 15 日～ 12 月 18 日	7	317
★わがまち防災・減災	富沢小学校 5 年生、大野田小学校 4 年生、それぞれの授業時間に防災講話を行った。大震災で被災した講師の話は防災の大切さを児童生徒に伝えることができた。	6 月 21 日 1 月 28 日	2	328
パワフルとみざわネットワーク	箆川沿岸 6 町内会と各校のおやじの会や社会学級からなる実行委員会に中学生を加え、シニア世代・ミドル世代・中学生の 3 世代で企画・運営を進め、地域活性化イベント「ざる川フェスティバル！」を開催した。	5 月 10 日～ 2 月 7 日	12	1,300
第 5 回富沢ふれあいまつり	町内会等の地域団体や市民センター利用団体等が集い、地域のまつりとして定着している富沢ふれあいまつりを実施した。多くの住民が来場し、地域コミュニティの絆を深めた。	10 月 5 日	1	1,500
富沢市民センター懇話会	地区町内会、小中学校、児童館、地域施設等の各種団体の代表を招き、市民センターの生涯学習事業について意見・要望等をヒアリングした。	11 月 15 日 2 月 26 日	2	28
富沢地域盛り上げ隊	地域の担い手不足改善に向けた取り組みとして、幅広い年齢層を企画員として募集し、運営体験を行った。体験から得られる気付きをベースに企画運営を学んだ。	5 月 10 日～ 1 月 31 日	6	34

【令和 7 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「富沢市民センター折り紙ボランティア」の活動支援

当市民センターでは、平成 30 年度から 5 年間、複数年事業として折り紙ボランティア養成講座を開催してきた。事業の最終年度となった令和 4 年度からは、養成してきた折り紙ボランティアが地域の中でサークルとして自立した活動ができるよう支援を始めた。内容としては、七夕飾りをはじめ季節ごとの作品を館内に展示したり、主催事業の折り紙講座で講師のサポートをしたりするなど、活動の場を増やしながらメンバーのスキル向上に取り組んだ。

令和 7 年度は「折り紙サロン」の活動を広く知ってもらうために、誰でも気軽に参加できるよう取り組んできた結果、例年以上の参加者に恵まれた。そのため、折り紙サロンの会場をロビーから会議室へと変更し、広いスペースでゆっくりと折り紙に親しんでもらえるように支援を行った。

継続して参加している参加者、新規の参加者、双方から好評を得ており、ボランティア活動のモチベーションアップにつながった。

秋保市民センター・馬場市民センター・湯元市民センター

〔沿革〕

秋保市民センターは、昭和 26 年 4 月「秋保村公民館」が設置され、昭和 42 年 4 月町制施行に伴い「秋保町公民館」、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「秋保公民館」、平成元年 4 月には「秋保市民センター」と改称された。平成 25 年 5 月には移転改築の上、現在の施設がオープンした。

馬場市民センターは、昭和 52 年 3 月、旧秋保町時代に開設され昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「馬場公民館」、平成元年 4 月に「馬場市民センター」と改称された。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

湯元市民センターは、昭和 53 年 3 月、旧秋保町時代に開設され、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「湯元公民館」、平成元年 4 月に「湯元市民センター」と改称され現在に至っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	秋保手づくり倶楽部		
参加者	成人	延参加者	34 人
開催日	全 3 回 令和 7 年 7 月 10 日（木）～11 月 28 日（金）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	秋保地域には工芸品を扱う工房が点在しており、個人やサークルでものづくりをする人が多く、ものづくりを身近に感じることができる環境にある。秋保ならではの自然素材や、人材を活用してものづくりをテーマとした講座を行う。そのことにより学びの場を提供し、生涯学習への関心を深めることを目的とする。		
概要・成果	第 1 回「ドライフラワーで彩るコルクボード」や第 2 回「あけびのついで編むかごづくり」など、自然素材が講師のアイディアや昔からの手法で様々な作品に姿を変えることを学んだことで、受講生はものづくりへの興味と関心を高めることができた。また、第 3 回「陶芸体験」では粘土をこね、器づくりに集中できた時間が楽しかったという感想があった。参加者はそれぞれの講座でものづくりの楽しさを感じたようでねらいにあっていった。また作品を「秋保ふるさと文化祭」「秋保ふるさと文化祭移動展示会」で展示し学習の成果を発表することができ、受講生のモチベーション向上につながり、市民センター主催講座の魅力を知ってもらった機会ともなった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
「おやこでいっしょに！」体験活動	あきう幼稚園と連携して地域の子育て世代に対しクラウンショーの体験を行い、参加する中でコミュニケーション等の学びを得た。	6 月 27 日	1	20
あきうキッズスクール	各小学校と連携して普段の授業とは一味違った学びの機会を小学生に提供し、生涯学習や市民センターへの関心を深めるきっかけとなった。	7 月 3 日 8 月 29 日 11 月 21 日	5	132
あきう里山トレッキング	秋保地域の里山でのトレッキングや講話を通じて、植物や地域の歴史などを学んだ。	5 月 30 日 10 月 31 日	2	25
●あきう熟年のひろば	健康や文化・音楽・軽体操など様々な内容について学ぶ講座を実施した。講座への参加により高齢者の学びの場、生きがいづくりや交流の場を提供することができた。	5 月 15 日～ 2 月 19 日	9	247

《太白区》

秋保地域出前講座	各町内会や各種団体と連携してコンサートや創作活動、健康講話、田植踊上映会などの出前講座実施した。	7月8日～ 3月8日	8	175
地域防災力の向上	秋保地域で活動している団体を対象とした救急救命講習を実施した。また、秋保中学校避難所運営町内会との共催で、VR と大雨・土砂災害に関する講演を実施した。	10月21日 12月13日	2	42
市民企画講座 「いってみっぺ秋保 スペシャルツアー」	市民企画会議で企画員がパンフレット「いってみっぺ秋保」を活用した講座を企画した。野尻街道ツアーを企画し、パンフレットの解説編を実施した。	12月5日 2月21日	2	25
市民企画会議 「秋保の手仕事を体験しよう」	秋保地域の伝統行事や手仕事を紹介することを目的に、市民企画会議を経て実施した。お盆と小正月を取り上げ、講話や小正月に飾るだんごさし作りを行った。	5月24日～ 2月10日	9	73
秋保ふるさと文化祭	秋保地域を中心に活動している団体、個人の作品展示、舞台発表、フリーマーケット等を行った。地域の幼稚園、小中学校も参加し、地域住民の交流の場になった。	9月27日 9月28日	2	500
地域懇話会	連合町内会長、地域の幼稚園小中学校校長、秋保総合支所、地域団体代表者等を対象に市民センターの事業や生涯学習について報告し、意見・情報交換を行った。	6月25日 2月17日	2	21
市民企画会議 「いってみっぺ秋保 スペシャルツアー」	市民企画会議で企画員がパンフレット「いってみっぺ秋保」を活用した講座を企画した。野尻街道ツアーを企画し、パンフレットの解説編を実施した。	5月17日～ 3月7日	11	61

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「秋保ふるさと文化祭移動展示会」の活動支援

秋保地域を活動拠点とするサークルや秋保市民センター主催講座受講生が制作した作品の展示会を、観光客が多く訪れる秋保・里センターを会場に開催することで、普段市民センターに来館しない方へ向けても日々の活動の成果を発表する機会とした。

作品出展団体からの会場立会者が多かったので、来場者に作品の説明を自らすることができ、県内外からの観光客を含めた多くの来場者との触れ合いがあった。こども向けの遊具を準備した団体がありこどもも楽しむことができた。来場者アンケートでも生涯学習への興味を持つきっかけになったという感想が多く見られた。

泉区中央市民センター

〔沿革〕

泉区中央市民センターは、昭和 22 年 9 月、七北田中学校内に七北田公民館として開設された。昭和 43 年 7 月に市名坂字東裏の現在地に移転。平成 16 年 1 月には、施設の老朽化と機能拡充の必要性から改築され新館として開館した。今日まで泉中央・七北田地区の生涯学習の拠点として、その役割を担ってきている。

本地域は従来の歴史的・文化的要素が残されている七北田地区と市名坂地区、急速に発展した泉中央地区を包含し、住民を取り巻く社会環境は大きく変化しつつある。このような状況の中、現代社会に対応した生涯学習事業の展開を図っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	まちを知る 七北田を歩く―地域いきいきプロジェクト―		
参加者	どなたでも	延参加者	71 人
開催日	全 8 回 令和 7 年 4 月 23 日（水）～令和 7 年 11 月 26 日（水）		
協力者・協力団体	泉区まちづくり推進部 泉区中央市民センター		
ねらい	当市民センター管内にある七北田宿が 2023 年に開宿 400 年の節目を迎えたことから、地域を歩きながら歴史資源について学ぶことで、若い世代が未来の自分たちのまちを考えるとともに、地域への愛着を深める機会とする。また、令和 2～4 年度の主催事業「いずみ探訪―地域案内人養成講座」受講生から発足した自主活動グループ「七北田探訪会」がボランティアガイドとして案内することで実践経験を積み、地域で活躍できる人材育成の一助とするとともに、より深い学びを地域に還元し地域活性化につなげる。		
概要・成果	ガイドボランティア「七北田探訪会」のメンバーはまち歩き講座のコースの検討や下見などの勉強を重ねてスキルアップを図り、9 月 6 日の「洞雲寺・七北田刑場跡編」、11 月 12 日の「熊野神社・中山早坂石碑群他編」のまち歩きを実施した。まちづくり推進部の支援でマイクロバスを使用し、移動が効率化したことで移動中の車内や現地での解説に時間を充てられ、より深い解説をすることができた。参加者からは「自分の住んでいる地域の歴史を初めて知った。継続して実施してほしい」などの声が多く寄せられた。参加者、ボランティア双方に確かな学習効果が得られた。また、2 回目の熊野神社方面はクマの目撃情報が急増した時期であり、内容の一部変更を余儀なくされたが、様々なクマ対策を取りながら実施した。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
Enjoy time 子育てひろば	第 1 回は「おやこで楽しむ音楽会」、第 2 回は親同士の座談会「ようこそ！IZUMI～ママのおしゃべりタイム～」、第 3 回は「子育てひろばコンサート」を開催した。	7 月 16 日 9 月 9 日 10 月 29 日	3	119
チャレンジ！ キッズタイム	第 1 回は「おやこで楽しくクッキング」、第 2 回は「ジュニアリーダーと宇宙ゲームで遊ぼう」、第 3 回は「ソーラーカーづくりに挑戦」第 4 回は「クラフトバンドでつくるフォトクリップ」を開催した。	7 月 26 日 8 月 8 日 9 月 13 日 10 月 4 日	4	44
市民企画会議 「中高生プロジェクト」	七北田中と仙台商業高等学校の生徒が地域活性化を目指し企画会議を重ねて、住民の交流と活性化を図るため 10 月 19 日「昭和レトロカフェ」と 12 月 7 日「和菓子づくりに挑戦」の講座を企画した。	6 月 28 日～ 12 月 7 日	10	56

《泉区》

老壮大学 「泉シニア塾」	音楽&運動、水分補給の大切さ、地域の歴史、マンドリンコンサート、七十七銀行への館外学習、みやぎご当地検定、フレイル予防体操、シルバー川柳を実施した。	5月15日～ 2月5日	8	396
泉中央減災講座	市名坂町内会と共催し「市名坂防災セミナー～洪水・土砂災害を減らすために～」をテーマに、より多くの方に災害に対する最新情報などを提供し、地域防災力を高める講座を実施した。	11月15日	1	20
ハートフル♪ 出前サロン	市民センターから距離的に遠い地域住民を対象に、泉中央地区社会福祉協議会友愛町支部と共催し、出前講座「落語を聞く会」を開催した。	1月28日	1	34
IZUMICHUOU コンサート	第1回はビッグバンドによるサマージャズコンサート、第2回はクラシックギターによるクリスマスコンサートを開催した。	6月29日 12月20日	2	103
地域に学ぶモノづくり～郷土料理の魅力を発見!～	令和6年度から引き続き企画員が講師となり郷土料理の調理講座を2回開催したほか、講座打合せや試作調理、成果物作成およびサークル化に向けた話し合いを行った。	6月14日～ 1月31日	9	58
まつりだよ！ 泉区中央！	実行委員会を主体とし、ステージ発表、展示発表、ジュニアリーダーブース、歴史解説コーナー、昭和レトロカフェ、出店販売等を行った。	10月19日	1	829
泉中央きらめきカフェ（認知症カフェ）	脳トレ体験「空想旅行」、革細工、昔の映像鑑賞会、仙台白百合女子大学学生企画の軽運動とゲーム、音楽療法を取り入れた参加型コンサート、各回終了後に交流会を実施した。	5月22日～ 1月15日	5	100
泉区中央市民センター地域懇話会	学校や各地域団体、サークル団体等から幅広く意見や要望を伺い、地域の情報や課題も把握しながら、市民センターの事業運営の参考にした。	6月26日 11月29日	2	36
市民企画会議を経て企画する講座「イベントをやってみよう」	七北田中学校と仙台商業高等学校の生徒が住民の交流と活性化を目指し、10月19日「昭和レトロカフェ」と12月7日「和菓子づくりに挑戦」の講座を実施した。	10月19日 12月7日	2	225

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「泉中央子育て支援リアンネット」の活動支援

この活動は、「旧：泉中央子育て支援ネットワーク」の名称を令和7年5月に変更したものである。地域で子育て支援に関わる諸団体が、幼児虐待等の問題の早期発見や関係機関との連携のために力を合わせて取り組むことをねらいとしている。当センターは、令和元年の発足から事務局を努め、毎年2回の研修会を実施し、仙台市内の子育て支援に関する機関や団体の関係者による講話や話題提供、参加者によるグループ協議等を行っている。毎回、ネットワークの強みを生かした連携に向けた取組に関する熱心な意見交換になっている。令和7年度は、仙台市児童相談所と仙台市こども若者局こども家庭保険課の職員による施設紹介と話題提供をしていただき、それぞれの機関が「虐待」や「ヤングケアラー」において問題のある家庭やこどもを救うために、たくさんの有効な手立てを講じていることを学んだ。加えて、児童虐待やヤングケアラーの疑いのあるこどもが孤立しないよう、地域のネットワークを活かして早めに気づいて関係機関につなぐ重要性を共有した。参加者からは、「虐待の実態や公的支援の取組がよくわかった。」「一時保護の目的が子供を安全に家庭に返すことであることにとっても意義があると感じた。」「ヤングケアラーのこどもを地域の力で早期に見つけられる取組をしていきたい。」との声が挙がった。当センターでは、今後も各団体と連携して子育て支援を継続していくために顔の見える関係づくりを進め、ネットワークを広げるようコーディネート面でも支えていきたい。

根白石市民センター

〔沿革〕

根白石市民センターは、昭和 21 年 11 月、根白石小学校内に設置され、昭和 23 年役場の移転に伴い独立した施設としての活動が始まった。旧泉市で昭和 28 年に公民館新築促進が決議されてから 10 年の経過を経て、昭和 38 年 7 月、待望の公民館が移転新築された。以来 20 年余、根白石唯一の社会教育施設として活動を続けてきたが、老朽化により昭和 63 年 4 月、根白石字杉下前に新築移転し開館した。館の特色として、299 席の移動式観覧席を備えた多目的ホールを有している。

当市民センターは泉区西部に位置し泉ヶ岳を背景にした豊かな自然環境に恵まれている。周辺は田園地帯と近年の開発による住宅地からなり、多様な住民構成の生涯学習の場として、また、スポーツ、コミュニティ、自主学習の場として広く利用されている。

平成 28 年度に大規模修繕工事を行い、建物の耐久性の向上とともに内外装の一新、各部屋の照明 LED 化や空調機の更新による省エネ化、トイレの洋式化や外靴のままで入館できるようになった等、利便性が向上した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	「食材王国かむり」		
参加者	成人の方	延参加者	23 人
開催日	全 3 回 令和 7 年 8 月 28 日（木）、10 月 29 日（水）、12 月 10 日（水）		
協力者・協力団体	地域住民の方、長生会（老人クラブ）		
ねらい	泉西部地区の貴重な地域資源である米や野菜をはじめ、様々な食材を使用した調理講座を実施することで、地産地消を推進するとともに、地域の主要な産業である農業への理解や関心を深めることを目的とする。また、ともに調理し、食事をするにより、参加者同士の交流を促し、顔の見える関係づくりにつなげていく。		
概要・成果	第 1 回は新鮮な夏野菜を使用した調理、第 2 回は新米を薪と羽釜で炊く体験と試食、第 3 回は根白石産の米粉を使用したパンとビザの調理を行った。野菜や米はいずれも地域の方が栽培したものを提供していただいた。また、羽釜も地域のお宅で現在も使われているものを借り受け、炊飯は長生会の方々の指導を受けて実施した。また、講師も全ての回で地域人材に依頼するなど、地域資源を十分に生かした特色ある講座となった。 令和 7 年度から新規で実施した事業であったが、各回とも即日定員に達し、参加者の満足度も非常に高かった。「食材王国かむり」を実施することで、泉西部地区で収穫された農産物の魅力や地域人材の持つ技術と経験を伝えることができ、地域への理解と関心を深める一助となった。また、参加者同士の自然な交流が図られ、各回とも和やかで活気のある講座となった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
マザーズスクール	子育て中の保護者を対象に託児付き講座を実施した。1 回目は紅茶についての講話と試飲、2 回目は嗅覚反応分析についての講話とアロマスプレーを作るワークショップを行った、	6 月 21 日 7 月 5 日	2	9

元気キッズ ～かむりっこひろ ば～	1 回目は田んぼ周りのいきもの調べ、2 回目はクリスマス工作、3 回目はかけっこが速くなるコツを学ぶ講座を行い、学校や家庭では体験できない学びの場を提供した。	8 月 21 日 12 月 13 日 1 月 31 日	3	48
2 校区合同インリー ダー研修会	根白石小学校の児童が参加し、ゲームの企画と実践を通じてリーダーとしての資質を学ぶ研修を行った。また世話人を対象に、子ども会の意義を学ぶ研修を行った。	11 月 29 日	1	23
根白石学びのサロ ン	全 4 回のうち、1 回目の歴史講話を根白石小学校社会学級と、2 回目のコンサートを根白石地区町内会と共催で実施した。3 回目はコーヒーに関するワークショップ、4 回目は和菓子づくりを行った。	9 月 30 日 12 月 7 日 1 月 25 日 2 月 26 日	4	276
さわやか大学	老壮大学。高齢者が様々なテーマに沿って学び、交流する内容。(健康、介護予防、軽運動、防犯、地域の歴史文化、自然、落語鑑賞)	5 月 15 日～ 1 月 15 日	8	342
出前講座	各地区の老人クラブや社会福祉協議会の協力のもと、集会所やコミュニティセンターを会場に、出前形式の講座を行った。(人形劇、演芸の公演、コンサート、マジックショー等)	8 月 26 日～ 12 月 19 日	6	117
～明日の元気のた めに～さあ始めよ う、健康づくり	講座の前半は、薬・骨・糖尿病と 3 回とも異なるテーマで講話を行い、後半は杜の都のきほん体操、ロコモ体操などを取り入れた体操を毎回実施した。	5 月 22 日 11 月 13 日 1 月 22 日	3	113
継承しよう！根白 石の伝統行事	伝統行事であるだんごさしや、正月飾りの門松作りなどを通して伝統行事への理解を深めると共に、伝統文化を次世代につないでいくことを目的とする。	12 月 21 日 1 月 10 日	2	36
根白石市民センタ ーまつり	利用団体の学習成果発表の場、住民の交流の場として、舞台発表、展示発表、催事コーナー、出店コーナー、抽選会等を行った。	10 月 11 日	1	300
根白石地域防災講 座	防災や減災、避難所生活等における必要な知識や備えを学ぶ避難訓練を行った。また、緊急時でも対応出来るように救急救命講座を行った	11 月 9 日 2 月 25 日	2	111
地域懇話会	市民センター活動への理解を深める機会とし、参加者から市民センターに対する要望や意見を吸い上げて、新たな事業の展開に繋げる。	5 月 22 日 11 月 9 日	2	31
かむりの里・子育て プレイス～地域い きいきプロジェクト～	地域にお住いの企画員と会議を行い、ホタルの観察会・体操教室を行った。2 月には中学生の企画員も迎えて小学生向けイベントを行った。	5 月 29 日～ 3 月 21 日	11	187

〔令和 7 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「根白石ガイドボランティア」の活動支援

根白石ガイドボランティアは、地域の歴史の勉強会や実地調査を中心に、月 2 回ほど定期的に活動している。令和 7 年度も前年度に引き続き、日頃の活動成果をまとめた小冊子「歴史の宝庫 根白石 8」を刊行した。また、地域内外からの様々な依頼に応じて、泉区西部地区のガイドを行った。市民センターでは、ガイドボランティアの活動を記録し、活動に必要な情報の提供や物品の貸出を行ったり、日常的に相談に応じるなど、会員とコミュニケーションを図りながら、活動を手厚く支援している。

高齢化による会員数の減少という課題解決のために始まった養成講座の実施に際し、市民センターでは相談や助言のほか、市民センターだよりへの募集記事掲載やロビーでのチラシ掲示など、広報面でも支援を行った。その結果、令和 7 年度からは若い世代の会員が 2 名加わり、新たなアイデアを取り入れながら、より活発な活動を行っている。

南光台市民センター

〔 沿革 〕

南光台市民センターは、昭和 52 年 4 月、「南光台公民館」として開館し、昭和 62 年 8 月に泉図書館南光台分室が併設された。その後、平成 2 年 4 月に「南光台市民センター」と改称され、地域住民の交流の場・生涯学習の場として、その役割を担ってきた。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により建物が全壊したが、元の場所に鉄筋コンクリート造 2 階建管理棟及び多目的ホールが新築され、平成 27 年 3 月 28 日に再開館した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	「南光台地域こども・大人ネットワーク」		
参加者	地域住民	延参加者	156 名
開催日	全 16 回 令和 7 年 4 月 19 日（土）～令和 8 年 3 月 21 日（土）		
協力者・協力団体	南光台小学校、南光台おやじの会		
ねらい	地域のこどもたちの活動の場や、地域や大人と関わるような地域交流の機会を作り出してきたおやじの会や小学校を中心にネットワークを広げ、地域でこどもたちを育む環境を整えることを目指す。		
概要・成果	講座から立ち上がった南光台おやじ（親児）の会と、毎月第 3 土曜日の地域清掃の後に定例会議を行い、地域のこどもや親子等を対象にした 4 つの講座を企画・運営した。 7 月には「夏休みの大冒険 in 泉ヶ岳」を開催し、小学生親子が泉ヶ岳の大自然の中で沢登りなどの普段出来ない体験活動を行い、参加者同士の交流の場となった。令和 7 年度は、より安全に配慮しながら自然ガイドによる動植物の観察会も実施し、泉ヶ岳の自然を学ぶ機会を提供することができた。11 月には小学校の校庭を会場にフットゴルフ大会を開催した。ジュニアリーダーの協力のもとで小学生は楽しくプレイすることができた。12 月には地域の教会を会場にゴスペルコンサートを開催し、地域住民にも大変好評だった。1 月に開催した「ちゃれんじ！むかしあそび」は、小学生に家族での参加を呼びかけ、伝統的な遊びを体験する中で家族同士の交流の場面も見られた。 4 つの講座以外でも、商店街振興会と子ども会育成会が主催する夏まつりやご縁日まつり、地域の子ども食堂への協力など、地域や学校と協働し、連携をさらに深めることが出来た。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子ふれあい広場	南光台児童館、南光台児童館子育て支援クラブたんぼぼ、南光台東児童センターと共催し、乳幼児親子を対象とした童謡コンサートを開催した。	9 月 4 日	1	48
こどもチャレンジクラブ	こどもたちが学ぶことへの興味関心を高めるよう、e-スポーツ体験、みんなでパークッション体験、親子で三越見学、水素で動かす車の実験、フラワーアレンジメントづくりの体験型講座を開催した。	6 月 14 日～ 2 月 11 日	5	83
みんなの学びカフェ	地域の方が気軽に参加し、新しい学びや交流のきっかけとなるよう、コケリウム作り、クリスマスフラワーアレンジメント作り、じぞう文字体験講座を実施した。	6 月 26 日～ 1 月 31 日	3	44

《泉区》

福を呼ぶ！男の料理	男性が興味を持ちやすく一人でも気軽に参加出来そうな料理教室を開催した。料理の基本や食材について学ぶと共に参加者同士の交流の場となった。	8月9日 9月6日	2	27
みんなでやろうよ、モルック	高校生の市民企画員が企画した小学生対象のモルック講座を実施した。緻密な作戦や計算も必要なことから、チームの仲間とのコミュニケーションの重要性やチームワークも学ぶことができた。	8月30日	1	15
南光台学院	地域の高齢者を対象に、様々な分野の学習内容を提供した。地域の歴史、ホワイトボードミーティング、健康講座、地震防災講座、軽体操とチアダンス、博物館見学の館外学習を開催したほか、馬頭琴コンサートを楽しんだ。受講者主催の新春の会では沖縄の自然や文化を学ぶと共に三線の演奏でカチャーシーの踊りを楽しんだ。バリエーションに富んだ学びを通して受講生の学習意欲を促すと共に、交流を深める機会にもなった。	5月16日～ 2月20日	9	571
南光台地域防災・防犯講座	地域内での防災力に加え事故や防犯力の向上を目指し、町内会と連携してシニアドライバーの安全運転講習、洪水・土砂災害対策講座と救命救急講座を開催した。	10月23日 ～ 2月26日	3	46
令和7年度南光台市民センターまつり	市民センター利用サークルや地域団体、小中学校等、日頃の学習成果発表の場、地域交流の場として、ステージ発表、展示作品発表、出店販売の3部門で開催した。	10月11日 10月12日	2	1,350
南光台市民センター地域懇談会	地域関係団体と利用サークルを対象に、意見交換と情報交換を行い、各団体の課題やニーズを共有する事ができた。また、市民センターの概要や年間の活動内容を理解していただく機会となった。	7月8日 7月9日	2	33
市民企画会議	地域住民が企画員となり、普段気になっている事などについて話し合いを重ね、講座「みんなでやろうよ、モルック」を企画・運営した。	4月6日～ 8月30日	5	30

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

市民センターで活動している団体・サークルへの活動支援

南光台市民センターだよりには、毎月、学校関係者や地域で活動する団体の代表による「リレーコラム」を掲載している。このコラムは、地域団体の活動状況や異動情報、寄稿者の人となりを地域住民に広く知ってもらうきっかけになっており、寄稿者と読者の双方から好評を得ている。更に、執筆依頼を通じて、学校や地域団体、新たな人とのつながりが構築され、市民センターの事業に対する理解や協力が深まり、「つながるコミュニティー」を創る一助となった。

令和7年度は、地域で活動している2団体に老壮大学での講師を依頼して活動の支援につなげた。地域の歴史を学ぶ団体による講話と、チアダンス団体の指導者による運動講座を実施して、地域で活動する団体について多くの方に知ってもらうことができた。更に、地域の歴史を学ぶ団体については、市民センターからの紹介を通じて小学校の授業の講師として招かれることとなり、地域団体と学校が繋がるきっかけ作りができた。高齢化などにより会員の減少に悩むサークルも多いため、センターとして常に利用サークルに寄り添い、それぞれが活動を継続していけるよう支援していく。

黒松市民センター

〔沿革〕

黒松市民センターは、昭和 47 年 4 月に開館した八乙女公民館を前身とし、平成 4 年 10 月に現在地に新築移転され開館した。

当市民センターは、地域における生涯学習及びスポーツやサークル活動などの交流の場として活用されている。また、地下鉄南北線黒松駅に隣接しており、交通の利便性が良いことから、利用者は広域にわたっている。

令和 6 年 11 月から大規模修繕工事を行い、令和 7 年 12 月に再開した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	黒松まなび塾		
参加者	65 歳以上 （付添者 1 名可）	延参加者	23 人
開催日	全 3 回 令和 7 年 5 月 22 日（木）、7 月 3 日（木）、9 月 4 日（木）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	黒松市民センターは令和 6 年 11 月から、大規模修繕工事のため休館となった。これまで長年にわたり地域の高齢者の学びと交流の場として開催してきた「黒松寿大学」も、自館での開催ができなくなったため、館外学習を中心とした内容にして、引き続き高齢者の生涯学習の場を提供する。 黒松市民センターは、仙台市地下鉄南北線沿線にあることから、地下鉄沿線にある場所を会場にして、高齢者の皆様に外出の機会と新たな学びの場となるよう実施する。		
概要・成果	1 回目は『ガイドボランティアと歩く「陸奥国分寺薬師堂」』、2 回目は『太田館長とめぐる「島川美術館」』、3 回目は『新「HOKUSHU 仙台市科学館」見学』という全 3 回の内容で、休館中も高齢者の学習や交流の機会を継続するため、館外学習を実施した。施設の見学についても付添者の同伴を可能としたことで、付添者とともに車いすで参加された方もあった。休館中も学習や交流の場を提供し続けたことで、地域の高齢者の学習意欲の保持、ならびに健康維持につながった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
真美沢公園自然観察会	こどもたちが地域資源である「真美沢公園」内の樹木や草花等を直接観察し、自然環境を学んだ。親子参加型としたことで、親子のふれ合いの場を提供できた。	6 月 21 日	1	16
あそびの広場	八乙女児童館と共催し、乳幼児親子を対象に「親子ヨガ」を開催した。また、小学生親子を対象に「キンボール」を体験する場を提供した。	11 月 21 日 2 月 7 日	2	38
AKD チャンピオン決定戦	3 つの児童館と共催し、小学生が学校や地域を超えた交流を図った。玉入れ、リレー、ドッジボールなどの競技を通して、協力しながら遊ぶ楽しさを体験する場を提供した。	1 月 24 日	1	29

《泉区》

市民企画会議 ～暮らしの中の SDGs ～	市民企画員が生活の中で身近にできる SDGs 活動について話し合い、その実践として何ができるかについて会議を重ねた。	2月21日～ 3月17日	5	141
地域防災講座	地域の小学生を対象に、建物内での火災発生時の対応を学んだ。また、黒松児童館において、不審者が侵入した場合に備えた訓練を行った。	8月21日 10月14日	2	200
真美沢公園元気プロジェクト	地域団体「真美沢公園を美しくする会」と共催し、地域資源である真美沢公園の環境保全・美化活動を行い、公園の利用促進や地域活性化につなげた。	4月5日～ 3月21日	12	230
まつり出張プロジェクト ～まつり de おじゃまします～	長年、地域の団体や住民と市民センターまつりを開催してきたが、休館により開催できない。これまで共催してきた児童館や地域包括支援センター等に会場を移し、サークル団体の発表の場や協力体制を途切れさせぬよう、出張し共催した。	9月13日 10月18日 10月26日	3	599
くろまつコンサート	地域の真美沢公園を会場にコンサートを開催した。また、リニューアルオープンを記念したコンサートを自館開催し、誰もが気軽に参加できる交流の場を提供した。	11月3日 12月20日	2	245
地域懇話会	各地域の町内会の代表者や関係団体・関係機関の代表者および子育て支援団体の代表者等が集まる場を設けて、改修工事の状況や再開館の予定などを説明し、ご意見をいただいた。	6月3日 6月11日 12月2日	3	39
市民企画講座 ～暮らしの中の SDGs ～ を経て開催する講座	市民企画会議の企画員が SDGs の理念を実践するため、各年度異なる譲渡会を開催した。地域の SDGs 活動を継続し、推進することができた。	3月15日	1	161

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

施設利用団体の活動支援

黒松市民センターを主な活動場所としていたサークル団体が、黒松市民センターが休館中でも、近隣の市民センターで活動を継続されていた。その活動を支援するために、サークル団体の紹介や、活動状況、活動の様子を写した写真などを、毎月発行している黒松市民センターだよりに掲載し、多くの方に紹介した。その結果、掲載記事を見た方が、興味を持ったサークルの見学に来るなど、サークル活動の活性化に繋がることとなった。

将監市民センター

〔沿革〕

将監市民センターは、昭和47年11月、将監団地の開発・発展を背景に地域住民の交流の場として開館した「将監会館」が始まりで、昭和53年4月、新たに地域生涯学習の拠点施設として名称を「将監公民館」に改め、昭和54年6月には研修室棟も竣工し施設の拡充が図られた。その後、仙台市との合併に伴い、平成元年4月から「将監公民館・将監市民センター」となり、翌年4月には「将監市民センター」と改称された。平成3年度には、施設の大規模な改築が行われ、平成4年4月に再開し令和4年3月まで業務を行った。

令和4年3月に複合施設（市民センター・児童センター・老人憩の家）として竣工し、同年5月から業務を再開した。当市民センターは、公共施設内に地域住民が運営するサロンを包含しており、サロンを含め地域内外の方々に様々な形で利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	将監ふるさとづくりプロジェクト		
参加者	地域住民（どなたでも）	延参加者	438人
開催日	全17回 令和7年4月13日（日）～令和8年2月28日（土）		
協力者・協力団体	「将監沼のふれあい」と自然を育む会、将監みんなのサロンふれ・ミー運営委員会、将監児童センター、将監児童館、将監西児童館		
ねらい	地域で活動している団体や、地域住民の企画委員とともに、地域資源である将監沼を題材にした講座を企画し、新旧住民が気軽に交流できる場を設け、地域活動へ目をむけるきっかけ作りを促す。		
概要・成果	将監地域の大切な資源でもある将監沼は、平成16年4月に設立された「将監沼の自然」とふれあいを育む会が公園内の維持管理（整備）を行い、こどもたちが野鳥や樹木の観察のできる総合学習の場とすることや、こどもから大人まで気軽に散歩ができる場所として地域に根付いてきている。令和7年度計画の将監沼散策マップの改訂では、散策路に新しい名前を付ける企画において、将監桜まつりの時や市民センター内に投票箱を設置（5月中）し、来館者された方には、好きな散策路の名前の投票に協力していただき、その集計結果に基づきマップを作成した。完成したマップは、将監ふれあい公園のリニューアルオープンや将監市民センターまつりのイベント等で配布したほか、将監小、将監西小（共に3年生）の将監沼の総合学習にも活用した。幼少期や学童期に地域の自然に親しむ機会は、今後成長していく過程において、ふるさとを思い出し、ふるさとを愛する礎になることに繋がる。令和8年度は、将監沼散策マップの完成に向けて、企画委員に新しく中学生が参加することになり得るなどさらに活動の活性化が期待できる。		

〔令和7年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
こどもチャレンジ	小学生を対象に学校では体験できない経験として七夕和紙を使った猫のお面の絵付け、バルーンアート、上靴の洗い方講座、天体観望会、柳生和紙すきを行った。	7月24日～1月7日	5	101

将監遊びの広場	主に市民センターのホールを利用した運動活動を通して、こどもたちが活動できる場を提供し、居場所づくりや健やかな成長の一助となることを目的とする。また地域団体や中学生ボランティアに活動に参加してもらうことによって様々な年齢層との交流を深めていく。ドッジボール、(リアル野球盤・モルック)、キンボールの講座を開催した。	6月14日 11月8日 1月10日	3	74
みんなで七夕飾りをつくろう！	小学生向けに歴史行事の継承と世代間交流を目的に、七夕飾り作り、飾り付けの講座を開催し、サポート団体は準備段階からそれぞれの特性を活かし参加した。	6月6日～ 7月4日	10	115
なごみサロン	全世代向けに、学びの機会と交流を目的とし、モザイクタイルのミニテーブル制作、バスボムづくりワークショップ、クリスマスボードアレンジメントを行った。	9月13日 11月22日 12月6日	3	54
将監寿大学	高齢者を対象に学習機会の提供を目的とし日舞、医療講話、ボイトレ、栄養と目の老化、館長の歴史講座、ペタンク、講談、コンサートを行った。	5月9日～ 2月13日	8	500
今からできるスマホ講座	高齢者を対象に、スマホをより理解するため、基礎編、応用編の全2回で体験型スマートフォン操作の講座を開催した。	10月23日 11月20日	2	26
将監地域防災講座	地域住民が防災について学ぶ機会を設け、スマホやゲーム等を活用して実施。また、親子で地震が起きた際の備えについて作品の製作等を通して学んだ。	11月15日 2月14日	2	20
将監市民センターまつり	各サークルや地域団体が舞台発表や作品展示を通して、活動の発表の場を提供するとともに、多世代の地域住民が集う交流の場となった。	10月4日 10月5日	2	1,000
将監地域懇談会	地域の教育機関や地域諸団体から市民センターとの連携等について意見を伺い事業の推進につなげた。	9月11日 3月4日	2	20
居場所サポーターズ連携講座	小学生親子と居場所サポーターズのメンバーと一緒に、簡単にできる手作り料理を作りながら交流を図った。	5月29日～ 2月7日	7	116
将監ふれ・ミー♪ふれあいコンサート	地域交流を目的に、ピアノ、オカリナ、アコーディオン、ベース、コーラス、フルート、金管楽器、三線、ウクレレ、ハーモニカ、木管楽器、トーンチャイムの演奏会を行った。	5月31日～ 2月21日	8	540

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

講座を通して参加者と地域のコーディネート

主催講座「子どもチャレンジ」（リアル野球盤・モルック）は、当初、こども対象の講座として募集していたが、市民センターから地域の高齢者の方々にも参加を呼びかけたところ、多くの参加者が得られた。同じ競技を通じて得た貴重な体験が、互いの共感に結びつき、こどもと高齢者を結ぶ世代間交流を図ることができた。

加茂市民センター

〔沿革〕

加茂市民センターは、昭和 58 年 4 月、加茂公民館として開館した後、仙台市と泉市の合併や公民館と市民センターの併設を経て、平成 2 年に現施設名に改称された。平成 10 年には併設されていた加茂体育館が編入され、現在に至っている。開館当時は長命ヶ丘・泉中山の区域まで対象としていたが、平成 5 年 4 月の長命ヶ丘市民センター開館に伴い、現在は加茂・虹の丘・上谷刈・みずほ台を対象としている。

当市民センター周辺地区は、賀茂神社や古内志摩の墓、中世の館跡である長命館公園などが点在しているほか、七北田川や丸田沢堤・三共堤がある水の森公園などの自然環境にも恵まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	みんなでつくろう！加茂（の）水族館		
参加者	小中学生、地域住民	延参加者	257 人
開催日	全 6 回 令和 7 年 7 月 25 日（金）、7 月 29 日（火）、8 月 6 日（水）、8 月 26 日（火）、8 月 27 日（水）、9 月 15 日（月）		
協力者・協力団体	鶴岡市立加茂水族館、加茂小学校、虹の丘小学校、加茂中学校、加茂児童センター、虹の丘児童センター、東北生活文化大学短期大学部、泉図書館加茂分室		
ねらい	こどもたちが体験活動や交流の中で地域の魅力に気づき、SDGs を楽しく学ぶきっかけとする。地域教育機関との連携により、若い世代や子育て層により集中して情報を届け、多世代のこどもたちの交流を促進することを目的とする。		
概要・成果	加茂地域へのこどもたちの愛着を高めるきっかけのひとつとして、同じ地名を持つ加茂水族館と連携し、こどもたちの SDGs に関する意識向上を目的として開催した。地域で排出された再利用資源を使って事前にクラゲの工作を行い、加茂市民センターを水族館のように飾り付けて海の生き物や SDGs に関心を持ってもらう機会とした。実際に「クラゲの水族館」として仙台でも認知度の高い加茂水族館と、ZOOM ミーティングでの講話を繋ぐことで、クラゲの生態や海洋環境の変化について詳しく学ぶ機会を提供できた。 地域の各教育機関と多数連携したことで、たくさんのこどもたちが廃材を使って工作することの面白さを感じ、ごみ再利用への新たな目線を持てたことがアンケートから伺えた。作品の展示やイベントを通して、親世代や地域の方にも楽しみながら SDGs を学ぶことができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
みんなすくすく子育てひろば	9 月に加茂児童センターと共催で親子でリトミックを実施。また虹の丘児童センターとの共催で児童センターの先生が見守り保育をしてママヨガを実施。2 月は親子ビクスとこどもの足育についてのお話を実施。	9 月 9 日 9 月 12 日 2 月 25 日	3	39
まるごとチャレンジキッズ	5 月はニュースポーツに挑戦し、JL とも触れ合う機会を持った。12 月は天然酵母を使用したクリスマスパン作りとデコレーションを実施した。	5 月 31 日 12 月 13 日	2	44
いきいき健やかトレーニング！	6 月に第 1 弾として体力測定を行い、数値を基に骨密度を上げるための運動と姿勢のチェックを実施。1 月～2 月は第 2 弾として体力測定と、楽しみながら体幹を鍛える運動とリンパケアを行った。	6 月 5 日～ 2 月 5 日	6	107

おとなの学び アラカルト	6月雅楽コンサート、7月ヨガ体験2回、11月東北大学史料館見学、中華点心花巻づくり、2月白菜キムチづくりを実施した。	6月7日～ 2月27日	6	90
ワイワイ若がえり塾	5月開講式・平家詩曲・交流会、6月椅子ヨガ、9月朗読劇、10月ダーツ、11月館外学習「宮城学院」、12月新聞ちぎり絵、1月講話、2月音楽「歌」・閉講式、全8回を開催した。	5月15日～ 2月19日	8	383
出前講座	虹の丘推進協議会と共催で、虹の丘コミュニティ・センターを会場に、地域ニーズに寄り添った講座として7月チェロコンサート、12月チーズセミナーを実施した。	7月13日 12月5日	2	108
災害から身を守るために	6/15に加茂地域団体との連携で「救急救命・応急手当講習会」、12/6に仮想空間で学ぶ「親子で学ぼう 身近な防災」を実施、防災意識の醸成に繋がった。	6月15日 12月6日	2	74
地域懇談会	1/17に加茂小学校区、2/21に虹の丘小学校区で地域諸団体の代表者による地域懇話会を実施。地域課題と今後の予定等について意見交換、情報共有が図られた。	1月17日 2月21日	2	34
加茂市民センターまつり	地域団体やサークルの発表の場として、ステージ発表や展示発表、体験コーナーを実施。昨年より実演などを行う団体が増え来場者との交流が盛んになり、地域の活性化が図られる機会となった。	10月19日	1	900
市民企画会議「寄り合いアップデートラボ」	「KAMO フェス」に備え、計画的に会議を行い、説明会を含む事前説明会も効率的に進めた。イベント当日は来館者も増え、地域内の交流が図られた。	5月27日～ 2月28日	8	27
市民企画講座 「KAMO フェス in 加茂市民センター」	参加者へのKAMO フェス事前説明会を実施し、フリーマーケット・ステージ・ゲームコーナーなど地域のこどもから大人まで楽しめるイベントを実施した。	9月14日 9月28日	2	315

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

虹の丘コミュニティ推進協議会の活動支援

例年、地理的に離れている虹の丘地域へも出前講座を行い、共催先である虹の丘コミュニティ・センターとは長く連携を続けている。虹の丘・みずほ台地域の住民が持つ生涯学習へのニーズや生の声を共有できる貴重な機会であり、これをきっかけに地域団体から講師紹介の依頼を受けることも多い。

令和7年度は、コミュニティ・センターにて毎年行われる、虹の丘コミセンまつり講演会のテーマに適した講師を紹介してほしいと依頼があり、前年度に主催事業で講師を依頼した支倉常長氏を紹介した。

12月に行った出前講座2回目のチーズセミナーも好評を博し、地域からもう一度別の機会に実施したいので紹介してほしいと声が上がった。情報共有や連携の機会をきっかけに、今後は虹の丘・みずほ台地域の人材発掘も進めていきたい。

高森市民センター

〔沿革〕

高森市民センターは、地域住民の生涯学習活動の中心的施設として、平成元年4月「高森公民館」として開館した。その後、機構改革に伴い「高森市民センター」と改称された。令和4年度から大規模改修を実施し、令和5年11月に再開した。

高森地区は、昭和40年代後期から、民間企業によって開発された地域で、閑静な住宅地のほか、高森東公園や高森西公園など豊富な緑地が残され、自然と調和した美しい街区が特徴的な地域である。

地域では町内会や地域ボランティア団体が中心となり、四季を通じたイベント等を行い、地域活性化の推進に取り組んでいる。その中で、当市民センターは、地域への愛着心を育む交流の場として、多くの地域住民に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ウェルカム地域交流「初夏の高森東公園を探検しよう」		
参加者	どなたでも	延参加者	23人（一般参加者数）
開催日	全1回 令和7年6月7日（日）		
協力者・協力団体	高森地区社会福祉協議会、高森東地区社会福祉協議会、ボランティアもくれん、結いの会・高森東、高森ふるさとづくりの会		
ねらい	高森地域は団地造成の時期や学区の違いで地区間の交流機会が少ないこと、住民の高齢化や独居化が進み、各地域団体の次世代への活動継承が困難になってきていることが地域課題として共有されている。そこで、貴重な地域資源である高森東公園を活用したこどもから高齢者までが気軽に参加できる自然観察会を開催し、身近な自然の豊かさ・大切さを実感するとともに地域の魅力を再確認する契機とする。また、この自然観察会を通じて地域間交流、異世代間交流を図り、参加者と地域諸団体とが顔の見える関係を築き、地域諸団体の活動を次世代に継承するための一助とする。		
概要・成果	地域住民から構成される市民企画員により企画会議を重ね、貴重な地域資源である高森東公園を活用した自然観察会を実施し、こどもから高齢者まで幅広い年齢層の方々合計23名（親子3組7名含）の参加を得た。昨年度は11月に開催したが今年度は6月に開催することで、季節により植物の形態が異なることなどを観察し、高森東公園の四季を実感することができた。 また、昨年度の反省を踏まえ、観察ポイントを8ポイント設定し、各ポイントで運営スタッフが植物の解説をしたほか、参加者を4グループに分け、それぞれに講師が同行して植物解説を行い、観察ポイント以外でも質問しやすい環境を整えたことで、参加者は身近にある自然への理解をより深めることができた。 運営面としては、企画員の他にも普段から地域課題に取り組む地域諸団体のメンバー22人が運営スタッフとして受付や植物の解説などに携わった。これにより参加者同士やスタッフ同士、さらには参加者とスタッフ間で異世代交流、地域間交流が生まれ顔の見える関係づくりにつながった。 さらに、今回の講座で地域資源（自然資源・人材資源）を活用し紹介したことにより、地域の魅力の発信・発見につながり、参加者と運営スタッフ共に地域への愛着や関心を高める機会となった。今後、講座参加者から地域諸団体の活動の担い手となる人材が輩出され、地域がより一層活性化することが期待される。		

〔令和7年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
わくわく親子体験ひろば	宮城県産杉の間伐材を使用したブックスタンドやスウェーデントーチづくりなど普段なかなかできない工作・実験・野外活動を親子ともに体験する機会を通しコミュニケーションのきっかけを作り、こどもの健やかな成長に寄与した。	7月30日11月8日1月17日	3	44

《泉区》

高森きつず体験チャレンジ	土の中に生息する生き物の観察や、野鳥観察など五感を通じて学ぶ体験型学習の機会を提供した。これらの学習を通して、こどもたちの探求心や好奇心を育むことができた。	5月9日～ 2月18日	6	106
ジュニアリーダーと遊ぼう	地域の夏祭りや近隣児童センターとの共催事業において、参加したこどもたちと遊びを通じた異年齢間交流を促進した。また、この事業によりジュニアリーダーへ活躍の場を提供し、スキルアップを図ることができた。	7月26日 7月31日 11月15日	3	140
高森健康生活	正しい歩き方の習得やフレイル予防講座を行うとともに、定期的に軽体操やレクリエーションに取り組んでいる地域団体の活動紹介を行い、地域住民の健康維持を図った。	6月28日～ 11月8日	6	141
高森塾（老壮大学）	地域住民の学習意欲を促進し高齢期をより豊かに過ごせることを目的として、講談や合唱および館外学習（ナノテラス見学）など、様々なジャンルの学びの機会を提供した。	5月23日～ 2月27日	9	453
高森わいわい広場	料理、eスポーツ、寄せ植えと、幅広い年代の誰もが参加しやすい様々なジャンルをテーマに学び、参加者同士の交流を促進した。	7月9日 7月16日 10月15日 10月30日	4	72
★学んで実践！防災講座	親子で作る防災グッズ工作、補助避難所運営、応急手当、サバメシづくりに取り組み、災害への備えとして地域コミュニティの大切さを再認識する機会とし、地域防災力の向上に寄与した。	5月17日6 月22日 11月1日 11月16日	4	109
市民企画会議「ウェルカム地域交流企画会」	普段から地域課題に取り組む地域諸団体のメンバーを企画員として、高森地域全体の活性化に資する事業を検討し、企画運営することで団体同士のつながりを強化した。	4月19日 ～ 1月24日	6	63
高森市民センターまつり	市民センター利用サークルや地域団体の成果発表の場を提供した。また、地域団体やサークルで組織する実行委員会がまつりを運営することで、地域住民の仲間づくりや交流促進に寄与した。	9月20日	1	600
ハッピースマイルコンサート	誰もが気軽に参加できるコンサートを開催し、引きこもりがちな方の外出機会、世代を超えた地域住民の交流と学びの場を提供した。	11月29日 12月20日 1月25日	3	321
高森地域懇談会	地域団体や近隣関係組織から意見をいただき、市民センターの施設運営・事業取組改善に反映させるとともに、市民センター事業への理解促進を図った。	10月23日 2月19日	2	21

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーの活動支援

毎月の定例研修会のほか、寺岡・桂市民センターと協力して7/6、12/7、3/15に合同のジュニアリーダー研修会を開き、スキルアップと近隣市民センターを拠点とするジュニアリーダーの交流機会とした。また、高森東地区の夏祭りにジュニアリーダーのブースを設け、多くの児童やその保護者を対象にモグラたたきならぬワニたたきゲーム（ワニワニくん）のコーナーを実践したところ、地域住民にジュニアリーダーの活動を広く知ってもらうことができた。

松陵市民センター

〔沿革〕

松陵市民センターは、平成2年、泉区の北東に位置する松陵ニュータウンの住宅地に開館した。松陵・永和台・歩坂町・山の寺・向陽台・明石南の6つの町を担当エリアとし、県民の森をはじめ、豊かな自然と緑に恵まれた地域に立地している。こどもの減少により、松陵地区では平成25年に2つの小学校が統合されるなど全般的に少子高齢化が進んでいる地域であるが、当市民センターは地域における生涯学習の拠点として市民に親しまれる事業を展開し、地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。令和5年12月から大規模修繕工事を行い、令和7年4月に再開した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	つながるプロジェクト		
参加者	地域活動団体代表の方々	延参加者	119名
開催日	全7回 令和7年5月28日（水）～令和7年12月20日（土）		
協力者・協力団体	泉区中央市民センター		
ねらい	松陵・向陽台地域では高齢者サロンの重要性が増しているが、地域活動に従事する人材は限られており、サロン担当者の負担増やサロン同士の横のつながりが十分とはいえない。そこで各サロンの活動内容をまとめたパンフレットを作成し、活用してもらうことで横のつながりや情報の周知につなげる。		
概要・成果	近隣で活動する高齢者対象の「サロン」主催者を対象に、複数年事業として令和3年度から取り組んでいる「つながるプロジェクト」（旧事業名「松陵の丘つながるプロジェクト」）は、令和7年度で最終年度を迎えた。松陵・向陽台地区の高齢者サロン主催者や利用者が活用できるサロン紹介パンフレットと案内マップを新たに6サロン加え更新し、配布することでサロンの活動を広める一助となった。 サロンに参加されていた方から「歩いていける距離にこんなに多くのサロンがあることを知らなかった。このパンフレットを見て多くのサロンに足を運びたい。」と感想をいただいた。サロン主催者からは、他のサロンがどのような活動しているか今度見学に行くという声もあり、パンフレット作成を通じて団体間の情報交換につながり、事業が始まった当初に比べ着実にサロン同士交流や、横のつながりができた。		

〔令和7年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子どもゼミナール	体験学習を通し、学校の授業とは違う学びの機会が得られることを目的に、弓道部体験、あそびうたコンサート、ジュニアリーダーとあそぼう、親子で肉まんを作ろうを実施した。	8月19日 10月3日 11月9日 1月17日	4	164
ゆったり学びカフェ	地域住民を対象に、誰でも気軽に参加できる講座の開催を目指し、七北田公園都市緑化ホールの協力による「キッチンハーブの寄せ植えと育て方」と社会学級と共催でギター演奏「癒しの弾き語り」を実施した。	7月2日 10月18日	2	55
さくっと！まるごと健康生活	住民がいつまでも健康で自立した生活を送ることを目指し、松陵地域包括支援センターと松陵地区のサロンと協力して、軽体操や栄養、フレイル、認知症など様々なテーマを市民センターや集会所で実施した。	5月22日～ 11月27日	8	99

《泉区》

松陵シニアカレッジ	地域の高齢者が楽しく学び交流できるよう、口腔ケアと腹話術ショーから始まり、クリニカルアート体験、消費者セミナー、平家琵琶の演奏会と歴史講話、筋トレと軽体操、ダーツ体験、クリスマスコンサート、講談を開催した。	5月23日～ 1月23日	8	390
県民の森を知ろう！ 楽しもう！！	市民センターと隣接している県民の森の魅力を新たに発見してもらうことを目指し、参加しやすいよう松陵市民センター出発・解散で「自然観察会」を、夏休みには県民の森で採集された豊富な自然素材を使って、小学生対象で「マツボックリであそぼう！」を実施した。	5月2日 7月29日	2	17
出前講座	交通事情等の要因により、利用の少ない向陽台地区の住民を対象に「おうち薬膳の講話と調理実習」を、山の寺地区で「熱中症予防講話と軽体操・ストレッチ」および「新春歌謡サックスコンサート」を、明石南地区で「尺八コンサート」の出前講座を開催した。	6月13日 7月10日 1月15日 2月7日	4	100
見つけませんか？松陵の魅力！	映像展や仙台白百合女子大学の学内見学を実施。かつての松陵を写す映像や、松陵近辺や施設を探索することで、より一層松陵へ愛着を持つきっかけをつくった。	4月26日 11月19日	2	113
知って！ためして！SDGs！	住民がSDGsを認識し、理解を深めるきっかけとなることを目指し、小学生親子対象の「洞雲寺体験・自然観察会」、食材王国みやぎ「伝え人(びと)」活用促進事業を活用して「ぷりぷり、ジュシー！ウィナーをつくろう！！」、「ワケルくんバスで行く環境施設見学会」を実施した。	6月29日 7月15日 9月27日	3	126
●みんなの力で地域防災・減災	松陵地区に合致した避難や災害に向き合う方法を得る機会とするために、行政や泉松陵連合町内会と連携し、非常時用水の使用法訓練、VRを活用し避難に係るタイムライン作成を実施した。	6月3日 9月25日 10月11日 1月24日	4	110
第35回 松陵市民センターまつり	6年ぶりに出店・展示・舞台部門を同時期に開催。地域の中学生や高校生もボランティアで、まつり運営に関わり活躍。内容は町内会を中心とした出店、舞台発表や展示発表、加美町の農産物販売など。	11月8日 ・9日	2	1100
地域懇談会	地域の固有の課題に対しその問題点を明確にし、諸団体等関係者との情報交換を行った。また、松陵市民センター事業等について理解を深めて戴く機会とした。	6月5日 ・7日	2	27

【令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

ジュニアリーダー「みちのく松陵」への活動支援

近隣の松森市民センターのジュニアリーダーサークル「パズル鶴が丘」と毎月合同定例会を開催した。定例会では、派遣依頼等の職員からの事務連絡だけでなく、ジュニアリーダーから参加した研修や派遣先での様子を聞き取ったり、情報を引き出すように促したりすることで、ジュニアリーダー同士や職員との交流を深めることにつながった。また、合同定例会を行うことで参加するジュニアリーダーの数が多くなり、情報交換で得られる幅が広がってジュニアリーダーの活動への意欲を高めることができた。それにより、自館の定例会だけではなく、泉区や仙台市全体の定例会にも参加するジュニアリーダーが出てきた。

寺岡市民センター

〔沿革〕

寺岡市民センターは、泉区北西部の大規模団地「泉パークタウン」の西部に位置し、緑豊かな自然が残る寺岡・紫山・朝日地区が担当地域である。

寺岡地区は、昭和 53 年より宅地造成され、団地としては成熟しており、高齢化が進んでいる。一方、紫山地区は、平成 6 年より宅地造成され、若い世代を中心とした年齢構成になっている。また、令和 4 年より新たな居住地区（朝日地区）に入居が始まったことから、今後もますます発展と活性化が期待される地域である。

団地周辺には宮城県図書館をはじめ、宮城大学や仙台白百合学園などの文教施設があるほか、平成 20 年には大型商業施設がオープンし、週末や休日には遠方からも人々が集まり賑わっている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	寺岡・紫山市民文化祭		
参加者	地域住民	延参加者	2500 人
開催日	全 2 回 令和 7 年 10 月 4 日（土）、10 月 5 日（日）		
協力者・協力団体	ジュニアリーダー「寺岡流星サークル」、宮城大学寺岡 Knots プロジェクト、寺岡・紫山市民文化祭実行委員会		
ねらい	新興開発団地である寺岡・紫山・朝日地区は全国各地から移住した住民が多く、また各地区の開発時期が違うため住民の年代構成が異なっており、地域間の結びつきが必ずしも強いとは言えず、地域間交流が希薄となっている。 特に、高齢化が顕著な寺岡地区では、こどもやその親世代といった若い世代に、地域活動にいかに参加してもらうかが課題となっている。 そこで、「寺岡・紫山市民文化祭」の実行委員として、地域の中高生や大学生等若者に参画してもらい、若者ならではのユニークな発想を取り入れたイベントを実施する。 それにより、多世代が集まり一緒に楽しめる空間を作り出し、地域全体のにぎわいとつながりを深めることを目的とする。		
概要・成果	ジュニアリーダー「寺岡流星サークル」及び「宮城大学寺岡 Knots プロジェクト」の各メンバーに「寺岡・紫山市民文化祭」の実行委員となってもらい、同会場内において、こどもや親子が楽しめる「こどもコーナー」を企画・運営してもらった。 屋外では、「バルーンアート」「ボウリング」「スーパーボールすくい」「モルック」、屋内では「謎解き探検」の各イベントを実施したところ、たくさんのこどもや親子連れが体験に訪れ、大きな賑わいを見せ世代を超えた交流を生み出した。これにより、本事業の目的である地域間交流・多世代交流が十分に図られた。 また、ジュニアリーダーや宮城大学の学生にとっては、地域活動に参画し、日頃の学びを生かして活躍する機会となり、自主活動の活発化や地域への認知度向上にも繋がった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子の広場	寺岡児童センターとの共催で、リトミック、ベビーヨガ、コンサートなど、親子で楽しめるプログラムで開催した。参加者同士でふれあう機会もあり、癒しの時間を提供できた。	6 月 17 日 9 月 9 日 12 月 16 日	3	86
子ども体験塾	小学生を対象に、学校では学べない体験を通して、探求心の向上や異学年交流を図ることを目的に、木の椅子作り、科学実験、JL とあそぼうを開催した。	6 月 22 日 7 月 27 日 8 月 7 日	3	153

《泉区》

つながりリンク	地域住民が集い語らいながら仲間づくりができる機会を提供するために、「認知症」、「パッチワーク」をテーマに寺岡地域包括支援センターと共催で開催した。	5月11日 7月13日 2月26日 (午前・午後)	4	63
老壮大学「多聞塾」	地域の高齢者が健康で生きがいを持てるように、歴史講話、体操、コンサート、健康講話などを実施した。	5月8日～ 10月11日	5	304
めざせ！安心・安全なまちづくり～防災・防犯力を身につけよう！～	地域住民が安全で安心して生活するために、地域団体や関係機関と連携し、防災意識と共助意識の向上や防災力・防犯力の向上を図る講座を実施した。	9月19日 11月22日	2	113
ひろがるまち・にぎわい創出プロジェクト！	地域住民が、誰でも参加しやすく楽しく学ぶことのできる、健康・歴史・音楽等各種ジャンルの事業を開催し、地域間交流と地域の活性化を図った。	5月24日～ 10月11日	5	248
寺岡・紫山地域懇談会	地域諸団体等との懇談会を開催し、地域住民や利用者の意見を市民センターの事業や運営に反映させた。また、地域情報や地域課題に関する情報を共有し、連携して取り組む関係を構築した。	6月1日 9月7日	2	45
寺岡小学校社会学級連携事業	寺岡小学校社会学級との企画会議を経て、パーソナルカラー診断の講座を開催した。	6月3日 9月25日 10月21日 10月22日	4	36
七夕飾りを作ろう	寺岡中学校区学校地域支援本部と共催し、地域の夏祭りに出展する七夕飾りの講座を開催した。	6月29日～ 8月3日	5	141

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーの活動支援

寺岡市民センターに拠点を置くジュニアリーダー「寺岡流星サークル」は、過去にメンバー全員が卒業時期を迎えたことがあった。市民センターでは、ジュニアリーダーを絶やすことのないよう募集活動に力を入れたところ、令和5年度当初3名だったメンバーは、令和7年度末において11名まで増加した。

月1回開催する定例会は、そのうち年3回を近隣の2つの市民センターと合同で行うこととし、ジュニアリーダー同士の交流を進め、情報交換の促進やスキルアップにつなげた。

この取り組みも奏功し、ジュニアリーダーは泉区内広範にわたって各種イベントに積極的に参加し、こども達のリーダーとして活躍の場を広げている。

長命ヶ丘市民センター

〔沿革〕

長命ヶ丘市民センターは平成5年4月に泉区10番目の市民センターとして開館し、町内会や地域で活動している団体、地域のサークルを中心に利用していただいている。近年、地域同様、センター利用者やサークルメンバーの高齢化等の影響により、利用団体・サークル活動の縮小・組織の解散が散見される。

長命ヶ丘市民センターでは、少子高齢化という地域課題に対して幅広い年齢層の支持と参加を得ながら、サークル活動はもとより地域の生涯学習活動の拠点としてその役割と機能を大いに発揮できるように講座や事業内容の改善に努めている。

令和6年11月から大規模改修を行い、令和8年6月に再開した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ロングライフヒルコミュニティ協議会との企画会		
参加者	地域の小学生	延参加者	370人
開催日	全5回 令和7年4月12日（土）～令和7年11月16日（日）		
協力者・協力団体	長命ヶ丘おやじの会、長命ヶ丘小学校、長命ヶ丘中学校、泉館山高校、PTA、子ども会育成会、長命ヶ丘商店会		
ねらい	地域のこどもたちの健やかな成長と世代を超えた交流を目的とし、地域や学校を巻き込んだ事業を企画・実施する。さらに地域の一員でもあるジュニアリーダーが活躍できる場としても活用する。		
概要・成果	地域住民による地域のこどもたちのための企画会議を行い、「学校に泊まろう」は、避難所訓練を兼ねたサバメシづくりや段ボールを使って体育館で一晩過ごすなどの体験を行った。市民センターが事務局として広報や物品準備、資料作成等の支援を行ったことで、企画会議や当日の事業を円滑に進めることができた。当日のボランティアとしてジュニアリーダーを派遣しているが、活動を通してジュニアリーダーの中学校生徒が地域で必要とされ成長していることをうれしく思うと校長先生から言葉をいただいた。また、地元の高校生が多数ボランティアで参加したことで夜の見守りを手厚くすることができた。参加した小学生は経験したことのない様々な体験をすることで、避難所について知ることができ、また中・高校生や大学生、保護者は避難所での役割などについて学ぶことができた。さらに、こどもから大人まで一緒に活動することで、世代を超えた交流にもつながった。		

〔令和7年度年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
長命ヶ丘保育所・児童センター・市民センター三館共催「子育て支援事業」	乳幼児親子を対象に、親子の絆を深め、地域で仲間づくりができるよう、コンサートやリトミック、運動会ごっこを開催した。	4月25日 10月29日	2	105
フレンドスクール	小学生を対象に、こどもたちの健やかな成長を育むことを目的に、異世代が交流できるよう「きもちをおくろうフラワーアレンジメント」を開催した。	5月31日	1	15

インリーダー研修会	主に小学５年生と世話人を対象に、小学校 PTA 子ども会育成会と市民センターが共催し、地域の活性化につなげるため、こども向けの実践研修と、世話人向けに子ども会の役割について研修を行った。	12月24日	1	22
ジュニアリーダーとあそぼう	参加した小中学生とジュニアリーダーが、ゲームや製作などを通して交流することで、児童たちに社会性を育むきっかけづくりの場を提供した。	5月10日 6月21日 7月19日	3	119
みんなでアップ！健康寿命	高齢者を対象に、介護予防に役立てるため、自宅でできる脳トレや介護予防体操などを学んだ。	6月20日～ 10月24日	5	120
長命ヶ丘コンサート	地域住民を対象に、音楽を楽しんだり交流したりする機会を提供することを目的に、コンサートを開催した。	6月7日	1	76
★目指そう！災害に強い長命ヶ丘	地域住民を対象に、自然災害などに備えるため、地域防災研修や、防災訓練、また小学５年生を対象に防災講座を開催した。	6月27日～ 11月14日	6	510
市民企画講座「長命ヶ丘未来プロジェクト」	屋外を散策する企画を検討したが、猛暑とクマ対応のため計画を断念した。その後、センター改修後のオープニングセレモニーを計画したが、開館が延期となったためこちらも実施できなかった。	【中止】	0	0
長命ヶ丘市民センター地域懇談会	地域諸団体や関係者、利用者等と情報交換や地域課題の共有をし、センター運営や開催事業の改善、企画等にかすため、懇談会を開催した。	6月4日 2月18日	2	58
市民企画会議「長命ヶ丘未来プロジェクト」	地域住民を企画員に迎え、地域住民の交流や活性化を目的に、事業の企画・運営を行った。	4月25日～ 3月13日	5	12

〔令和７年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーサークルAMY Yの活動支援

令和２年度に立ち上がってから、ボランティア活動を円滑に行えるようスキルアップや派遣依頼などに対する支援を行っている。また、ジュニアリーダーの活動を広報することで長命ヶ丘地域内外の方から活動を評価され、多くの派遣依頼があった。依頼した団体もジュニアリーダーの活動内容を高く評価してくださった。

それらの派遣依頼と活動の様子を通してジュニアリーダーの活躍を見た中高生の新規加入も続いており、サークルの活性化につながっている。

松森市民センター

〔沿革〕

松森市民センターは平成 12 年 1 月、鶴が丘中学校区施設として泉かむり訪問看護ステーション（現在は移転）、コミュニティ防災センターと併設し、泉区内 11 番目の市民センターとして開館した。当市民センターは仙台市泉区の北東端に位置し、担当するのは、古くからの松森地区と昭和 40 年代から 50 年代にかけて開発された鶴が丘団地からなる地域である。

施設内は、バリアフリー仕様になっており、広々としたロビーのほか親子室・娯楽室・図書室を有し、市民活動室には印刷機が備えられ地域団体やサークル活動に寄与している。このような特性を生かしながら地域の生涯学習の拠点施設として開かれた親しみのある市民センターを目指している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	令和 7 年度 地域の達人に学んでみよう！		
参加者	成人	延参加者	40 人
開催日	全 4 回 令和 7 年 7 月 2 日（水）～令和 7 年 11 月 6 日（木）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	地域の中で「学びたい人」と「教えたい人」、それぞれをつなぐ講座を実施することで、希薄になりがちな住民同士のつながりをつくる。地域講師には学びの発表の場を、受講生には新しい学びを提供することとする。また、身近な場所で学習意欲に応え、活動の場を増やすことで、地域の活性化につなげる。		
概要・成果	地域活性化と SDGs に資する内容として着物のリサイクル講座とアロマとハーブの講座を実施した。着物リサイクル講座では着物の洗い方や保管方法などの知識を得ながら、着物をほどこしてジレに仕立てた。アップサイクルにより新たな価値を与え生まれ変わらせることができた喜びを得て、ものを捨てる前に他の利用法を考える意識が高まる機会となった。また、アロマとハーブの講座では二十四節気の変化に合わせて身近な植物や食べ物の適切な取り入れ方を学んだ。実際に試飲やものづくりを体験することで理解が深められ、日常を心地よく過ごすための学びを得た。地域の身近な場所で「学びたい人」の学習意欲に応えながら、「教えたい人」の活動の場をつくることができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てサロン「子どもの杜」	親子ビクス、運動会ごっこ、親子ヨガを開催し、受講生同士の交流を図りながら、子どもたちがのびのびと体を動かし、親とのふれあいを楽しむ機会の提供ができた。	6 月 5 日 10 月 31 日 1 月 29 日	3	56
ジュニアちゃれんじ 2025	陶芸、木工、e-sports 体験など学校や家庭では味わうことのできない体験のできる講座を実施したことで、休日の居場所づくりとなり、学校や学年の枠を超えた異年齢間交流の機会となった。	7 月 19 日 7 月 26 日 11 月 15 日 2 月 7 日	4	65
命をつなぐ防災講座	防災や減災に関する知識・理解を深めるとともに、いざという時の自分や家族の行動や避難方法を考えたり話し合ったりすることで、地域での防災への意識を高める機会とした。	6 月 17 日 6 月 24 日	2	82
市民企画会議	多様な生活環境のなかで、個々が抱える様々なストレスを軽減することを目的とした、セルフマサージ方法を学ぶ講座の開催を目指し、講師の選定や日程の調整を行った。	5 月 8 日 5 月 16 日 10 月 9 日 1 月 7 日	4	10

うずうず体操でボディケア！	ストレス軽減を目的として、気軽にできるボディケアを学ぶ「うずうず体操」を中心に、癒しの効果のある「ライアー演奏」とセルフマッサージを学ぶ「足つば」を合わせた講座を開催した。	12月15日 1月17日	2	30
城前大学	演芸「落語口演」、講話「防犯対策について」、講話「70歳からの備え」、講話「元気がでる東北の歴史」、実技「いきいき運動講座」講話「高齢者の栄養不足ってどういうことなの？」、講話「仙台ゆかりの文学者たち」、音楽鑑賞「尺八コンサート」を実施した。	5月15日～ 2月19日	8	377
まつもり健康講座	共催の松森地域包括支援センターと協議し、フレイル予防や健康意識の定着を目指した講話（栄養学等）と運動習慣の定着を目的とした実技（軽運動等）をバランス良く構成して実施し、受講生の心身の充足と健康維持増進を図った。	4月10日～ 10月2日	8	164
地域におじゃまします！2025	松森・鶴が丘地域の高齢者の対象に出前講座を開催し、健康づくり、居場所づくりを行い、健康維持に役立つ知識を学ぶことができた。また、交流会を行うことで安心して暮らせる地域づくりに寄与することができた。	5月21日～ 11月12日	5	43
松森市民センターまつり	地域の諸団体や市民センターで活動するサークルの学習発表と地域住民の交流の場として、舞台、展示、出店を実施した。また、地域のカフェレストランや授産施設の販売コーナーを設けて世代間交流を図ることができ、まつり全体を盛り上げた。	10月19日	1	500
松森・鶴が丘地域懇談会	市民センターの事業や活動等の紹介を行うとともに、地域各団体の活動の紹介や地域情報の提供を受け、課題を共有した。市民センターと各団体の相互理解を一層強化した。連携・共催の事業等における協力・支援関係の構築を図った。	5月23日 9月12日	2	46
令和7年度松森ハートフルタイム	誰もが気軽に参加できる講座として「講談」「素ばなし」「本の譲渡会」「クリスマスコンサート」「エレクトーンコンサート」を開催した。	9月13日～ 3月7日	5	363
図書ボランティア養成講座	概論、修繕（実技）、ブックトーク、交流会を開催。図書ボランティア活動に役立つ知識と技術を学び、円滑な活動の助けとなった。また、図書ボランティアとして活動するモチベーションを上げる機会となった。	11月26日 12月10日 12月17日 1月21日	4	37

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

図書ボランティアへの支援

松森市民センター図書室は地域住民の有志によるボランティアが主体となり、時事・季節・利用者のニーズに合わせて特設コーナーを設けたり装飾を施したり工夫しながら使いやすく魅力的な図書室運営を目指している。松森市民センターは図書ボランティアの活動（毎月の定例会と活動全般）を支援しており、令和7年度は城前大学と子育てサロン「こどもの杜」開講時に併せ図書室の臨時開室を行い、図書室利用者の増加につなげた。また、図書ボランティア養成講座（全4回）を開催し、ボランティア同士が交流を深めながら、新たな技術を習得する機会を提供したとともに、既存の知識を確認・更新する機会となった。さらに、本の譲渡会ではそれらの学びを活かして運営（選書・配架・準備・片付け）に携わり、地域住民の学びを深め交流する機会となる講座運営を支えた。

ジュニアリーダーサークル「パズル鶴が丘」への支援

パズル鶴が丘は令和7年度3名体制となった。あらゆる派遣依頼において楽しみながら安全に活動でき、状況に合わせて柔軟に対応できるジュニアリーダーの育成を目指し、隣接する松陵市民センターと合同で定例会を実施し、活動を支援した。多くの仲間と定例会や自主企画、ゲーム研修等の活動を共にすることで絆を深めながら、ジュニアリーダーとしてのスキルアップを図り、メンバーの学び・交流する楽しさや喜び・達成感を、次の活動への意欲につなげられるよう支援した。

桂市民センター

〔沿革〕

桂地区は仙台市の北西部に位置し、緑に囲まれた住宅とマンションで構成される新興住宅団地であるが、開発から 30 年以上経過し、徐々に高齢化が進みつつある。また、将監地区は昭和 40 年代に開発された歴史の古い団地で年々高齢化が進んでいる。桂市民センターは、この両地区を受け持っている。

当市民センターは児童センターとの併設館であり、利用者の年齢層は乳幼児から高齢者までと幅広い。平成 13 年 12 月の開館以来、これらのさまざまな年齢層の地域住民と地域団体を意識した事業を展開し、生涯学習の拠点を目指して取り組んでいる。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	桂の森のキッズランド		
参加者	乳幼児親子・こども園園児	延参加者	109 人
開催日	全 1 回 令和 7 年 10 月 8 日（水）		
協力者・協力団体	桂地区子育て支援委員会・幼保連携型認定こども園桂こどもの城・桂児童センター		
ねらい	地域で子育てに関わっている 4 団体が連携して、気軽に参加できる講座を開催し、親子一緒に楽しめるような機会や、同じような悩みを持つ幼児の保護者同士・異年齢のこども同士が交流できる機会と場所を提供する。また、4 団体が情報を交換・共有し子育てをサポートしていく。		
概要・成果	マスクブレイオペレッタ人形劇の鑑賞会を実施した。手遊びなどもあり、親子やこどもたちがたくさん体を動かし楽しんでいた。普段なかなか見ることのできないミュージカルのような着ぐるみ人形劇であったため、人形や舞台セット・音楽など、新鮮な驚きがあった。そのことにより、参加者同士が人形劇を通じて笑顔や感想を共有し、地域内での交流が広がった。また、こどもの楽しむ姿を見ることで気持ちや和らぎ、保護者のリフレッシュにもつながった。4 団体が協力して準備・運営を行う中で、情報共有や役割分担がスムーズに進んだ。さらに、こども園の園児たちのリアクションを見ることで、参加した親子もより楽しんでいるようだった。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
わくわくアカデミー	小学生の創造力や探求心を高めることを目指し、移動天文車による天体観望、映画鑑賞、茶道体験、お菓子作り、ジュニアリーダーとのバルーンアート作成などの講座を行った。	7 月 18 日～ 1 月 17 日	5	134
桂友くらぶ	60 歳以上 70 名を対象に、「クマ対策講座」「脳トレ・筋トレ」「終活・相続について」などの様々な分野の講座を実施し、学びの場や受講生同士の交流の場を提供した。	5 月 8 日～ 2 月 19 日	9	456
防災・減災を学ぼう	防災訓練は町内会の都合で中止になり、代替行事として 2 月に防災研修会を実施、多くの学びを得た。1 月に小学生児童親子対象の講座を実施し、企画から実施まで企画員の協力を得ることができた。	8 月 2 日～ 2 月 21 日	7	82

《泉区》

桂小学校社会学級連携事業	社会学級の活性化と、生涯学習を通じた地域交流を図るため、互いが持つ情報を交換・収集し、アロマとハーブを用いた体験型講座を実施した。	6月5日～ 11月27日	5	35
まなびの森 かつら	陶芸、宮沢賢治作品の朗読、ナイトキャンプ、ヴォイスワークとうず気功など、地域のニーズに合った様々な内容の講座を実施し、地域での学びを通じた仲間づくりを進めた。	4月22日～ 2月10日	8	129
桂地域懇談会	地域諸団体との懇談会を通して各団体の活動情報や地域課題、住民の状況、地域資源等について意見交換を行い、得られた情報を活用して各団体との連携を深め、市民センターの業務改善に努めた。	6月28日 12月7日	2	40
桂文化祭	市民センターを利用しているサークルや地域団体、個人、地域の小中高校の日頃の学習成果発表の場や交流の場として、ステージ発表や作品展示、体験コーナーやストリートピアノを実施した。	10月18日	1	804
Katsura ロビーコンサート 2025	市民企画会で企画したコンサートを、連合町内会、社会福祉協議会、児童センターとの連携で3回開催した。住民の関心が高い音楽を通じて交流の場を提供した。	11月1日 12月6日 2月28日	3	209
市民企画会	住民間の交流や様々な地域課題に対応するため、地域住民から企画員を募り、幅広い世代が気軽に参加することができる講座として、ロビーコンサートを企画実施した。	5月23日～ 2月28日	7	21

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーサークル「将監くれよん」の活動支援

ジュニアリーダーサークル「将監くれよん」は、要請への参加経験が少ないことから、近隣のジュニアリーダーと合同で定例会や研修会を実施し、技術のスキルアップを図ることで、積極的に要請へ参加できるようサポートした。そのことにより、ジュニアリーダーとしての技術の向上と近隣ジュニアリーダーとの交流も図られた。その結果、主催講座である「わくわくアカデミー」や「桂文化祭」でスキルを活かして活躍し、幅広い世代へジュニアリーダーの活動を周知させた。また、ジュニアリーダーが定例会で作成する広報紙「くれよん通信」を、毎月小中学校や児童館などに掲示を依頼してPR活動をサポートした。

南中山市民センター

〔沿革〕

南中山市民センターは、平成 15 年 3 月をもって閉館した「泉中高年齢労働者福祉センター（サンライフ泉）」の建物に改修を行い、平成 15 年 11 月 13 日に開館した。敷地内にはコミュニティ防災センターを併設している。

当市民センターのエリアは、南中山、北中山、西中山の 3 地域であり 2 連合町内会、17 町内会がある。地域の活動拠点として、地域団体やサークルなどに広く活用されている。令和 3 年 11 月から大規模修繕を行い、令和 4 年 12 月に再開した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	いずみ中山縁日		
参加者	地域住民	延参加者	248 人
開催日	全 5 回 令和 7 年 4 月 23 日（水）から令和 7 年 8 月 7 日（木）		
協力者・協力団体	南中山地域包括支援センター・南中山地区社会福祉協議会・ジュニアリーダー・宮城大学・聖和学園短期大学・南中山学区民体育振興会・北中山親父の会・水茎の会・仙台市スポーツチャンバラ協会・M サポ・イオン薬局・こま侍		
ねらい	少子高齢化が進み、こどもから高齢者までが集う世代間交流の機会が少ない。そこで南中山地域包括支援センターと共催で、年齢を問わず参加できる内容の講座を企画、開催する。懐かしいゲームや昔あそびコーナーなどで世代間交流を図る。ジュニアリーダーや地域の諸団体の協力を得て地域活性化を目指す。		
概要・成果	3 回の企画会議を経て「いずみ中山縁日」を開催した。仙台市が推進する地域団体連携促進事業として開催することになったため地域包括支援センターだけでなく、地域の諸団体、2 つの大学、ジュニアリーダー、センター利用サークル、地元企業等計 11 団体と連携・協力体制を構築することで、世代を超え、地域活性化の事業となった。内容はニュースポーツ・昔あそび・工作・クイズ等のコーナーをスタンプラリーで回り、かき氷やカレーのふるまいもあった。参加者も 240 人を超え大盛況となった。地区社協が主催する地域食堂も同時開催となり、多くの地域住民が世代を超えて交流し、地域ぐるみでこどもの成長を見守ることにもつながり、楽しい地域行事となった。地域の諸団体もさらなる結びつきを構築することができた。		

〔令和 7 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おやこほっとタイム	乳幼児親子を対象に子育て支援を目的として、ピアノのリズムに合わせた身体表現を通じて親子のふれあいを深める「リトミック」と動物の動きを取り入れ、楽しみながら体幹や柔軟性を育む「アニマルフロー」を実施した。	6 月 13 日 10 月 31 日	2	34
こどもワンダークラブ	地域の小学生を対象とし、日常生活では得られない体験の場として仙台市天文台共催のベガ号での星空観望会、リースのアイシングクッキーづくり、ジュニアリーダーとあそぼうの 3 講座を実施した。	9 月 26 日 11 月 29 日 2 月 14 日	3	73
いずみ中山市民企画講座	小学生を対象に「野菜食を通じて健康でいきいき」をテーマとして地域で栽培の盛んな野菜について	6 月 14 日 8 月 21 日 11 月 22 日	3	43

《泉区》

やさいパワーで元気 もりもり！	学び、植え付けや収穫、収穫した野菜を使っの調理講座を行った。			
来てけさいん 「サークル体験会」	幅広い世代を対象に交流の促進や生きがいの創出を目的として、3日間で①英会話②3B 体操③カン トリーダンス④ヨガのサークル体験を実施した。	11月26日 11月27日 11月28日	3	28
ほがらかシニア塾	地域の高齢者を対象に年間8回開催。警察音楽隊の演奏、地元学講話、食育セミナー、尺八のコンサート、歴史講話、健康体操、マジックショー等様々なジャンルの講座を実施した。	5月16日～ 1月16日	8	580
地域防災講座	災害時にペットや介護、プライバシーの問題で在宅避難も選択肢の一つとなってきたことを踏まえ、在宅避難に必要な準備を学び、車中泊を想定した車の設営実技を実施した。	8月2日	1	18
いずみ中山ごきげん 広場	南中山地域包括支援センターと共催で健康チェック、健康相談等の「健康まつり」を2回開催。また地域活性化の一助として「フレイル予防コンサート」「1/2 成人を祝うコンサート」を開催した。	6月5日 8月29日 10月2日 12月6日	4	253
まなびねっと「いずみ 中山」交流事業	地域全体でこどもたちの健全育成・環境づくり支援のため、地域のこどもに関わる諸団体が、年6回の推進委員会を開催し、「陶芸ものづくり」「門松づくり体験」「いずみ中山キッズ選手権」の3講座を実施した。	5月10日～ 3月21日	9	132
いずみ中山フェスタ	日頃の学習成果発表や交流促進を目的として、町内会、学校、地域諸団体、センター利用サークルが一堂に会し、舞台・展示発表、出店やこども向けイベント等を行った。	10月18日	1	950
地域懇談会	館の利用状況や事業実施状況、窓口サービスアンケート結果および主な事業計画を説明し、必要に応じた見直しや改善を図るため各団体と意見交換を行った。	5月27日 2月3日	2	38
いずみ中山市民企画 会議 ～地域で食育を実践 しよう～	野菜食を通じて健康で生き生きとした人づくりにつながるよう、地域の方々に呼びかけて企画会議や調理の試作等を行い、「やさいパワーで元気もりもり！」講座を実施した。	4月12日～ 12月16日	9	25

〔令和7年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーサークル「南中山巣子つぶ」への活動支援

毎月1回、ジュニアリーダー定例会を行い、ジュニアリーダーの派遣要請や研修会参加への対応、センターまつりでのジュニアリーダーコーナーの企画・運営等の活動支援を行った。また、必要に応じてスキルアップの自主研修を行うとともに、欠席者にも記録を配布し、情報共有に努めた。さらに、長命ヶ丘と加茂、中山との合同研修会も実施し、技術の向上と交流の促進を図った。令和7年度は新たに6名のメンバーが加入し、子ども会活動の支援や地域活動を行う年少リーダー育成支援に繋がった。

IV 資 料

1 市民センターの予算

<歳 出>

〔市民センターにかかる経費〕

単位:千円

		令和4年度(決算)	令和5年度(決算)	令和6年度(決算)	令和7年度(決算)	令和8年度(予算)
地域社会教育事業費(※)		628,739	598,680	622,881	639,725	739,068
市民センター 施設費	運営管理	1,476,628	1,515,411	1,495,782	1,525,789	1,673,712
	施設整備 ・改築等	867,607	565,262	893,651	1,273,902	2,041,297
合 計		2,972,974	2,679,353	3,012,314	3,439,416	4,454,077

※地域社会教育事業費 内訳

単位:千円

		令和4年度(決算)		令和5年度(決算)		令和6年度(決算)		令和7年度(決算)		令和8年度(予算)	
		拠点館	地区館	拠点館	地区館	拠点館	地区館	拠点館	地区館	拠点館	地区館
各種 講座等	家庭教育推進	84	1,934	55	1,795	34	1,545	11	1,461	20	2,579
	青少年健全育成	739	2,487	754	2,644	970	2,551	780	2,819	1,004	2,281
	成人学習振興	367	3,191	254	3,472	387	3,163	125	3,439	215	3,118
	高齢者学習振興	353	6,460	540	6,204	525	6,433	531	6,161	527	5,738
	地域社会教育推進	1,419	6,070	2,329	6,186	2,184	6,319	2,087	6,117	2,305	6,292
	学習情報提供	74	0	132	41	119	43	128	10	155	333
	民間指導者育成		1,311		1,350		1,771		1,551		2,301
	学びを支える人材育成	2,135		2,354		2,530		2,473		2,694	
	若者社会参画型学習推進	1,342		1,091		853		996		1,431	
	住民参画・問題解決型学習推進	1,903		1,854		1,970		1,724		1,893	
	学びのまち仙台市民カレッジ	475		589		507		515		782	
	子ども参画型社会創造支援	1,464		1,449		1,267		1,214		1,363	
	障害者学習講座開設	356		287		328		392		403	
	市立高等学校開放講座開設	195		160		158		159		160	
小 計		10,906	21,453	11,848	21,692	11,832	21,825	11,135	21,558	12,952	22,642
学習情報提供 (システム運営管理等)		17,768		17,552		50,756		10,657		10,266	
その他		14,610	564,002	12,137	535,451	12,778	525,690	12,554	583,821	13,294	679,914
合 計		43,284	585,455	41,537	557,143	75,366	547,515	34,346	605,379	36,512	702,556

<歳 入>

単位:千円

	令和4年度(決算)	令和5年度(決算)	令和6年度(決算)	令和7年度(決算)	令和8年度(予算)
市民センター使用料	146,991	161,581	155,661	154,947	178,663

2 令和7年度 市民センター職員数

(令和7年4月1日現在)

嘱託職員

内部で兼務

外部と兼務

青葉区

		区 役 所 ・ 教 育 委 員 会										(公財)仙台ひと・まち交流財団											
	職名 館名	セン ター 長	セン ター 兼 係 長	主 幹 兼 係 長	係 長	主 査		総 括 主 任 ・ 主 任	主 事	任 用 職 員	会 計 年 度	合 計	館 (常 勤 嘱 託) 長	事業職員			常勤嘱託職員		非 常 勤 嘱 託 職 員	臨 時 職 員	合 計	総 計	
						社 会 教 育 主 事	主 査 ・ 副 主 幹							係 長	主 任	係 員	主 任	係 員					
1	青葉区中央	1			1	3	1	5		1		12	1		1	3		2	2		9	21	
2	柏木												1			2	1	1	2		7	7	
3	北山												1			3		1	1	2	8	8	
4	福沢												1		1	2		1	1		6	6	
5	旭ヶ丘												1		1	2		1	2	1	8	8	
6	三本松												1			2		2	1		6	6	
7	片平												1		1	2		1		1	6	6	
8	水の森												1		1	2		1	1		6	6	
9	貝ヶ森												1			3		1	2		7	7	
10	中山												1		1	2		1	2	1	8	8	
11	折立												1		1	2		1	1		6	6	
12	木町通												1			3		1	2		7	7	
13	広瀬												兼		1	2				1	4	4	
14	宮城西												1		1	2		1	1		6	6	
15	大沢												1		1	2		1	1		6	6	
16	落合												1		1	3			1		6	6	
17	吉成												1		1	2		1	1		6	6	
	小 計	1	0	0	1	3	1	5	0	1		12	16	0	12	39	1	17	21	6	112	124	

宮城野区

1	生涯学習支援	1	1		1	4		4	2	3	16	1	1		2		2	2		8	24
2	宮城野区中央	1		1		3		1		2	8	兼	1		1		3			5	13
3	高砂											1		1	1					3	3
4	岩切											1			2	1	1	1		6	6
5	鶴ヶ谷											1		1	2		1		1	6	6
6	榴ヶ岡											1			3		1	1	1	7	7
7	東部											1		1	2		1	1	1	7	7
8	幸町											1		1	2		1	1		6	6
9	田子											1			2	1	1	1		6	6
10	福室											1		1	1		2		1	6	6
	小 計	2	1	1	1	7	0	5	2	5	24	9	2	5	18	2	13	7	4	60	84

若林区

1	若林区中央	1			1	2		1	2		7	兼	1		1		3			5	12
2	七郷											1		1	2		1	1		6	6
3	荒町											1			2		2	1		6	6
4	六郷											1		1	2		1	1		6	6
5	若林											1			2	1	1	1		6	6
6	沖野											1			2		2	1		6	6
	小 計	1	0	0	1	2	0	1	2	0	7	5	1	2	11	1	10	5	0	35	42

太白区

		区 役 所 ・ 教 育 委 員 会										(公財)仙台ひと・まち交流財団											
	職名 館名	センター長	センター次長 兼係長	主幹兼係長	係長	主査		総括主任・主任	主事	会計年度 任用職員	合計	(常勤嘱託)館長	事業職員			常勤嘱託職員		非常勤嘱託職員	臨時職員	合計	総計		
						社会教育主事	主査・副主幹						係長	主任	係員	主任	係員						
1	太白区中央	1		1		3		2	1	1	9	兼1	1		2		2			5	14		
2	生出											1		1	2		1	1		6	6		
3	中田											1		1	2		1	1		6	6		
4	西多賀											1		1	2		1	1		6	6		
5	八本松											1		1	2		1	1		6	6		
6	八木山											1		1	2		1	1		6	6		
7	山田											1		1	2		1	1	1	7	7		
8	茂庭台											1			3		1	1		6	6		
9	東中田											1			3		1	1		6	6		
10	柳生											1		1	2		1		1	6	6		
11	富沢											1		1	2		1	1		6	6		
12	秋保											1			3	1	1	1	1	8	8		
13	馬場											兼1			兼3	兼1	兼1	兼1	兼1	0	0		
14	湯元											兼1			兼3	兼1	兼1	兼1	兼1	0	0		
	小 計	1	0	1	0	3	0	2	1	1	9	11	1	8	27	1	13	10	3	74	83		

泉区

1	泉区中央	1			1	3	1			2	8	1		1	3		2	2		9	17
2	根白石											1		1	2		1	1		6	6
3	南光台											1			2	1	1	1		6	6
4	黒松											1					2			3	3
5	将監											1		1	2		1	1		6	6
6	加茂											1		1	1		2	1		6	6
7	高森											1		1	2		1		1	6	6
8	松陵											1			2		1		2	6	6
9	寺岡											1			2	1			2	6	6
10	長命ヶ丘											1		1	1					3	3
11	松森											1			3		1		1	6	6
12	桂											1		1	2		1	1		6	6
13	南中山											1			3		1	1		6	6
	小 計	1	0	0	1	3	1	0	0	2	8	13	0	7	25	2	14	8	6	75	83

総 計

	職名	区 役 所 ・ 教 育 委 員 会										(公財)仙台ひと・まち交流財団										合 計	総 計
		セン ター 長	セン ター 次 長 兼 係 長	主 幹 兼 係 長	係 長	主 査		総 括 主 任 ・ 主 任	主 事	任 用 会 計 年 度 員	合 計	(常勤嘱託)館長	事業職員			非常勤嘱託職員		臨時職員	合 計				
						社 会 教 育 主 事	主 査 ・ 副 主 幹						係	主	係	主	係						
	計	6	1	2	4	18	2	13	5	9	60	54	4	34	120	7	67	51	19	356	416		

3 令和7年度 主催講座の事業別実施状況

区 名		青 葉 区														
事 業 館 名		青葉区 中央	柏木	北山	福沢	旭ヶ丘	三本松	片平	水の森	貝ヶ森	中山	折立	木町通	広瀬	宮城西	大沢
家 庭 教 育 推 進 事 業																
	(例) 子育て講座	2	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0
	食育講座	8	0	0	3	0	0	1	3	1	1	4	0	2	0	0
	子育てサロン おはなし会	202	0	0	78	0	0	26	77	53	8	49	0	35	0	0
青 少 年 健 全 育 成 事 業																
(例) ジュニアリーダーと遊ぶ インリーダー研修 体験講座	講座数	6	1	2	1	1	1	1	1	3	3	4	3	2	3	1
	回 数	74	1	4	3	6	4	3	1	8	18	17	22	7	11	4
	参加者数	1,688	15	154	134	151	85	82	18	743	155	826	970	987	261	89
成 人 学 習 振 興 事 業																
(例) 健康講座 市民企画講座	講座数	4	2	3	1	1	2	2	1	3	1	1	1	1	5	2
	回 数	690	15	32	5	6	5	8	7	13	4	2	1	4	25	19
	参加者数	6,797	102	520	31	67	145	154	31	81	51	47	12	57	419	216
高 齢 者 学 習 振 興 事 業																
(例) 老壮大学 高齢者の健康講座	講座数	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1
	回 数	8	15	9	9	9	10	9	9	16	14	8	8	10	7	9
	参加者数	238	605	217	459	524	298	488	421	428	244	254	488	373	247	382
地 域 社 会 教 育 推 進 事 業																
(例) 市民センターまつり 事業運営懇話会 防犯 防災減災関連事業	講座数	8	6	4	6	7	7	6	6	5	4	4	6	5	5	8
	回 数	31	25	15	28	25	20	15	30	10	7	19	18	15	20	24
	参加者数	2,151	2,032	921	1,547	2,012	1,157	1,331	1,728	1,333	854	3,187	890	1,224	4,112	1,415
民 間 指 導 者 育 成 事 業																
(例) ジュニアリーダー育成支援 ボランティア養成	講座数	1	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	0	1	1	1
	回 数	8	0	0	0	0	7	15	0	0	7	33	0	8	13	11
	参加者数	84	0	0	0	0	29	75	0	0	28	167	0	13	67	22
合 計	講座数	22	11	10	10	10	12	13	10	14	11	12	11	11	15	13
	回 数	819	56	60	48	46	46	51	50	48	51	83	49	46	76	67
	参加者数	11,160	2,754	1,812	2,249	2,754	1,714	2,156	2,275	2,638	1,340	4,530	2,360	2,689	5,106	2,124

2館以上の市民センターで共催・連携した講座は、1館にのみ計上しています。

			宮 城 野 区											若 林 区							
落合	吉成	小計	生涯学 習支援	宮城野 区中央	高砂	岩切	鶴ヶ谷	榴ヶ岡	東部	幸町	田子	福室	小計	若林区 中央	七郷	荒町	六郷	沖野	若林	小計	
1	1	11	0	1	1	2	1	0	1	1	1	1	9	1	2	0	1	1	1	6	
5	3	31	0	2	6	21	9	0	4	3	4	3	52	3	6	0	2	3	3	17	
125	47	700	0	108	46	373	232	0	82	37	92	87	1,057	56	379	0	51	110	42	638	
1	3	37	3	5	2	2	3	2	2	1	2	1	23	8	2	1	1	4	3	19	
4	9	196	11	43	7	9	23	8	6	4	11	4	126	48	21	4	5	21	11	110	
62	78	6,498	212	1,036	309	602	627	162	43	61	173	164	3,389	937	474	64	163	763	375	2,776	
3	1	34	12	5	2	1	0	3	4	0	1	1	29	2	0	3	1	0	1	7	
14	6	856	54	35	11	5	0	11	18	0	4	5	143	9	0	14	4	0	4	31	
231	39	9,000	918	879	304	258	0	124	272	0	43	80	2,878	64	0	142	46	0	62	314	
1	2	20	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	11	1	1	1	1	2	1	7	
12	12	174	23	16	5	5	9	14	9	9	10	9	109	7	10	10	10	11	11	59	
472	711	6,849	12,841	897	163	275	431	450	272	270	213	476	16,288	426	779	636	504	519	656	3,520	
4	5	96	5	8	3	4	6	4	4	8	6	6	54	7	5	7	5	7	6	37	
18	17	337	38	43	10	9	46	15	13	22	28	38	262	18	25	24	17	21	17	122	
1,424	1,199	28,517	4,809	6,050	568	2,084	3,472	661	588	1,104	3,515	1,678	24,529	1,223	13,939	2,011	5,745	3,115	1,201	27,234	
0	1	10	11	2	1	1	0	2	0	1	1	0	19	2	0	1	1	1	0	5	
0	3	105	39	13	8	4	0	15	0	16	13	0	108	73	0	8	12	8	0	101	
0	28	513	918	157	1,020	40	0	127	0	161	156	0	2,579	495	0	22	1,413	175	0	2,105	
10	13	208	32	22	10	11	11	13	12	12	12	10	145	21	10	13	10	15	12	81	
53	50	1,699	165	152	47	53	87	63	50	54	70	59	800	158	62	60	50	64	46	440	
2,314	2,102	52,077	19,698	9,127	2,410	3,632	4,762	1,524	1,257	1,633	4,192	2,485	50,720	3,201	15,571	2,875	7,922	4,682	2,336	36,587	

区 名			太 白 区													
館 名			太白区 中央	生出	中田	西多賀	八本松	八木山	山田	茂庭台	東中田	柳生	富沢	秋保	小計	
事 業																
家 庭 教 育 推 進 事 業																
(例) 子育て講座 食育講座 子育てサロン おはなし会	講座数		1	0	1	1	1	1	0	1	1	1	2	1	11	
	回 数		3	0	2	3	6	6	0	3	3	3	20	1	50	
	参加者数		33	0	67	73	91	78	0	46	66	54	608	20	1,136	
青 少 年 健 全 育 成 事 業																
(例) ジュニアリーダーと遊ぶ インリーダー研修 体験講座	講座数		5	2	2	3	2	3	1	3	1	1	2	1	26	
	回 数		33	6	6	12	3	13	2	31	5	4	6	5	126	
	参加者数		781	121	44	384	283	331	43	501	129	87	477	132	3,313	
成 人 学 習 振 興 事 業																
(例) 健康講座 市民企画講座	講座数		2	1	0	1	0	1	0	1	4	1	1	2	14	
	回 数		9	5	0	4	0	12	0	3	20	3	6	5	67	
	参加者数		168	95	0	72	0	286	0	75	177	53	88	59	1,073	
高 齢 者 学 習 振 興 事 業																
(例) 老壮大学 高齢者の健康講座	講座数		2	1	2	1	1	1	1	1	1	3	1	1	16	
	回 数		18	10	20	9	9	9	9	9	9	16	7	9	134	
	参加者数		883	308	629	486	429	632	620	379	421	709	317	247	6,060	
地 域 社 会 教 育 推 進 事 業																
(例) 市民センターまつり 事業運営懇話会 防犯 防災減災関連事業	講座数		9	7	5	5	7	6	6	5	5	6	4	6	71	
	回 数		33	29	11	20	19	23	34	12	11	15	17	25	249	
	参加者数		5,096	2,845	844	1,892	2,754	17,848	4,832	1,812	3,148	2,599	3,156	836	47,662	
民 間 指 導 者 育 成 事 業																
(例) ジュニアリーダー育成支援 ボランティア養成	講座数		3	0	1	0	1	0	2	1	0	1	1	1	11	
	回 数		12	0	8	0	7	0	17	11	0	12	6	11	84	
	参加者数		132	0	84	0	34	0	929	42	0	98	34	61	1,414	
合 計			講座数	22	11	11	11	12	12	10	12	12	13	11	12	149
			回 数	108	50	47	48	44	63	62	69	48	53	62	56	710
			参加者数	7,093	3,369	1,668	2,907	3,591	19,175	6,424	2,855	3,941	3,600	4,680	1,355	60,658

2館以上の市民センターで共催・連携した講座は、1館にのみ計上しています。

泉 区														
泉区中 央	根白石	南光台	黒松	将監	加茂	高森	松陵	寺岡	長命ヶ 丘	松森	桂	南中山	小計	總計
2	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	12	49
6	2	1	1	0	3	3	0	3	2	3	1	2	27	177
119	9	48	16	0	39	44	0	86	105	56	109	34	665	4,196
4	1	2	2	2	2	2	1	1	2	2	1	2	24	129
20	3	6	3	8	8	9	4	3	4	6	5	6	85	643
279	48	98	67	175	301	246	164	153	134	147	134	116	2,062	18,038
2	2	2	0	0	2	1	1	1	0	3	0	1	15	99
19	7	5	0	0	12	6	2	4	0	10	0	3	68	1,165
155	299	71	0	0	197	141	55	63	0	80	0	28	1,089	14,354
1	3	1	1	2	1	1	2	1	1	3	1	1	19	73
8	17	9	3	10	8	9	16	5	5	21	9	8	128	604
396	572	571	23	526	383	453	489	304	120	584	456	580	5,457	38,174
14	4	5	7	7	5	7	7	6	4	3	6	6	81	339
56	7	24	28	44	9	21	19	20	14	8	26	22	298	1,268
2,447	478	1,674	1,619	2,187	1,431	1,209	1,593	3,083	1,014	909	1,299	1,639	20,582	148,524
2	1	1	0	1	1	0	1	0	1	1	1	1	11	56
16	11	5	0	7	8	0	7	0	5	4	7	9	79	477
257	187	30	0	116	27	0	119	0	12	37	21	25	831	7,442
25	12	12	11	12	12	12	12	10	9	13	10	12	162	745
125	47	50	35	69	48	48	48	35	30	52	48	50	685	4,334
3,653	1,593	2,492	1,725	3,004	2,378	2,093	2,420	3,689	1,385	1,813	2,019	2,422	30,686	230,728

4 主催事業参加者数推移

青 葉 区

(単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
青葉区中央	6,893	5,854	9,061	9,184	9,144	11,160	
柏 木	682	843	2,249	2,708	3,162	2,754	
北 山	737	1,080	1,519	1,326	1,689	1,812	
福 沢	1,389	1,670	2,951	2,346	2,311	2,249	
旭 ケ 丘	444	1,066	1,439	2,494	2,107	2,754	
三 本 松	916	1,009	1,131	1,579	1,537	1,714	
片 平	867	995	1,628	2,065	2,416	2,156	
水 の 森	371	257	1,755	2,038	2,187	2,275	令和2年11月1日～令和3年11月27日 大規模修繕工事のため休館
貝 ケ 森	1,329	2,327	2,260	2,307	995	2,638	令和6年1月5日～令和7年3月21日 大規模修繕工事のため休館
中 山	383	311	883	1,248	1,195	1,340	
折 立	1,341	2,628	5,045	5,959	5,450	4,530	
木 町 通	808	1,211	1,681	2,009	2,021	2,360	
広 瀬	850	950	2,128	5,976	6,825	2,689	
宮 城 西	1,231	948	3,713	4,693	4,349	5,106	
大 沢	995	1,369	1,313	2,111	2,523	2,124	
落 合	530	820	2,200	1,141	1,919	2,314	
吉 成	477	470	1,888	2,556	2,537	2,102	
計	20,243	23,808	42,844	51,740	52,367	52,077	

宮 城 野 区

(単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
生涯学習支援	4,986	8,017	7,102	23,693	20,879	19,698	
宮城野区中央	5,601	6,084	8,379	9,060	9,494	9,127	
高 砂	1,045	1,604	2,636	2,972	2,881	2,410	令和7年1月5日～令和8年3月31日 大規模修繕工事のため休館
岩 切	1,519	1,670	4,972	5,618	4,924	3,632	令和7年11月1日～ 大規模修繕工事のため休館中
鶴 ケ 谷	1,527	1,453	2,637	3,044	3,717	4,762	
榴 ケ 岡	529	958	1,810	1,498	1,706	1,524	
東 部	426	793	884	1,440	1,433	1,257	
幸 町	601	925	1,446	2,869	1,653	1,633	令和元年8月1日～令和2年4月17日 大規模修繕工事のため休館
田 子	1,479	561	2,153	4,477	4,859	4,192	
福 室	1,262	1,278	1,720	1,759	2,112	2,485	
計	18,975	23,343	33,739	56,430	53,658	50,720	

若林区

(単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
若林区中央	1,612	4,295	5,213	4,305	2,554	3,201	令和5年4月1日～令和7年6月30日 大規模修繕工事のため一部休館
七郷	732	794	1,040	13,804	19,917	15,571	
荒町	837	1,039	936	2,481	2,733	2,875	
六郷	1,110	2,019	3,604	4,804	7,198	7,922	
沖野	1,599	1,763	2,348	3,998	4,739	4,682	令和3年11月1日～令和4年10月22日 大規模修繕工事のため休館
若林	969	1,263	1,608	2,376	2,574	2,336	令和元年7月9日～令和2年4月17日 大規模修繕工事のため休館
計	6,859	11,173	14,749	31,768	39,715	36,587	

太白区

(単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
太白区中央	3,965	4,590	3,429	5,409	8,325	7,093	
生出	548	772	2,900	3,630	3,789	3,369	
中田	1,587	1,476	3,143	3,777	2,755	1,668	
西多賀	732	861	2,268	2,779	2,542	2,907	
八本松	512	907	1,573	2,361	3,471	3,591	
八木山	1,400	834	13,289	4,281	4,706	19,175	
山田	420	2,597	2,733	6,834	7,263	6,424	
茂庭台	508	922	1,477	1,963	2,325	2,855	
東中田	414	420	2,968	2,860	3,172	3,941	令和2年12月14日～令和4年2月19日 大規模修繕工事のため休館
柳生	686	1,209	1,863	3,032	2,926	3,600	
富沢	925	2,461	5,932	6,215	7,444	4,680	
秋保	447	493	1,332	1,361	1,301	1,355	
計	12,144	17,542	42,907	44,502	50,019	60,658	

泉区

(単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
泉区中央	1,182	1,278	2,526	3,699	3,685	3,653	
根白石	773	946	2,176	1,463	2,354	1,593	
南光台	1,716	955	2,100	2,305	2,465	2,492	
黒松	267	746	1,504	1,973	1,707	1,725	令和6年11月1日～令和7年12月15日 大規模修繕工事のため休館
将監	391	1,038	2,156	2,382	2,894	3,004	
加茂	567	742	1,313	2,130	2,101	2,378	
高森	767	955	1,669	1,496	1,664	2,093	令和4年11月1日～令和5年10月9日 大規模修繕工事のため休館
松陵	706	1,347	1,386	2,115	716	2,420	令和5年12月1日～令和7年3月31日 大規模修繕工事のため休館
寺岡	682	675	1,811	3,810	4,017	3,689	令和7年11月1日～ 大規模修繕工事のため休館中
長命ヶ丘	546	823	1,259	2,500	2,412	1,385	令和6年11月5日～令和8年6月8日 大規模修繕工事のため休館
松森	643	1,138	1,793	2,007	2,192	1,813	
桂	497	566	1,563	2,008	1,986	2,019	
南中山	405	343	379	1,796	1,851	2,422	令和3年11月1日～令和4年12月2日 大規模修繕工事のため休館
計	9,142	11,552	21,635	29,684	30,044	30,686	

(単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
合計	67,363	87,418	155,874	214,124	225,803	230,728	

5 市民センター利用者数推移

青 葉 区

(単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
青葉区中央	40,529	41,843	62,856	67,483	67,780	72,844	
柏 木	15,105	13,363	14,928	21,089	19,970	17,543	
北 山	11,619	11,302	16,144	17,963	20,326	22,335	
福 沢	22,965	25,015	33,762	37,987	37,012	38,222	
旭 ケ 丘	36,882	27,419	39,134	52,113	56,535	58,625	
三 本 松	14,393	15,079	15,932	17,662	19,796	19,118	
片 平	65,253	69,588	86,921	95,646	100,315	56,513	
水 の 森	30,527	16,808	77,266	82,555	84,271	77,122	令和2年11月1日～令和3年11月27日 大規模修繕工事のため休館
貝 ケ 森	31,842	32,441	40,453	32,930	786	43,193	令和6年1月5日～令和7年3月21日 大規模修繕工事のため休館
中 山	35,044	39,951	49,713	47,864	54,759	50,478	
折 立	28,228	28,112	30,522	31,457	33,686	29,718	
木 町 通	62,629	72,816	63,936	75,325	81,564	87,204	
広 瀬	12,600	15,752	19,660	24,432	25,260	22,457	
宮 城 西	9,670	6,447	8,065	11,747	13,237	12,344	
大 沢	21,002	24,733	28,536	31,133	31,266	29,549	
落 合	15,814	15,748	19,441	22,650	24,379	25,067	
吉 成	26,800	28,619	36,541	42,024	44,403	42,880	
計	480,902	485,036	643,810	712,060	715,345	705,212	

宮 城 野 区

(単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
生涯学習支援	46,133	47,872	64,675	75,032	76,275	75,692	
宮城野区中央	37,009	33,684	49,368	60,328	63,719	66,740	
高 砂	35,623	31,838	43,510	50,892	39,689	0	令和7年1月5日～令和8年3月31日 大規模修繕工事のため休館
岩 切	18,359	16,273	20,683	24,850	27,389	16,242	令和7年11月1日～ 大規模修繕工事のため休館中
鶴 ケ 谷	23,522	24,573	30,999	36,482	39,691	40,492	
榴 ケ 岡	17,807	17,327	27,598	24,810	26,482	25,321	
東 部	29,502	34,821	38,083	37,307	40,003	36,151	
幸 町	34,952	36,899	45,085	44,694	44,861	51,692	令和元年8月1日～令和2年4月17日 大規模修繕工事のため休館
田 子	53,413	53,424	62,125	63,456	68,445	57,901	
福 室	68,990	68,185	64,719	67,433	76,923	86,120	
計	365,310	364,896	446,845	485,284	503,477	456,351	

若 林 区

(単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
若林区中央	35,555	29,385	42,415	30,969	35,058	42,382	令和5年4月1日～令和7年6月30日 大規模修繕工事のため一部休館
七 郷	45,534	36,506	45,674	48,900	63,230	61,341	
荒 町	30,033	31,238	43,624	46,348	49,496	51,150	
六 郷	37,625	34,511	42,847	44,865	51,720	51,216	
沖 野	38,332	25,456	21,026	61,398	66,378	64,494	令和3年11月1日～令和4年10月22日 大規模修繕工事のため休館
若 林	23,682	30,122	44,804	53,881	49,712	46,559	令和元年7月9日～令和2年4月17日 大規模修繕工事のため休館
計	210,761	187,218	240,390	286,361	315,594	317,142	

太 白 区

(単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
太白区中央	37,627	28,800	43,343	51,848	60,932	62,844	
生 出	10,347	8,394	11,554	13,082	13,889	12,872	
中 田	26,748	19,333	24,931	29,027	30,582	30,926	
西 多 賀	21,809	24,972	31,425	30,718	33,145	34,214	
八 本 松	24,534	25,895	33,714	38,170	36,137	35,388	
八 木 山	27,165	23,088	32,911	42,309	48,835	51,012	
山 田	18,359	18,745	27,695	28,183	27,700	26,579	
茂 庭 台	24,664	26,212	35,317	36,818	37,662	38,091	
東 中 田	27,729	4,177	54,756	57,601	59,010	53,451	令和2年12月14日～令和4年2月19日 大規模修繕工事のため休館
柳 生	59,116	54,722	60,873	65,236	59,083	59,401	
富 沢	22,109	23,878	33,481	39,418	39,412	38,399	
秋 保	8,729	10,098	11,674	12,464	11,769	15,125	
馬 場	2,958	4,996	5,322	4,564	5,590	5,148	
湯 元	2,060	3,344	4,208	4,932	4,874	4,916	
計	313,954	276,654	411,204	454,370	468,620	468,366	

泉 区

(単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
泉区中央	27,536	24,428	34,399	36,587	35,887	34,972	
根 白 石	14,744	15,908	20,165	21,388	22,548	23,402	
南 光 台	23,662	23,427	33,696	42,401	45,551	40,419	
黒 松	28,332	29,608	37,931	38,364	21,379	9,103	令和6年11月1日～令和7年12月15日 大規模修繕工事のため休館
将 監	18,155	18,188	30,556	35,745	36,281	36,721	
加 茂	27,334	27,993	35,345	33,520	32,352	32,055	
高 森	22,710	17,568	12,278	4,940	27,499	29,223	令和4年11月1日～令和5年10月9日 大規模修繕工事のため休館
松 陵	17,299	16,181	22,693	16,000	0	21,353	令和5年12月1日～令和7年3月31日 大規模修繕工事のため休館
寺 岡	22,434	23,647	30,718	33,101	30,660	17,996	令和7年11月1日～ 大規模修繕工事のため休館中
長 命 ケ 丘	23,104	23,394	30,224	29,904	17,610	0	令和6年11月5日～令和8年6月8日 大規模修繕工事のため休館
松 森	15,483	16,028	23,480	24,677	24,838	21,776	
桂	31,610	32,228	42,203	47,401	40,047	44,085	
南 中 山	23,598	14,518	7,499	29,129	33,946	38,182	令和3年11月1日～令和4年12月2日 大規模修繕工事のため休館
計	296,001	283,116	361,187	393,157	368,598	349,287	

(単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
合 計	1,666,928	1,596,920	2,103,436	2,331,232	2,371,634	2,296,358	

- ◆利用者数には、不特定多数の人が来館する催事の参加者は含まない。
- ◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、次の期間は全館とも利用自粛を要請した。
令和2年4月11日から5月31日まで、令和3年3月27日から5月11日まで

6 仙台市市民センター条例・施行規則

仙台市市民センター条例

平成二年三月一六日

仙台市条例第八号

(設置)

第一条 市民相互の交流と地域活動の振興に資するとともに、市民の文化の向上及び福祉の増進に寄与するため、社会教育法（昭和二十四年法律第二百七号）第二十四条の規定に基づき、市民センター（以下「センター」という。）を設置する。

2 センターの種類は、次のとおりとする。

一 生涯学習支援センター（本市の全域を主たる対象区域としてその事業を行うとともに、他の全てのセンターを統括するセンターをいう。）

二 区中央市民センター（その所在する区の区域内を主たる対象区域としてその事業を行うとともに、当該区域内に所在する地区市民センターを支援するセンターをいう。）

三 地区市民センター（前二号に掲げるセンター以外のセンターをいう。）

(名称及び位置)

第二条 センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

一 生涯学習支援センター

名称	位置
仙台市生涯学習支援センター	仙台市宮城野区榴岡四丁目1番8号

二 区中央市民センター

名称	位置
仙台市青葉区中央市民センター	仙台市青葉区一番町二丁目1番4号
仙台市宮城野区中央市民センター	仙台市宮城野区五輪二丁目12番70号
仙台市若林区中央市民センター	仙台市若林区南小泉一丁目1番1号、保寿院前丁3番地の1
仙台市太白区中央市民センター	仙台市太白区長町五丁目3番2号
仙台市泉区中央市民センター	仙台市泉区市名坂字東裏53番地の1

三 地区市民センター

名称	位置
仙台市柏木市民センター	仙台市青葉区柏木三丁目3番1号
仙台市北山市民センター	仙台市青葉区新坂町8番4号

仙台市福沢市民センター	仙台市青葉区福沢町9番9号
仙台市旭ヶ丘市民センター	仙台市青葉区旭ヶ丘三丁目25番15号
仙台市三本松市民センター	仙台市青葉区堤町三丁目23番1号
仙台市片平市民センター	仙台市青葉区米ヶ袋一丁目1番35号
仙台市水の森市民センター	仙台市青葉区水の森四丁目1番1号
仙台市貝ヶ森市民センター	仙台市青葉区貝ヶ森一丁目4番6号
仙台市中山市民センター	仙台市青葉区中山三丁目13番1号
仙台市折立市民センター	仙台市青葉区折立三丁目20番1号
仙台市木町通市民センター	仙台市青葉区木町通一丁目7番36号
仙台市広瀬市民センター	仙台市青葉区下愛子字観音堂5番地
仙台市宮城西市民センター	仙台市青葉区熊ヶ根字石積47番地
仙台市大沢市民センター	仙台市青葉区芋沢字要害65番地
仙台市落合市民センター	仙台市青葉区落合二丁目15番15号
仙台市吉成市民センター	仙台市青葉区国見ヶ丘二丁目2番地の1
仙台市高砂市民センター	仙台市宮城野区高砂一丁目24番地の9
仙台市岩切市民センター	仙台市宮城野区岩切字三所南88番地の2
仙台市鶴ヶ谷市民センター	仙台市宮城野区鶴ヶ谷二丁目1番地の7
仙台市榴ヶ岡市民センター	仙台市宮城野区五輪一丁目3番1号
仙台市東部市民センター	仙台市宮城野区平成一丁目3番27号
仙台市幸町市民センター	仙台市宮城野区幸町三丁目13番13号
仙台市田子市民センター	仙台市宮城野区田子二丁目4番25号
仙台市福室市民センター	仙台市宮城野区福室五丁目9番36号
仙台市七郷市民センター	仙台市若林区荒井三丁目7番地の2
仙台市荒町市民センター	仙台市若林区荒町86番地の2
仙台市六郷市民センター	仙台市若林区今泉一丁目3番19号
仙台市若林市民センター	仙台市若林区若林三丁目15番20号
仙台市沖野市民センター	仙台市若林区沖野七丁目34番43号
仙台市生出市民センター	仙台市太白区茂庭二丁目8番地の1
仙台市中田市民センター	仙台市太白区中田四丁目1番5号
仙台市西多賀市民センター	仙台市太白区西多賀三丁目6番8号
仙台市八本松市民センター	仙台市太白区八本松二丁目4番20号
仙台市八木山市民センター	仙台市太白区八木山本町一丁目43番地
仙台市山田市民センター	仙台市太白区山田北前町13番1号
仙台市茂庭台市民センター	仙台市太白区茂庭台四丁目1番10号
仙台市東中田市民センター	仙台市太白区四郎丸字吹上51番地
仙台市柳生市民センター	仙台市太白区柳生七丁目20番地の7
仙台市富沢市民センター	仙台市太白区富沢南一丁目18番地の10
仙台市秋保市民センター	仙台市太白区秋保町長袋字大原44番地の1
仙台市馬場市民センター	仙台市太白区秋保町馬場字竹林45番地の1
仙台市湯元市民センター	仙台市太白区秋保町湯向2番地の20
仙台市根白石市民センター	仙台市泉区根白石字杉下前24番地
仙台市南光台市民センター	仙台市泉区南光台七丁目1番30号
仙台市黒松市民センター	仙台市泉区黒松一丁目33番40号
仙台市将監市民センター	仙台市泉区将監八丁目1番18号
仙台市加茂市民センター	仙台市泉区加茂四丁目2番地
仙台市高森市民センター	仙台市泉区高森六丁目1番地の2
仙台市松陵市民センター	仙台市泉区松陵五丁目20番地の2
仙台市寺岡市民センター	仙台市泉区寺岡二丁目14番地の4
仙台市長命ヶ丘市民センター	仙台市泉区長命ヶ丘二丁目14番地の15
仙台市松森市民センター	仙台市泉区松森字城前9番地の2
仙台市桂市民センター	仙台市泉区桂三丁目19番地の1
仙台市南中山市民センター	仙台市泉区南中山二丁目24番地の12

(使用の許可)

第三条 センターを使用しようとする者は、あらかじめ教育委員会の許可を受けなければならない。

2 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、前項の許可をしないことができる。

- 一 公の秩序を乱すおそれがあるとき
- 二 センターの管理上支障を及ぼすおそれがあるとき
- 三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が不適当と認めるとき

(使用料)

第四条 センターの使用料は、別表に定めるとおりとする。

2 使用料は、前条第一項の許可の際、納入しなければならない。ただし、市長が必要と認めるときは、使用料を別に定める納期限までに納入させることができる。

(使用料の額の特例)

第四条の二 市長は、前条第二項ただし書の規定により使用料を別に定める納期限までに納入させる場合において、当該納期限の日以前に、第三条第一項の許可を受けた者（以下「使用者」という。）につき次の各号のいずれかに該当すると認めるとき（使用料が既納の場合を除く。）は、前条第一項の規定にかかわらず、同項に規定する使用料の額の範囲内で使用料の額を定めることができる。

- 一 天災その他自己の責めによらない事由によりセンターを使用できないとき
- 二 市長が別に定める期間内にセンターの使用の取りやめを申し出たとき

(使用料の返還)

第五条 既納の使用料は、返還しない。ただし、使用者につき前条各号のいずれかに該当すると市長が認めるときは、その全部又は一部を返還することができる。

(使用料の減免)

第六条 市長は、特別の事由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

(目的外使用の禁止)

第七条 使用者は、許可を受けた目的以外にセンターを使用してはならない。

(使用権の譲渡等の禁止)

第八条 使用者は、使用の権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

(使用許可の取消し等)

第九条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、第三条第一項の許可を取り消し、又はセンターの使用を制限し、若しくは停止することができる。

- 一 使用者がこの条例又は使用の許可の際に付された条件に違反したとき
- 二 第三条第二項各号のいずれかに該当することとなったとき

(指定管理者)

第十条 教育委員会は、センターの管理運営上必要と認めるときは、地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百四十四条の二第三項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）にセンターの管理を行わせることができる。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第十一条 前条の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合に当該指定管理者が行う業務は、次に掲げる業務とする。

- 一 第三条第一項の許可に関する業務
- 二 センターの事業として教育委員会がセンターごとに定める事業に関する業務
- 三 センターの維持管理に関する業務
- 四 前三号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める業務

2 前項の場合における第三条及び第九条の規定の適用については、これらの規定中「教育委員会」とあるのは、「指定管理者」とする。

(指定管理者が行う管理の基準)

第十二条 指定管理者は、この条例及びこの条例に基づく規則

の定めるところに従い、適正にセンターの管理を行わなければならない。

(審議会)

第十三条 社会教育法第二十九条第一項の規定に基づき、本市が設置する全ての市民センターに共通の公民館運営審議会として、仙台市公民館運営審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

2 審議会の委員の委嘱の基準は、社会教育委員及び公民館運営審議会の委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準を定める省令（平成二十三年文部科学省令第四十二号）第二条に規定する基準とする。

3 審議会の委員の定数は、十七人以内とする。

4 審議会の委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 前三項に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

(委任)

第十四条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長又は教育委員会が定める。

附則省略

別表（第四条関係）

一 専用使用する場合

使用区分		金額	
仙台市生涯学習支援センター	会議室	一時間につき	620円
	第1セミナー室(A)	一時間につき	620円
	第1セミナー室(B)	一時間につき	620円
	第1セミナー室(C)	一時間につき	620円
	第2セミナー室	一時間につき	930円
	ミーティング室	一時間につき	390円
	和室	一時間につき	790円
	第1音楽室	一時間につき	1,000円
	第2音楽室	一時間につき	1,000円
	創作室(1)	一時間につき	790円
	創作室(2)	一時間につき	790円
	トレーニング室	一時間につき	790円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市青葉区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	790円
	第2会議室	一時間につき	790円
	第3会議室	一時間につき	620円
	第4会議室	一時間につき	790円
	第5会議室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	930円
	小ホール(1)	一時間につき	930円
	小ホール(2)	一時間につき	790円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市宮城野区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	第3会議室	一時間につき	930円
	第4会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市若林区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	620円
	第3会議室	一時間につき	930円
	第4会議室	一時間につき	390円
	セミナー室(A)	一時間につき	620円
	セミナー室(B)	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	和室(4)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市太白区中央市民センター	大会議室	一時間につき	930円
	中会議室	一時間につき	790円
	第1小会議室	一時間につき	620円
	第2小会議室	一時間につき	620円
	第3小会議室	一時間につき	620円
	和室(大)	一時間につき	930円
	和室(小)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	790円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市泉区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	390円
	研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	730円
	創作室	一時間につき	790円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市柏木市民センター	会議室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市北山市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	620円
	和室(4)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	730円
	トレーニング室	一時間につき	730円
仙台市福沢市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	930円
	第3会議室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	視聴覚室	一時間につき	730円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市旭ヶ丘市民センター	第1会議室	一時間につき	1000円
	第2会議室	一時間につき	790円
	第3会議室	一時間につき	790円
	展示ホール(1)	一時間につき	930円
	展示ホール(2)	一時間につき	730円
	小ホール	一時間につき	790円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市三本松市民センター	会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市片平市民センター	第1会議室	一時間につき	790円
	第2会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	620円
	和室(3)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市水の森市民センター	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	620円
	和室(3)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

市民センター	仙台市貝ヶ森	会議室	一時間につき	930円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	620円
		ホール	午前 午後 夜間	2,500円 3,000円 3,100円
市民センター	仙台市中山	会議室	一時間につき	790円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	620円
		ホール	午前 午後 夜間	2,500円 3,000円 3,100円
市民センター	仙台市折立	会議室	一時間につき	930円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	390円
		ホール	午前 午後 夜間	2,500円 3,000円 3,100円
市民センター	仙台市木町通	第1会議室	一時間につき	930円
		第2会議室	一時間につき	390円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	390円
		調理実習室	一時間につき	1000円
市民センター	仙台市広瀬	ホール	午前 午後 夜間	2,500円 3,000円 3,100円
	市民センター	会議室	一時間につき	620円
		セミナー室(A)	一時間につき	620円
		セミナー室(B)	一時間につき	620円
		和室(1)	一時間につき	620円
市民センター	仙台市宮城西	和室(2)	一時間につき	390円
		創作室	一時間につき	620円
	市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
		第2会議室	一時間につき	620円
		和室(1)	一時間につき	620円
市民センター	仙台市大沢	和室(2)	一時間につき	390円
		調理実習室	一時間につき	730円
		ホール	午前 午後 夜間	2,500円 3,000円 3,100円
	市民センター	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	790円
		和室(2)	一時間につき	390円
		体育館	午前 午後 夜間	2,500円 3,000円 3,100円

市民センター	仙台市落合	会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
		和室(1)	一時間につき	620円
		和室(2)	一時間につき	620円
		ホール	午前 午後 夜間	2,500円 3,000円 3,100円
		夜間		3,100円
市民センター	仙台市吉成	会議室	一時間につき	930円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	620円
		和室	一時間につき	620円
		ホール	午前 午後 夜間	2,500円 3,000円 3,100円
		夜間		3,100円
市民センター	仙台市高砂市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
		第2会議室	一時間につき	620円
		和室(1)	一時間につき	790円
		和室(2)	一時間につき	390円
		調理実習室	一時間につき	930円
市民センター	仙台市岩切市民センター	ホール	午前 午後 夜間	2,500円 3,000円 3,100円
		講義室	一時間につき	390円
		第1研修室	一時間につき	790円
		第2研修室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	620円
市民センター	仙台市鶴ヶ谷市民センタ	和室(2)	一時間につき	620円
		視聴覚室	一時間につき	730円
		調理実習室	一時間につき	930円
		創作室	一時間につき	390円
		体育館	午前 午後 夜間	2,500円 3,000円 3,100円
市民センター	仙台市鶴ヶ谷市民センタ	第1会議室	一時間につき	930円
		第2会議室	一時間につき	620円
		第3会議室	一時間につき	620円
		和室	一時間につき	620円
		調理実習室	一時間につき	930円
市民センター	仙台市鶴ヶ谷市民センタ	ホール	午前 午後 夜間	2,500円 3,000円 3,100円
	仙台市榴岡市民センター	ミーティングルーム(1)	一時間につき	930円
		ミーティングルーム(2)	一時間につき	620円
		和室(1)	一時間につき	390円
		和室(2)	一時間につき	390円
		体育館	午前 午後 夜間	2,500円 3,000円 3,100円

仙台市東部市民センター	会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市幸町市民センター	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市田子市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	1000円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市福室市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市七郷市民センター	会議室	一時間につき	390円
	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	視聴覚室	一時間につき	930円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市荒町市民センター	第1会議室	一時間につき	390円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市六郷市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
仙台市若林市民センター	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
仙台市沖野市民センター	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
仙台市生田市民センター	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
	第1講義室	一時間につき	620円
	第2講義室	一時間につき	390円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	730円
仙台市中田市民センター	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
	講義室	一時間につき	620円
	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	620円
仙台市西多賀市民センター	和室(2)	一時間につき	620円
	視聴覚室	一時間につき	730円
	調理実習室	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
	第1会議室	一時間につき	390円
仙台市西多賀市民センター	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

市民センター	仙台市八本松	会議室	一時間につき	390円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
		和室(1)	一時間につき	620円
		和室(2)	一時間につき	930円
		体育館	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
	仙台市八木山市民センター	会議室	一時間につき	620円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
		第1研修室	一時間につき	620円
		第2研修室	一時間につき	790円
		第3研修室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	620円
		体育館	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
市民センター	仙台市山田	会議室	一時間につき	620円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	620円
		体育館	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
市民センター	仙台市茂庭台	会議室	一時間につき	620円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	620円
		体育館	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
市民センター	仙台市東中田	会議室	一時間につき	930円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	620円
		和室(1)	一時間につき	620円
		和室(2)	一時間につき	930円
		体育館	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
市民センター	仙台市柳生	会議室	一時間につき	930円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	390円
		ホール	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円

仙台市富沢市民センター	第1会議室	一時間につき	930円	
	第2会議室	一時間につき	620円	
	和室(1)	一時間につき	930円	
	和室(2)	一時間につき	620円	
	調理実習室	一時間につき	930円	
	ホール	午前	2,500円	
		午後	3,000円	
夜間		3,100円		
仙台市秋保市民センター	第1会議室	一時間につき	930円	
	第2会議室	一時間につき	620円	
	研修室	一時間につき	790円	
	和室(1)	一時間につき	620円	
	和室(2)	一時間につき	620円	
	調理実習室	一時間につき	930円	
	ホール	午前	2,500円	
午後		3,000円		
夜間		3,100円		
市民センター	仙台市馬場	会議室	一時間につき	790円
		調理実習室	一時間につき	480円
		体育館	午前	2000円
			午後	2400円
			夜間	2,500円
仙台市湯元市民センター	会議室	一時間につき	390円	
	講義室	一時間につき	390円	
	和室	一時間につき	620円	
	視聴覚室	一時間につき	480円	
	調理実習室	一時間につき	480円	
	集会室	午前	2,500円	
		午後	3,000円	
夜間		3,100円		
市民センター	仙台市根白石	大会議室	一時間につき	930円
		小会議室	一時間につき	620円
		和室	一時間につき	790円
		調理実習室	一時間につき	930円
		工作室	一時間につき	620円
		ホール	午前	2,500円
			午後	3,000円
夜間	3,100円			
仙台市南光台市民センター	第1会議室	一時間につき	620円	
	第2会議室	一時間につき	620円	
	第3会議室	一時間につき	620円	
	第4会議室	一時間につき	930円	
	和室	一時間につき	390円	
	調理実習室	一時間につき	930円	
	ホール	午前	2,500円	
午後		3,000円		
夜間		3,100円		

仙台市黒松市民センター	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室	一時間につき	790円
	多目的室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	730円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
夜間		3,100円	
仙台市将監市民センター	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	790円
	第3研修室	一時間につき	790円
	和室	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
夜間		3,100円	
仙台市加茂市民センター	会議室	一時間につき	390円
	第1研修室	一時間につき	930円
	第2研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
夜間		3,100円	
仙台市高森市民センター	第1研修室	一時間につき	930円
	第2研修室	一時間につき	620円
	第3研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	730円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
夜間		3,100円	
仙台市松陵市民センター	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	620円
	第3研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	730円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
夜間		3,100円	
仙台市寺岡市民センター	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	620円
	第3研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	730円
	トレーニング室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市長命ヶ丘市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
夜間		3,100円	
仙台市松森市民センター	会議室	一時間につき	930円
	和室（大）	一時間につき	930円
	和室（小）	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市桂市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
夜間		3,100円	
仙台市南中山市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	研修室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

備考
一 使用時間は、午前九時から午後九時までとする。
二 「午前」とは午前九時から正午までを、「午後」とは午後一時から午後四時三十分までを、「夜間」とは午後五時三十分から午後九時までをいう。
三 その使用に係る時間に一時間に満たない端数があるときは、これを一時間に切り上げる。
四 一時間ごとの使用料を定めた使用区分において、第一号の使用時間以外の時間に使用する場合における使用料は、この表に定める額とする。
五 前号の使用区分以外使用区分において、次のイからハまでに掲げる使用時間に係る使用料は、それぞれイからハまでに掲げる額とする。
イ 午前九時から午後四時三十分まで 午前の項及び午後の項に定める額の合計額
ロ 午後一時から午後九時まで 午後の項及び夜間の項に定める額の合計額
ハ 午前九時から午後九時まで 午前の項、午後の項及び夜間の項に定める額の合計額

- 六 前号の使用区分において、第一号に定める使用時間以外の時間に使用する場合（前号の場合を除く。）における使用料は、午後の項に定める額を時間割りして計算した額（十円未満の端数が生じたときは、これを十円に切り上げる。）とする。
- 七 使用者が対価の支払を受けて展示会その他の催しを行う場合その他これに類する場合の使用料は、この表に定める額の三倍以内において市長が定める。
- 八 会議室兼調理実習室を会議のために区分して使用する場合の使用料は、この表に定める額に〇・七を乗じて得た額（十円未満の端数が生じたときは、これを十円に切り上げる。）とする。

二 個人使用する場合

使用区分		金額
体育館・ホール・仙台市生涯学習支援センター及び仙台市北山市民センターのトレーニング室	一般	一回につき 240円
	小学生・中学生	一回につき 120円
仙台市寺岡市民センターのトレーニング室		一回につき 240円

仙台市市民センター条例施行規則

平成二年三月二九日

仙台市教育委員会規則第五号

(趣旨)

第一条 この規則は、仙台市市民センター条例（平成二年仙台市条例第八号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用時間)

第二条 市民センター（以下「センター」という。）の施設の使用時間は、午前九時から午後九時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が必要と認めるときは、同項に規定するセンターの施設の使用時間を変更することができる。

(休館日)

第三条 センターの休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、これを変更し、又は休館することができる。

一 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第百七十八号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる日を除く。）

二 休日の翌日（土曜日、日曜日又は休日に当たる日を除く。）

三 十二月二十八日から翌年の一月四日までの日（前二号に掲げる日を除く。）

(使用許可の手続)

第四条 条例第三条第一項の許可（以下「使用許可」という。）を受けようとする者は、使用申込書及び教育委員会が必要と認める書類（次項において「使用申込書等」という。）を教育委員会に提出しなければならない。

2 前項の規定による使用申込書等の提出は、次に定めるところにより行わなければならない。ただし、教育委員会が特に必要と認める場合は、この限りでない。

一 センターの施設を専用使用しようとする場合には、使用しようとする日（以下「使用日」という。）の属する月

の二月前の月の十日から使用日までの期間内に行うこと

二 センターの施設を個人使用しようとする場合には、使用日に行うこと

3 教育委員会は、使用許可をしたときは、使用承認書を交付するものとする。

4 センターの施設の使用許可に係る手続（センターの施設を個人使用しようとする場合及び次条第二項に規定する場合の使用許可に係る手続を除く。）については、前三項の規定にかかわらず、市民利用施設予約システム（仙台市市民利用施設予約システムの運用及び利用者登録等に関する規則（平成十五年仙台市規則第八十七号）第二条第二号に規定するものをいう。）を利用する方法により行うことができる。

第四条の二 条例第三条第二項第三号に規定する教育委員会が不適当と認めるときは、次の各号に掲げる場合とする。

一 センターの施設において物品又は権利の販売又は宣伝（次項において「物品販売等」という。）を行おうとする場合

二 その他センターの設置目的に照らして教育委員会が不適当と認める場合

2 教育委員会は、前項第一号の規定にかかわらず、センターの設置目的に照らして適当と認める場合は、センターの施設において物品販売等を行おうとする者に対し、使用許可をすることができる。この場合において、物品販売等を行おうとする者は、教育委員会が必要と認める書類を教育委員会に提出しなければならない。

(市長が必要と認めるときの使用料の納期限)

第五条 条例第四条第二項ただし書に規定する市長が必要と認めるときは、次の各号に掲げる場合とし、同項ただし書に規定する別に定める納期限は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める日とする。

一 使用料を口座振替の方法により納入する場合 使用許可を受けた日の属する月の翌月末日

二 区長が特別な事由があると認める場合 区長が定める日（市長が必要と認めるときの使用料の額の特例）

第六条 使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が条例第四条の二第一号に該当する場合において、同条の規定により市長が定める使用料の額は、零とする。

2 条例第四条の二第二号に規定する市長が別に定める期間は、次の各号に掲げる期間とし、同条の規定により市長が定める使用料の額は、前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる期間の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める額とする。

一 使用許可を受けた日から使用日の七日前の日までの期間
零

二 使用日の七日前の日の翌日から使用日までの期間 条例第四条第一項の規定による使用料（条例第六条の規定により使用料を減免した場合にあっては、当該減免後の使用料）の額

3 使用者が前条の納期限までに使用料を納入せず、かつ、センターの施設を使用する意思があると認められないときは、当該納期限の日において使用の取りやめの申出がなされたものとみなし、前項の規定を準用する。

（使用料の返還）

第七条 使用者が条例第四条の二第一号に該当すると区長が認める場合において、条例第五条ただし書の規定により既納の使用料を返還する場合の返還額は、既納の使用料の全額とする。

2 使用者が条例第四条の二第二号に該当すると区長が認める場合において、条例第五条ただし書の規定により既納の使用料を返還する場合の返還額は、前条第二項第一号に掲げる期間においては、既納の使用料の全額とする。

3 使用料の返還を受けようとする者は、還付請求書を区長に提出しなければならない。ただし、区長が特別の事由があると認めるときは、この限りでない。

（指定管理者に管理を行わせる場合における規定の適用）

第八条 条例第十条の規定により指定管理者（地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百四十四条の二第三項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。）にセンターの管理を

行わせる場合における第四条の規定の適用については、同条中「教育委員会」とあるのは、「指定管理者」とする。

（審議会）

第九条 仙台市公民館運営審議会（以下「審議会」という。）

は、次に掲げる事務を所掌する。

- 一 生涯学習支援センター長から諮問のあったことについて、審議すること
- 二 センターにおける各種の事業について、調査研究すること
- 三 センターにおける各種の事業について、評価すること
- 四 その他審議会が必要と認める事項について、審議等を行うこと

2 審議会に会長及び副会長一人を置く。

3 会長及び副会長は、それぞれ委員が互選する。

4 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

第十条 会長は、審議会の会議を招集し、その議長となる。

2 審議会の会議は、二月ごとに一回開くものとする。ただし、会長が必要と認めたときは、臨時に開くことができる。

3 審議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 審議会の会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第十一条 審議会の庶務は、生涯学習支援センターにおいて処理する。

第十二条 前三条に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

（実施細目）

第十三条 この規則の実施細目は、教育長が定める。

附則省略

**令和 7 年度
仙台市市民センター事業概要**

令和 8 年 10 月 発行

編集・発行 仙台市教育局生涯学習支援センター
〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡四丁目 1 番 8 号
(パルシティ仙台ビル内)
電話 022 (292) 4875
FAX 022 (295) 0810

